
直方市のまちづくりのための市民意識調査

令和2年3月
福岡県 直方市

～ 目 次 ～

□ 調査の概要.....	1
Ⅱ 回答者の属性.....	4
1. 性別構成.....	4
2. 年齢別構成.....	4
3. 職業別構成.....	5
4. 家族構成.....	7
5. 通勤・通学.....	10
6. 居住年数.....	14
7. 現在の住まいを選んだ際の理由.....	16
Ⅲ 調査結果.....	17
【1】将来的な転職・離職の状況等について.....	17
【2】教育・保育で利用したい事業について.....	20
【3】直方北九州自転車道の整備、自転車利用への取組について.....	21
【4】生活困窮者自立支援制度について.....	22
1. 生活困窮者自立支援制度の認知度.....	22
2. 生活困窮者自立支援制度に該当する人への対応方法.....	22
【5】直方市の情報発信について.....	24
1. 市政に関する情報の入手方法.....	24
2. 直方市の情報発信で充実させて欲しい内容.....	25
3. 直方市の情報発信について望むこと.....	26
【6】市の住みやすさや最も力を入れてほしい行政施策について.....	27
1. 定住意向.....	27
2. 定住理由.....	29
3. 非定住理由.....	31
4. 最も力を入れてほしい行政施策.....	33
【7】市の施策評価について.....	36
1. 施策の満足度・重要度.....	36
2. 満足度と重要度の相関図による分析.....	51
【8】施策ごとの評価について.....	75
1. 市民主体の地域づくりの促進.....	75
2. 地域づくりを推進する人材の発掘と育成.....	77
3. 市民参加の推進.....	79
4. 効率的な行政運営の推進.....	81
5. 窓口サービスにおける市民サービスの向上.....	83
6. 健全な財政運営の推進.....	85
7. 秩序ある土地利用の推進.....	87
8. 中心市街地整備と賑わい創出.....	89
9. 公園の適正な配置と管理.....	91
10. 良好な住環境の確保.....	93
11. 交通網の充実.....	95

1 2. 安全・良好な水道水の安定供給.....	97
1 3. 下水道の整備.....	99
1 4. 環境保全の推進.....	101
1 5. 循環型社会の推進.....	103
1 6. 災害対策の推進.....	105
1 7. 消防・救急の充実.....	107
1 8. 交通安全・防犯対策の推進.....	109
1 9. 保健事業の充実.....	111
2 0. 地域医療体制の維持と確保.....	113
2 1. 障がい者福祉の充実.....	115
2 2. 高齢者福祉の充実.....	117
2 3. 社会福祉と公的医療保険制度の充実.....	119
2 4. 各種相談業務の充実.....	121
2 5. 地域における子育て環境の充実.....	123
2 6. 子育てにおける公的支援の充実.....	125
2 7. 知・徳・体を育む教育の充実.....	127
2 8. 教育環境の充実・強化.....	129
2 9. 学校・家庭・地域が連携した青少年の健全育成.....	131
3 0. 生涯学習の推進.....	133
3 1. 文化の振興.....	135
3 2. スポーツ・レクリエーションの振興.....	137
3 3. 人権尊重の教育・啓発の推進.....	139
3 4. 男女共同参画社会の推進.....	141
3 5. 時代をリードし成長する工業.....	143
3 6. 市民の暮らしの担い手となる商業とサービス産業.....	145
3 7. 未来に夢を持つ農業.....	147
3 8. 魅力あふれる観光.....	149
【9】自由回答の概要（これからのまちづくりに対する考え・意見）	151
1. 回答状況.....	151
(1) 回答者数及び回答件数.....	151
(2) 分野別の回答件数.....	151
2. 分野別回答内容.....	152
(1) 行政経営.....	152
(2) 財政運営.....	153
(3) 情報公開・発信.....	154
(4) 地域活性化・産業振興.....	155
(5) まちづくりの方向性・イメージ.....	156
(6) 生活環境.....	157
(7) 上下水道.....	158
(8) 市街地・道路等.....	158
(9) 公共交通機関.....	159
(10) 各種公共施設.....	160
(11) 防犯・防災・安全.....	161
(12) 教育・文化・スポーツ.....	161

(1 3) 保健・医療・福祉.....	162
(1 4) 市民意識調査関連.....	163
(1 5) その他.....	163
資料／調査票.....	164

I 調査の概要

【調査の目的】

本市の基本的なまちづくりの方向性を示す長期的計画である「第6次直方市総合計画」の策定にあたって、市民の、市政に対する意見や要望及び第5総合計画に基づき実施している施策等の満足度及び重要度などの評価を把握し、行政サービスの向上及び各施策展開における基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

18歳以上の市民（住民基本台帳による無作為抽出）

【調査方法】

郵送配布、郵送回収、web 回答

【調査時期】

令和元年（2019年）11月～12月

【回収結果】

発送数----- 2,000 件

回収数----- 780 件

有効回収数----- 777 件

有効回収率----- 38.9%

◆小学校区別回収状況◆

（上段：回答件数、下段：構成比％）

全体	南小学校区	北小学校区	西小学校区	新入小学校区	感田小学校区	上頓野小学校区
777	30	76	37	95	156	95
100.0	3.9	9.8	4.8	12.2	20.1	12.2

下境小学校区	福地小学校区	中泉小学校区	植木小学校区	東小学校区	無回答
57	32	21	65	65	48
7.3	4.1	2.7	8.4	8.4	6.2

【調査結果の信頼性】

統計分析を行う上で、信頼度 95 %のもとで母比率または母平均が存在すると確信できる信頼区間は、標本比率 p または標本平均 $\bar{x}$ を中心として両側に標準誤差の 1.96 倍の幅を設けた次の範囲である。

■母比率の信頼区間（信頼度 95%）

$$p - 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \frac{p(1-p)}{n}} < P < p + 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \frac{p(1-p)}{n}}$$

※標本の分散を s^2 ，母集団の大きさを N ，標本の大きさを n とする。

今回のアンケート調査の抽出サンプル数 777 件での誤差率は次の通り、3.49%となり、信頼性の基準である標本の誤差比率が 5%未満である。

まちづくりアンケートの誤差率計算

N	=	47,682	18歳以上の人口
n	=	777	抽出サンプル数777、回収率38.9%
46,905	×	0.25	11,726
47,681	×	777	37,048,137
	↓		
1.96	×	0.0178	3.49 % 誤差率

【聴取項目】

- ◇市の施策の満足度・重要度について（38 項目）
- ◇市の施策の不満の理由について（38 項目）
- ◇市の住みやすさや最も力を入れてほしい行政施策について（定住意向や行政施策等）（4 項目）
- ◇回答者の属性等（性別、年齢、職業等）（12 項目）
- ◇転職・離職の意向（3 項目）
- ◇日常生活の状況等について（子育て環境、生活困窮者への対応）（3 項目）
- ◇自転車に関する取り組みについて（1 項目）
- ◇直方市の広報について（市の情報入手手段等）（3 項目）
- ◇まちづくりに対する考えや意見等（自由回答設問 1 項目）

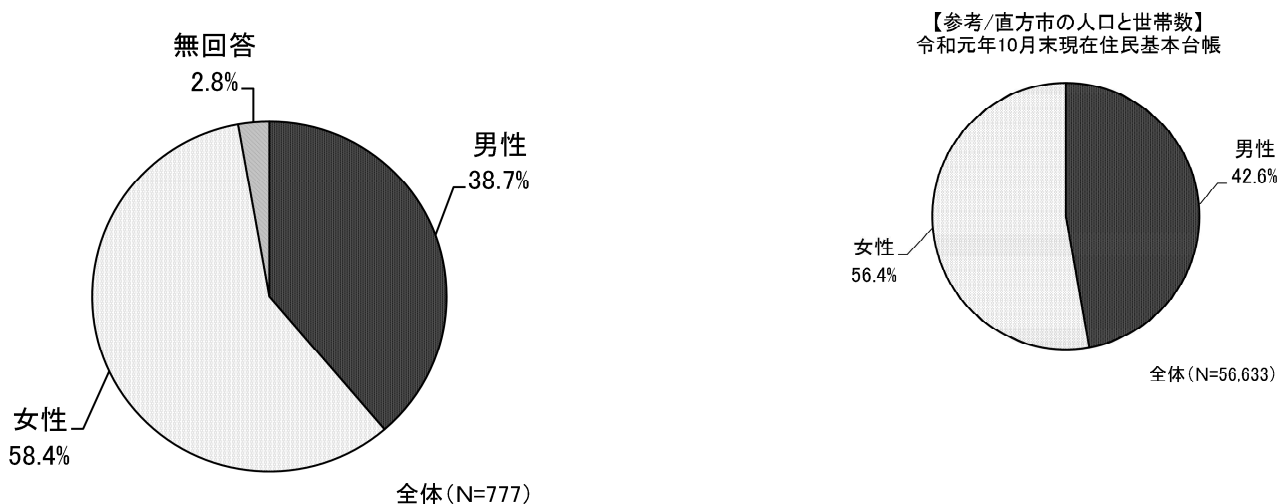
【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。従って回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、見やすさを考慮し省略している場合がある。また、複数回答の図表中においても、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。
- (7) 設問によっては、平成29年9月に実施した「直方市のまちづくりのための市民意識調査（以下「前回調査」と表記）」との比較を行っている。
- (8) 「市の施策評価について」の項における「施策の満足度・重要度」の分析についても、前回調査との比較を行っているが、一部、項目数や設問の表現が前回とは一致しない項目がある。

Ⅱ 回答者の属性

1. 性別構成

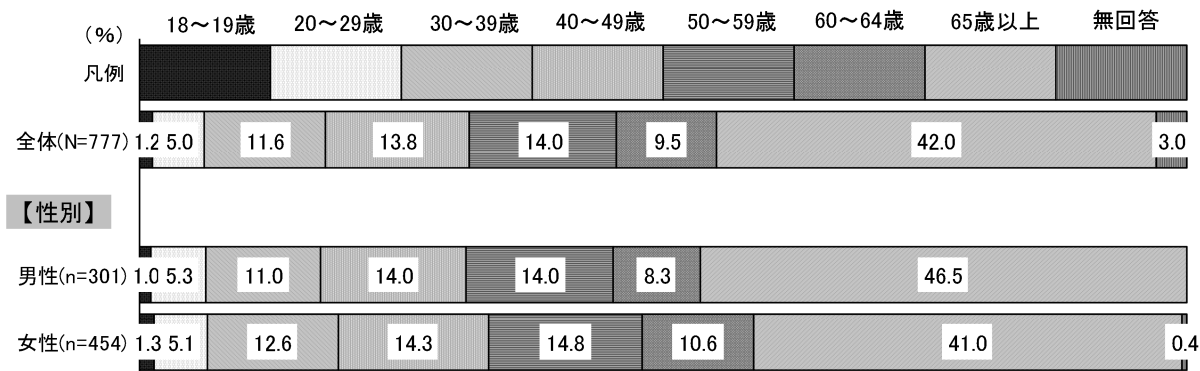
回答者の性別構成は、「男性」が38.7%、「女性」が58.4%と、男女比はおおむね4：6と、女性の割合が高い。



2. 年齢別構成

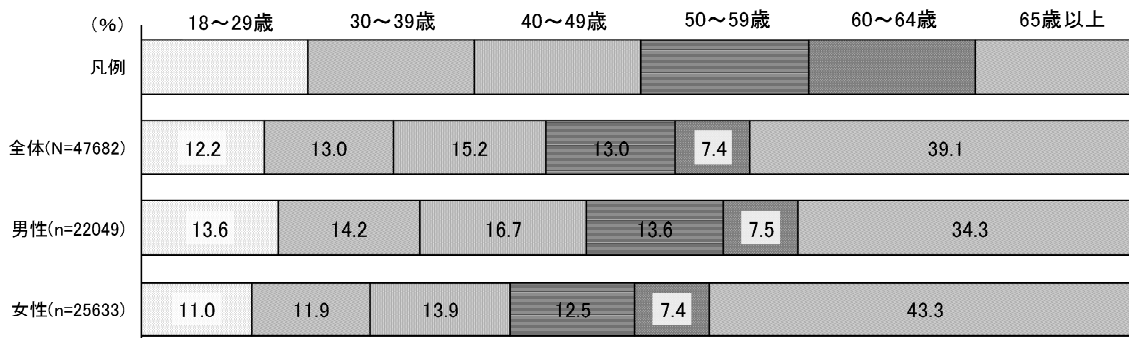
年齢別構成は、全体では「65歳以上」が42.0%と、4割以上の割合を占めて最も高く、次いで「50～59歳」（14.0%）、「40～49歳」（13.8%）の順となっている。

性別でみると、男性は女性に比べ「65歳以上」の割合が高くなっている。



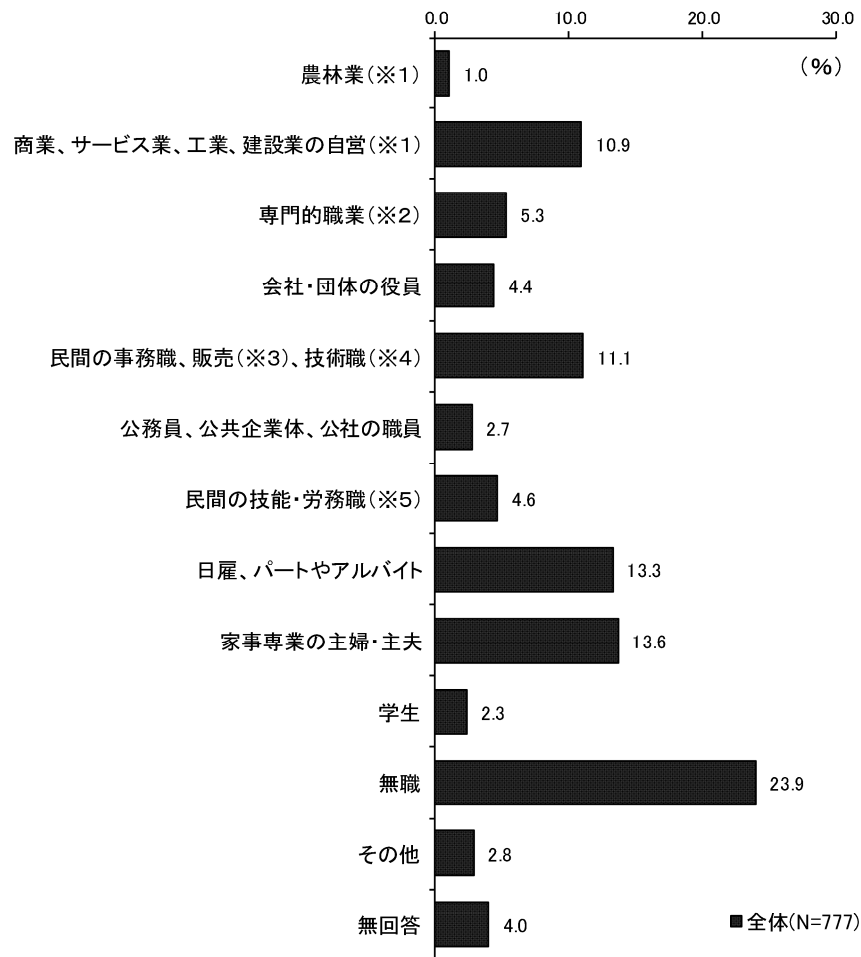
※性別は「無回答」除く

【参考/直方市の人口と世帯数】
令和元年10月末現在住民基本台帳(18歳以上)



3. 職業別構成

回答者の職業は、「無職」の割合が23.9%と最も高く、次いで「家事専業の主婦・主夫」（13.6%）、「日雇、パートやアルバイト」（13.3%）、「民間の事務職、販売、技術職」（11.1%）の順となっている。



※1 またはその家族従事者

※2 医師、弁護士、僧侶、税理士、会計士、教師など、またはその家族従事者

※3 店員、外交員など

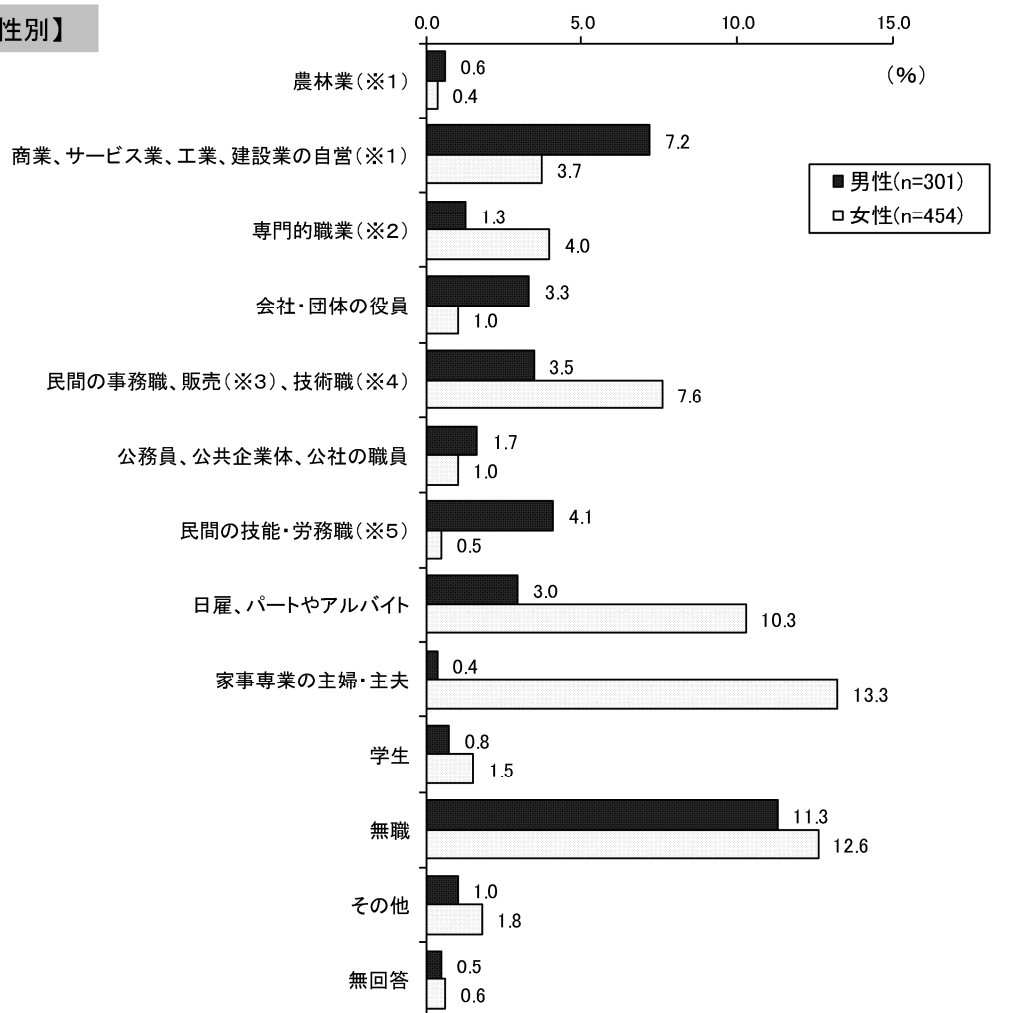
※4 技術整備士、研究員、看護師など

※5 工員、大工、美容師、運転手など

職業を性別でみると、男性の場合、女性に比べ「商業、サービス業、工業、建設業の自営」「民間の技能・労務職」の割合が高い。

女性は「家事専業の主婦・主夫」「日雇、パートやアルバイト」などで男性を大きく上回っている。

【性別】



※1 またはその家族従事者

※2 医師、弁護士、僧侶、税理士、会計士、教師など、またはその家族従事者

※3 店員、外交員など

※4 技術整備士、研究員、看護師など

※5 工員、大工、美容師、運転手など

4. 家族構成

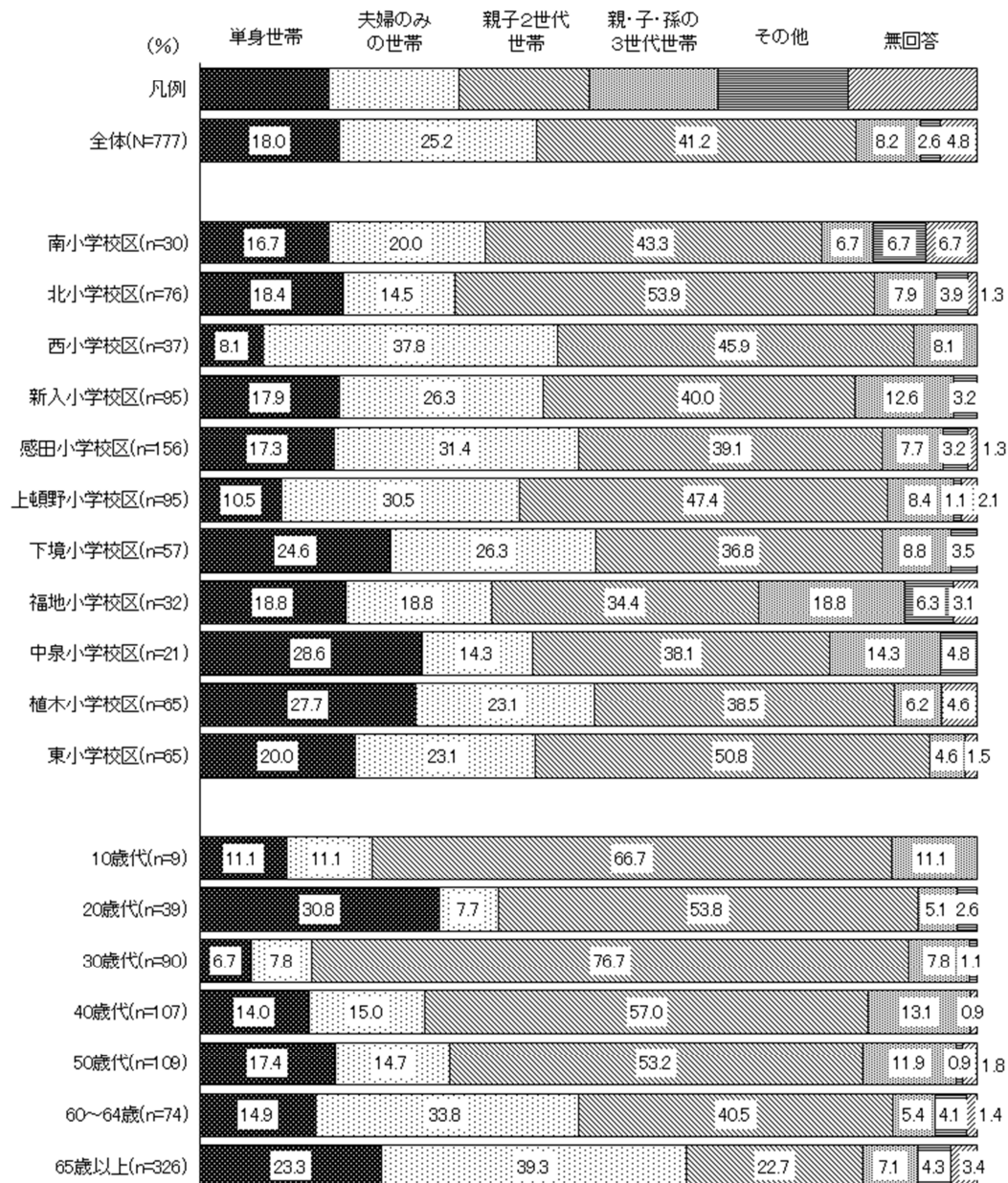
(1) 世帯構成

世帯構成は、全体では「親子2世代世帯」の割合が41.2%を占め最も高く、「夫婦のみの世帯」が25.2%で続き、両者で全体の66.4%を占めている。「単身世帯」は18.0%とおおよそ2割、「親・子・孫の3世代世帯」は8.2%となっている。

小学校区別でみると、中泉小学校区、植木小学校区、下境小学校区では、他の小学校区に比べ、「単身世帯」の割合が高く、西小学校区、感田小学校区、上頓野小学校区では、「夫婦のみの世帯」、北小学校区、東小学校区では、「親子2世代世帯」の割合が高くなっている。

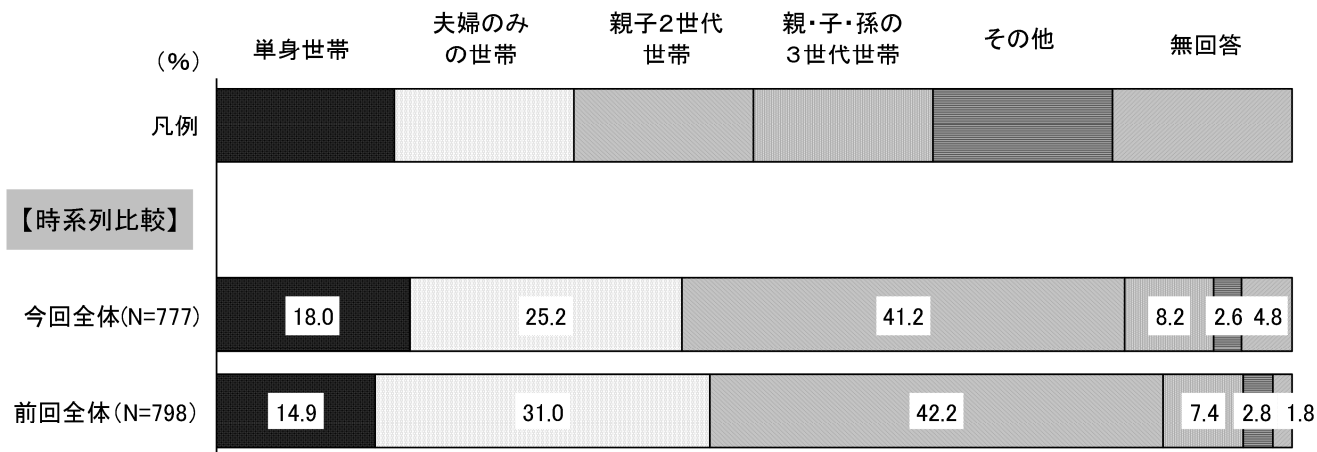
また、福地小学校区では、では、「親・子・孫の3世代世帯」の割合が高いなど、地域差がみられる。

年齢別でみると、30代で、「親子2世代世帯」の割合が突出して高くなっている。他と比較し20歳代では「単身世帯」の割合が高い。60歳以上の年齢層では、他の年齢層に比べ、「夫婦のみの世帯」の割合が高い。



【参考／前回調査との比較】

前回調査結果と比較すると、「単身世帯」がやや増加し、「夫婦のみの世帯」が減少している。

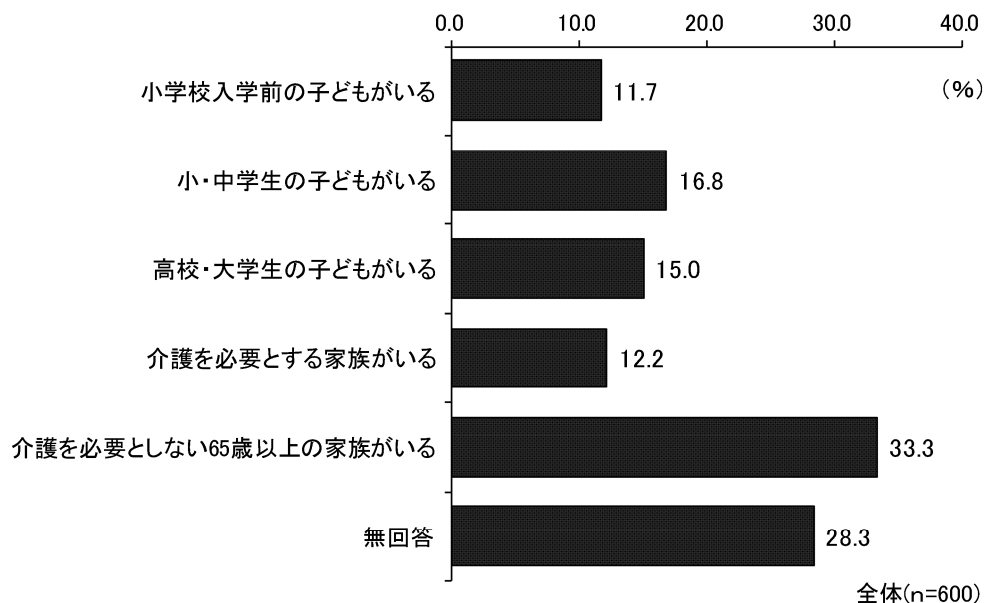


(2) 子どもや要介護者の有無

子どもや高齢者の有無については、「介護を必要としない65歳以上の家族がいる」の割合が33.3%と最も高く、次いで、「小・中学生の子どもがいる」(16.8%)、「高校・大学生の子どもがいる」(15.0%)の順となっている。

年齢別でみると、30歳代では他の年齢層に比べ「小学校入学前の子どもがいる」の割合が高く、40歳代では「小・中学生の子どもがいる」、50歳代では「高校・大学生の子どもがいる」の割合がそれぞれ高くなっている。

また、10歳代及び50歳以上では、「介護を必要とする家族がいる」がそれぞれ1割以上みられ、他の年齢層を上回っている。



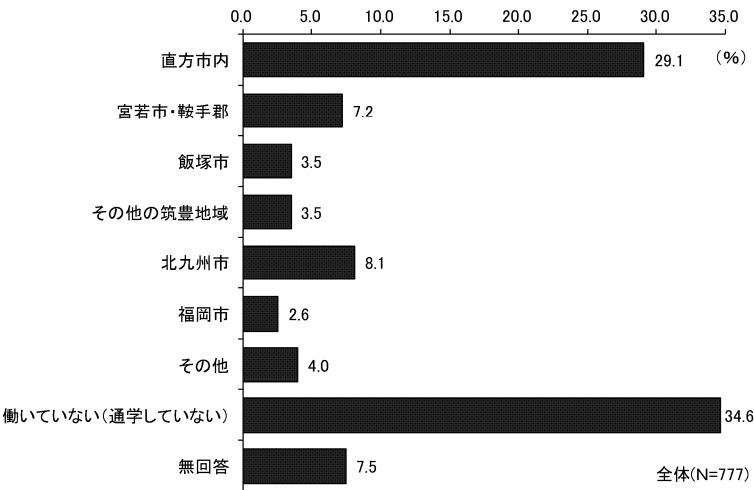
		小学校入学前の子どもがいる	小・中学生の子どもがいる	高校・大学生の子どもがいる	介護を必要とする家族がいる	介護を必要としない65歳以上の家族がいる	無回答
全体(n=600)		11.7	16.8	15.0	12.2	33.3	28.3
年齢別	10歳代(n=8)	0.0	12.5	75.0	12.5	12.5	12.5
	20歳代(n=27)	29.6	14.8	29.6	7.4	7.4	33.3
	30歳代(n=84)	53.6	35.7	3.6	2.4	16.7	15.5
	40歳代(n=91)	14.3	45.1	27.5	4.4	18.7	18.7
	50歳代(n=88)	2.3	12.5	35.2	14.8	29.5	30.7
	60～64歳(n=62)	1.6	6.5	8.1	21.0	29.0	41.9
	65歳以上(n=239)	0.4	4.2	4.6	15.9	51.0	32.2

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。
「無回答」については着色していない。

5. 通勤・通学
(1) 通勤・通学先

通勤・通学先については、「働いていない（通学していない）」の割合が 34.6%を占めている。通勤・通学先は「直方市内」が 29.1%を占め最も高く、突出している。次いで「北九州市」（8.1%）、「宮若市・鞍手郡」（7.2%）が続く。

それぞれの市町で最も割合が高い職業は、「直方市内」では日々雇用、パートやアルバイトが 63.1%、「宮若市・鞍手郡」では会社・団体の役員が 26.5%、「飯塚市」では公務員、公共企業体、公社の職員が 28.6%、「北九州市」では学生が 33.3%、「福岡市」でも学生が 16.7%となっている。



【「その他」の主な回答内訳】 ・宗像市／5 件、中間市／5 件、田川市／4 件など

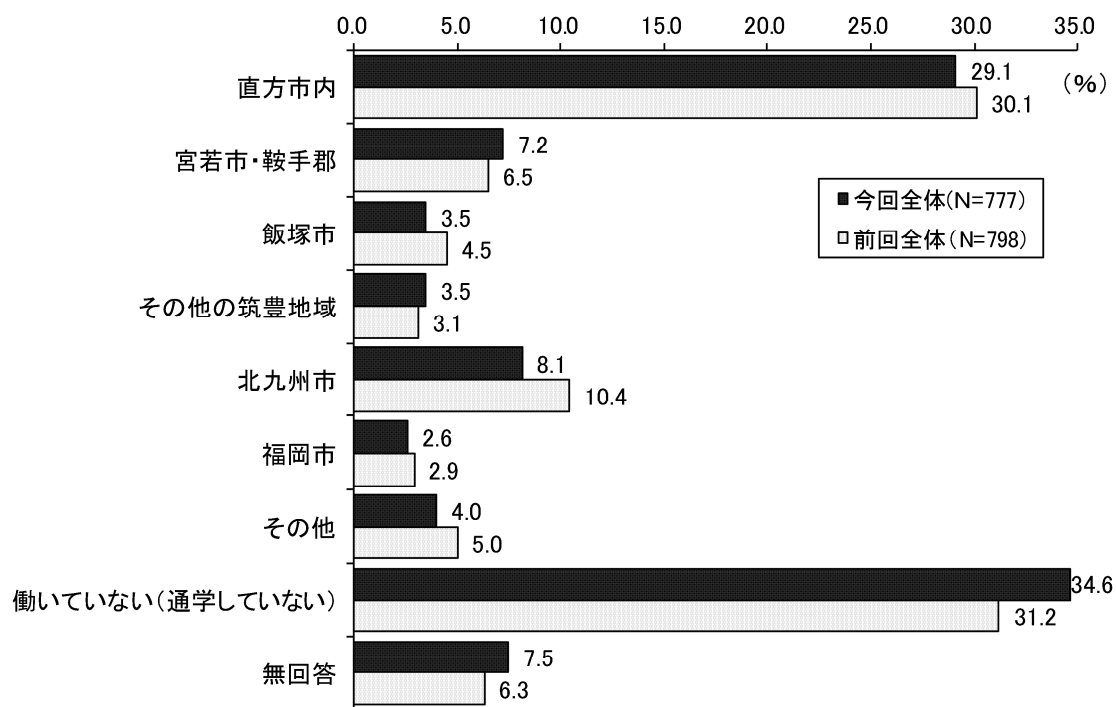
		直方市内	宮若市・鞍手郡	飯塚市	その他の筑豊地域	北九州市	福岡市	その他	働いていない（通学）	無回答
全体(N=777)		29.1	7.2	3.5	3.5	8.1	2.6	4.0	34.6	7.5
職業別	農林業(※1)(n=8)	50.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	12.5
	商業、サービス業、工業、建設業の自営(※1)(n=85)	56.5	12.9	8.2	4.7	9.4	3.5	2.4	1.2	1.2
	専門的職業(※2)(n=41)	51.2	4.9	9.8	14.6	7.3	2.4	9.8	0.0	0.0
	会社・団体の役員(n=34)	38.2	26.5	5.9	5.9	11.8	8.8	2.9	0.0	0.0
	民間の事務職、販売(※3)、技術職(※4)(n=86)	43.0	14.0	4.7	2.3	20.9	5.8	8.1	0.0	1.2
	公務員、公共企業体、公社の職員(n=21)	23.8	4.8	28.6	14.3	23.8	4.8	0.0	0.0	0.0
	民間の技能・労務職(※5)(n=36)	41.7	16.7	2.8	5.6	22.2	5.6	5.6	0.0	0.0
	日々雇用、パートやアルバイト(n=103)	63.1	12.6	2.9	3.9	7.8	0.0	6.8	1.0	1.9
	家事専業の主婦・主夫(n=106)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	92.5	7.5
	学生(n=18)	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	27.8	0.0	5.6
	無職(n=188)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	89.8	10.2
	その他(n=22)	59.1	4.5	0.0	4.5	9.1	9.1	9.1	0.0	4.5
無回答(n=31)		6.5	3.2	0.0	6.5	3.2	0.0	3.2	0.0	77.4

※1 またはその家族従事者
※2 医師、弁護士、僧侶、税理士、会計士、教師など、またはその家族従事者
※3 店員、外交員など
※4 技術整備士、研究員、看護師など

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。
但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

【参考／前回調査との比較】

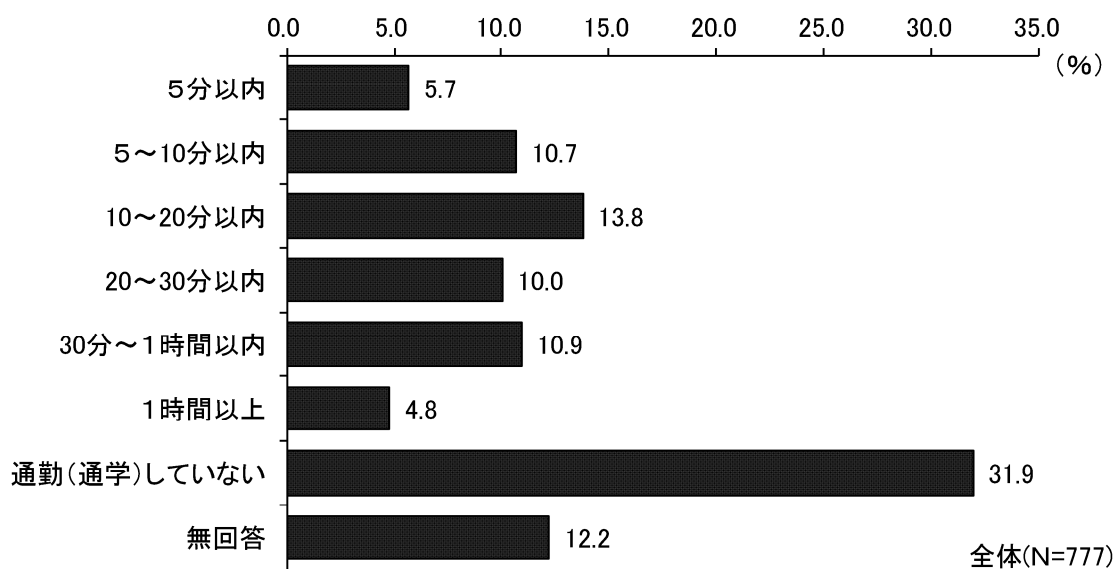
前回調査結果と比較すると、「宮若市・鞍手郡」がわずかに増加している。
また「働いていない（通学していない）」はわずかに増加した。



(2) 通勤・通勤時間

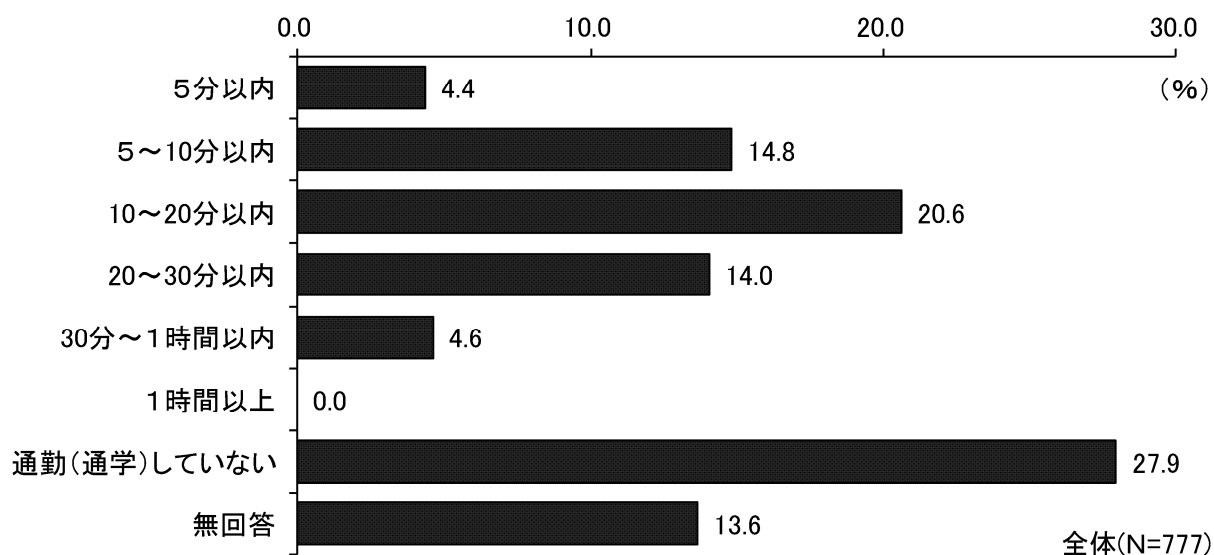
■現在の通勤・通学時間

現在の通勤・通学時間については、「通勤（通学）していない」を除くと「10～20 分以内」が 13.8%と最も高い。



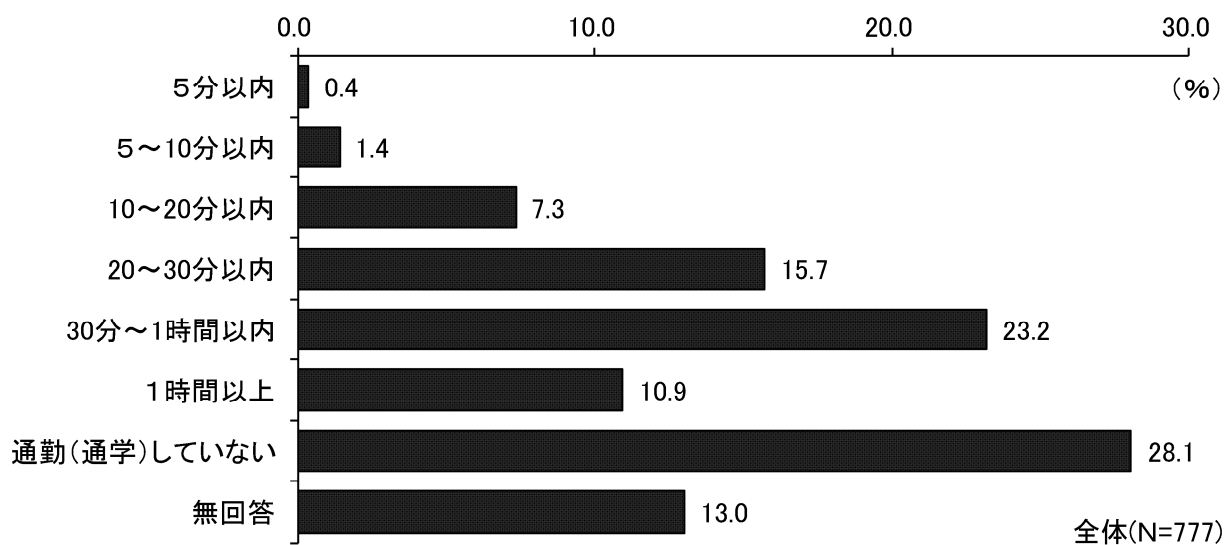
■理想の通勤・通学時間

理想の通勤・通学時間については、「通勤（通学）していない」を除くと「10～20 分以内」が 20.6%と最も高く、次いで「5～10 分以内」が 14.8%、「20～30 分以内」が 14.0%となっている。



■通勤・通学時間の限界

通勤・通学時間の限界は、「通勤（通学）していない」を除くと「30分～1時間」が23.2%と最も高く、次いで「20～30分」が15.7%、「1時間以上」が10.9%となっている。

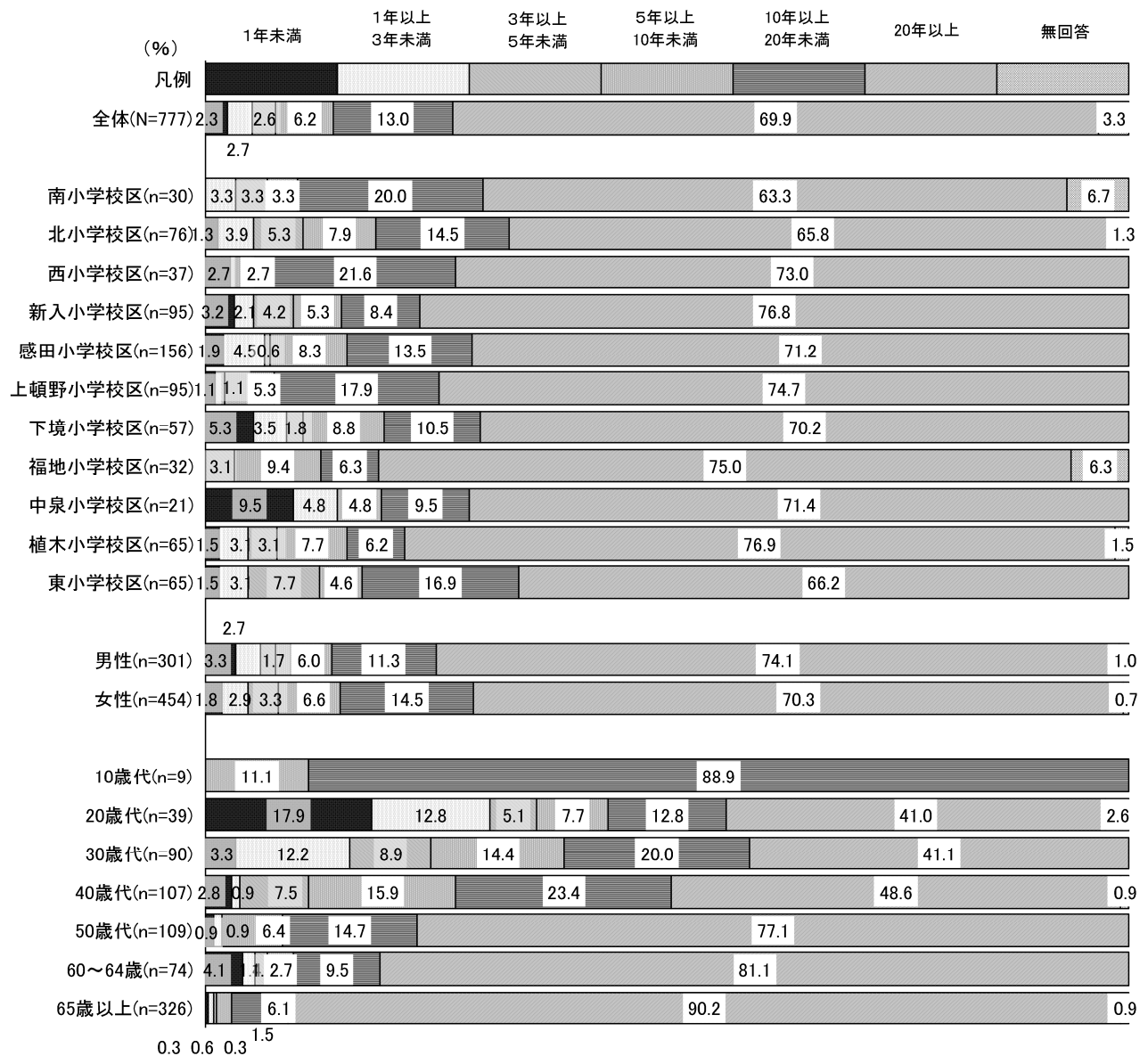


6. 居住年数

居住年数は、全体では、「20 年以上」が 69.9%と大半を占めている。次いで「10 年以上 20 年未満」が 13.0%と、合計 8 割以上（82.9%）が、『10 年以上』居住者である。

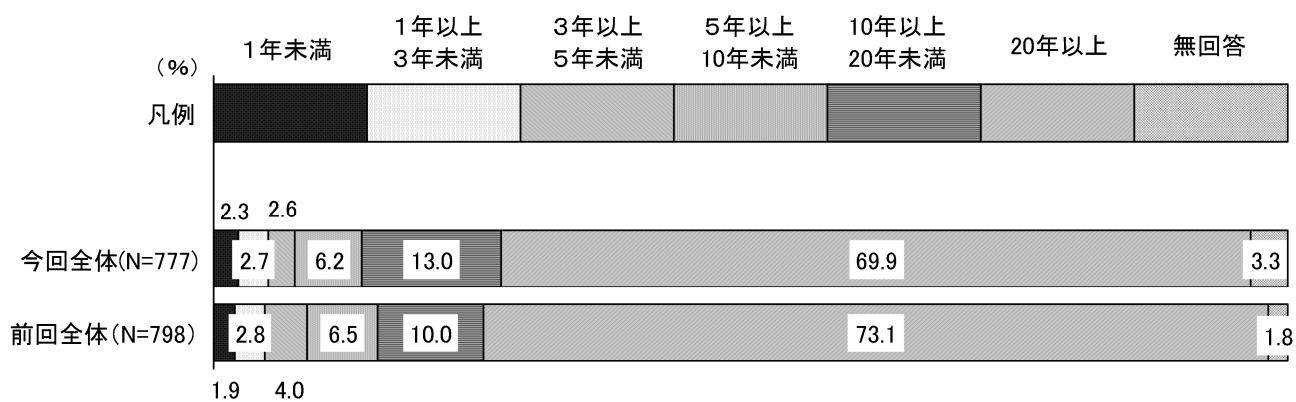
小学校区別でみると、北、東の各小学校区では、他の小学校区に比べ、『20 年未満（合計）』の割合が高くなっている。

性別では、大きな差は目立たないが、年齢別では 20～40 歳代で、『20 年未満（合計）』の割合が高く、特に 30 歳代では、『20 年未満（合計）』の割合は 6 割程度を占めている。



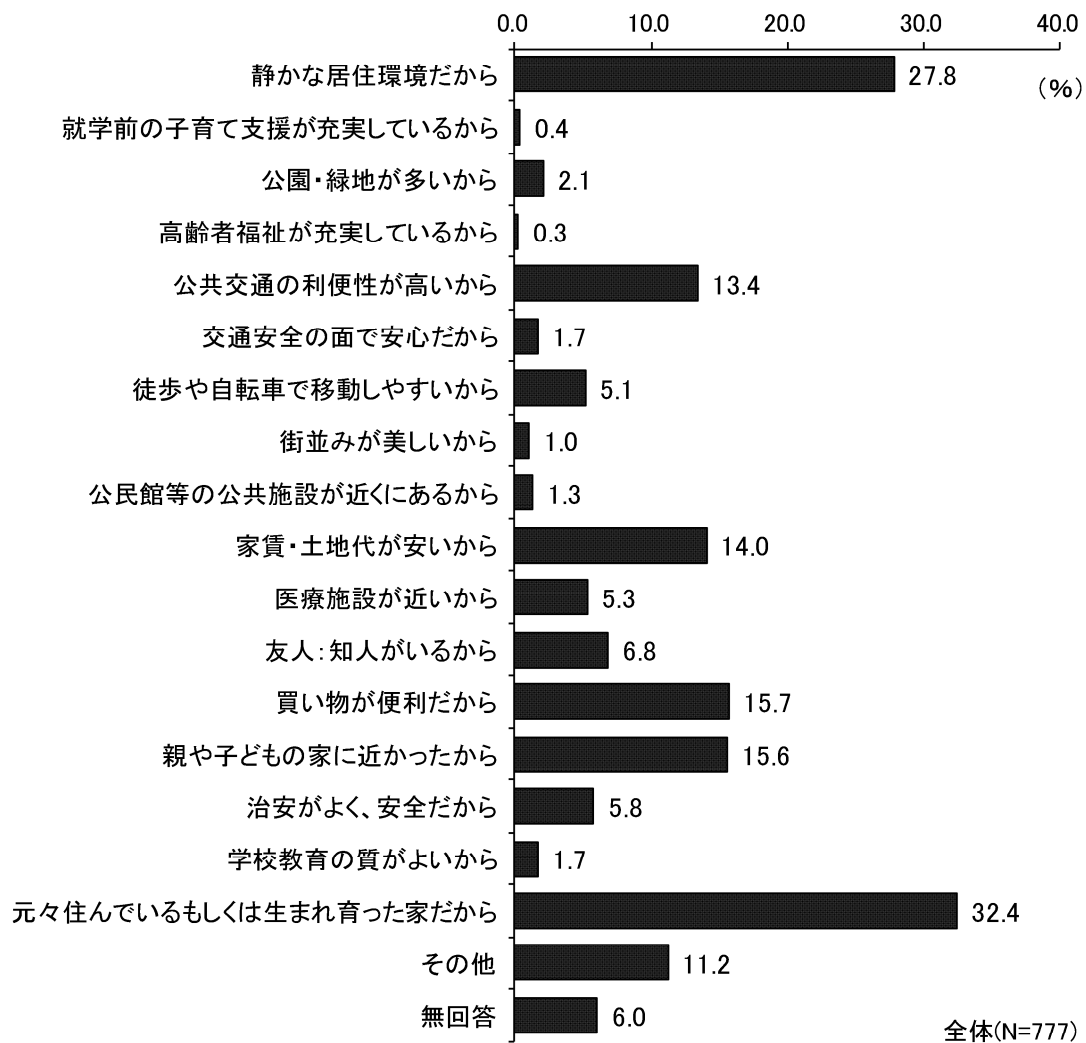
【参考／前回調査との比較】

前回調査結果との比較では、『20 年未満（合計）』の割合がやや増加したものの、大きな変化はみられない。



7. 現在の住まいを選んだ際の理由

現在の住まいを選んだ際の理由は、「元々住んでいるもしくは生まれ育った家だから」が32.4%と割合が最も高く、次いで「静かな居住環境だから」が27.8%となっている。その他、「買い物が便利だから」（15.7%）、「親や子どもの家に近かったから」（15.6%）、「公共交通の利便性が高いから」（13.4%）など、生活利便性に関する項目の割合が高かった。

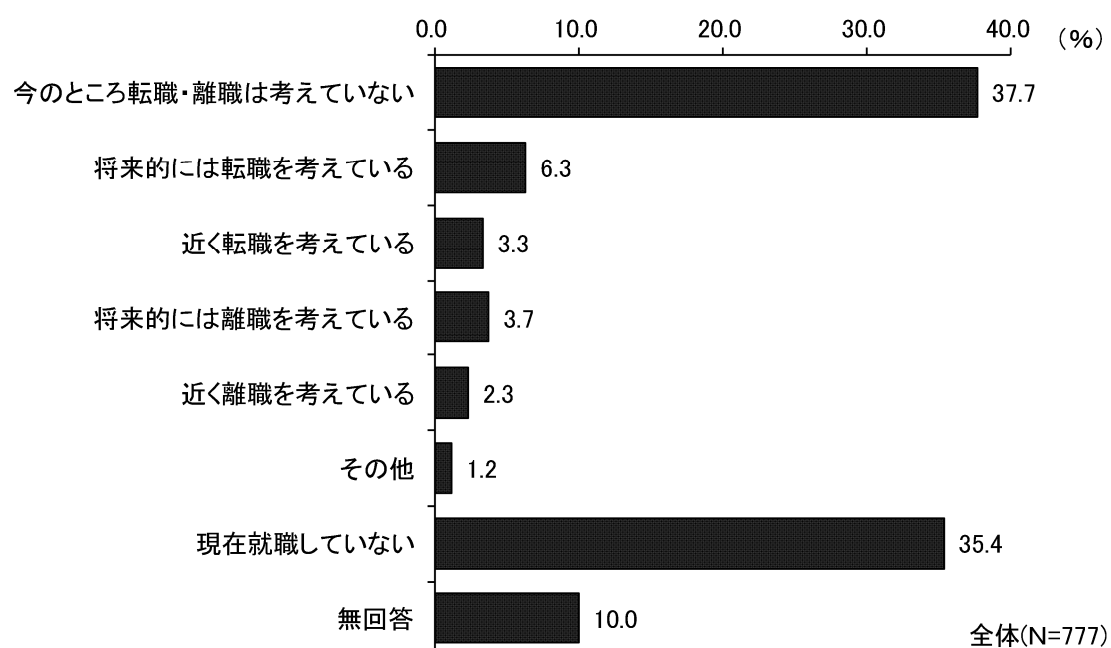


Ⅲ 調査結果

【1】将来的な転職・離職の状況等について

3－問12. 現在ならびに将来、転職・離職を考えていますか。(○印1つ)

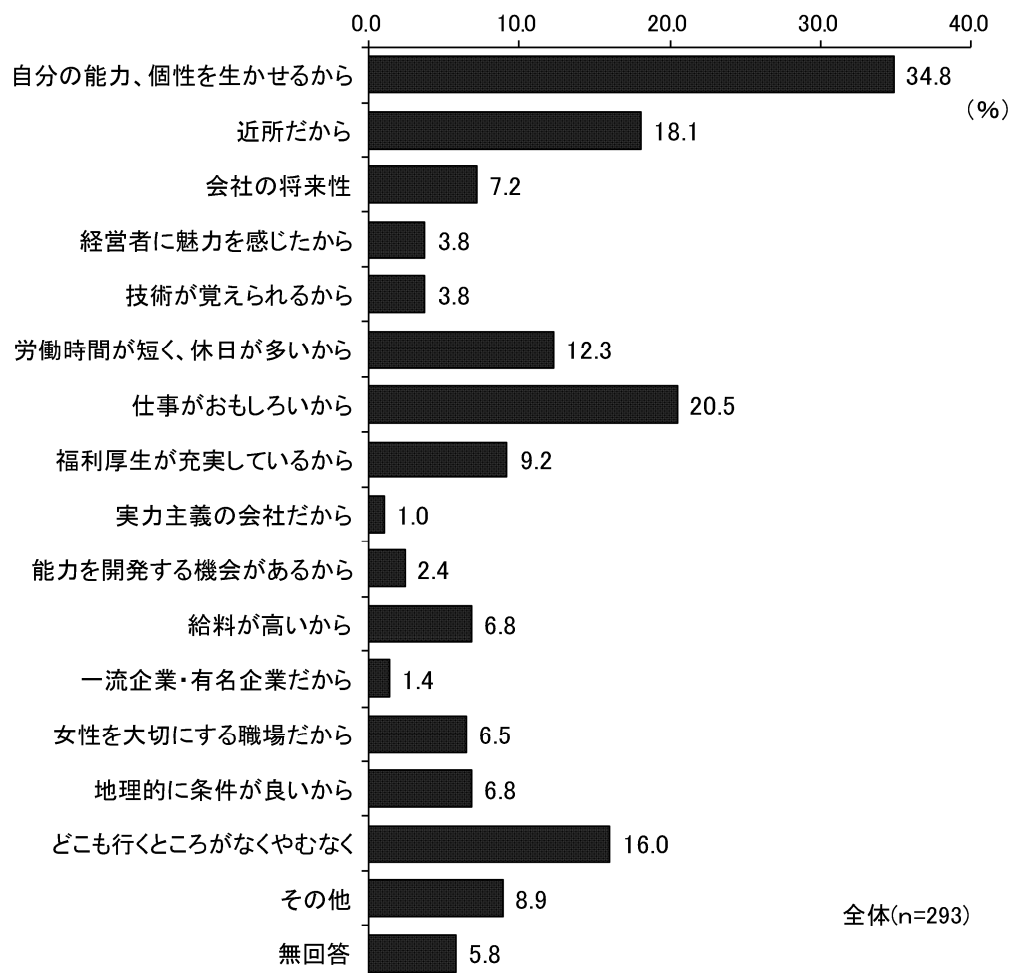
将来的な転職・離職の可能性については、「現在就職していない」を除くと、「今のところ転職・離職は考えていない」の割合が37.7%と最も高く、次いで「将来的には転職を考えている」が6.3%となった。



3-問12. 付問1（問12で1に○印をつけた人に）

転職・離職を考えていない理由を教えてください。（○印いくつでも）

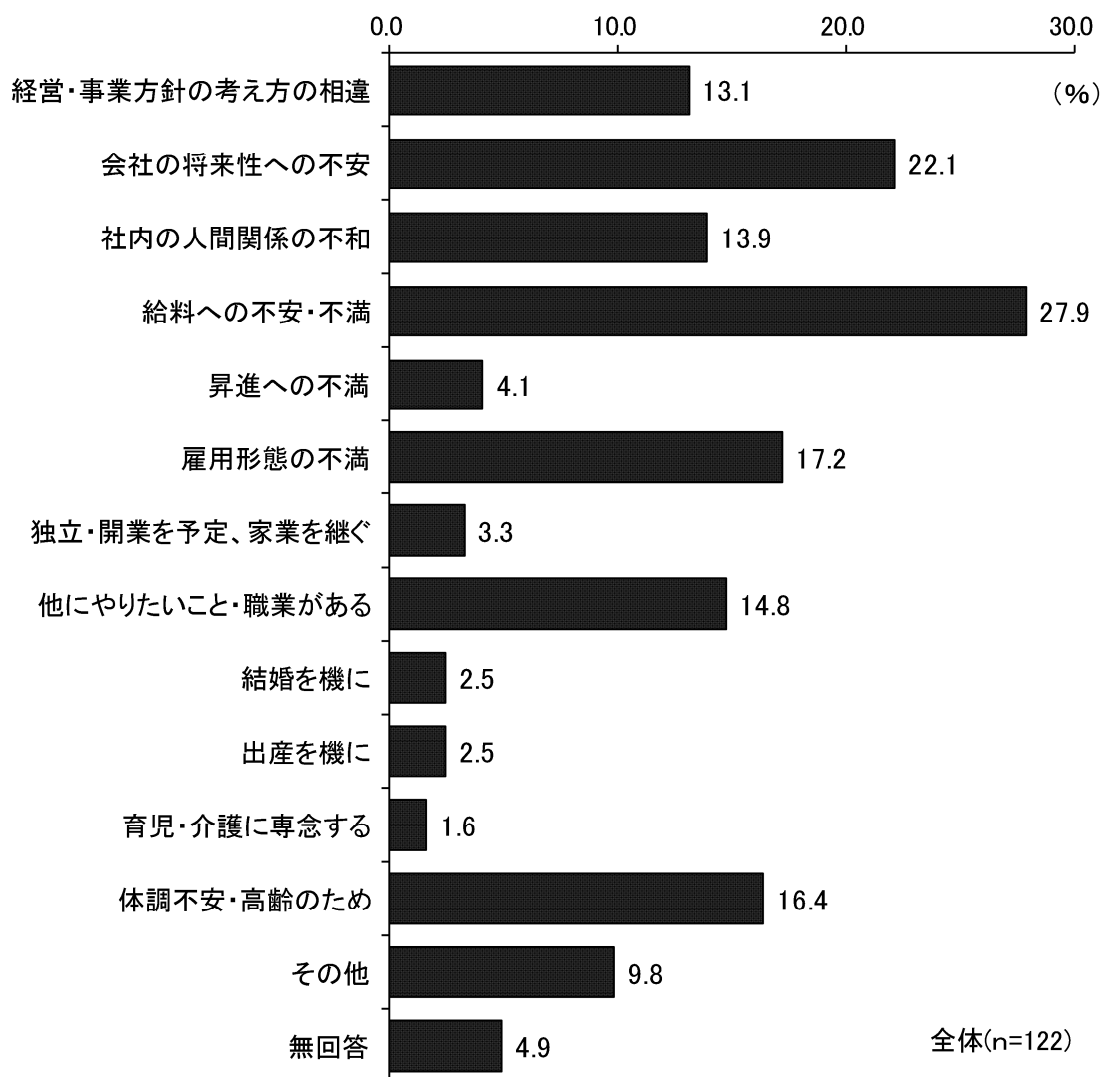
3-問12で「転職・離職を考えてない」理由については、「自分の能力、個性を生かせるから」の割合が34.8%と最も高く、次いで「仕事がおもしろいから」が20.5%と、現在の仕事を肯定的に評価した結果が上位を占めた。



3-問12. 付問2. (問12で2～5に○印をつけた人に)

転職・離職を考える理由は何ですか。(○印いくつでも)

3-問12で「転職・離職を考える」理由については、「給料への不安・不満」の割合が27.9%と最も高く、次いで「会社の将来性への不安」が22.1%、「雇用形態への不満」が17.2%と、会社の待遇や将来性に対する不満、不安が上位を占めた。

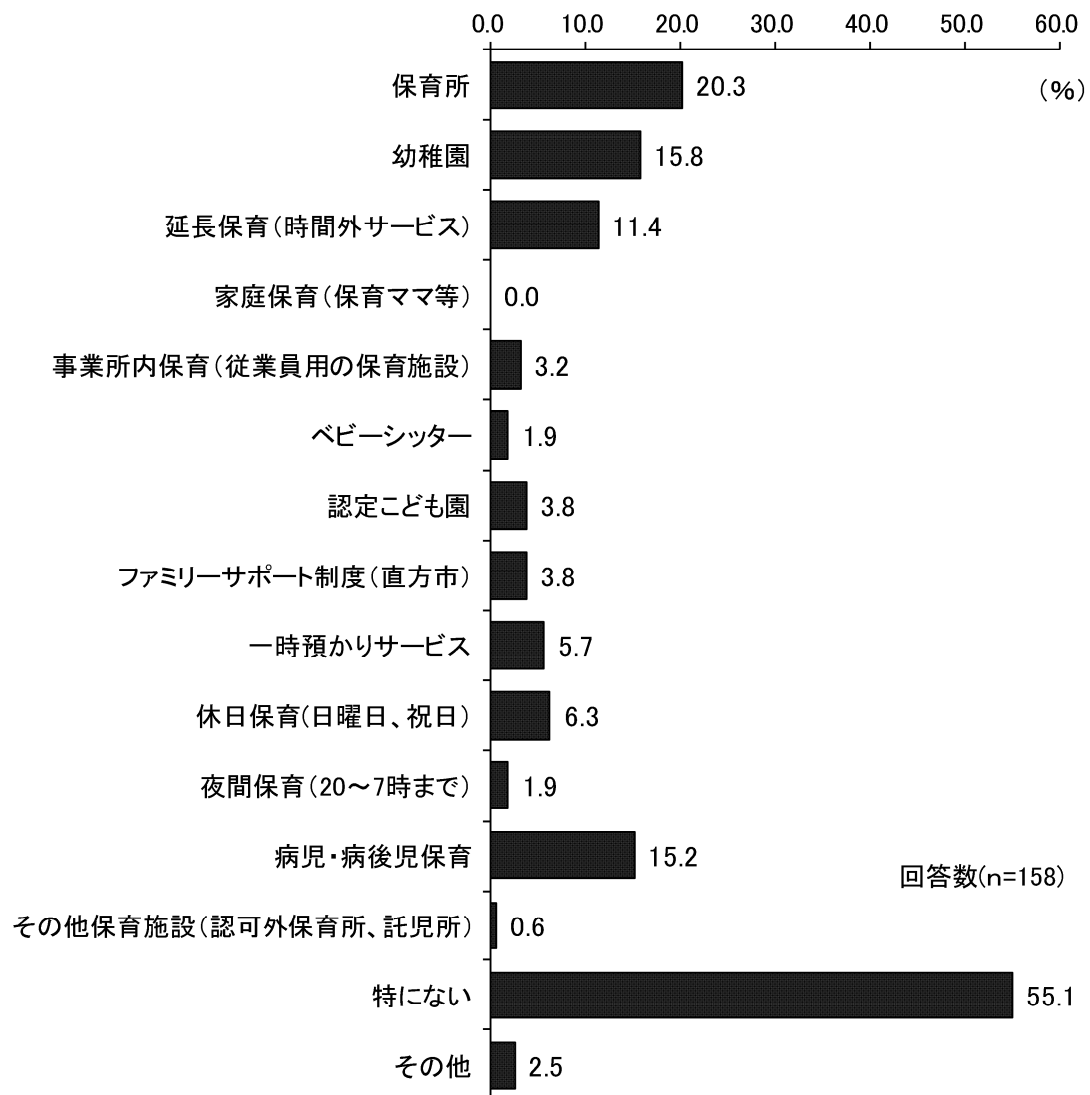


【2】教育・保育で利用したい事業について

3－問13. (※18歳までのお子様がいらっしゃる方が対象)

教育・保育に関連する事業で、特に今後利用したい事業はありますか。(○印いくつでも)

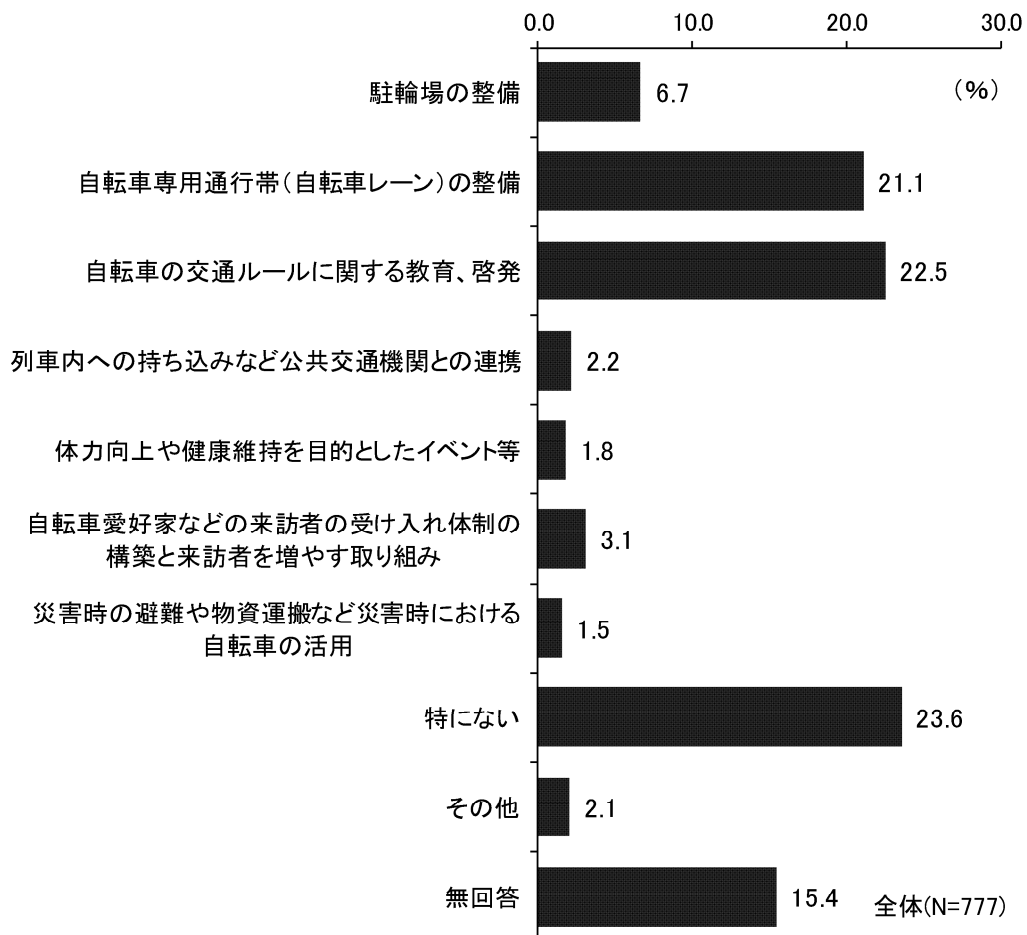
教育・保育に関連する事業で、今後利用したい事業は「保育所」の割合が20.3%と最も高く、次いで「幼稚園」が15.8%、「病児・病後児保育」が15.2%となった。一方「特にない」が55.1%と半数以上を占めている。



【3】直方北九州自転車道の整備、自転車利用への取組について

3－問14. 「直方北九州自転車道」の全線開通など環境整備が進められていますが、自転車に関して、あなたはどのような取り組みに最も力を入れて欲しいと思いますか。
(○印1つ)

自転車に関する取り組みについては、「特にない」を除くと「自転車の交通ルールに関する教育、啓発」の割合が22.5%と最も多く、次いで「自転車専用通行帯（自転車レーン）の整備」が21.1%となった。

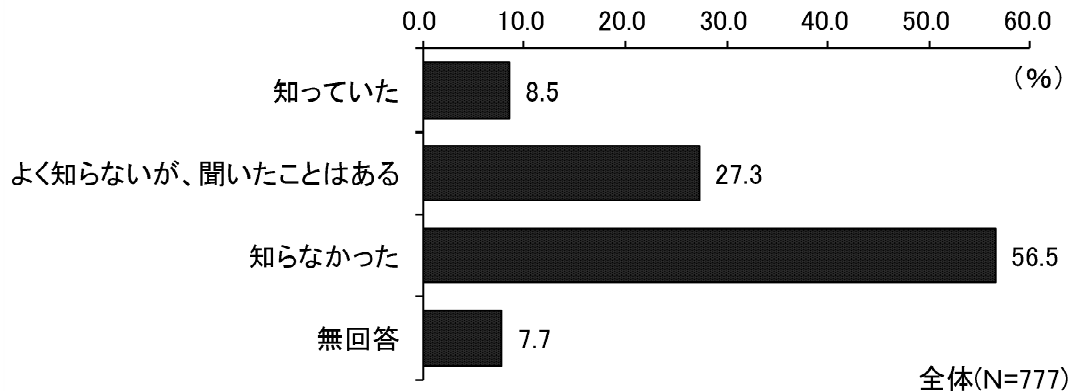


【４】生活困窮者自立支援制度について

1. 生活困窮者自立支援制度の認知度

3－問15. 生活に困った時のために、「生活困窮者自立支援相談窓口」という相談窓口がありますが、知っていましたか。（○印1つ）

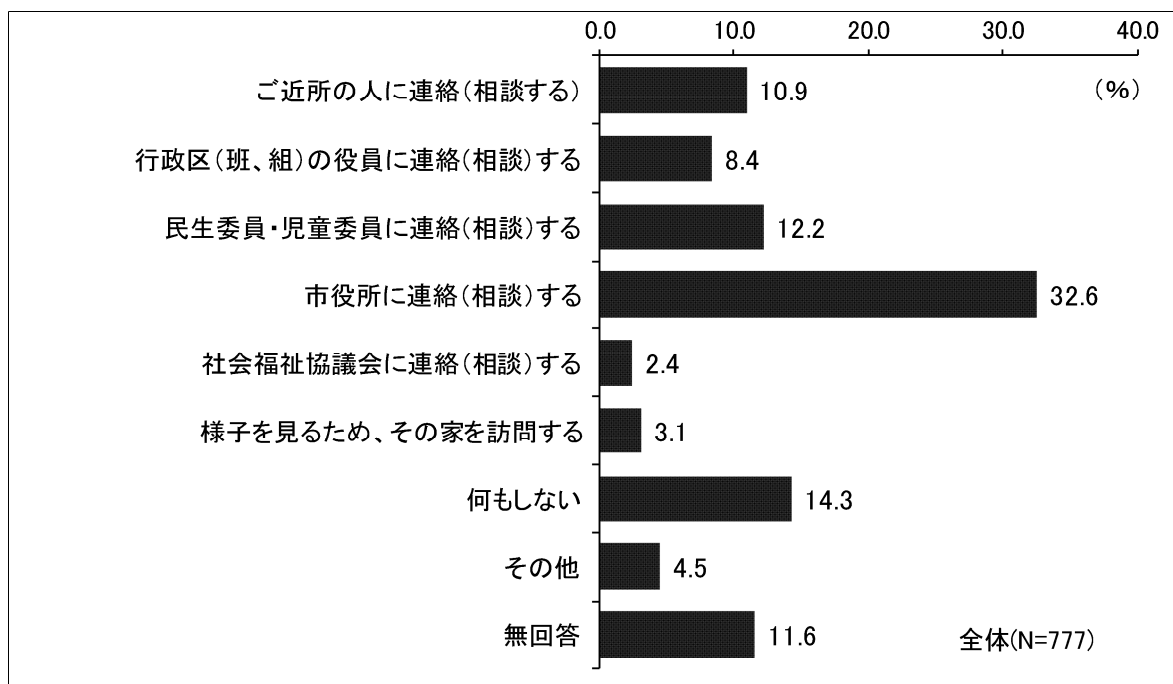
生活困窮者自立支援制度の認知度については、「知らなかった」が56.5%と圧倒的に多く、次いで「よく知らないが、聞いたことはある」が27.3%と、認知度が低いことが分かる。



2. 生活困窮者自立支援制度に該当する人への対応方法

3－問16. あなたの周囲で生活に困っている人（上記、問15「生活困窮者自立支援制度」に該当する程度）がいた場合、最初にどのような対応をしますか。（○印1つ）

周囲で生活に困っている人への対応については、「市役所に連絡（相談）する」の割合が32.6%と最も高く、次いで「何もしない」が14.3%、「民生委員・児童委員に連絡（相談）する」が12.2%となっている。



生活困窮者自立支援（制度）

生活や仕事に心配・不安・悩みを抱えている方について、地域において自立した生活を行えるよう、相談支援員が無料で相談に応じ、問題解決に向けたお手伝いをする制度です。

例えば、次のような支援があります。

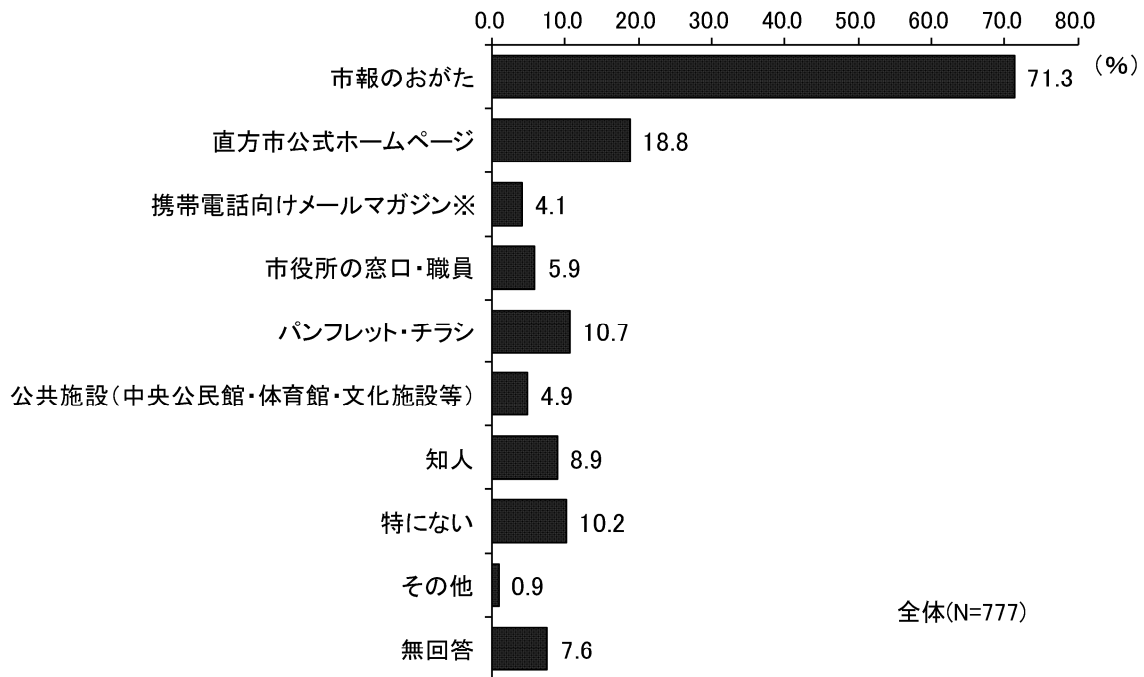
- ・ 離職等で住居を失う恐れがある場合、家賃額を有期で支給
- ・ 生活の安定（社会的、経済的自立）のための就労支援
- ・ 家計を立て直すためのアドバイス（計画）

【5】直方市の情報発信について

1. 市政に関する情報の入手方法

4－問1. 市政に関する情報の主な入手方法は何ですか。（○印いくつでも）

市政に関する情報の主な入手方法は、「市報のおがた」の割合が71.3%と圧倒的に高く、次いで「直方市公式ホームページ」は18.8%となっている。なお、「特にない」が10.2%と約1割となっている。また、20～40歳代は比較的「公式ホームページ」の割合が高い。



	市報のおがた	直方市公式ホームページ	携帯電話向けメールマガジン※	市役所の窓口・職員	パンフレット・チラシ	公共施設(中央公民館・体育館・文化施設等)	知人	特にない	その他	無回答
全体(N=777)	71.3	18.8	4.1	5.9	10.7	4.9	8.9	10.2	0.9	7.6
年齢別										
10歳代(n=9)	22.2	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	44.4	0.0	0.0
20歳代(n=39)	46.2	33.3	2.6	5.1	10.3	5.1	10.3	20.5	0.0	2.6
30歳代(n=90)	56.7	33.3	3.3	7.8	7.8	1.1	10.0	17.8	0.0	1.1
40歳代(n=107)	69.2	34.6	14.0	7.5	9.3	3.7	8.4	8.4	0.0	3.7
50歳代(n=109)	67.9	22.9	3.7	4.6	11.9	1.8	5.5	10.1	1.8	8.3
60～64歳(n=74)	81.1	21.6	1.4	4.1	9.5	1.4	6.8	9.5	1.4	4.1
65歳以上(n=326)	81.9	7.1	2.5	6.4	11.3	8.3	10.4	6.7	1.2	8.6

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

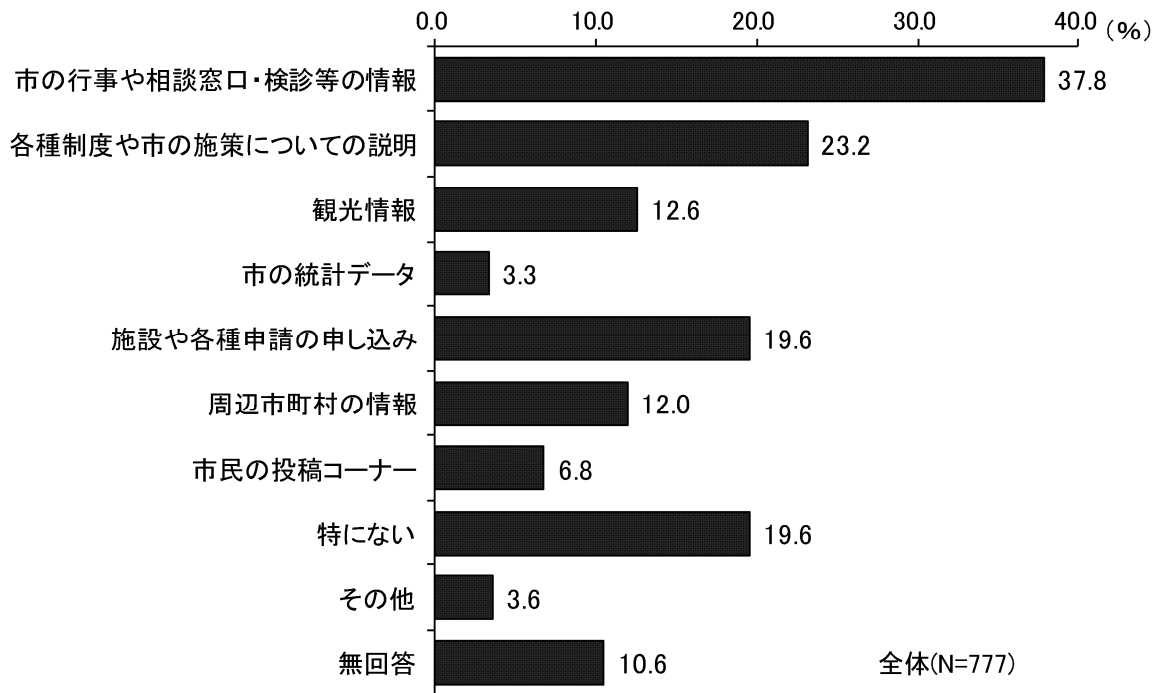
但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

2. 直方市の情報発信で充実させて欲しい内容

4－問2. 市のホームページや「市報のおがた」で充実させてほしい内容はどのようなものですか。（○印は2つまで）

市のホームページや「市報のおがた」で充実させて欲しい内容は、「市の行事や相談窓口・検診等の情報」の割合が37.8%と最も高く、次いで「各種制度や市の施策についての説明」が23.2%、「施設や各種申請の申し込み」が19.6%となっている。

年代別では、「観光情報」の20歳代(30.8%)、「周辺市町村の情報」の60～64歳(21.6%)の割合が他の年代と比較して高くなっている。



		市の行事や相談窓口・検診等の情報	各種制度や市の施策についての説明	観光情報	市の統計データ	施設や各種申請の申し込み	周辺市町村の情報	市民の投稿コーナー	特にない	その他	無回答
全体(N=777)		37.8	23.2	12.6	3.3	19.6	12.0	6.8	19.6	3.6	10.6
年齢別	10歳代(n=9)	22.2	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	55.6	0.0	0.0
	20歳代(n=39)	33.3	25.6	30.8	7.7	17.9	5.1	2.6	20.5	5.1	5.1
	30歳代(n=90)	36.7	22.2	16.7	2.2	21.1	5.6	2.2	27.8	6.7	5.6
	40歳代(n=107)	37.4	19.6	17.8	1.9	17.8	11.2	10.3	18.7	8.4	6.5
	50歳代(n=109)	42.2	17.4	15.6	2.8	23.9	5.5	6.4	22.9	2.8	7.3
	60～64歳(n=74)	40.5	23.0	13.5	5.4	28.4	21.6	4.1	10.8	1.4	6.8
	65歳以上(n=326)	39.3	27.6	7.1	3.4	18.4	15.3	8.6	18.1	2.1	12.0

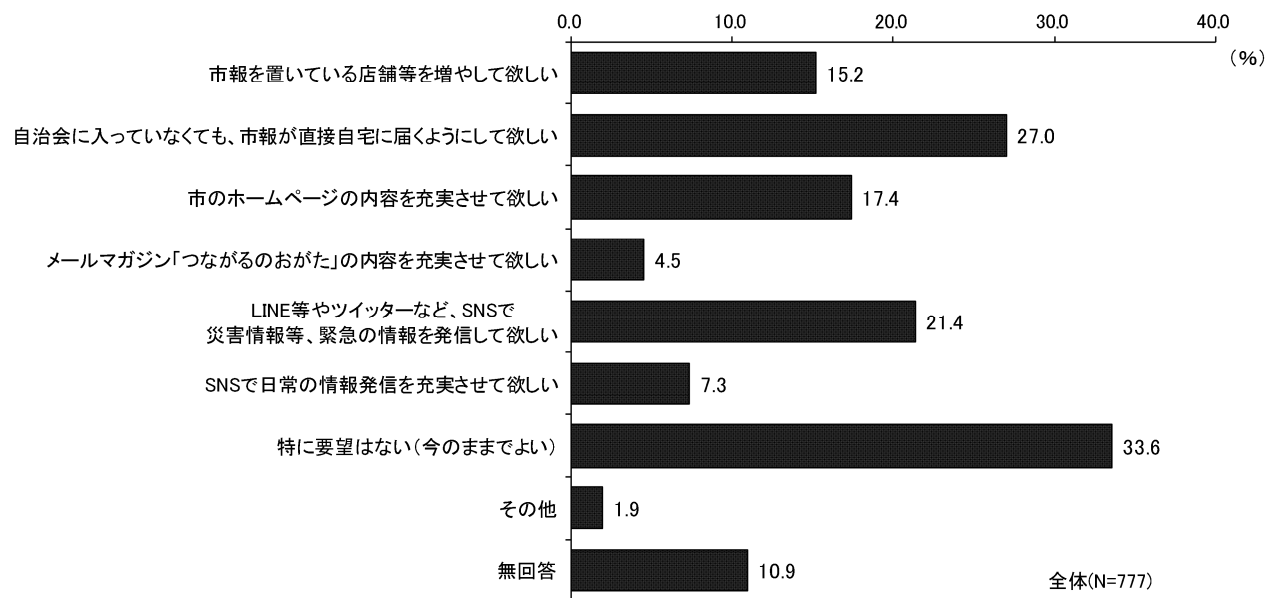
注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

3. 直方市の情報発信について望むこと

4 ー問 3. 市の情報発信について、あなたが望むことはありますか。（○印は3つまで）

市の情報発信について望むことは、「特に要望はない（今のままでよい）」の割合が33.6%と最も高く、次いで「自治会に入っていないなくても、市報が直接自宅に届くようにして欲しい」が27.0%、「SNS で災害情報等、緊急情報を発信して欲しい」が21.4%となっている。



	市報を置いている店舗等を増やして欲しい	自治会に入っていないなくても、市報が直接自宅に届くようにして欲しい	市のホームページの内容を充実させて欲しい	メールマガジン「つながるのがた」の内容を充実させて欲しい	災害情報等、緊急の情報を発信して欲しい	LINE等やツイッターなど、SNSで日常の情報発信を充実させて欲しい	特に要望はない(今のままでよい)	その他	無回答
全体(N=777)	15.2	27.0	17.4	4.5	21.4	7.3	33.6	1.9	10.9
年齢別									
10歳代(n=9)	11.1	0.0	0.0	0.0	33.3	11.1	55.6	0.0	0.0
20歳代(n=39)	5.1	25.6	20.5	0.0	38.5	20.5	28.2	0.0	7.7
30歳代(n=90)	16.7	30.0	17.8	4.4	33.3	12.2	30.0	1.1	3.3
40歳代(n=107)	14.0	27.1	17.8	11.2	31.8	6.5	31.8	0.9	2.8
50歳代(n=109)	13.8	28.4	20.2	3.7	28.4	4.6	33.0	0.9	7.3
60～64歳(n=74)	13.5	33.8	23.0	1.4	18.9	4.1	32.4	4.1	9.5
65歳以上(n=326)	17.2	26.1	15.3	4.0	11.7	6.7	36.5	2.8	15.0

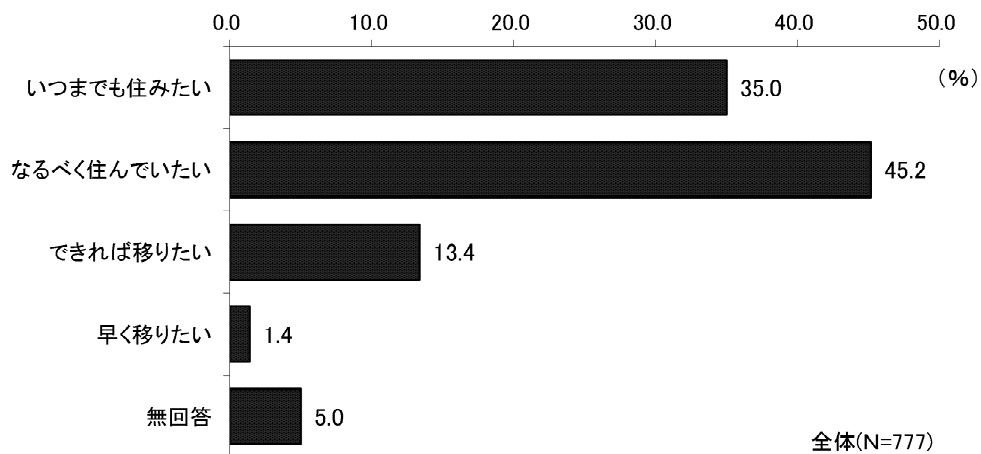
注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。
但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

【6】市の住みやすさや最も力を入れてほしい行政施策について

1. 定住意向

2-問1. あなたは、特に事情がない限り、ずっと直方市に住みたいと思いますか。（○印は1つだけ）

定住意向については、全体の半数近く（45.2%）が「なるべく住んでいたい」と回答し、「いつまでも住みたい」（35.0%）と合せると、約8割（80.2%）が定住意向を示している。「早く移りたい」は、1.4%にとどまっている。



		いつまでも住みたい	なるべく住んでいたい	できれば移りたい	早く移りたい	無回答
全体(N=777)		35.0	45.2	13.4	1.4	5.0
小学校区別	南小学校区(n=30)	33.3	53.3	13.3	0.0	0.0
	北小学校区(n=78)	28.9	52.6	11.8	0.0	6.6
	西小学校区(n=37)	32.4	51.4	10.8	2.7	2.7
	新入小学校区(n=95)	37.9	40.0	13.7	3.2	5.3
	感田小学校区(n=156)	33.3	48.7	13.5	1.9	2.6
	上頓野小学校区(n=95)	30.5	48.4	14.7	0.0	6.3
	下境小学校区(n=57)	31.6	56.1	8.8	1.8	1.8
	福地小学校区(n=32)	21.9	40.6	28.1	0.0	9.4
	中泉小学校区(n=21)	42.9	28.6	19.0	4.8	4.8
	榎木小学校区(n=65)	49.2	35.4	9.2	0.0	6.2
	東小学校区(n=65)	33.8	49.2	15.4	1.5	0.0
性別	男性(n=301)	37.9	46.2	12.0	0.7	3.3
	女性(n=454)	32.6	45.8	14.8	2.0	4.8
年齢別	10歳代(n=9)	22.2	66.7	11.1	0.0	0.0
	20歳代(n=39)	10.3	64.1	23.1	2.6	0.0
	30歳代(n=90)	24.4	51.1	20.0	2.2	2.2
	40歳代(n=107)	20.6	59.8	16.8	1.9	0.9
	50歳代(n=108)	23.9	57.8	13.8	0.9	3.7
	60～64歳(n=74)	36.5	41.9	18.9	0.0	2.7
	65歳以上(n=326)	48.2	34.7	8.6	1.5	7.1

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

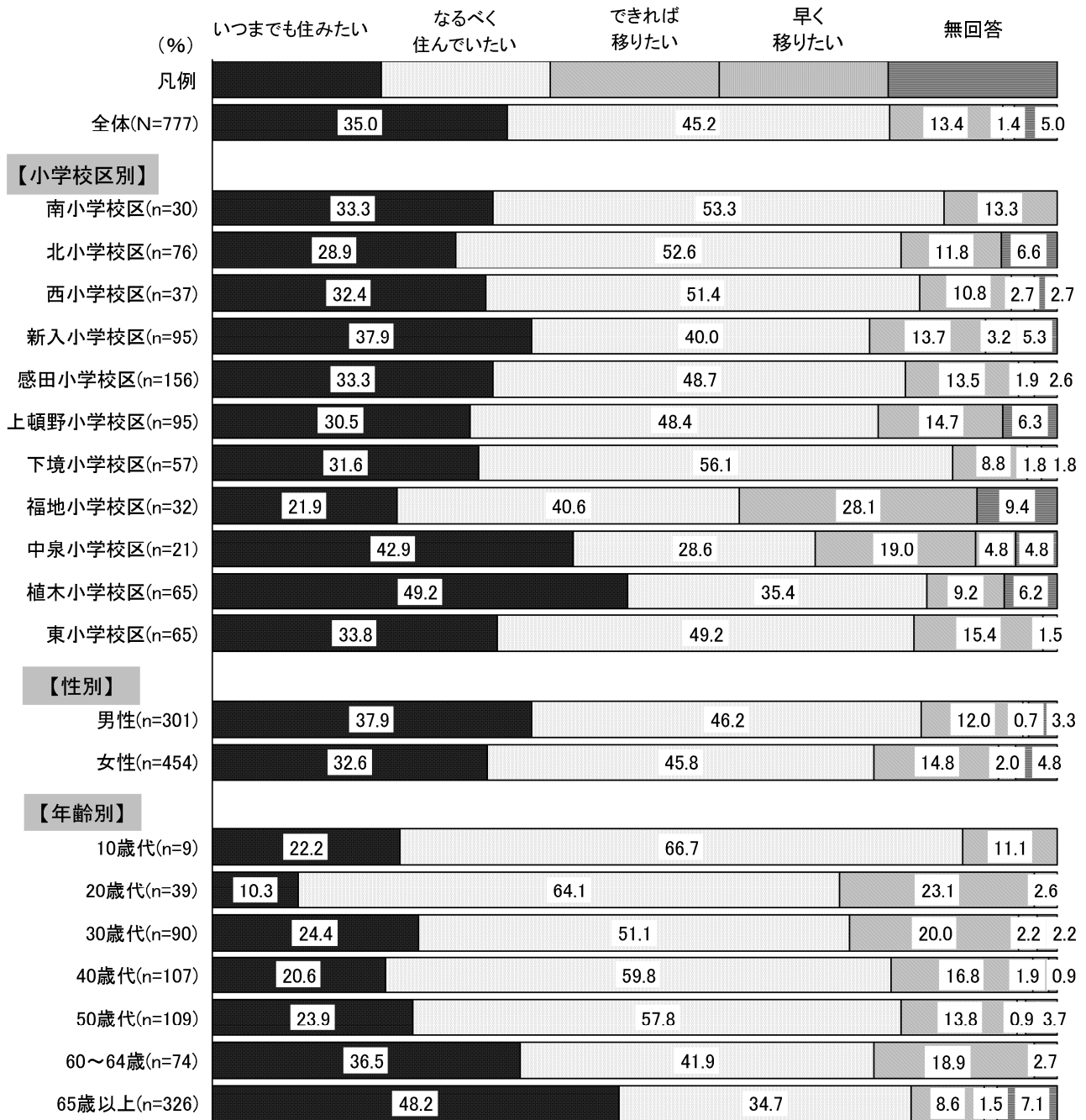
（例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。）

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

定住意向を居住地別に見ると、中泉、植木小学校区などで「いつまでも住みたい」が高くなっている。逆に、福地小学校区では低くなっている。

性別では、男性の定住意向がやや高いが大きな差は目立たない。

年齢別では、特に20歳代の定住意向が低く、「いつまでも住みたい」は10.3%となっている。

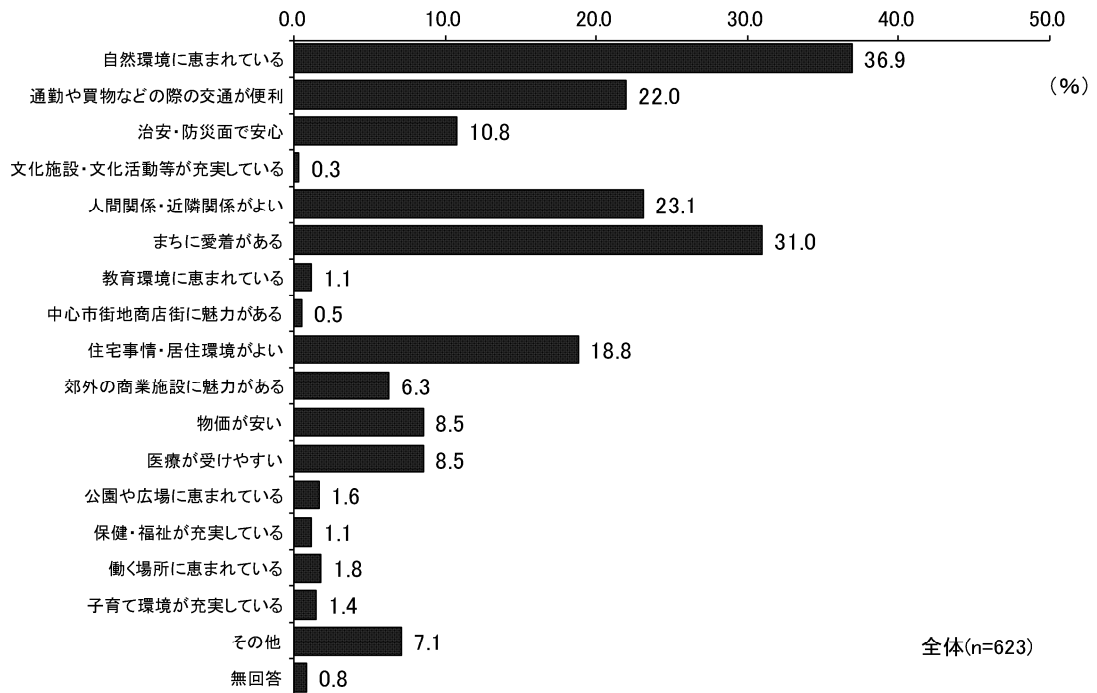


2. 定住理由

2－問1. 付問1 直方市に住みたい理由を次の中から2つまで選んで○印をつけてください。（○印は2つまで）

「いつまでも住みたい」「なるべく住んでいたい」と回答した定住意向の理由については、「自然環境に恵まれている」の割合が36.9%と最も高く、次いで「まちに愛着がある」（31.0%）、「人間関係・近隣関係がよい」（23.1%）、「通勤や買い物などの際の交通が便利」（22.0%）の順に多くなっている。

【第2章付問1. 住みたい理由】



	い る 環 境 に 恵 ま れ て	の 交 通 や 買 物 な ど の 際	治 安 ・ 防 災 面 で 安 心	等 文 が 化 充 実 し ・ 文 化 活 動	が 人 よ い 関 係 ・ 近 隣 関 係	ま ち に 愛 着 が あ る	い 教 育 環 境 に 恵 ま れ て	健 中 心 が 市 街 地 商 店 街 に	が 住 宅 事 情 ・ 居 住 環 境	力 郊 外 の 商 業 施 設 に 魅	物 価 が 安 い	医 療 が 受 け や す い	て 公 園 や 広 場 に 恵 ま れ	て 保 い 健 ・ 福 祉 が 充 実 し	い 働 く 場 所 に 恵 ま れ て	子 育 て 環 境 が 充 実 し	そ の 他	無 回 答
全体(n=623)	36.9	22.0	10.8	0.3	23.1	31.0	1.1	0.5	18.8	6.3	8.5	8.5	1.6	1.1	1.8	1.4	7.1	0.8
南小学校区(n=26)	34.6	0.0	30.8	0.0	30.8	26.9	0.0	0.0	11.5	3.8	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5	0.0
北小学校区(n=62)	27.4	21.0	16.1	0.0	14.5	29.0	0.0	0.0	21.0	1.6	16.1	14.5	0.0	0.0	0.0	3.2	9.7	1.6
西小学校区(n=31)	32.3	25.8	16.1	0.0	19.4	29.0	3.2	0.0	12.9	3.2	6.5	12.9	3.2	0.0	3.2	0.0	6.5	3.2
新入小学校区(n=74)	40.5	14.9	9.5	0.0	25.7	36.5	0.0	1.4	21.8	4.1	12.2	9.5	2.7	4.1	8.8	4.1	6.8	0.0
感田小学校区(n=128)	30.5	32.8	8.6	0.0	21.1	26.6	1.6	0.0	21.1	12.5	10.2	11.7	2.3	0.8	2.3	2.3	5.5	0.0
上頓野小学校区(n=75)	57.3	13.3	8.0	1.3	24.0	24.0	2.7	1.3	24.0	8.0	8.0	4.0	1.3	0.0	0.0	1.3	4.0	0.0
下境小学校区(n=50)	24.0	18.0	6.0	2.0	32.0	44.0	0.0	0.0	14.0	4.0	10.0	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
福地小学校区(n=20)	55.0	10.0	15.0	0.0	30.0	30.0	0.0	0.0	10.0	5.0	5.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
中泉小学校区(n=15)	46.7	6.7	6.7	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
植木小学校区(n=55)	32.7	21.8	1.8	0.0	32.7	34.5	3.6	0.0	20.0	1.8	3.6	1.8	0.0	1.8	1.8	0.0	9.1	3.6
東小学校区(n=54)	40.7	29.6	18.5	0.0	16.7	37.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	3.7	0.0	1.9	0.0	0.0	7.4	0.0
性別																		
男性(n=263)	37.5	21.7	11.1	0.0	23.3	33.6	0.8	0.4	17.4	8.7	7.5	9.1	2.0	0.8	1.2	1.6	3.6	0.8
女性(n=356)	36.5	22.2	10.4	0.6	23.0	29.8	1.4	0.3	19.7	4.8	9.3	7.9	1.4	1.4	2.2	1.4	9.8	0.8
年齢別																		
10歳代(n=8)	37.5	37.5	0.0	0.0	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=29)	27.6	37.9	17.2	0.0	13.8	37.9	0.0	0.0	10.3	3.4	3.4	0.0	3.4	0.0	3.4	3.4	3.4	0.0
30歳代(n=88)	20.8	29.4	8.8	1.5	25.0	30.9	5.9	0.0	14.7	5.9	14.7	2.9	1.5	1.5	1.5	2.9	5.9	1.5
40歳代(n=86)	26.7	24.4	7.0	0.0	17.4	32.6	0.0	0.0	22.1	4.7	4.7	2.3	0.0	1.2	2.3	2.3	5.8	1.2
50歳代(n=88)	33.7	21.3	12.4	1.1	13.5	32.6	0.0	0.0	19.1	5.6	12.4	3.4	1.1	0.0	4.5	1.1	11.2	0.0
60～64歳(n=58)	34.5	31.0	8.6	0.0	25.9	34.5	0.0	1.7	13.8	5.2	3.4	1.7	0.0	0.0	1.7	1.7	13.8	0.0
65歳以上(n=210)	47.0	15.2	11.5	0.0	27.8	29.3	1.1	0.4	21.1	8.1	8.5	15.9	2.6	1.9	0.7	0.7	5.9	1.1

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

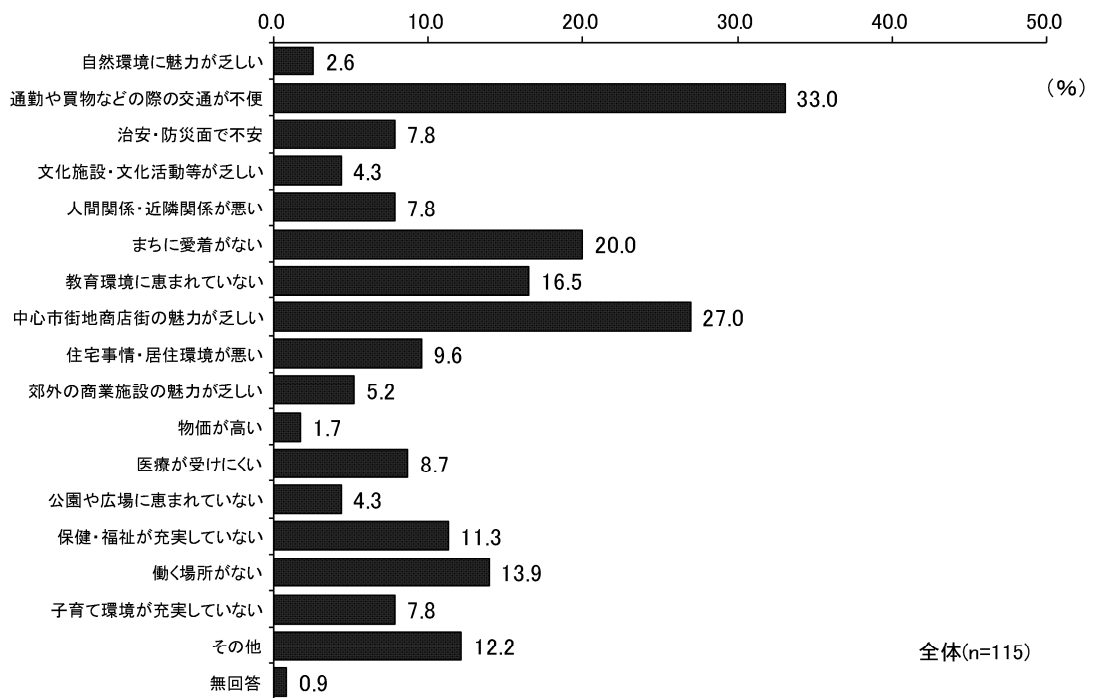
(例)性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

3. 非定住理由

2－問1. 付問2 他の市町村へ移りたい理由を次の中から2つまで選んで○印をつけてください。（○印は2つまで）

「早く移りたい」「できれば移りたい」と回答した理由については、「通勤や買い物などの際の交通が不便」の割合が33.0%と最も高く、次いで「中心市街地商店街の魅力が乏しい」（27.0%）、「まちに愛着がない」（20.0%）の順に多くなっている。



	美しい自然環境に魅力が乏しい	交通の便が悪い	治安・防災面で不安	文化施設・文化活動が乏しい	人との関係・近隣関係が悪い	まちなかに愛着がない	教育環境に恵まれていない	街中の中心が乏しい商店街	住宅事情・居住環境が悪い	力郊外に乏しい商業施設の魅	物価が高い	医療が受けにくい	公園や広場に恵まれていない	住まい・福祉が充実していない	働く場所がない	子育て環境が充実していない	その他	無回答
全体(n=115)	2.6	33.0	7.8	4.3	7.8	20.0	16.5	27.0	9.6	5.2	1.7	8.7	4.3	11.3	13.9	7.8	12.2	0.9
小学校区別																		
南小学校区(n=4)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0
北小学校区(n=9)	0.0	11.1	33.3	0.0	11.1	22.2	55.6	11.1	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0
西小学校区(n=5)	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
新入小学校区(n=16)	0.0	25.0	12.5	6.3	0.0	31.3	18.8	37.5	18.8	0.0	6.3	6.3	0.0	31.3	25.0	12.5	6.3	0.0
穂田小学校区(n=24)	0.0	33.3	4.2	4.2	4.2	20.8	12.5	29.2	4.2	8.3	0.0	16.7	4.2	25.0	20.8	8.3	4.2	4.2
上柳野小学校区(n=14)	0.0	35.7	0.0	7.1	14.3	7.1	28.6	42.9	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1	0.0	14.3	14.3	21.4	0.0
下柳小学校区(n=6)	16.7	66.7	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
稲穂小学校区(n=9)	11.1	44.4	0.0	0.0	22.2	22.2	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0
中泉小学校区(n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
榑木小学校区(n=6)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0
東小学校区(n=11)	9.1	27.3	0.0	18.2	9.1	27.3	9.1	27.3	9.1	9.1	0.0	9.1	18.2	0.0	9.1	0.0	18.2	0.0
性別																		
男性(n=8)	5.3	23.7	7.9	5.3	10.5	23.7	10.5	23.9	10.5	5.3	0.0	2.6	2.6	15.8	18.4	0.0	7.9	0.0
女性(n=76)	1.3	38.2	8.6	3.9	6.8	18.4	19.7	26.3	9.2	5.3	2.6	11.8	5.3	9.2	11.8	11.8	14.5	1.3
年齢別																		
10歳代(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=10)	0.0	50.0	0.0	10.0	10.0	50.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	10.0	0.0	0.0
30歳代(n=20)	0.0	15.0	15.0	0.0	0.0	25.0	40.0	20.0	5.0	15.0	0.0	15.0	10.0	10.0	10.0	30.0	5.0	0.0
40歳代(n=20)	5.0	30.0	10.0	5.0	5.0	10.0	35.0	20.0	15.0	0.0	0.0	10.0	5.0	5.0	15.0	0.0	20.0	0.0
50歳代(n=16)	12.5	25.0	0.0	6.3	6.3	37.5	0.0	6.3	6.3	6.3	0.0	6.3	6.3	25.0	25.0	6.3	25.0	0.0
60～84歳(n=14)	0.0	42.9	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	57.1	14.3	0.0	7.1	7.1	7.1	14.3	7.1	7.1	7.1	0.0
85歳以上(n=33)	0.0	42.4	9.1	0.0	12.1	9.1	3.0	30.3	12.1	3.0	3.0	9.1	0.0	12.1	6.1	0.0	12.1	3.0

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

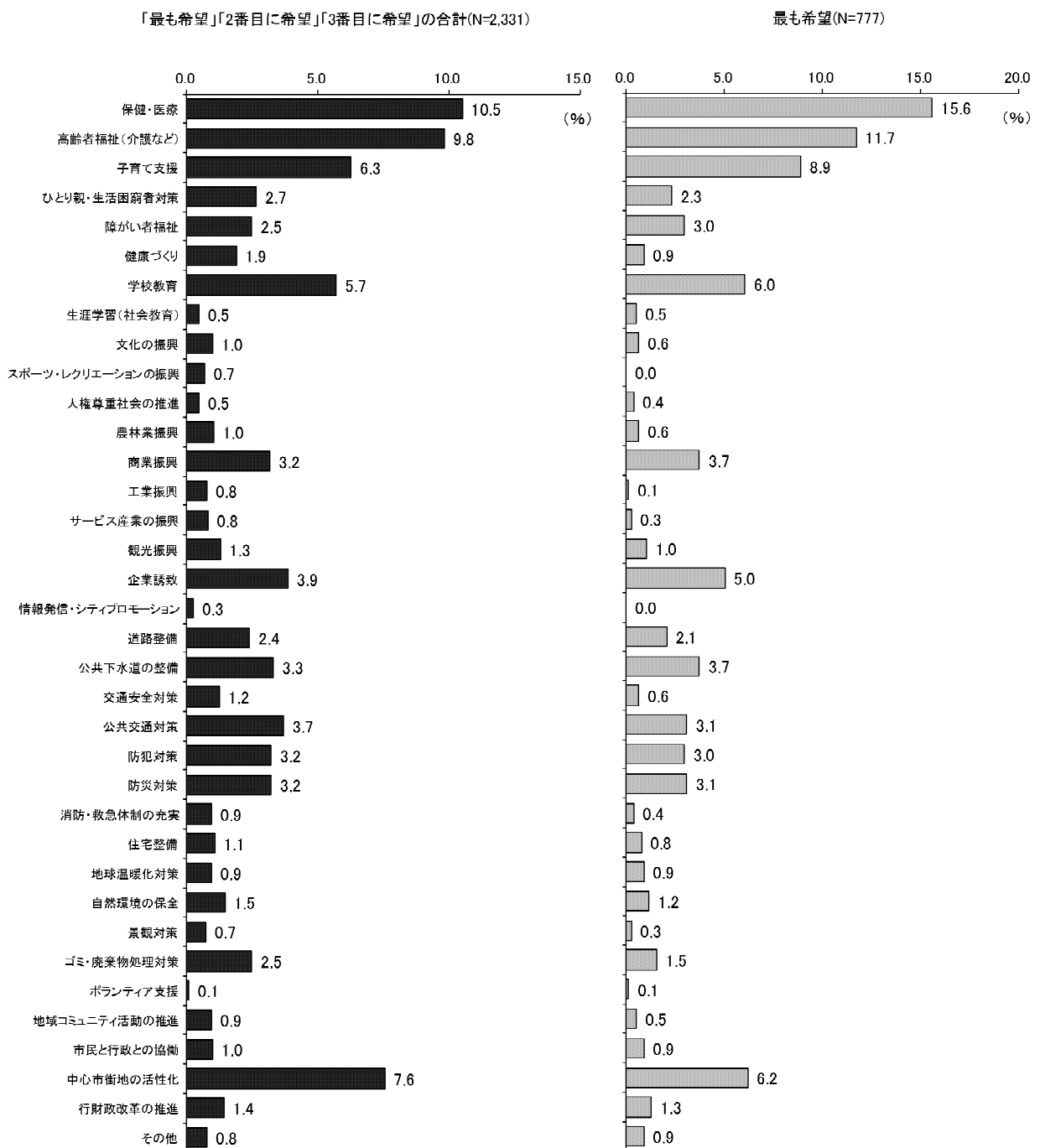
(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

4. 最も力を入れてほしい行政施策

2-問2. あなたは、直方市の行政施策のうち、どのような分野に力を入れて欲しいとお考えですか。最も力を入れてほしいと思われる順番に3つ選んで、下記「記入欄」に番号を記入してください。

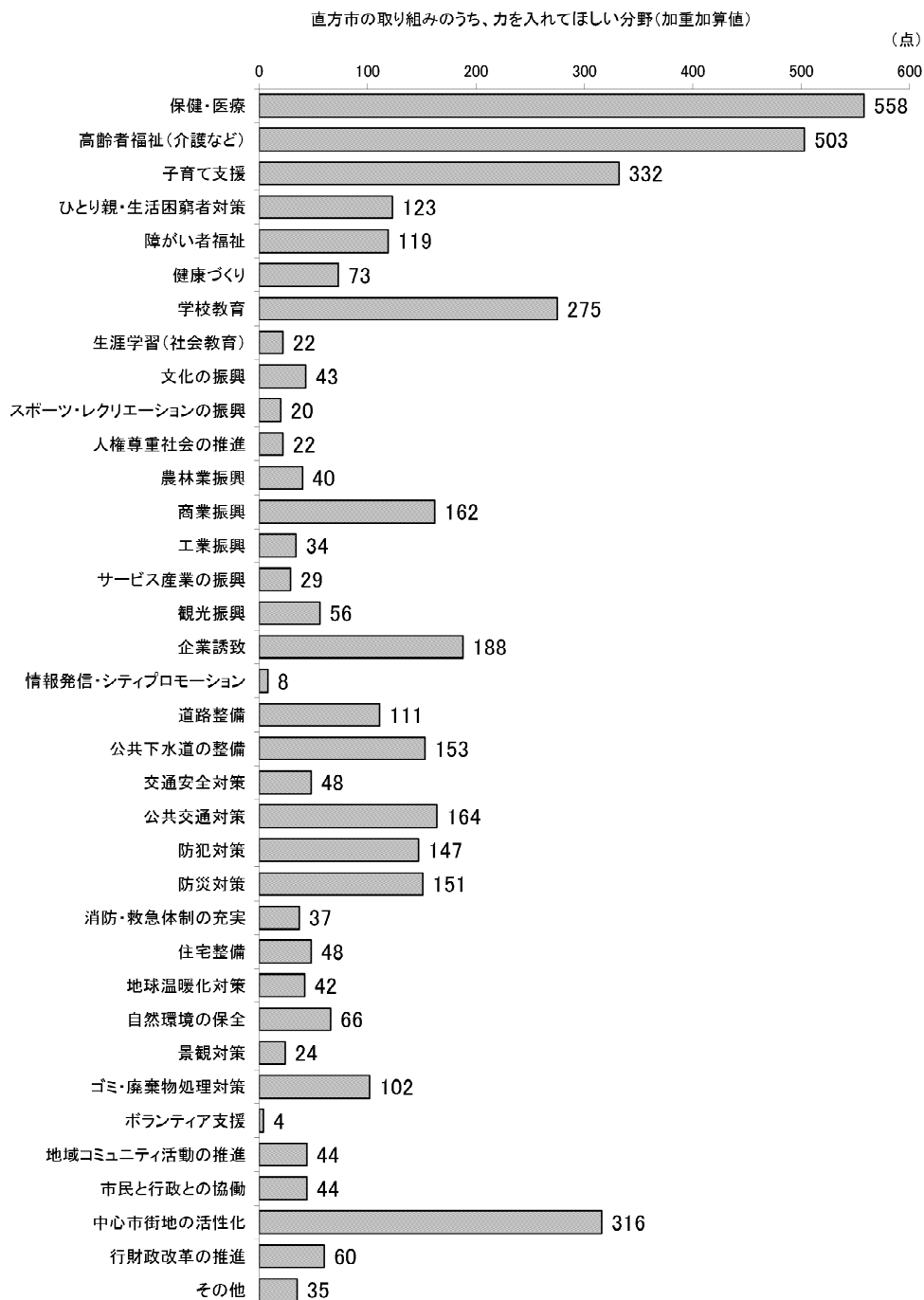
最も力を入れてほしい行政施策については、「最も希望」「2番目に希望」「3番目に希望」を合計した全体では「保健・医療」（10.5%）が最も多く、次いで「高齢者福祉（介護など）」（9.8%）、「中心市街地の活性化」（7.6%）の順になっている。最も希望については「保健・医療」（15.6%）と最も多く、次いで「高齢者福祉（介護など）」（11.7%）、「子育て支援」（8.9%）となった。



最も力を入れてほしい行政施策について、「最も希望」「2番目に希望」「3番目に希望」を以下のように加重加算法で点数化して集計した。

加重加算値の算出方法は、「最も希望」に3点、「2番目に希望」に2点、「3番目に希望」に1点のウェイトを設定し、施策ごとの回答結果を「最も希望」の回答件数×3点＋「2番目に希望」の回答件数×2点＋「3番目に希望」の回答件数×1点として集計する。

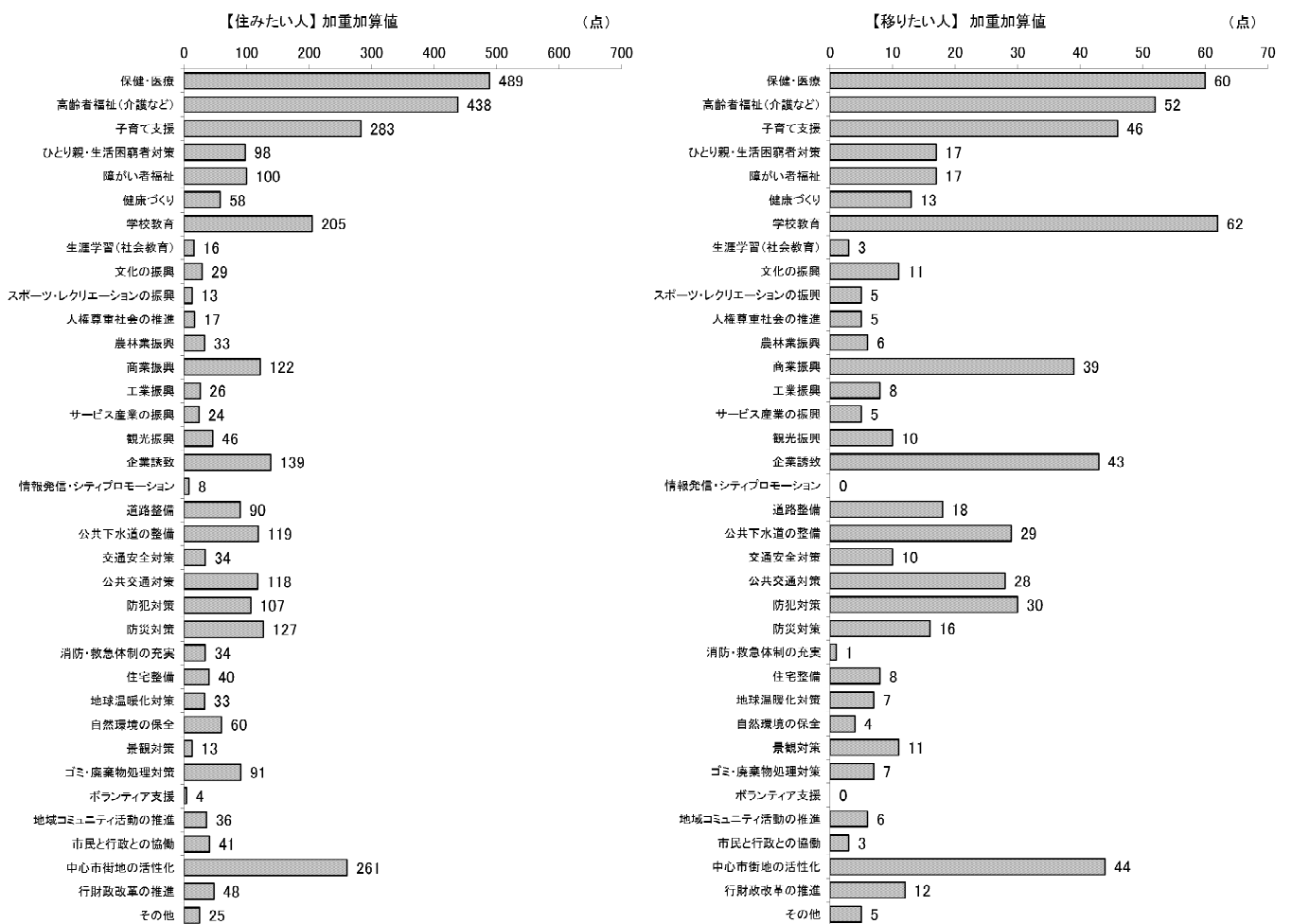
この指標によって、「力を入れてほしい」強弱をみると、「保健・医療」「高齢者福祉（介護など）」の要望が強く、次いで「子育て支援」「中心市街地の活性化」「学校教育」「企業誘致」となっている。



最も力を入れてほしい行政施策について、定住意向別の「最も希望」「2番目に希望」「3番目に希望」を以下のように集計した。

「いつまでも住みたい」、「なるべく住んでいたい」と答えた人を『住みたい人』とし、「できれば移りたい」、「早く移りたい」と答えた人を『移りたい人』として、前頁同様の加重加算値の算出を行う。

「力を入れてほしい」強弱をみると、『住みたい人』、『移りたい人』両者ともに、「保健・医療」「高齢者福祉（介護など）」「学校教育」「子育て支援」「中心市街地の活性化」の要望が上位を占めているが、『移り住みたい人』では「学校教育」が1位と高くなっている。



【7】市の施策評価について

1. 施策の満足度・重要度

以下の表は、直方市のまちづくりの指針である「第5次直方市総合計画」に基づき、現在、市役所が取り組んでいる各施策の体系を示しています。
これらの取組みそれぞれについて、満足度や重要度、不満の理由についてお伺いします。

本市の施策について、38の項目を掲げ、それぞれの「満足度」「重要度」を5段階評価で尋ねた。各施策の満足度と重要度については、次のようなステップで回答結果を整理し、分析した。

①満足度、重要度の加重平均値による分析

満足度と重要度は以下に示す加重平均値を算出する方法で点数化している。

「満足度」については「満足」「どちらかといえば満足」への回答とともに、「どちらかといえば不満」「不満」「わからない」という選択肢もある。そのため、この「満足度」をよりの確に分析するために、加重平均値による指標化を行った。

加重平均値の算出方法は、「満足」に2点、「どちらかといえば満足」に1点、「わからない」に0点、「どちらかといえば不満」に－1点、「不満」に－2点の係数（ウエイト）を設定し、項目ごとの回答結果を（「満足」の回答件数×2点＋「どちらかといえば満足」の回答件数×1点＋「わからない」の回答件数×0点＋「どちらかといえば不満」の回答件数×－1点＋「不満」の回答件数×－2点）÷（回答者総数－無回答件数）として指標としている。

この指標によって、「満足度」の強弱を、より明確に分析することができる。

「重要度」についても、同様な算出方法で加重平均値を算出している。

なお、今回調査では「非常に満足」「非常に重要」（3点）、「非常に不満」「全く重要でない」（－3点）の選択肢がないため、前回調査との単純な比較はできない。

②満足度と重要度の相関図による分析

満足度と重要度それぞれの加重平均値をもとに、縦軸に重要度、横軸に満足度を設定し、38の施策を散布図上に相関図として示した。

38 の行政施策分析項目は次表のとおりであるが、図表等における表記については、「略表記」の表記を用いた。

【平成 31 年（令和元年）度行政施策分析項目】（満足度・重要度各 38 問）

施策の大綱	施策名	施策名(略表記)
市民主体の 地域づくり	1. 市民主体の地域づくりの促進	1. 地域づくり促進
	2. 地域づくりを推進する人材の発掘と育成	2. 人材発掘と育成
市民に開かれた 行政運営	3. 市民参加の推進	3. 市民参加推進
	4. 効率的な行政運営の推進	4. 効率的な行政運営
	5. 窓口サービスにおける市民サービスの向上	5. 窓口サービス向上
	6. 健全な財政運営の推進	6. 健全な財政運営
自然と都市が 調和し快適に 暮らせるまち	7. 秩序ある土地利用の推進	7. 秩序ある土地利用
	8. 中心市街地整備と賑わい創出	8. 都市機能整備
	9. 公園の適正な配置と管理	9. 公園の適正配置
	10. 良好な住環境の確保	10. 良好な住環境
	11. 交通網の充実	11. 交通網充実
	12. 安全・良好な水道水の安定供給	12. 水道水安定供給
	13. 下水道の整備	13. 下水道整備
自然と人が 共生するまち	14. 環境保全の推進	14. 環境保全推進
	15. 循環型社会の推進	15. 循環型社会推進
安全・安心な まち	16. 災害対策の推進	16. 災害対策推進
	17. 消防・救急の充実	17. 消防・救急充実
	18. 交通安全・防犯対策の推進	18. 交通安全・防犯対策
すこやかで 安心して 暮らせるまち	19. 保健事業の充実	19. 保健事業充実
	20. 地域医療体制の維持と確保	20. 地域医療体制維持確保
ささえあう 地域福祉社会	21. 障がい者福祉の充実	21. 障がい者福祉充実
	22. 高齢者福祉の充実	22. 高齢者福祉充実
	23. 社会福祉と公的医療保険制度の充実	23. 社会福祉充実
	24. 各種相談業務の充実	24. 各種相談業務充実
安心して子育て できるまち	25. 地域における子育て環境の充実	25. 子育て環境充実
	26. 子育てにおける公的支援の充実	26. 子育て支援充実
生きる力を育む 教育の充実と 青少年の健全育成	27. 知・徳・体を育む教育の充実	27. 教育の充実
	28. 教育環境の充実・強化	28. 教育環境充実・強化
	29. 学校・家庭・地域が連携した青少年の健全育成	29. 青少年健全育成
生きがいと豊かな 感性を育むまち	30. 生涯学習の推進	30. 生涯学習推進
	31. 文化の振興	31. 文化振興
	32. スポーツ・レクリエーションの振興	32. スポーツ振興

施策の大綱	施策名	施策名(略表記)
人権尊重社会の実現	33. 人権尊重の教育・啓発の推進	33. 人権教育推進
男女共同参画社会の実現	34. 男女共同参画社会の推進	34. 男女共同参画推進
未来へつなぐ活力を創造するまち	35. 時代をリードし成長する工業	35. 工業振興
	36. 市民の暮らしの担い手となる商業とサービス産業	36. 商業振興
	37. 未来に夢を持つ農業	37. 農業振興
	38. 魅力あふれる観光	38. 観光振興

(1) 満足度

満足度が高い項目として、「19. 保健事業充実」「17. 消防・救急充実」「5. 窓口サービス向上」「15. 循環型社会推進」などがあげられる。

満足度が低い項目としては、「36. 商業振興」「8. 都市機能整備」「11. 交通網充実」などがあげられ、特に「36. 商業振興」は前回調査でも最も満足度が低い項目である。

(2) 重要度

重要度が高い項目として、「20. 地域医療体制維持確保」「16. 災害対策推進」「15. 循環型社会推進」「18. 交通安全・防犯対策」「17. 消防・救急充実」などがあげられる。

重要度が低い項目としては、「31. 文化振興」「32. スポーツ振興」「33. 人権教育推進」「34. 男女共同参画推進」などがあげられる。

(3) 満足度と重要度の評価

満足度については、上位5位をみると、「19. 保健事業充実」「17. 消防・救急充実」「5. 窓口サービス向上」「15. 循環型社会推進」の4項目が前回調査と同様に評価が高い結果となり、市民が身近な暮らしの安全・安心を支える施策などについては満足度が高い傾向にある。

一方、下位5位をみると、「36. 商業振興」「8. 都市機能整備」「11. 交通網充実」「13. 下水道整備」の4項目が前回調査と同様に評価が低い結果となった。都市的なインフラに関する不満が解消されていないと考えられる。

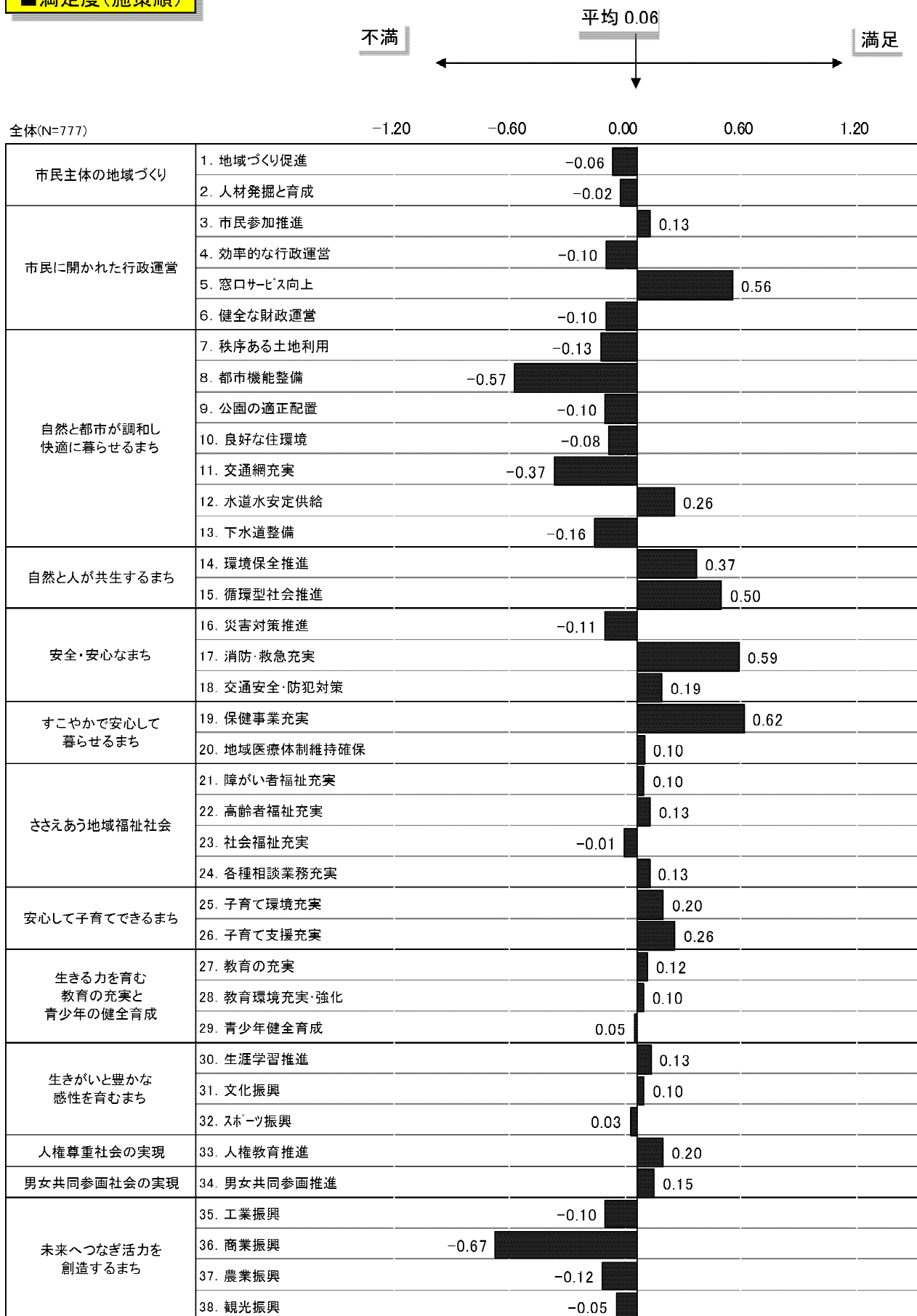
重要度については、「20. 地域医療体制維持確保」が前回調査と同様に最も高く、高齢化の進行に備えた施策としての重要性に対する意識が高いことがわかる。また「16. 災害対策推進」「17. 消防・救急充実」は、昨今の全国的な防災意識の高まりから、引き続き市民の意識も高まっているものととらえられる。

一方、下位5位をみると、「31. 文化振興」や「32. スポーツ振興」「33. 人権教育推進」「34. 男女共同参画推進」などは、意識啓発等が主な施策となっている項目が引き続きあげられており、緊急性よりも、しっかりと浸透させていくべき施策としての市民意識が反映されていると考えられる。

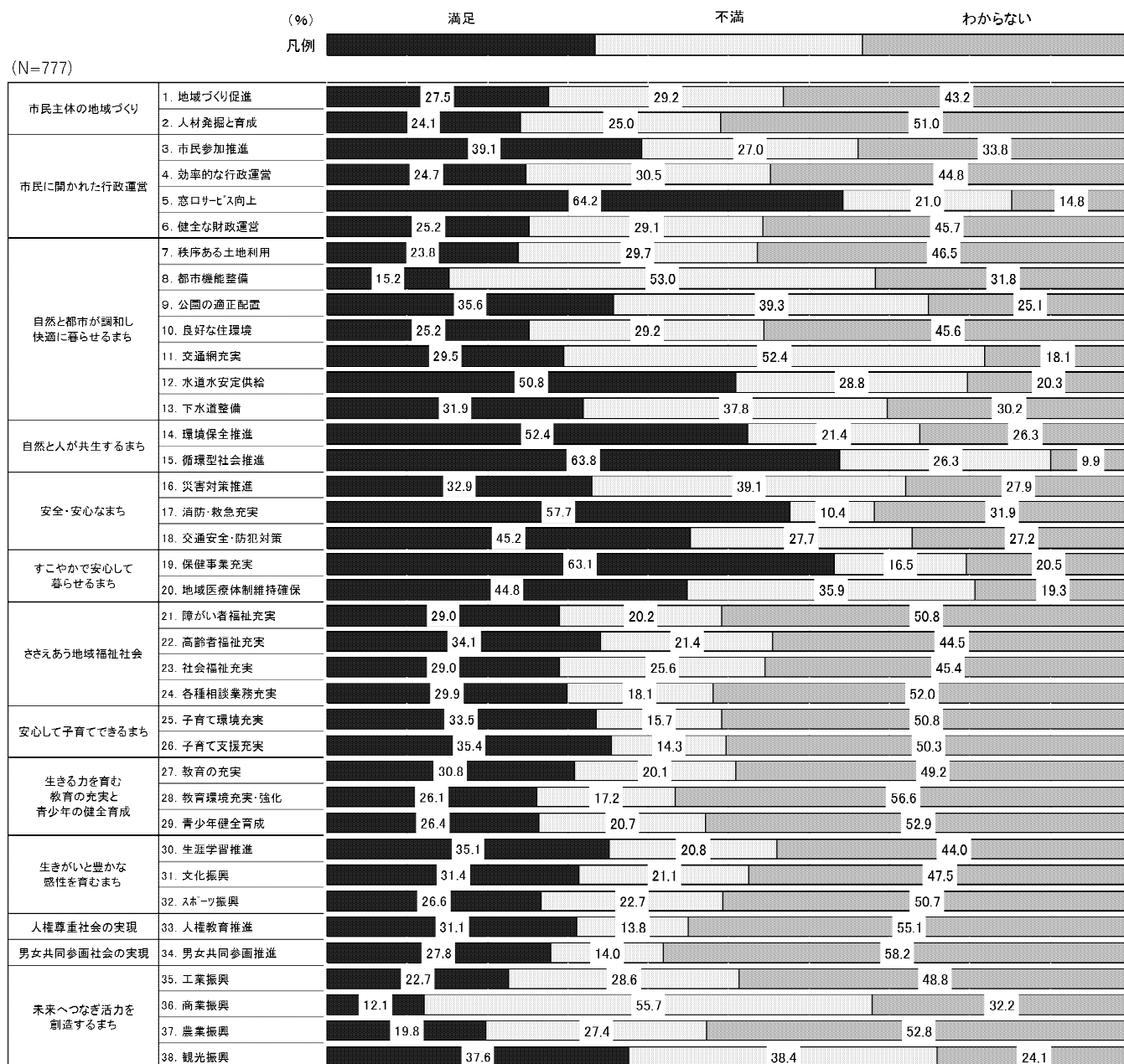
満足度について

単位：加重平均値（以下同様）

■満足度（施策順）



【満足度:回答の構成割合(施策順)】



※満足は、「満足」「どちらかといえば満足」の合計、不満は、「不満」「どちらかといえば不満」の合計。

■満足度(高位順)



※小数第3位以下を含めた高位順

【参考資料／前回調査結果の満足度：加重平均値（平成 29 年9月実施）】



【今回調査結果／満足度(属性別傾向)】

上位5位

下位5位

満足度【属性別指標】(各属性における上位5位まで→グレー、下位5位まで→白黒反転)

	全 体	小学校区別										
		南 小 学 校 区	北 小 学 校 区	西 小 学 校 区	新 入 小 学 校 区	慈 田 小 学 校 区	上 頓 野 小 学 校 区	下 境 小 学 校 区	福 地 小 学 校 区	中 泉 小 学 校 区	植 木 小 学 校 区	東 小 学 校 区
	777	30	78	37	95	156	95	57	32	21	65	65
1 地域づくり促進	-0.06	-0.03	-0.20	-0.03	-0.14	-0.08	-0.11	-0.07	-0.13	0.10	0.15	-0.12
2 人材発掘と育成	-0.02	0.07	-0.09	0.27	-0.06	-0.04	-0.12	-0.02	-0.16	0.14	0.11	-0.09
3 市民参加推進	0.13	0.23	0.14	0.24	0.02	0.15	0.00	-0.05	0.13	0.14	0.38	0.11
4 効率的な行政運営	-0.10	-0.07	-0.18	-0.16	0.00	-0.05	-0.42	-0.14	0.00	0.00	-0.05	-0.11
5 窓口サービス向上	0.56	0.57	0.37	0.46	0.44	0.63	0.27	0.82	0.69	0.57	0.74	0.69
6 健全な財政運営	-0.10	-0.27	-0.21	-0.19	-0.20	-0.11	-0.19	-0.04	-0.08	-0.05	0.14	-0.12
7 秩序ある土地利用	-0.13	-0.23	-0.39	-0.11	-0.07	-0.03	-0.32	-0.18	-0.34	0.06	-0.02	-0.06
8 都市機能整備	-0.57	-0.47	-0.96	-0.76	-0.49	-0.50	-0.79	-0.67	-0.88	-0.24	-0.38	-0.34
9 公園の適正配置	-0.10	-0.03	-0.05	-0.11	-0.07	-0.04	-0.13	-0.26	-0.28	-0.10	-0.26	-0.14
10 良好な住環境	-0.08	0.00	-0.11	-0.27	-0.18	-0.19	-0.01	-0.07	-0.16	0.24	0.03	-0.08
11 交通網充実	-0.37	-0.20	-0.33	-0.43	-0.36	-0.44	-0.41	-0.44	-0.47	-0.57	-0.43	-0.31
12 水道水安定供給	0.26	0.27	0.01	-0.03	0.20	0.31	0.26	0.36	0.53	0.00	0.43	0.23
13 下水道整備	-0.16	-0.10	-0.28	-0.46	-0.23	0.02	-0.34	0.02	-0.59	-0.19	-0.08	-0.08
14 環境保全推進	0.37	0.43	0.33	0.51	0.38	0.31	0.41	0.49	0.09	0.48	0.35	0.40
15 循環型社会推進	0.50	0.70	0.39	0.54	0.37	0.44	0.23	0.65	0.63	0.57	0.71	0.75
16 災害対策推進	-0.11	-0.07	-0.33	0.19	-0.23	-0.21	-0.01	0.18	0.00	-0.38	-0.23	0.03
17 消防・救急充実	0.59	0.63	0.47	0.62	0.51	0.53	0.57	0.81	0.78	0.71	0.62	0.55
18 交通安全・防犯対策	0.19	0.50	0.16	0.11	0.14	0.11	0.09	0.32	0.16	0.62	0.28	0.14
19 保健事業充実	0.62	0.57	0.54	0.59	0.55	0.58	0.54	0.70	0.81	0.62	0.58	0.80
20 地域医療体制維持確保	0.10	0.00	0.01	0.22	0.20	-0.01	-0.09	0.21	0.44	0.14	0.23	0.17
21 障がい者福祉充実	0.10	0.23	-0.01	0.00	0.02	0.04	0.13	0.33	0.25	-0.14	0.14	0.03
22 高齢者福祉充実	0.13	0.27	-0.01	0.22	0.03	0.13	0.09	0.30	0.22	0.10	0.14	0.15
23 社会福祉充実	-0.01	0.17	-0.04	0.05	-0.09	0.02	-0.07	0.07	-0.03	0.05	0.09	-0.15
24 各種相談業務充実	0.13	0.30	0.01	-0.08	0.11	0.11	0.09	0.23	-0.03	0.10	0.22	0.05
25 子育て環境充実	0.20	0.27	0.05	-0.05	0.09	0.19	0.33	0.14	0.38	0.29	0.40	0.11
26 子育て支援充実	0.26	0.37	0.12	0.27	0.17	0.28	0.24	0.32	0.31	0.33	0.38	0.26
27 教育の充実	0.12	-0.07	0.04	-0.05	0.29	0.09	0.05	0.04	0.06	0.48	0.15	0.06
28 教育環境充実・強化	0.10	0.27	0.00	0.05	0.03	0.09	0.07	0.05	0.19	0.43	0.09	0.14
29 青少年健全育成	0.05	0.20	0.00	-0.03	-0.02	-0.05	-0.03	0.09	0.03	0.14	0.25	0.14
30 生涯学習推進	0.13	0.23	0.14	0.14	0.00	0.06	0.13	0.16	0.19	0.33	0.28	0.06
31 文化振興	0.10	0.03	0.14	0.11	0.04	0.02	0.05	0.07	0.25	-0.24	0.20	0.15
32 スポーツ振興	0.03	0.10	-0.11	0.05	0.01	-0.04	-0.02	0.02	-0.19	0.24	0.15	0.06
33 人権教育推進	0.20	0.17	0.14	0.19	0.29	0.13	0.17	0.16	0.16	0.05	0.29	0.16
34 男女共同参画推進	0.15	0.17	0.07	0.16	0.07	0.10	0.13	0.23	0.19	-0.05	0.23	0.20
35 工業振興	-0.10	-0.27	-0.09	-0.19	-0.16	-0.22	-0.18	-0.07	-0.09	0.24	0.08	-0.11
36 商業振興	-0.67	-0.60	-0.93	-0.84	-0.67	-0.74	-0.83	-0.49	-0.53	-0.57	-0.60	-0.52
37 農業振興	-0.12	-0.03	-0.16	-0.03	-0.24	-0.14	-0.29	-0.04	-0.16	0.00	-0.03	-0.12
38 観光振興	-0.05	0.03	0.05	-0.32	-0.03	-0.17	-0.12	0.07	0.22	-0.14	0.12	-0.18

上位5位

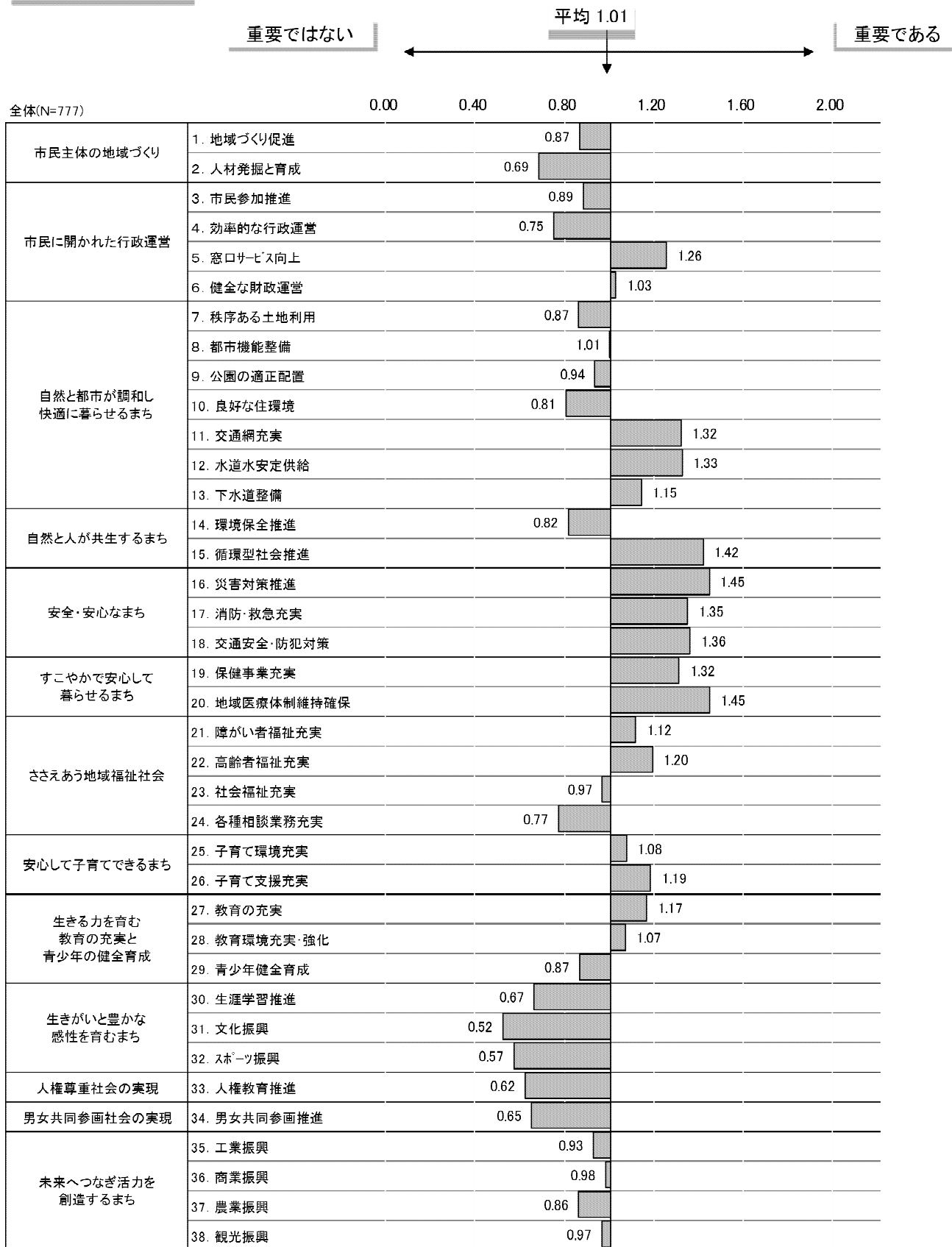
下位5位

満足度【属性別指標】(各属性における上位5位まで→グレー、下位5位まで→白黒反転)

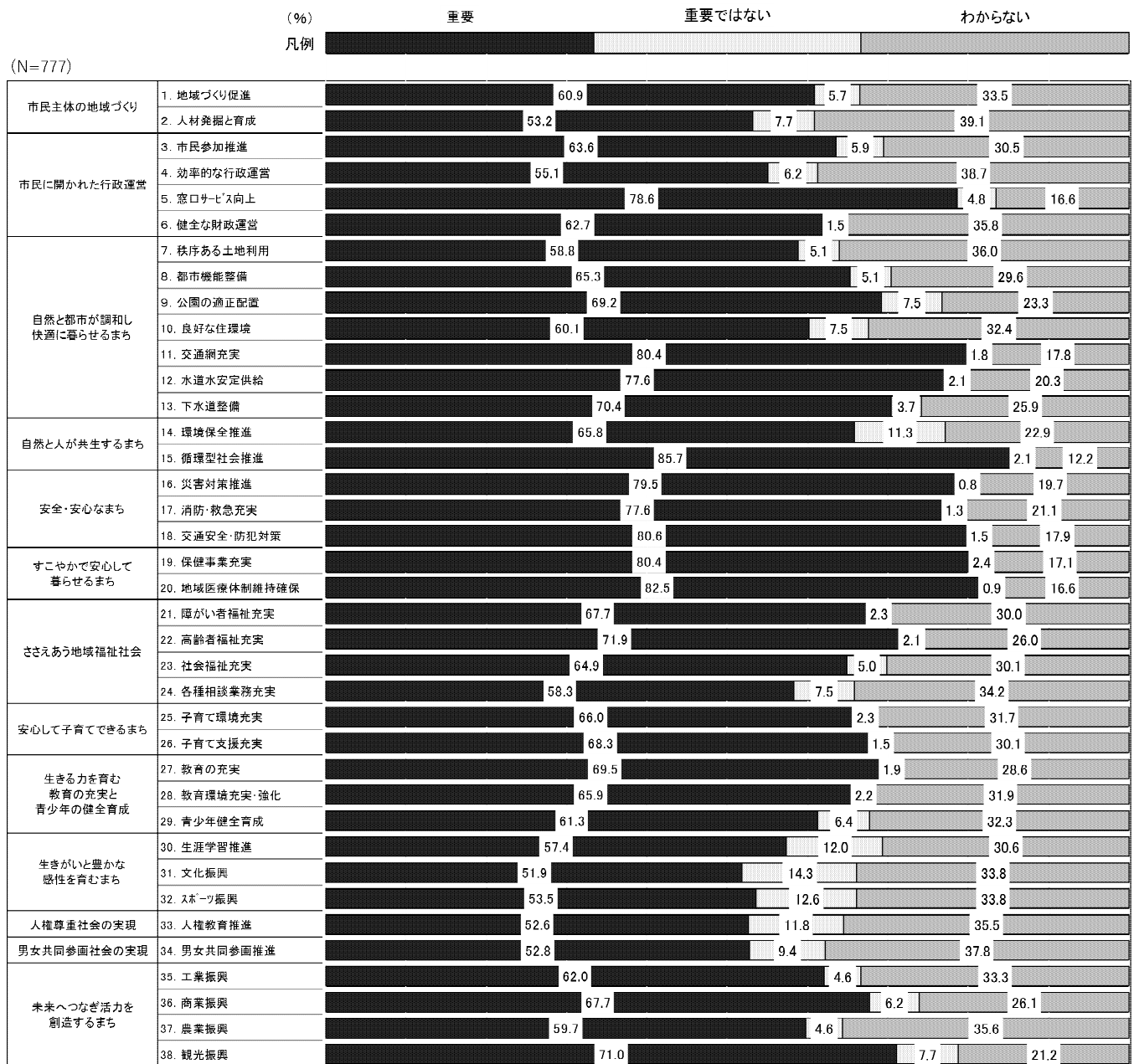
	性別		年齢別						
	男性	女性	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65歳以上
	301	454	9	39	90	107	109	74	326
1 地域づくり促進	-0.13	-0.03	0.56	0.00	-0.06	-0.06	-0.11	-0.12	-0.06
2 人材発掘と育成	-0.11	0.03	1.11	0.08	0.04	-0.07	0.00	-0.15	-0.06
3 市民参加推進	-0.02	0.22	0.56	0.31	0.11	0.06	0.06	0.09	0.12
4 効率的な行政運営	-0.21	-0.05	0.67	0.23	-0.17	-0.16	-0.17	-0.16	-0.11
5 窓口サービス向上	0.53	0.57	1.33	0.31	0.61	0.47	0.37	0.35	0.67
6 健全な財政運営	-0.14	-0.09	0.56	-0.06	-0.22	-0.13	-0.22	-0.09	-0.07
7 秩序ある土地利用	-0.19	-0.11	0.33	0.13	-0.11	-0.16	-0.16	-0.30	-0.14
8 都市機能整備	-0.67	-0.51	0.11	-0.41	-0.62	-0.54	-0.74	-0.68	-0.54
9 公園の適正配置	-0.15	-0.09	0.22	0.21	-0.06	-0.25	-0.40	-0.15	-0.02
10 良好な住環境	-0.06	-0.11	0.78	0.00	-0.10	-0.20	-0.22	-0.12	-0.05
11 交通網充実	-0.34	-0.40	0.22	-0.44	-0.14	-0.45	-0.70	-0.32	-0.33
12 水道水安定供給	0.35	0.19	0.78	0.77	0.02	0.18	0.06	-0.03	0.39
13 下水道整備	-0.17	-0.15	0.44	0.41	-0.19	-0.30	-0.33	-0.12	-0.14
14 環境保全推進	0.38	0.36	0.67	0.59	0.50	0.40	0.30	0.24	0.34
15 循環型社会推進	0.49	0.51	1.00	0.54	0.30	0.35	0.40	0.53	0.60
16 災害対策推進	-0.02	-0.17	1.00	0.21	-0.16	-0.21	-0.23	-0.19	-0.09
17 消防・救急充実	0.63	0.56	0.89	0.64	0.54	0.52	0.61	0.51	0.61
18 交通安全・防犯対策	0.20	0.17	0.78	-0.05	0.11	-0.09	0.10	0.11	0.35
19 保健事業充実	0.59	0.63	0.56	0.41	0.62	0.56	0.24	0.59	0.78
20 地域医療体制維持確保	0.19	0.03	0.78	0.21	0.02	-0.06	-0.21	-0.05	0.28
21 障がい福祉充実	0.13	0.08	0.56	0.10	0.13	0.06	-0.07	0.11	0.13
22 高齢者福祉充実	0.12	0.14	0.22	0.26	0.12	-0.01	0.06	-0.04	0.21
23 社会福祉充実	-0.03	0.00	0.33	0.00	-0.06	-0.11	-0.17	-0.01	0.08
24 各種相談業務充実	0.10	0.13	0.78	0.13	0.10	0.05	0.06	0.01	0.16
25 子育て環境充実	0.16	0.22	0.11	0.21	0.21	0.16	0.02	0.07	0.29
26 子育て支援充実	0.28	0.24	0.56	0.28	0.33	0.25	0.06	0.07	0.33
27 教育の充実	0.13	0.10	0.22	0.18	0.11	0.10	-0.04	-0.04	0.18
28 教育環境充実・強化	0.12	0.06	0.67	0.06	0.11	0.05	-0.05	0.11	0.13
29 青少年健全育成	0.06	0.04	1.00	0.21	0.00	0.06	-0.07	-0.15	0.10
30 生涯学習推進	0.10	0.15	0.56	0.13	0.20	0.02	0.03	-0.01	0.20
31 文化振興	0.07	0.11	0.22	0.10	-0.07	-0.03	0.16	-0.11	0.19
32 スポーツ振興	0.03	0.03	0.56	0.10	-0.02	0.00	-0.03	-0.11	0.07
33 人権教育推進	0.19	0.19	1.22	0.05	0.06	0.22	0.18	-0.04	0.25
34 男女共同参画推進	0.19	0.12	0.44	0.06	0.00	0.21	0.11	0.11	0.18
35 工業振興	-0.11	-0.12	0.00	-0.15	-0.03	-0.14	-0.29	-0.27	-0.04
36 商業振興	-0.70	-0.67	-0.33	-0.67	-0.72	-0.70	-0.73	-0.82	-0.62
37 農業振興	-0.15	-0.12	0.44	-0.13	-0.13	-0.06	-0.15	-0.34	-0.11
38 観光振興	-0.17	0.03	0.44	0.05	0.14	0.05	-0.01	-0.16	-0.15

重要度について

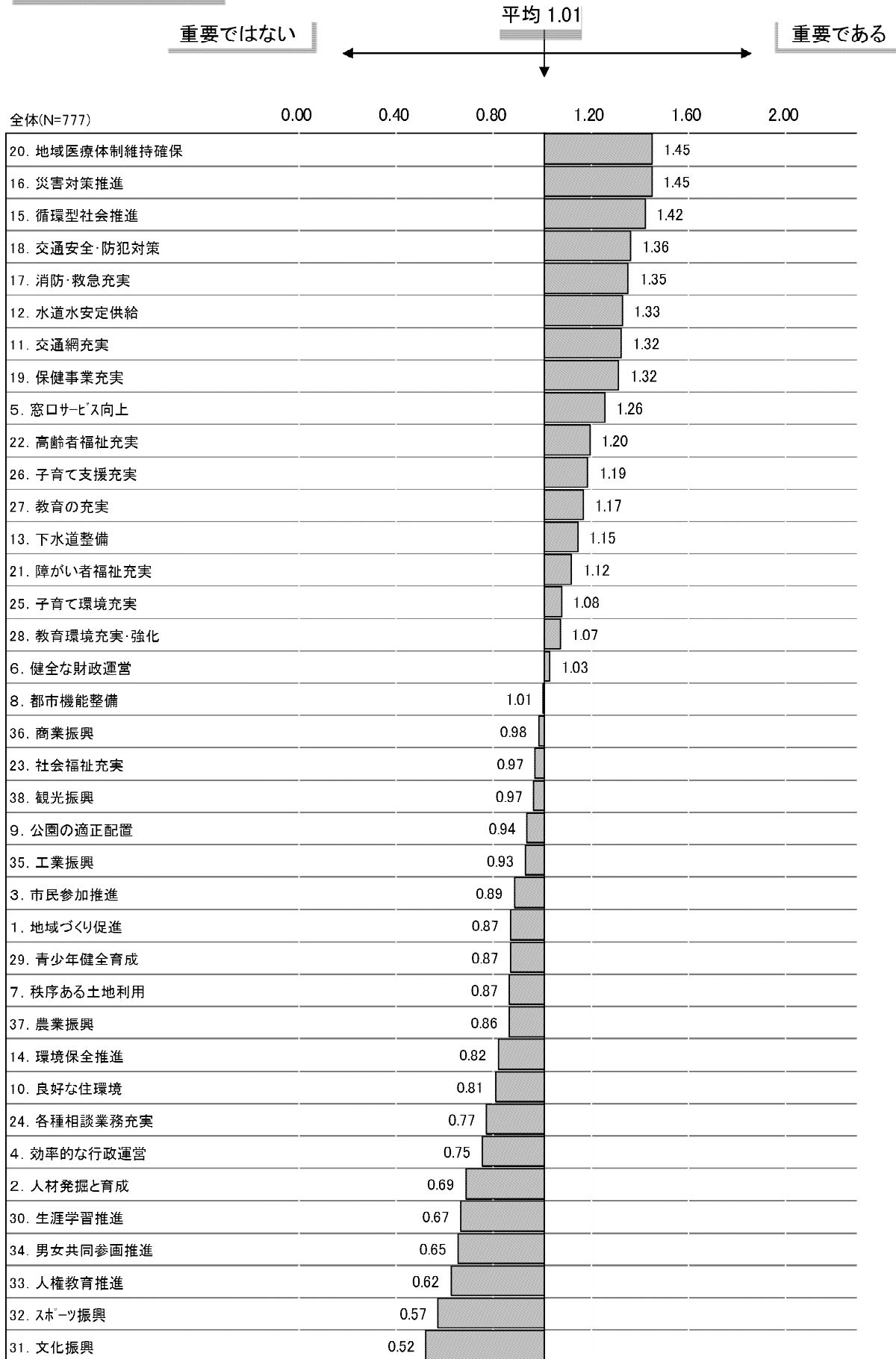
■重要度（施策順）



【重要度:回答の構成割合(施策順)】

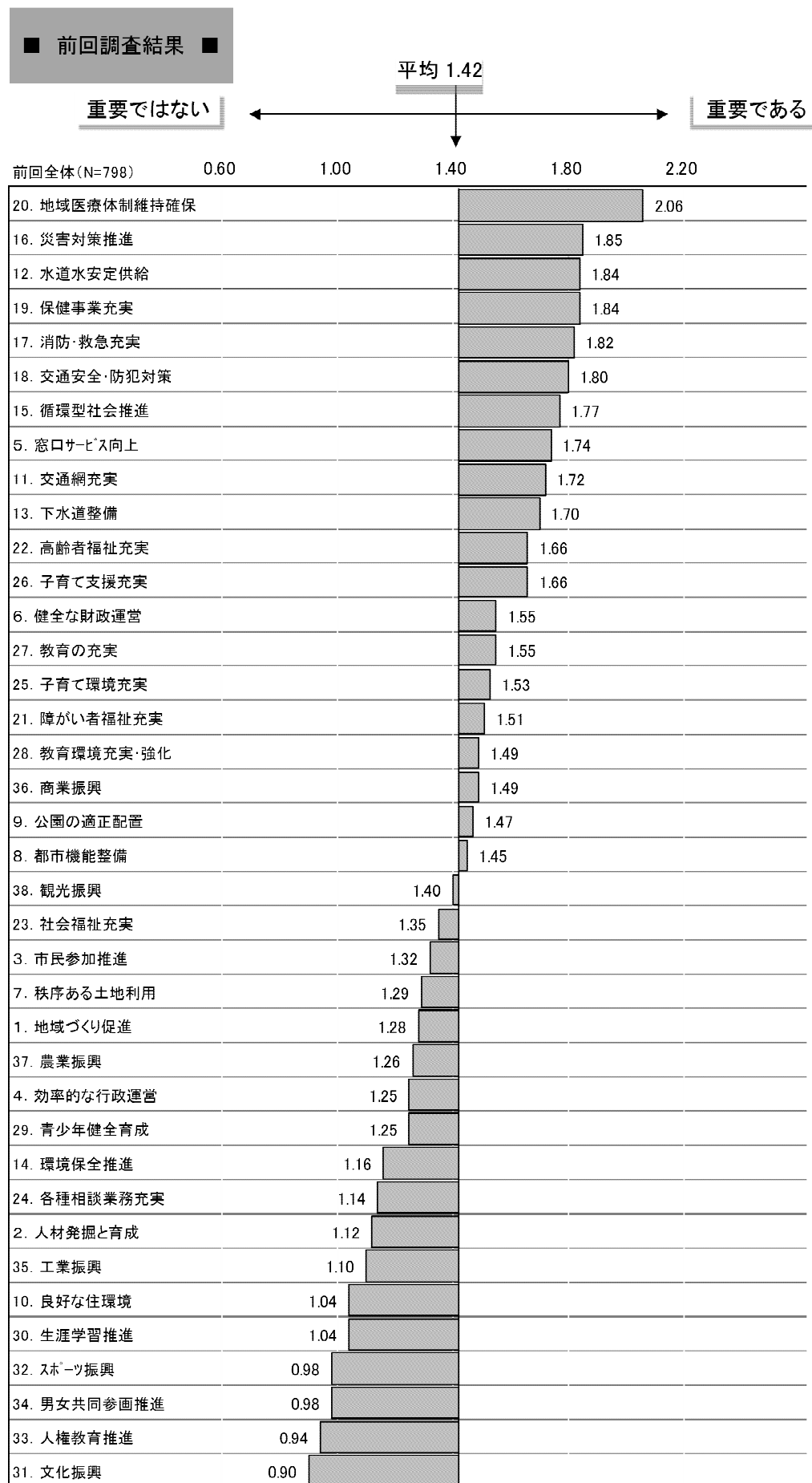


■重要度(高位順)



※少数第3位以下を含む高位順

【参考資料／前回調査結果の重要度(平成 29 年9月実施)】



【今回調査結果／重要度(属性別傾向)】

上位5位

下位5位

重要度【属性別指標】(各属性における上位5位まで→グレー、下位5位まで→白黒反転)

	全 体	小学校区別										
		南 小 学 校 区	北 小 学 校 区	西 小 学 校 区	新 入 小 学 校 区	恵 田 小 学 校 区	上 野 野 小 学 校 区	下 境 小 学 校 区	福 地 小 学 校 区	中 泉 小 学 校 区	植 木 小 学 校 区	東 小 学 校 区
	777	30	76	37	95	156	95	57	32	21	65	65
1 地域づくり促進	0.87	0.83	1.00	0.84	0.91	0.73	1.00	0.96	0.88	0.81	0.83	0.95
2 人材発掘と育成	0.89	0.63	0.62	0.76	0.83	0.58	0.76	0.68	0.72	0.81	0.68	0.76
3 市民参加推進	0.89	0.77	0.89	0.86	0.85	0.80	1.02	0.96	0.97	1.10	0.75	1.03
4 効率的な行政運営	0.75	0.73	0.75	0.73	0.81	0.81	0.68	0.74	1.00	0.62	0.69	0.77
5 窓口サービス向上	1.26	1.17	1.22	1.22	1.27	1.34	1.14	1.37	1.16	0.95	1.34	1.60
6 健全な財政運営	1.03	1.20	1.18	0.92	1.12	0.97	1.17	1.07	1.13	0.78	0.82	1.11
7 秩序ある土地利用	0.87	1.00	1.13	0.65	0.94	0.79	0.96	0.91	0.94	0.96	0.58	0.97
8 都市機能整備	1.01	1.03	1.38	0.92	1.04	0.97	0.92	1.14	0.97	0.62	0.92	1.05
9 公園の適正配置	0.84	0.83	1.21	0.51	0.86	0.88	0.85	1.14	0.69	0.88	0.88	1.22
10 良好な住環境	0.81	0.80	0.89	0.73	0.76	0.82	0.84	0.86	0.94	0.81	0.80	0.76
11 交通網充実	1.32	1.20	1.39	1.19	1.29	1.34	1.35	1.49	1.19	1.14	1.34	1.42
12 水道水安定供給	1.33	1.10	1.47	1.19	1.23	1.44	1.28	1.44	1.41	1.24	1.31	1.32
13 下水道整備	1.15	1.13	1.24	1.03	1.07	1.28	1.21	1.00	0.88	0.90	1.20	1.26
14 環境保全推進	0.82	0.80	0.92	0.46	0.84	0.90	0.55	0.96	0.75	0.90	0.80	1.03
15 循環型社会推進	1.42	1.17	1.50	1.22	1.34	1.50	1.46	1.60	1.38	1.29	1.35	1.54
16 災害対策推進	1.45	1.40	1.66	1.30	1.43	1.57	1.31	1.54	1.53	1.29	1.45	1.54
17 消防・救急充実	1.35	1.13	1.41	1.11	1.43	1.37	1.31	1.60	1.34	1.19	1.31	1.46
18 交通安全・防犯対策	1.36	1.03	1.42	1.14	1.42	1.45	1.34	1.49	1.41	1.29	1.28	1.60
19 保健事業充実	1.32	1.17	1.24	1.22	1.24	1.40	1.41	1.38	1.28	1.38	1.23	1.48
20 地域医療体制維持確保	1.45	1.37	1.51	1.24	1.49	1.53	1.43	1.54	1.44	1.33	1.38	1.62
21 障がい福祉充実	1.12	0.97	1.12	0.81	1.25	1.14	1.07	1.19	1.22	0.90	1.11	1.35
22 高齢者福祉充実	1.20	1.17	1.11	1.00	1.15	1.29	1.22	1.40	1.22	0.62	1.18	1.23
23 社会福祉充実	0.97	0.77	0.97	0.76	1.04	0.92	0.89	1.26	0.97	0.71	1.11	1.06
24 各種相談業務充実	0.77	0.87	0.76	0.78	0.85	0.74	0.72	0.75	0.50	0.67	0.88	0.91
25 子育て環境充実	1.08	1.07	1.09	1.03	0.87	1.04	1.21	1.21	1.03	0.86	1.22	1.34
26 子育て支援充実	1.19	1.00	1.20	1.03	1.09	1.14	1.29	1.44	1.28	0.95	1.29	1.40
27 教育の充実	1.17	1.10	1.22	1.14	1.19	1.24	1.26	1.16	1.13	0.90	1.20	1.28
28 教育環境充実・強化	1.07	0.90	1.16	1.03	1.07	1.08	1.18	1.12	1.00	0.81	1.09	1.20
29 青少年健全育成	0.87	0.73	0.74	0.51	0.89	0.92	0.86	0.91	0.78	1.00	1.02	1.00
30 生涯学習推進	0.67	0.63	0.57	0.41	0.62	0.69	0.62	0.86	0.56	0.62	0.82	0.60
31 文化振興	0.52	0.70	0.39	0.32	0.67	0.56	0.42	0.63	0.41	0.86	0.40	0.42
32 スポーツ振興	0.57	0.73	0.47	0.46	0.66	0.56	0.58	0.51	0.72	0.57	0.89	0.46
33 人権教育推進	0.62	0.43	0.42	0.49	0.72	0.67	0.73	0.56	0.50	0.57	0.63	0.74
34 男女共同参画推進	0.65	0.57	0.75	0.38	0.64	0.69	0.71	0.61	0.59	0.71	0.63	0.58
35 工業振興	0.93	1.07	0.97	0.84	0.91	0.85	1.09	0.78	1.06	0.76	0.91	1.06
36 商業振興	0.98	1.20	1.13	0.86	1.02	0.95	0.89	1.00	0.72	0.90	0.96	1.17
37 農業振興	0.86	0.80	0.88	0.73	0.94	0.82	0.89	0.83	0.88	0.88	0.77	1.00
38 観光振興	0.97	1.17	1.12	0.73	0.89	1.13	0.97	0.75	0.84	0.88	0.97	1.20

上位5位

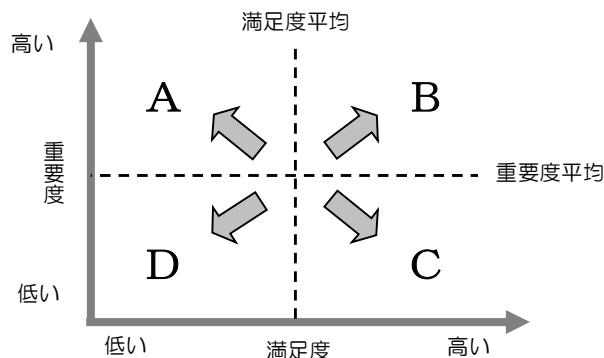
下位5位

重要度【属性別指標】(各属性における上位5位まで→グレー、下位5位まで→白黒反転)

	性別		年齢別						
	男性	女性	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65歳以上
	301	454	9	39	90	107	109	74	326
1 地域づくり促進	0.89	0.87	1.00	0.87	0.66	0.82	0.94	0.97	0.90
2 人材発掘と育成	0.69	0.69	0.56	0.51	0.56	0.66	0.74	0.82	0.70
3 市民参加推進	0.93	0.87	1.00	0.85	0.70	0.82	1.04	0.86	0.89
4 効率的な行政運営	0.86	0.69	0.78	0.80	0.68	0.78	0.81	0.78	0.72
5 窓口サービス向上	1.23	1.29	1.33	1.33	1.40	1.29	1.28	1.34	1.18
6 健全な財政運営	1.13	0.98	1.00	0.95	0.94	1.07	1.28	1.12	0.96
7 秩序ある土地利用	0.91	0.84	1.11	0.82	0.77	0.98	0.97	0.99	0.80
8 都市機能整備	1.05	0.98	0.78	0.97	0.90	1.09	1.06	1.04	0.99
9 公園の適正配置	0.92	0.96	1.11	0.85	1.27	1.08	0.96	0.86	0.81
10 良好な住環境	0.81	0.82	0.89	0.62	1.06	0.82	0.96	0.88	0.70
11 交通網充実	1.36	1.31	1.78	1.51	1.21	1.42	1.48	1.41	1.22
12 水道水安定供給	1.40	1.29	1.11	1.28	1.40	1.31	1.45	1.28	1.30
13 下水道整備	1.28	1.06	1.00	0.97	1.22	1.20	1.28	1.18	1.08
14 環境保全推進	0.88	0.78	0.44	0.82	0.78	0.76	0.83	0.89	0.84
15 循環型社会推進	1.43	1.43	1.33	1.28	1.53	1.36	1.46	1.54	1.40
16 災害対策推進	1.52	1.42	1.56	1.51	1.53	1.53	1.59	1.43	1.36
17 消防・救急充実	1.37	1.35	1.44	1.33	1.30	1.43	1.38	1.43	1.32
18 交通安全・防犯対策	1.43	1.34	1.67	1.49	1.49	1.49	1.40	1.35	1.27
19 保健事業充実	1.28	1.35	1.22	1.51	1.38	1.40	1.24	1.42	1.27
20 地域医療体制維持確保	1.48	1.45	1.33	1.38	1.63	1.50	1.54	1.49	1.38
21 障がい者福祉充実	1.16	1.11	1.67	1.31	1.12	1.22	1.27	1.14	1.02
22 高齢者福祉充実	1.21	1.19	1.00	0.85	1.04	1.20	1.33	1.34	1.21
23 社会福祉充実	1.05	0.93	0.56	0.87	0.86	0.99	1.02	1.03	1.00
24 各種相談業務充実	0.76	0.78	0.67	0.79	0.69	0.82	0.82	0.92	0.71
25 子育て環境充実	1.13	1.06	1.11	1.33	1.31	1.30	1.00	1.00	0.98
26 子育て支援充実	1.17	1.20	1.11	1.41	1.58	1.46	1.07	1.20	1.02
27 教育の充実	1.14	1.21	1.22	1.33	1.33	1.32	1.28	1.09	1.07
28 教育環境充実・強化	1.06	1.10	1.33	1.28	1.21	1.27	1.20	1.01	0.94
29 青少年健全育成	0.89	0.86	1.44	0.82	0.89	0.81	0.85	0.80	0.87
30 生涯学習推進	0.60	0.71	0.89	0.46	0.40	0.64	0.63	0.66	0.77
31 文化振興	0.52	0.52	0.67	0.41	0.19	0.38	0.54	0.65	0.62
32 スポーツ振興	0.63	0.53	1.00	0.31	0.52	0.55	0.66	0.53	0.59
33 人権教育推進	0.63	0.62	1.22	0.77	0.48	0.61	0.75	0.58	0.60
34 男女共同参画推進	0.64	0.66	1.00	0.77	0.67	0.67	0.64	0.66	0.62
35 工業振興	1.10	0.82	0.44	0.97	0.80	0.90	1.11	1.04	0.90
36 商業振興	1.08	0.93	0.89	0.95	0.96	0.97	0.92	0.99	1.03
37 農業振興	0.84	0.83	0.89	1.00	0.78	0.80	0.87	0.81	0.88
38 観光振興	1.00	0.97	0.67	1.18	1.02	1.16	0.93	1.04	0.91

2. 満足度と重要度の相関図による分析

満足度と重要度それぞれの加重平均値をもとに、縦軸に重要度、横軸に満足度を設定し、38の施策を散布図上に示したものが相関図である。



(1) 全体傾向

縦軸に重要度、横軸に満足度をとった相関図では、満足度と重要度をマトリクス上に示すことで、各施策の位置付けを整理する。満足度と重要度の各々の平均を示す点から左上（A）、右上（B）、右下（C）、左下（D）の4方向に進むに従い、以下のような傾向を示している。

A. 重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）

●今後のまちづくりにおける重要度が高いが、満足度が相対的に低く、施策の重点化や抜本的な見直しなども含め満足度を高める必要のある領域。

→「6. 健全な財政運営」「11. 交通網充実」「13. 下水道整備」「16. 災害対策推進」が該当する。

B. 重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）

●今後のまちづくりにおける重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくとともに、費用対効果を高めるための改善が必要な領域。

→「5. 窓口サービス向上」「12. 水道水安定供給」「15. 循環型社会推進」「17. 消防・救急充実」「18. 交通安全・防犯対策」などが該当する。

C. 重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）

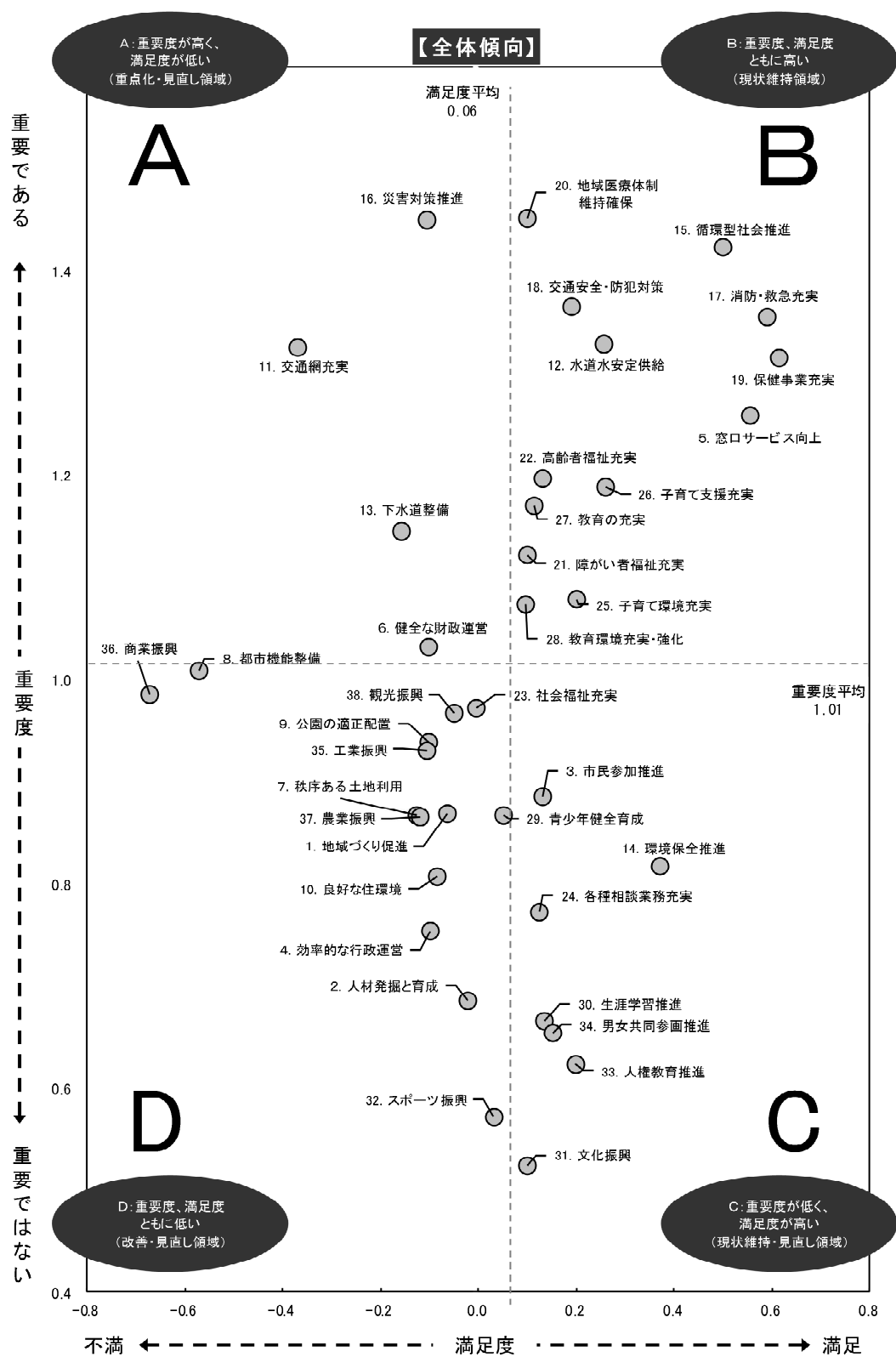
●今後のまちづくりにおける重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは施策のあり方を含めて見直すべき必要のある領域。

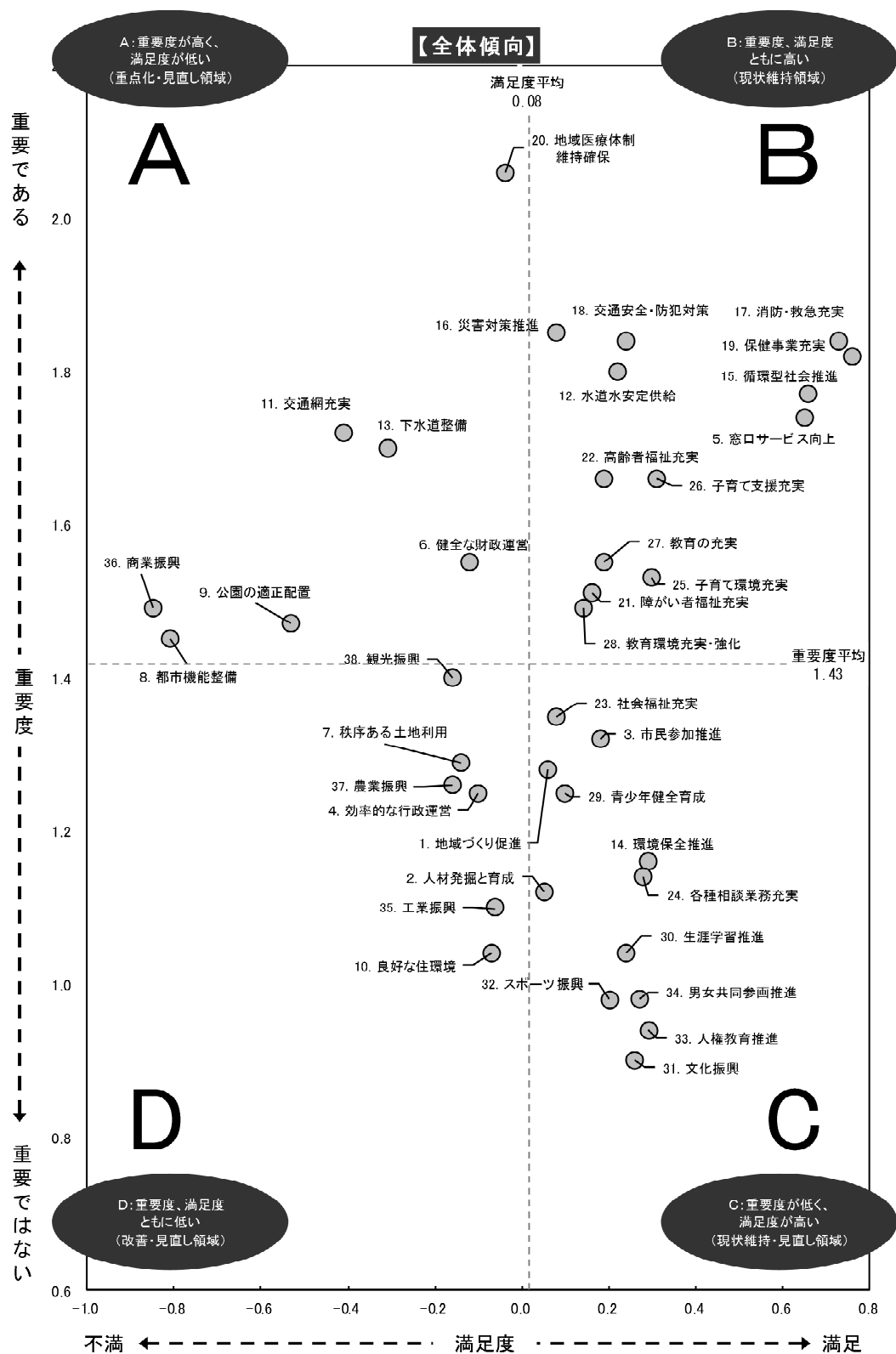
→「3. 市民参加推進」「14. 環境保全推進」「24. 各種相談業務充実」「30. 生涯学習推進」「31. 文化振興」などが該当する。

D. 重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）

●今後のまちづくりにおける重要度も満足度も低く、施策の目的やニーズを再確認するとともに、施策のあり方や進め方そのものをあらためて見直す必要のある領域。

→「1. 地域づくり促進」「2. 人材発掘と育成」「4. 効率的な行政運営」「7. 秩序ある土地利用」「8. 都市機能整備」などが該当する。





（２）小学校区別傾向

「A象限（重点化・見直し領域）」に入っている項目についてみると、「16. 災害対策」については、北小学校区、感田小学校区で比較的重点化傾向が高くなっている。「11. 交通網充実」については、下境小学校区で比較的重点化傾向が高くなっている。「13. 下水道整備」については、北小学校区、上頓野小学校区で比較的高くなっている。「6. 健全な財政」については、南小学校区、新入小学校区、上頓野小学校区で比較的重点化傾向が高くなっている。

その他、「A象限（重点化・見直し領域）」にある項目のうち、小学校区の特徴の高い傾向として、北小学校区で「8. 都市機能整備」、中泉小学校区で「12. 水道水安定供給」に対する重点化の意向が高い点があげられる。

（３）性別傾向

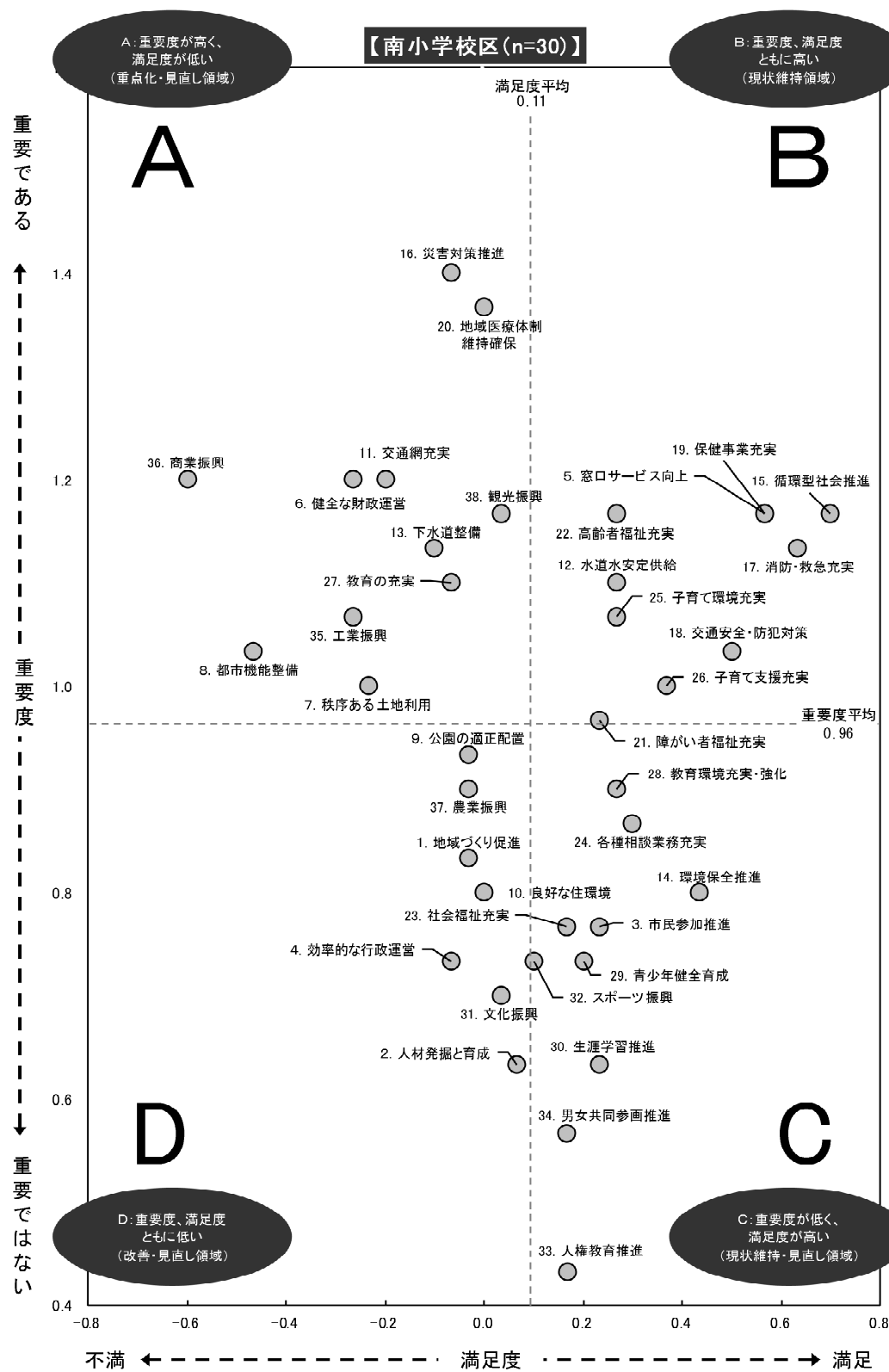
「A象限（重点化・見直し領域）」についてみると、男女ともに全体傾向と同様に「11. 交通網充実」「13. 下水道整備」「16. 災害対策推進」などが含まれるが、男性の場合、女性に比べ「13. 下水道整備」の重要度が増している。また、男性に比べ女性は、A象限に含まれる項目が少ない。

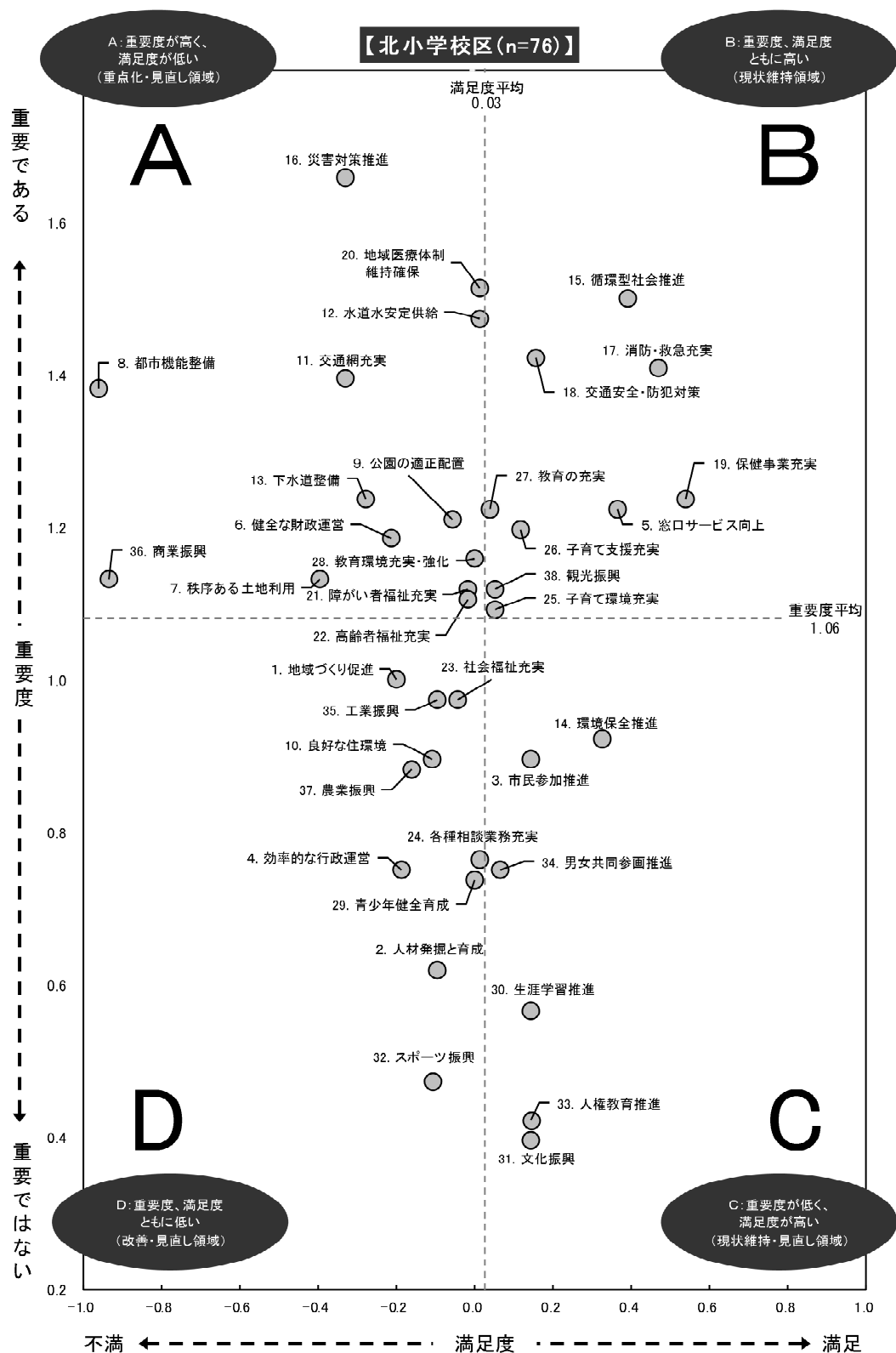
（４）年齢別傾向

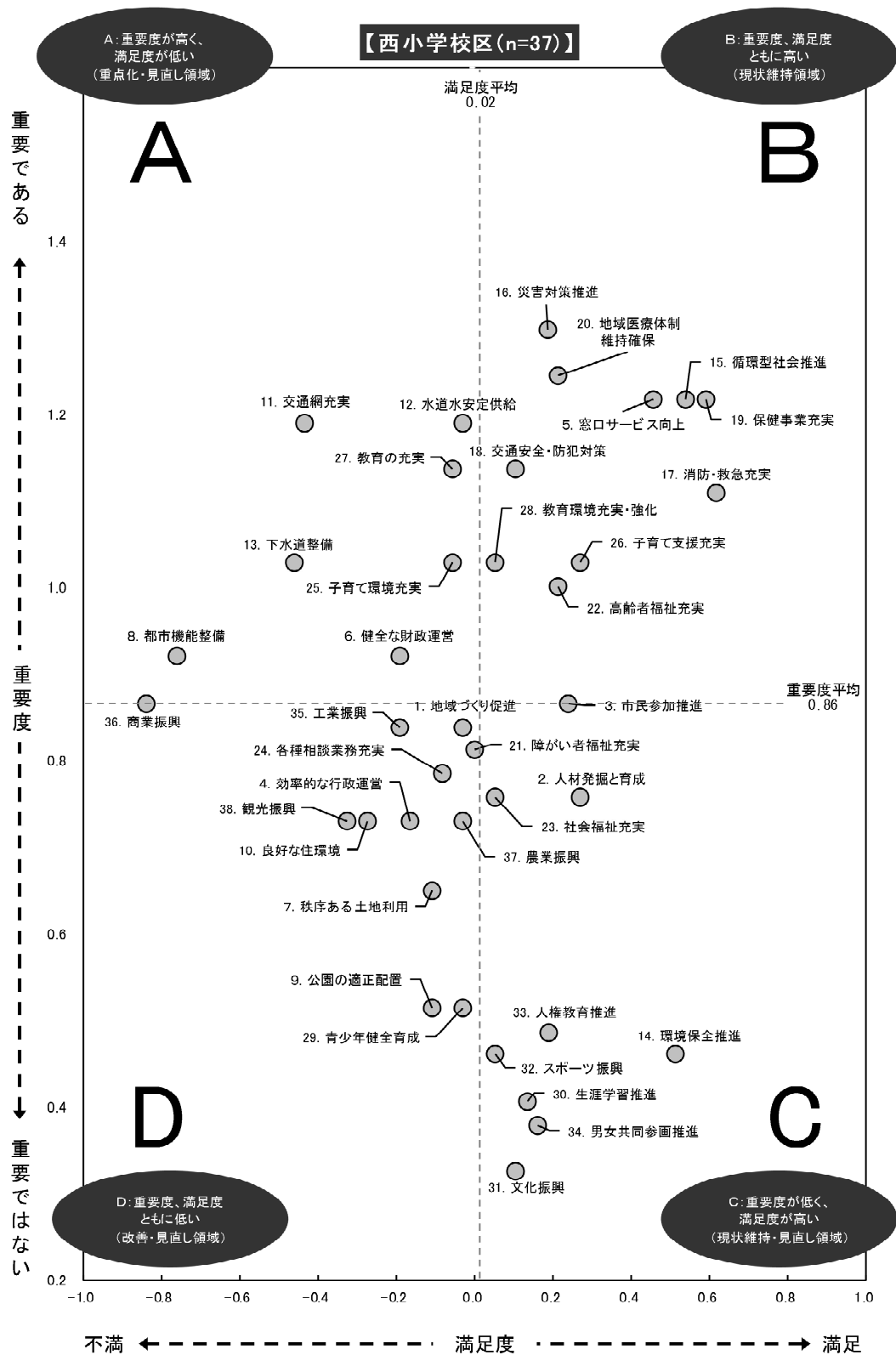
「A象限（重点化・見直し領域）」についてみると、全体傾向で「A象限（重点化・見直し領域）」に入っている項目のうち、「11. 交通網充実」については、30歳代以外で重点化傾向が高くなっている。また、「6. 健全な財政」については、50歳代が比較的重点化傾向が高くなっている。

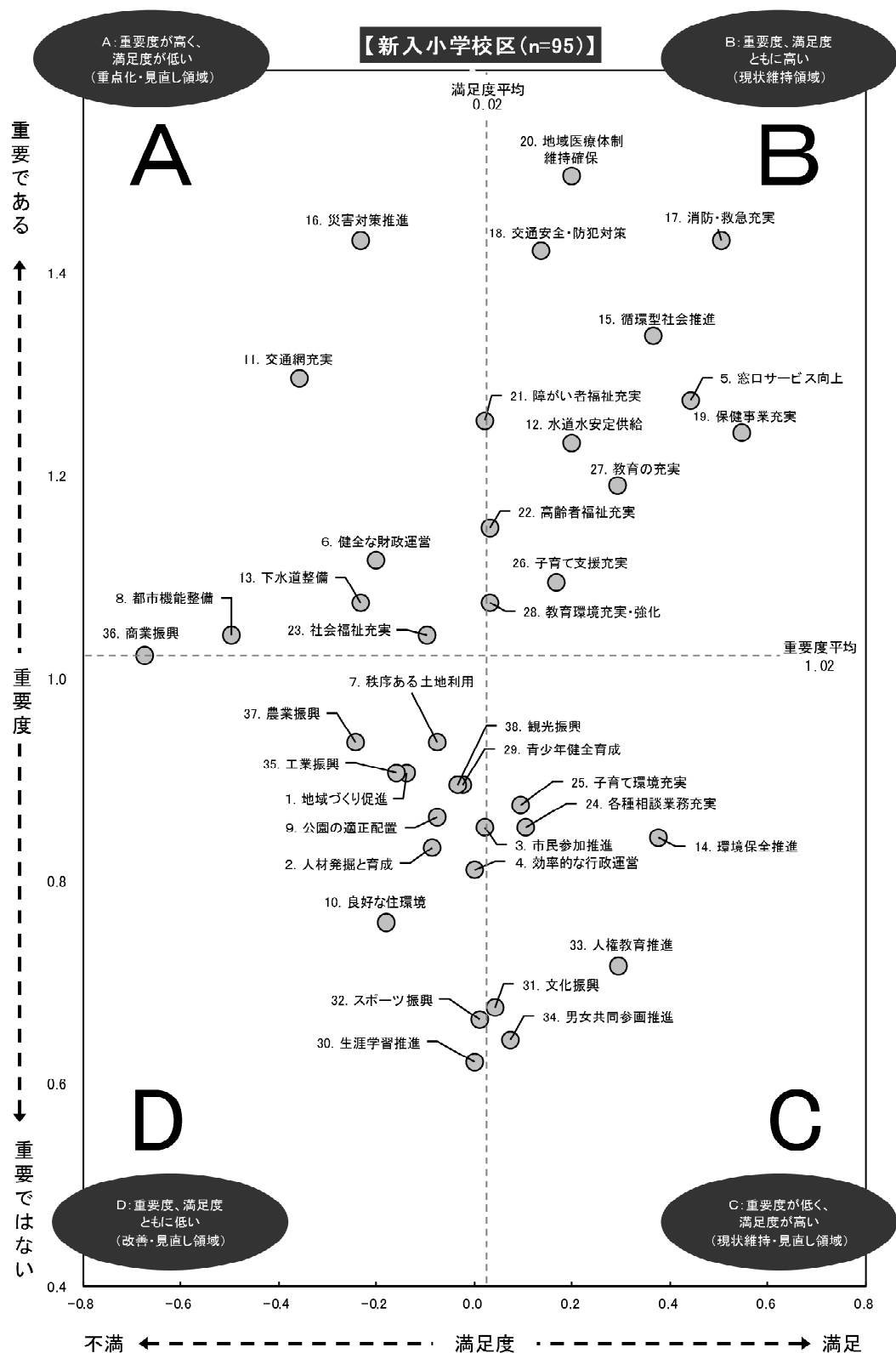
その他、「A象限（重点化・見直し領域）」にある項目のうち、年齢別の特徴として、20歳代で「18. 交通安全・防犯対策」、40歳代で「18. 交通安全・防犯対策」「20. 地域医療体制維持確保」に対する重点化の傾向が高い点があげられる。

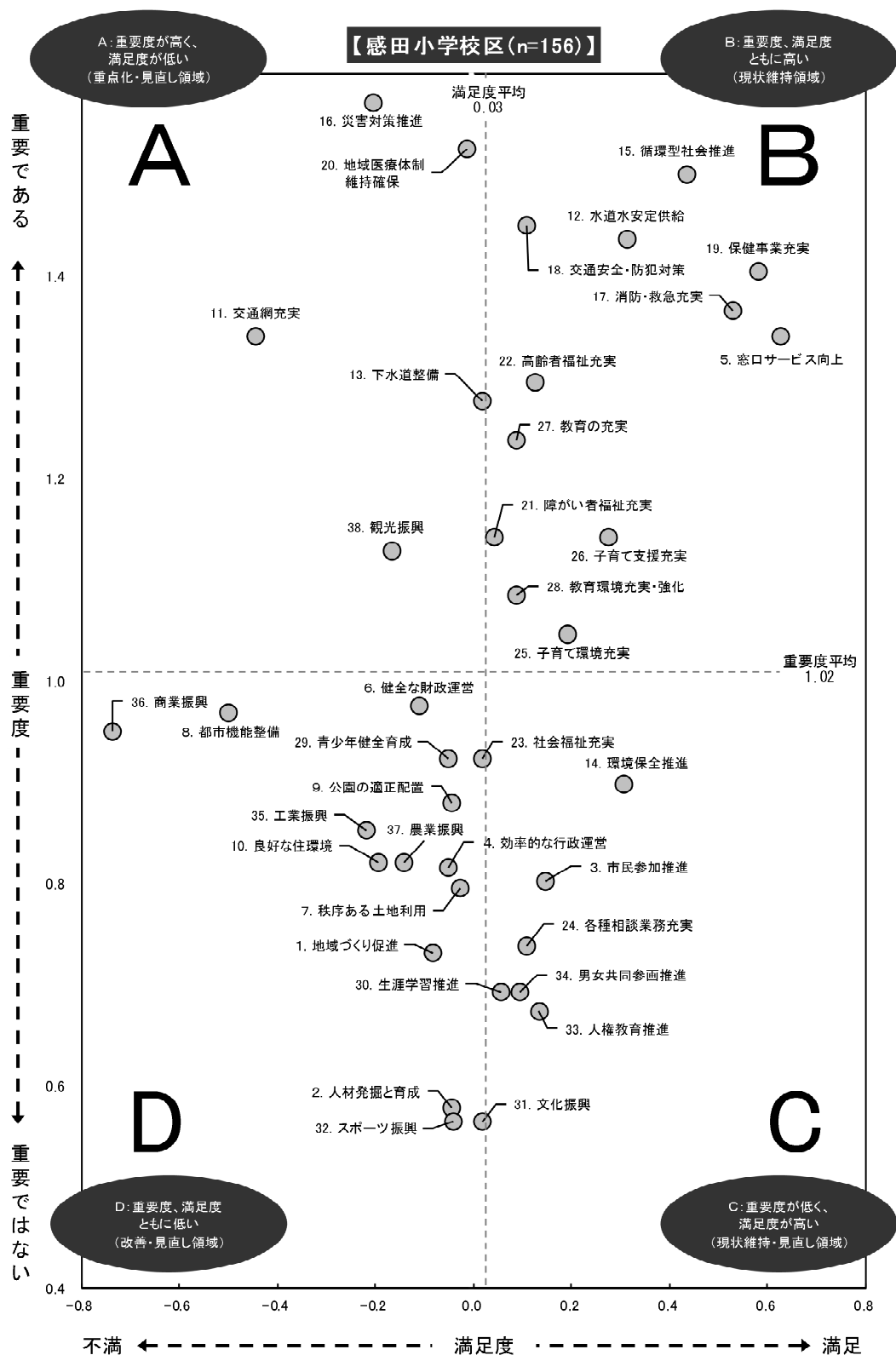
【小学校区別傾向】

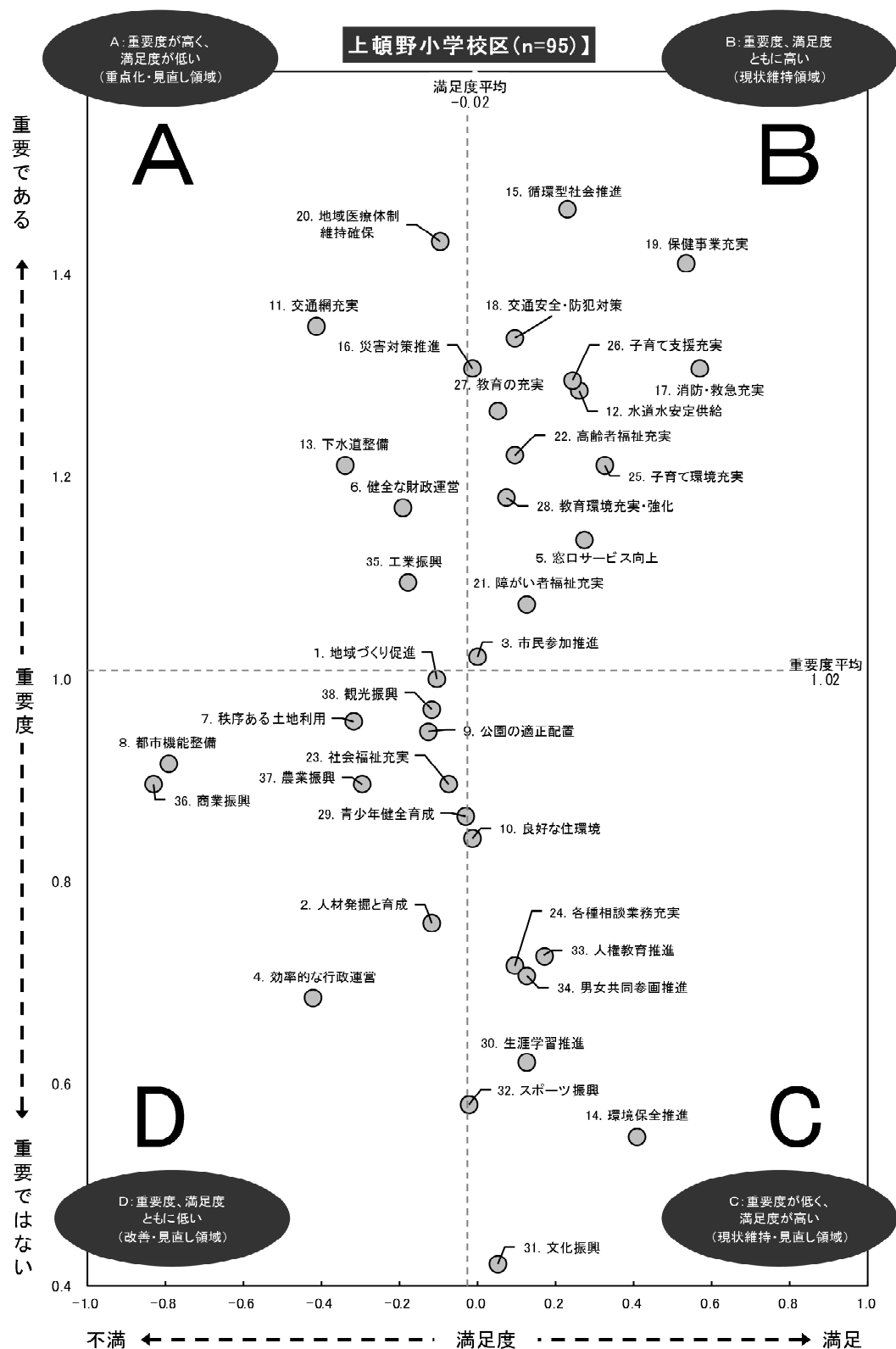


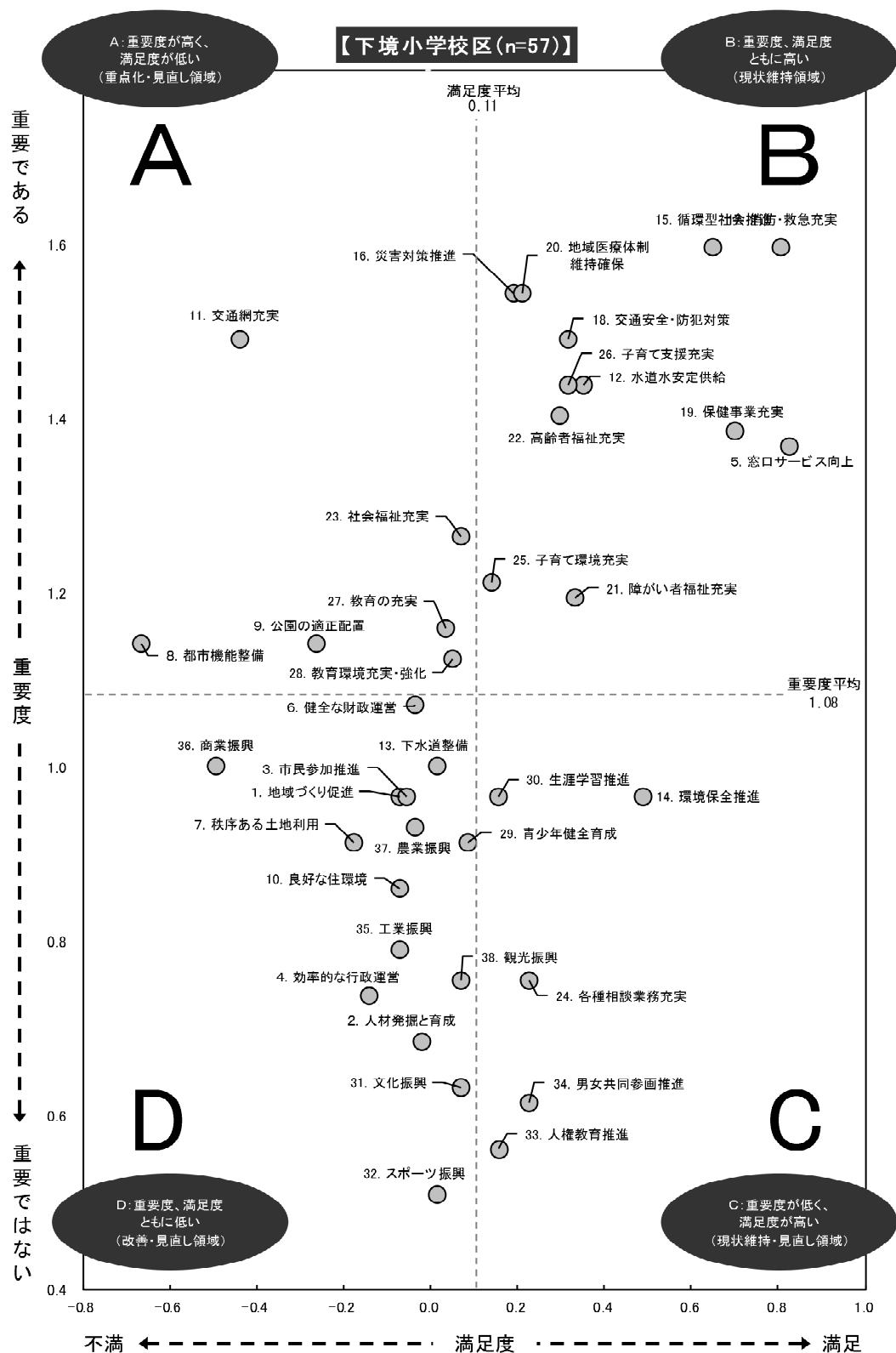


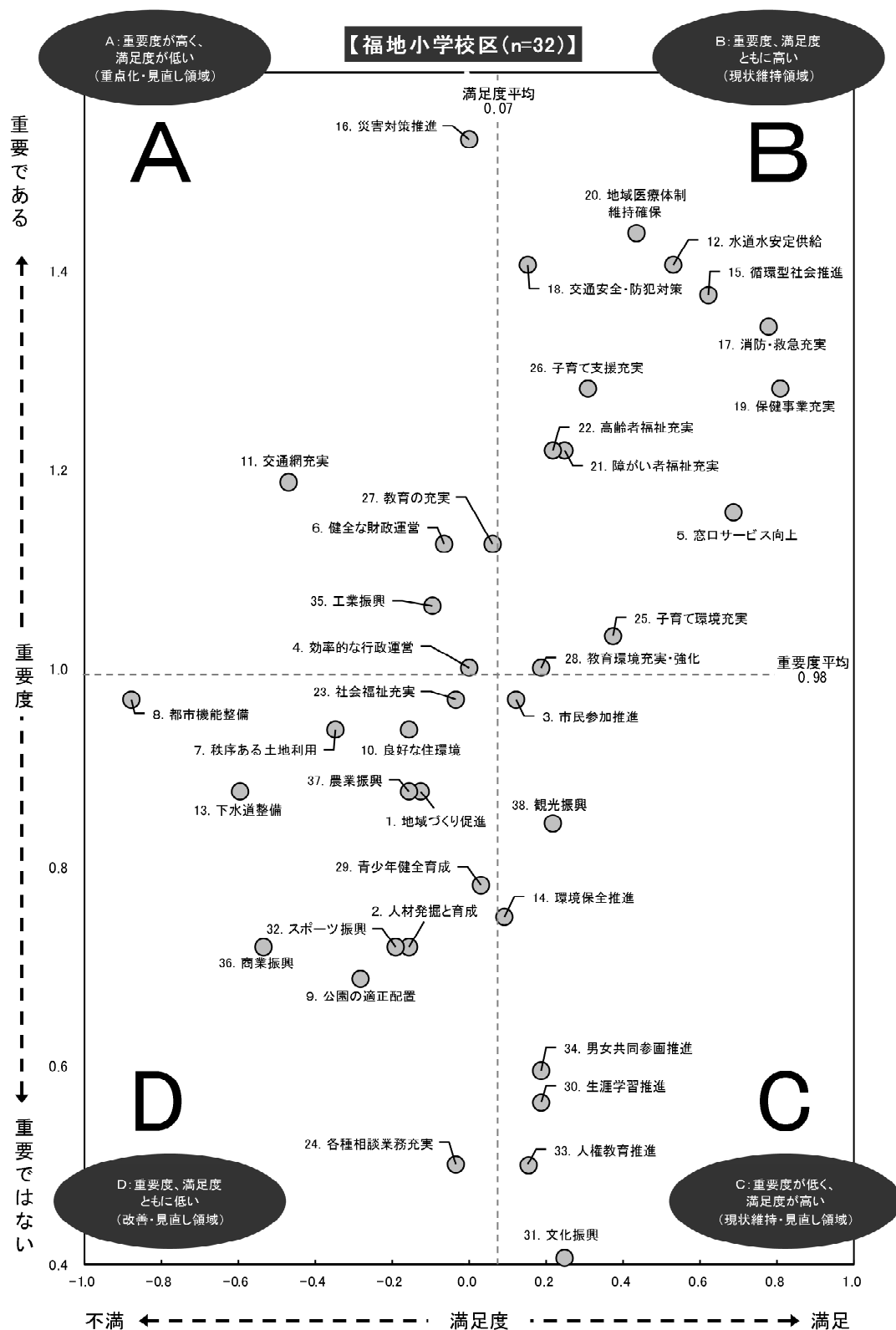


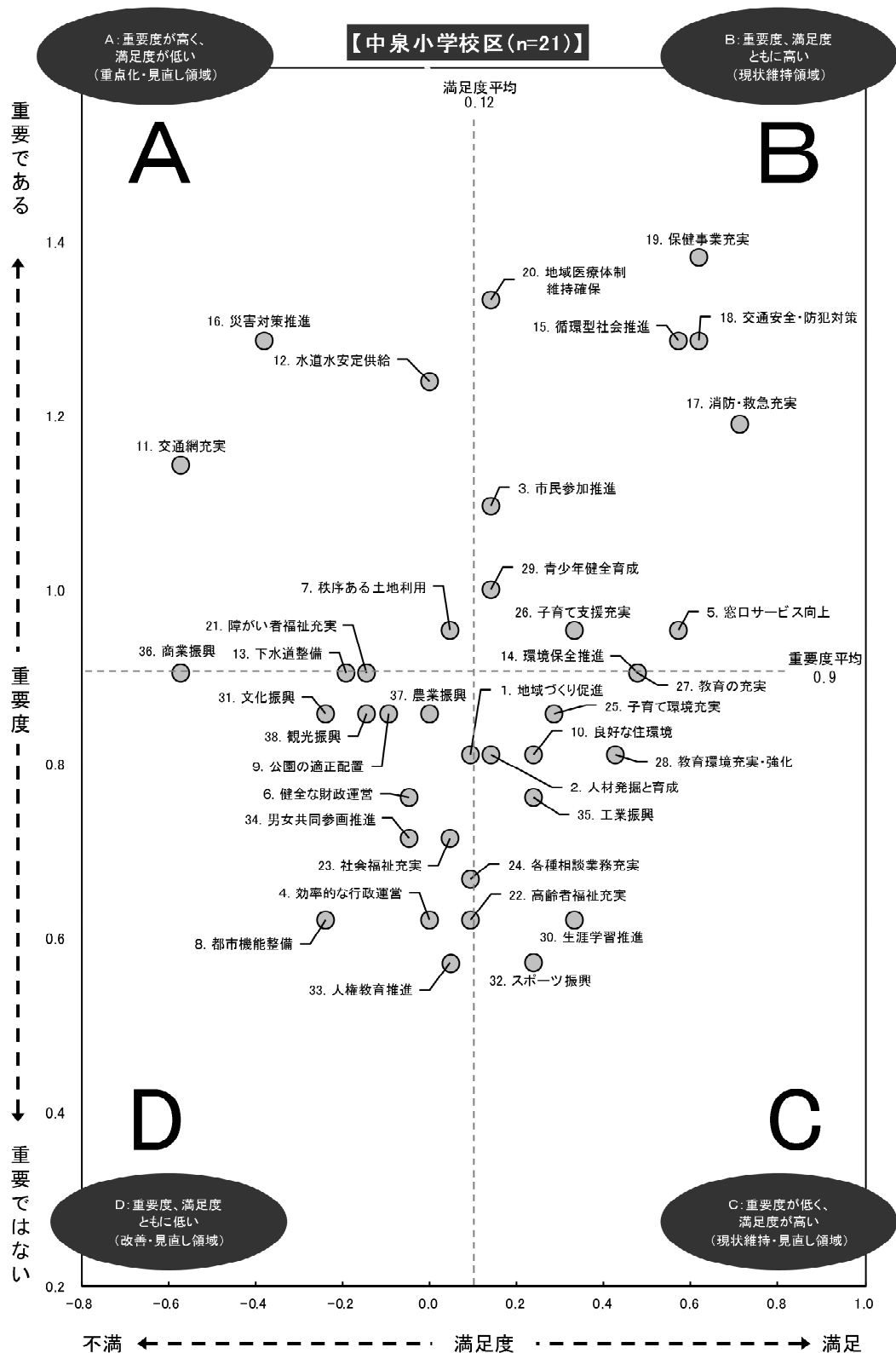


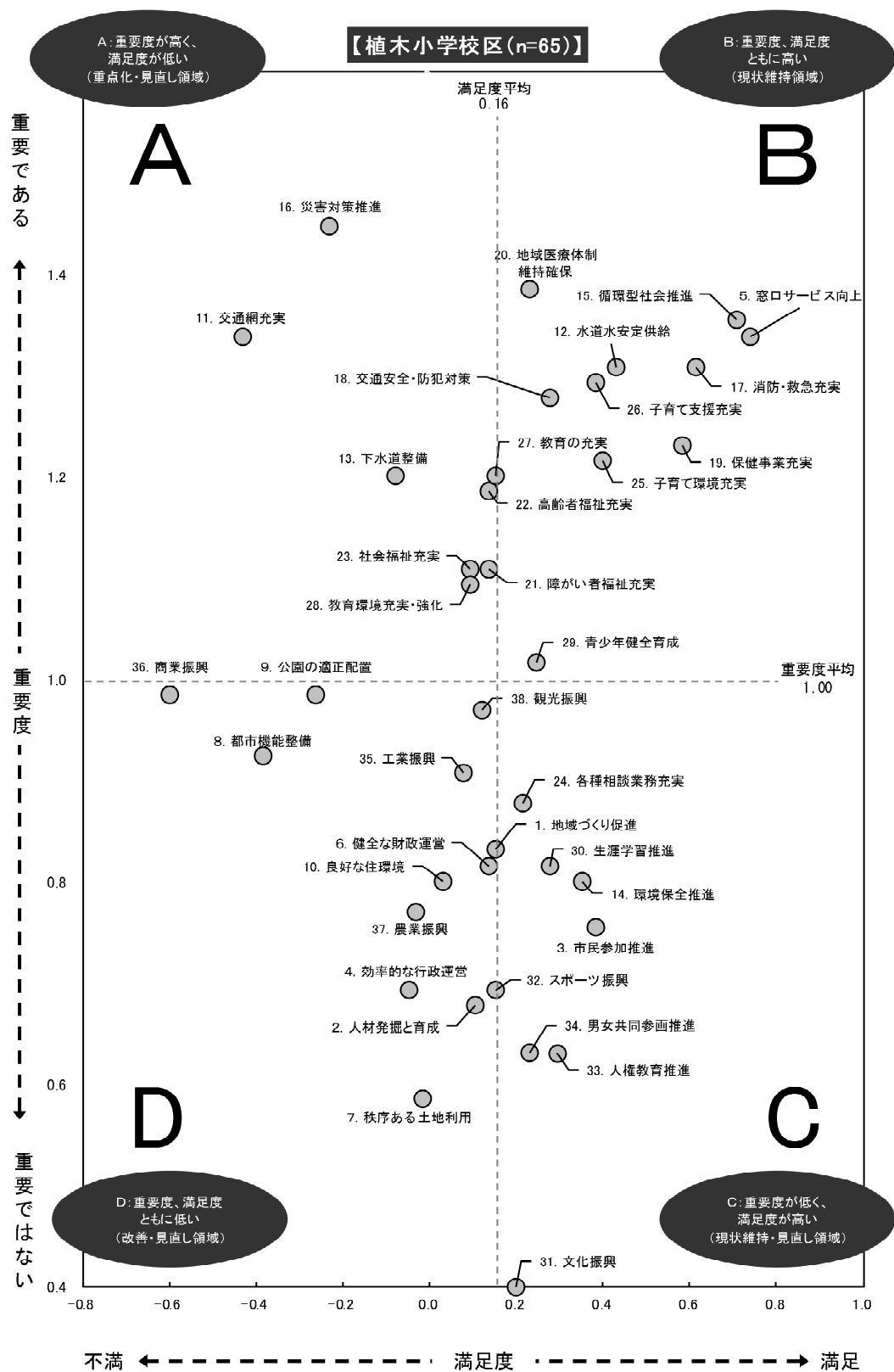


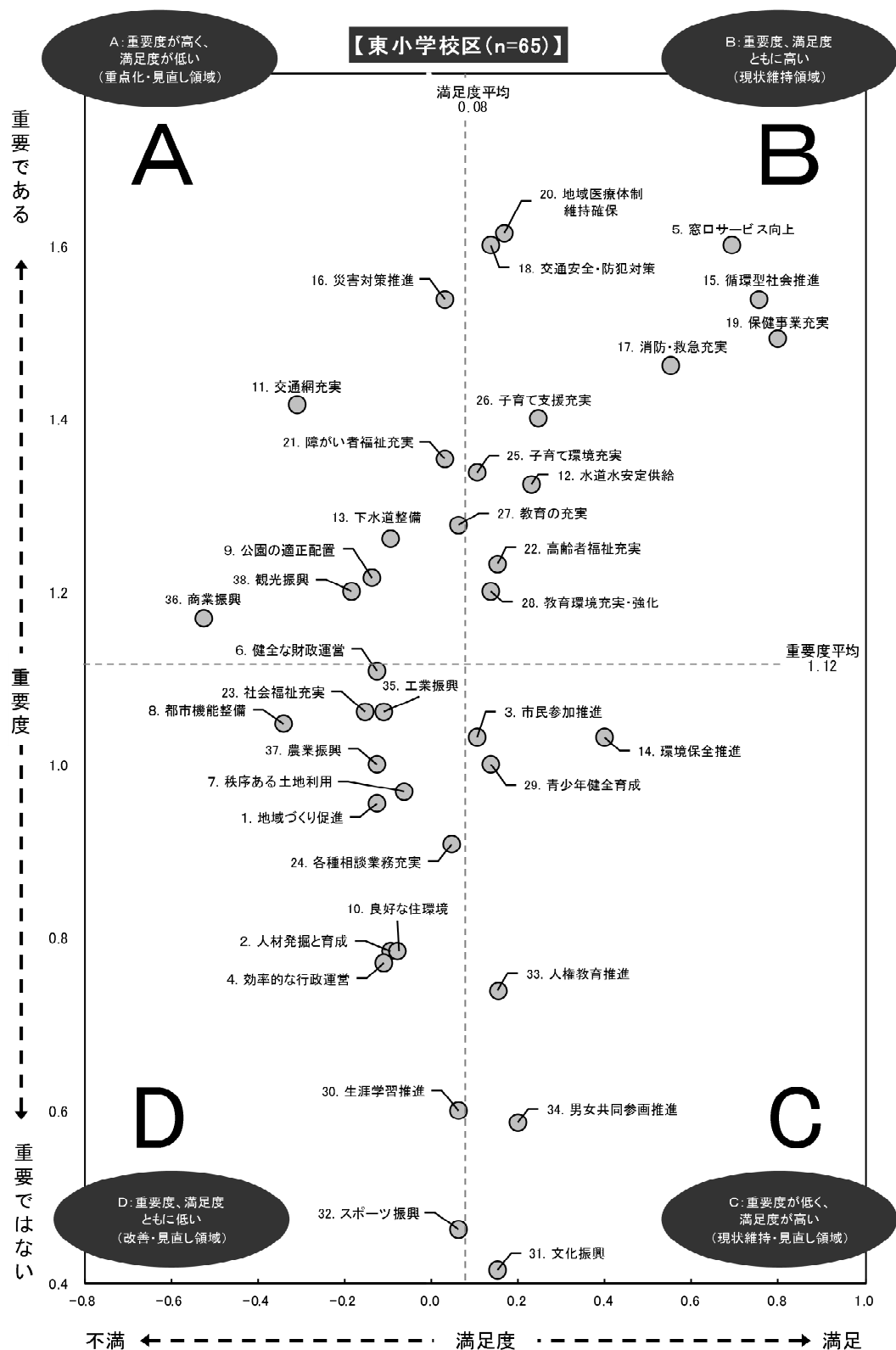




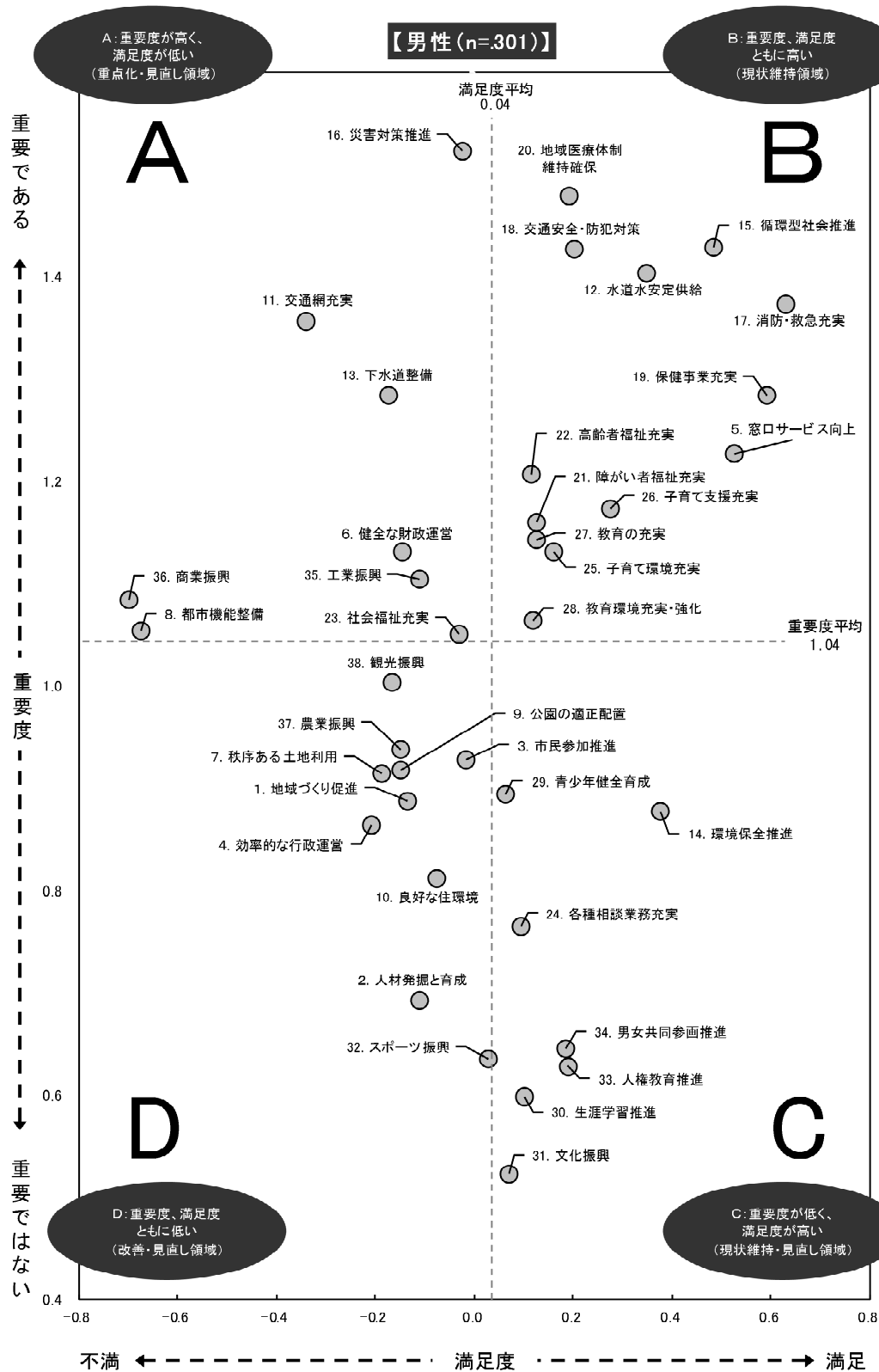


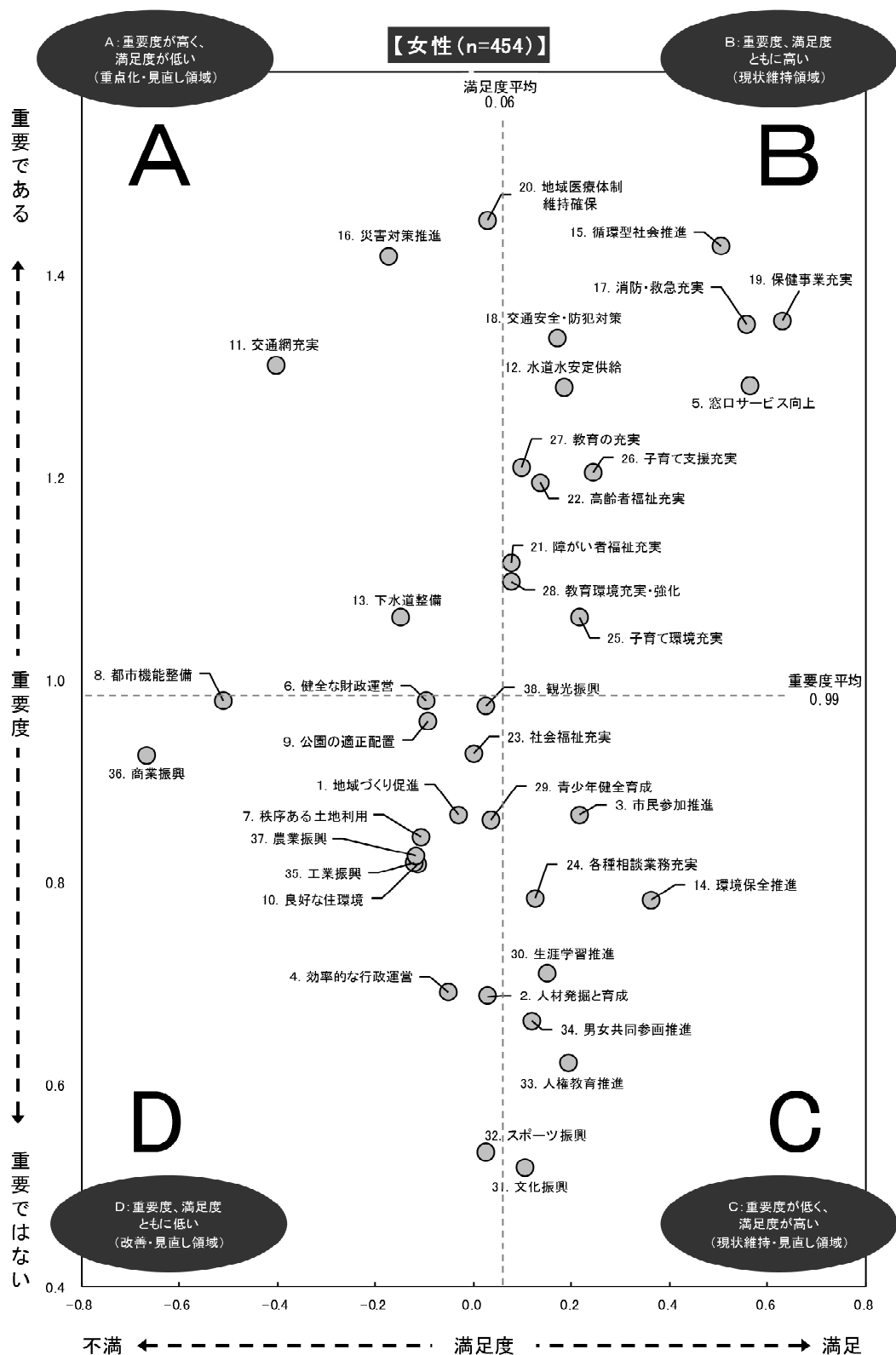




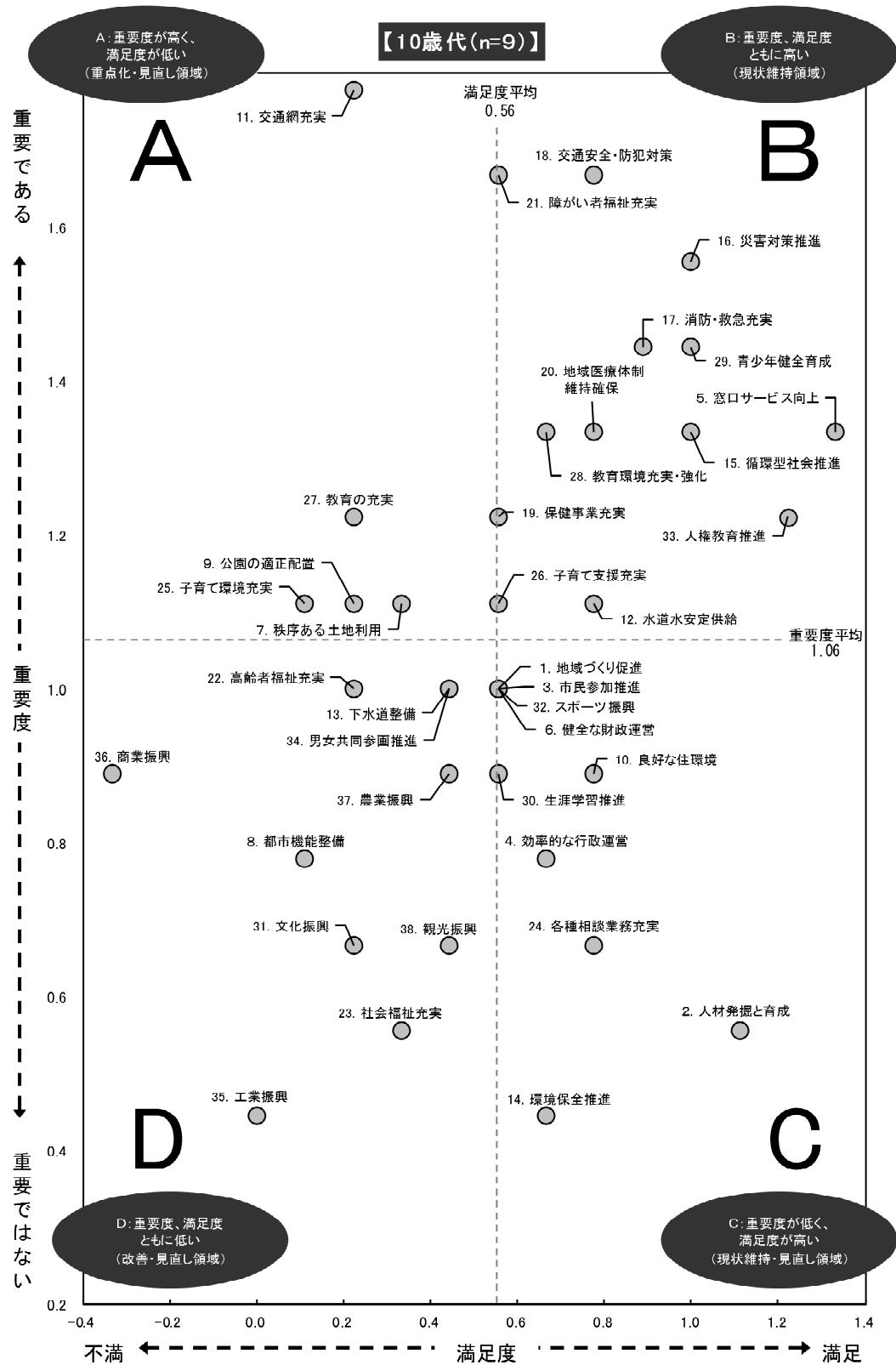


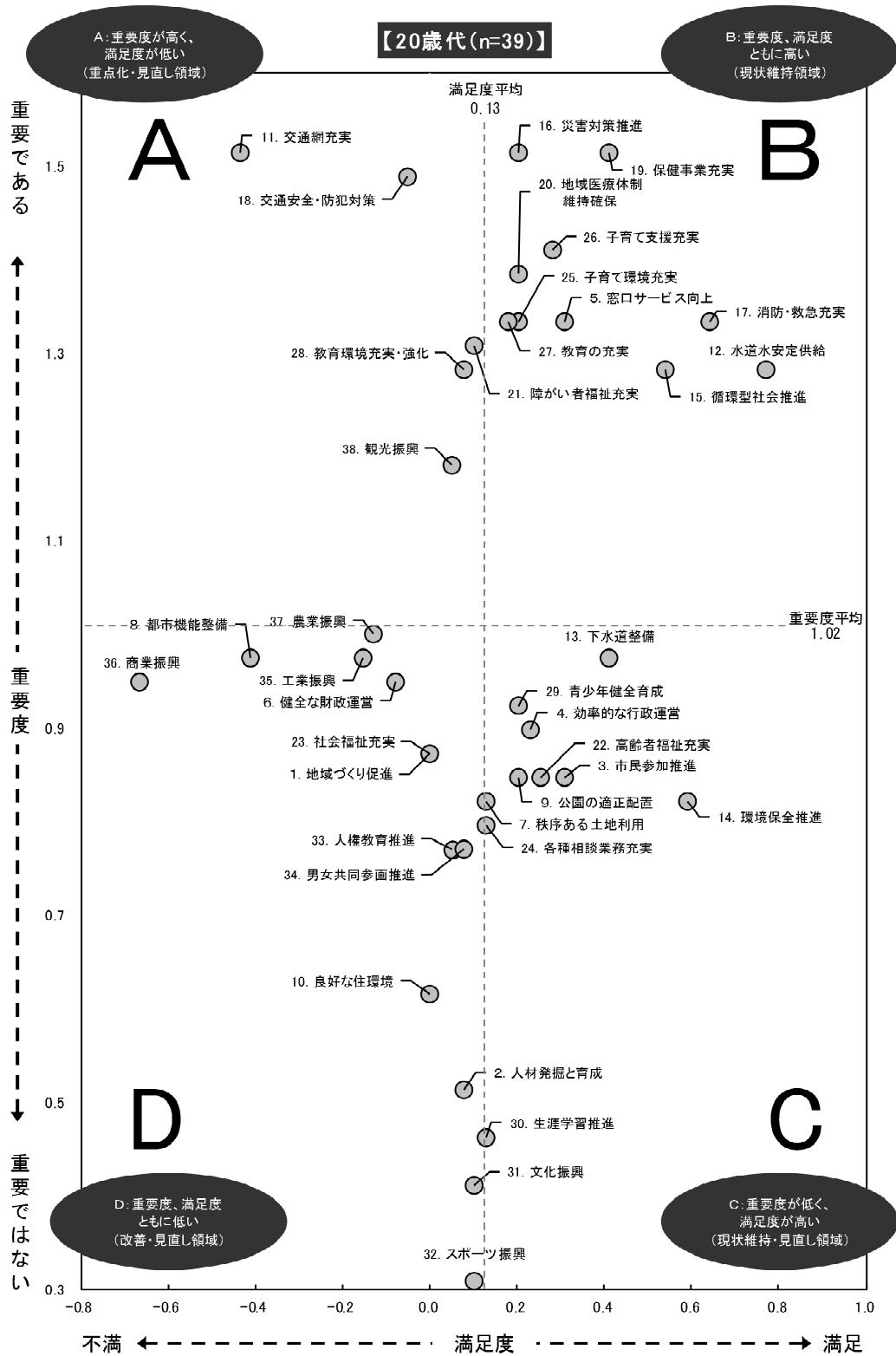
【性別傾向】

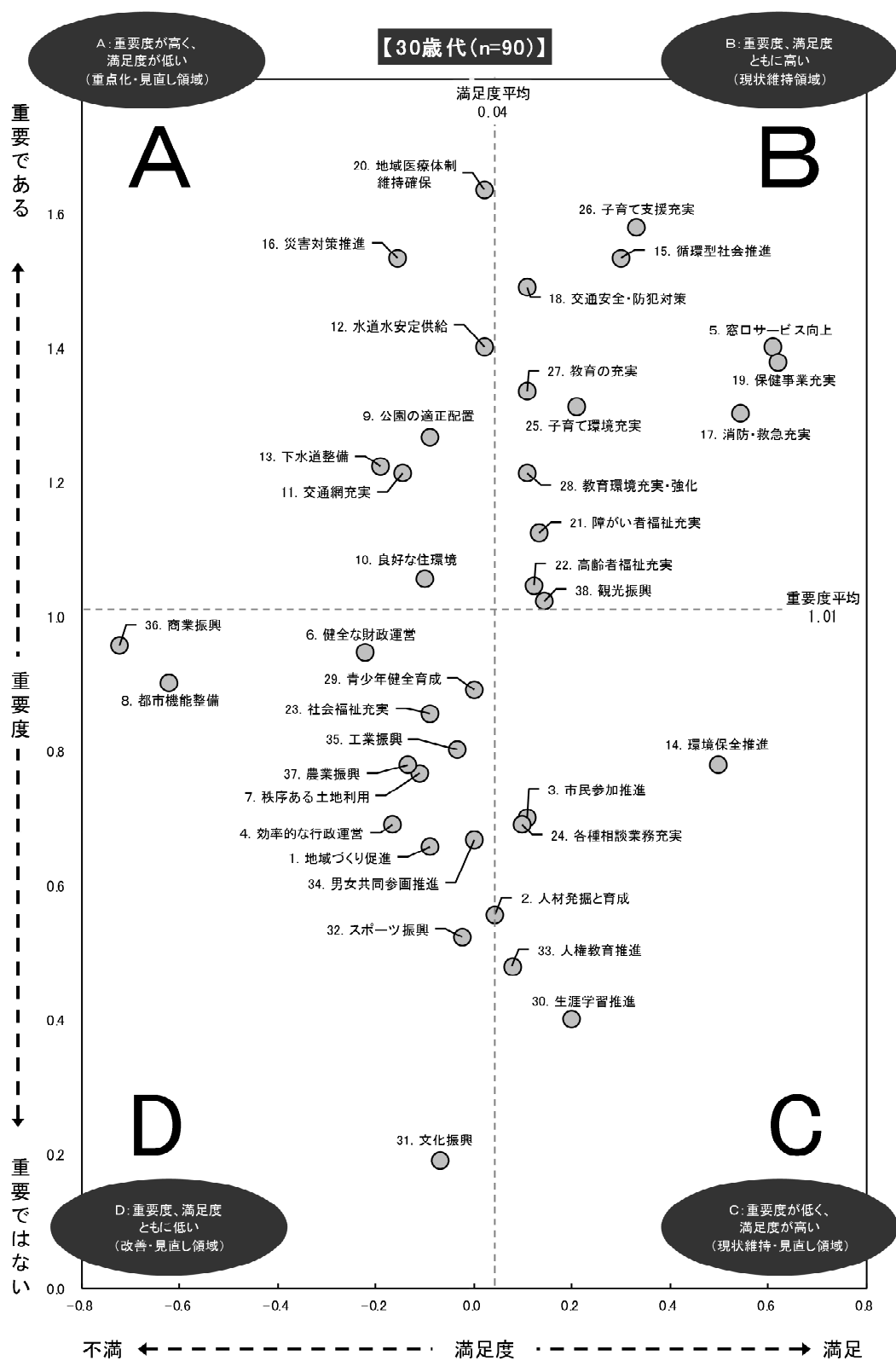


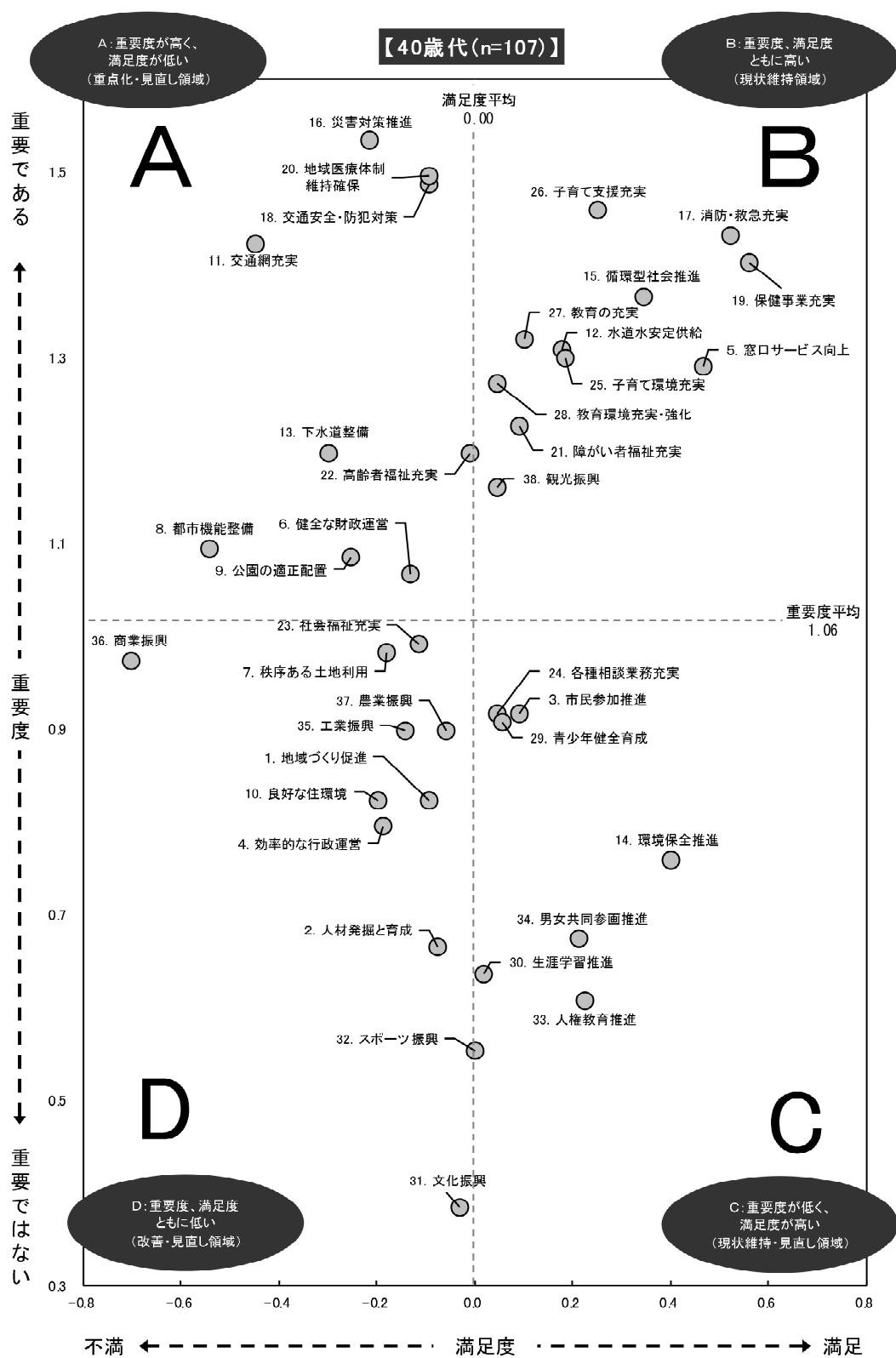


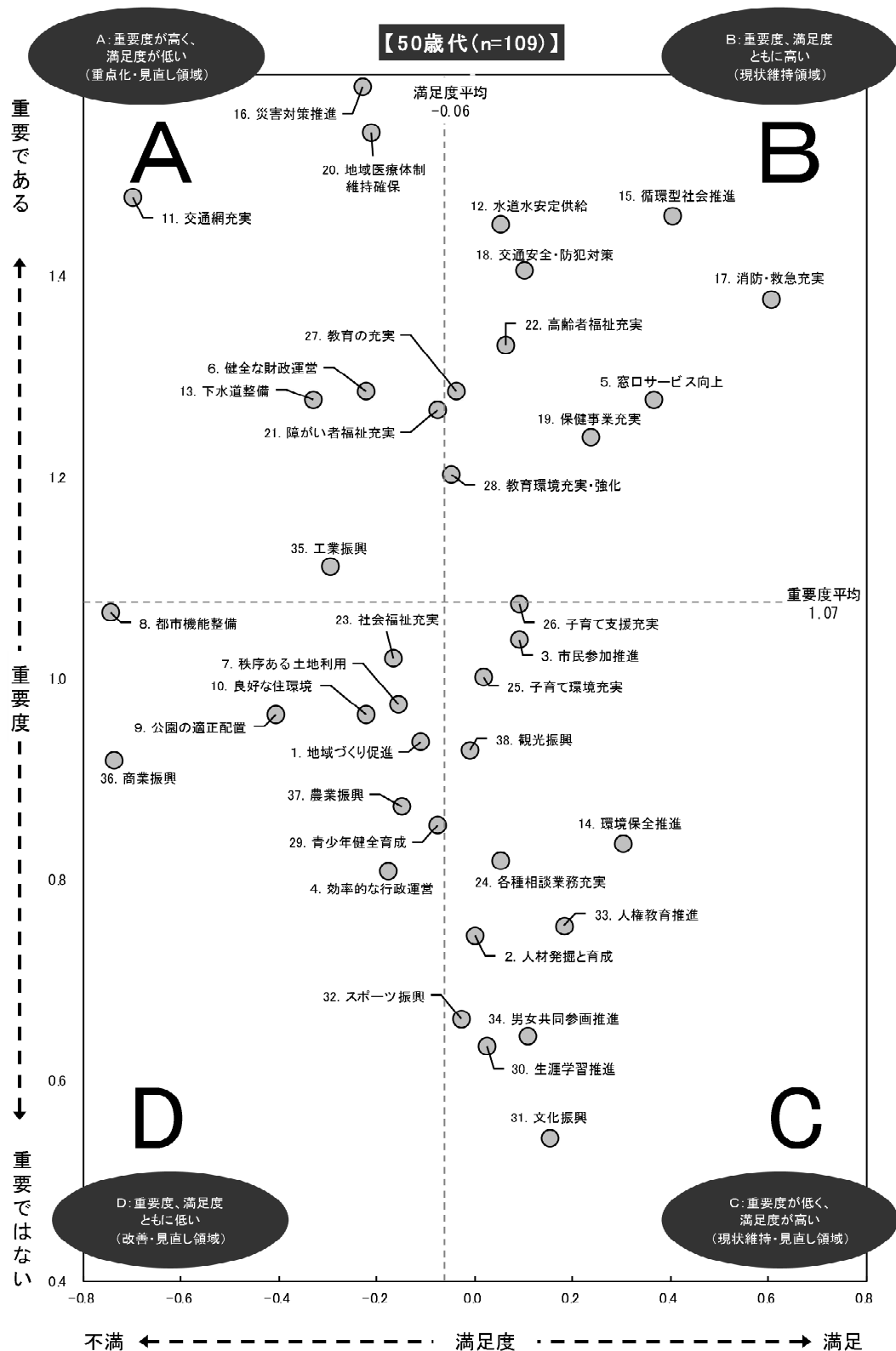
【年齢別傾向】

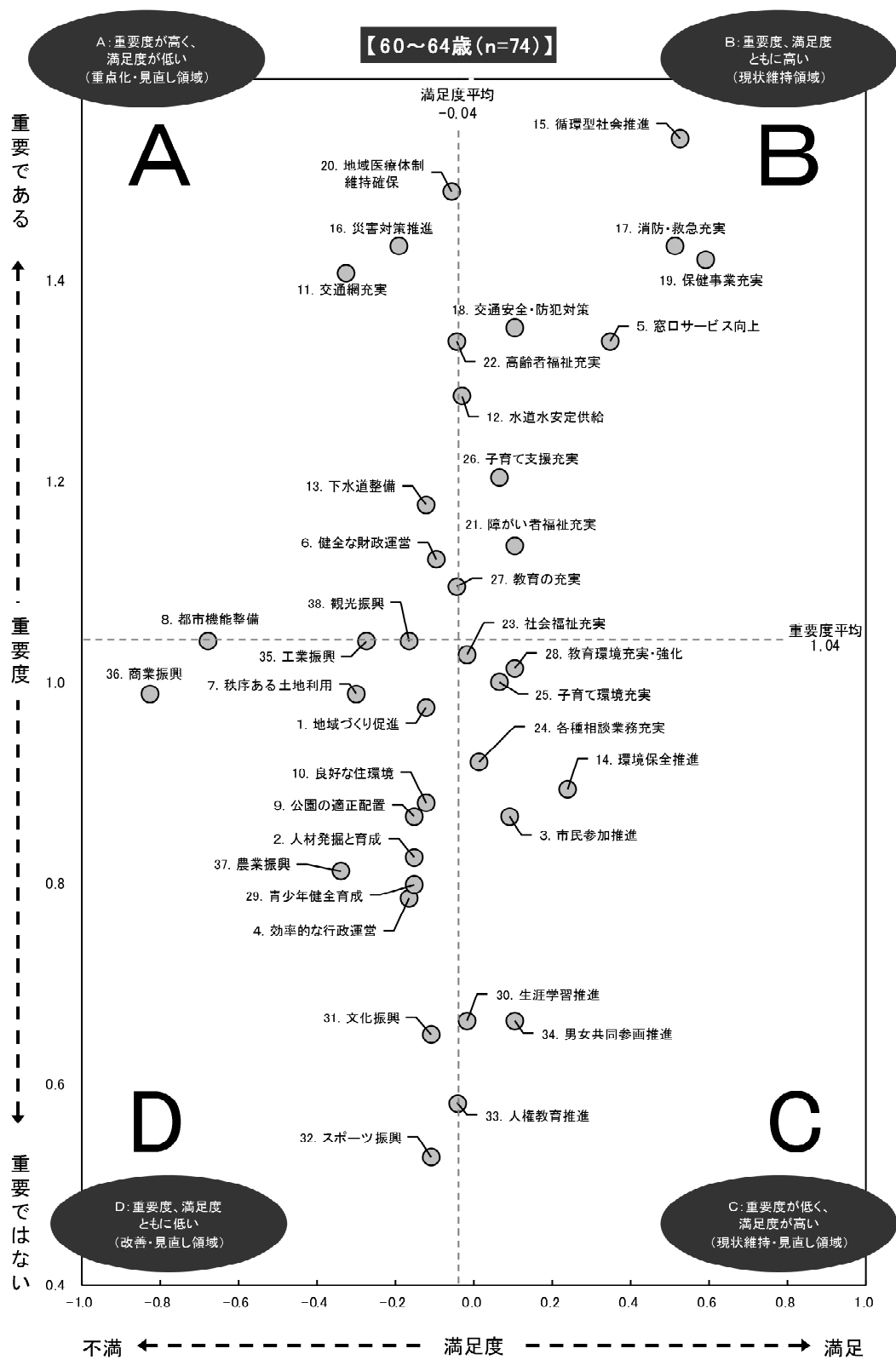


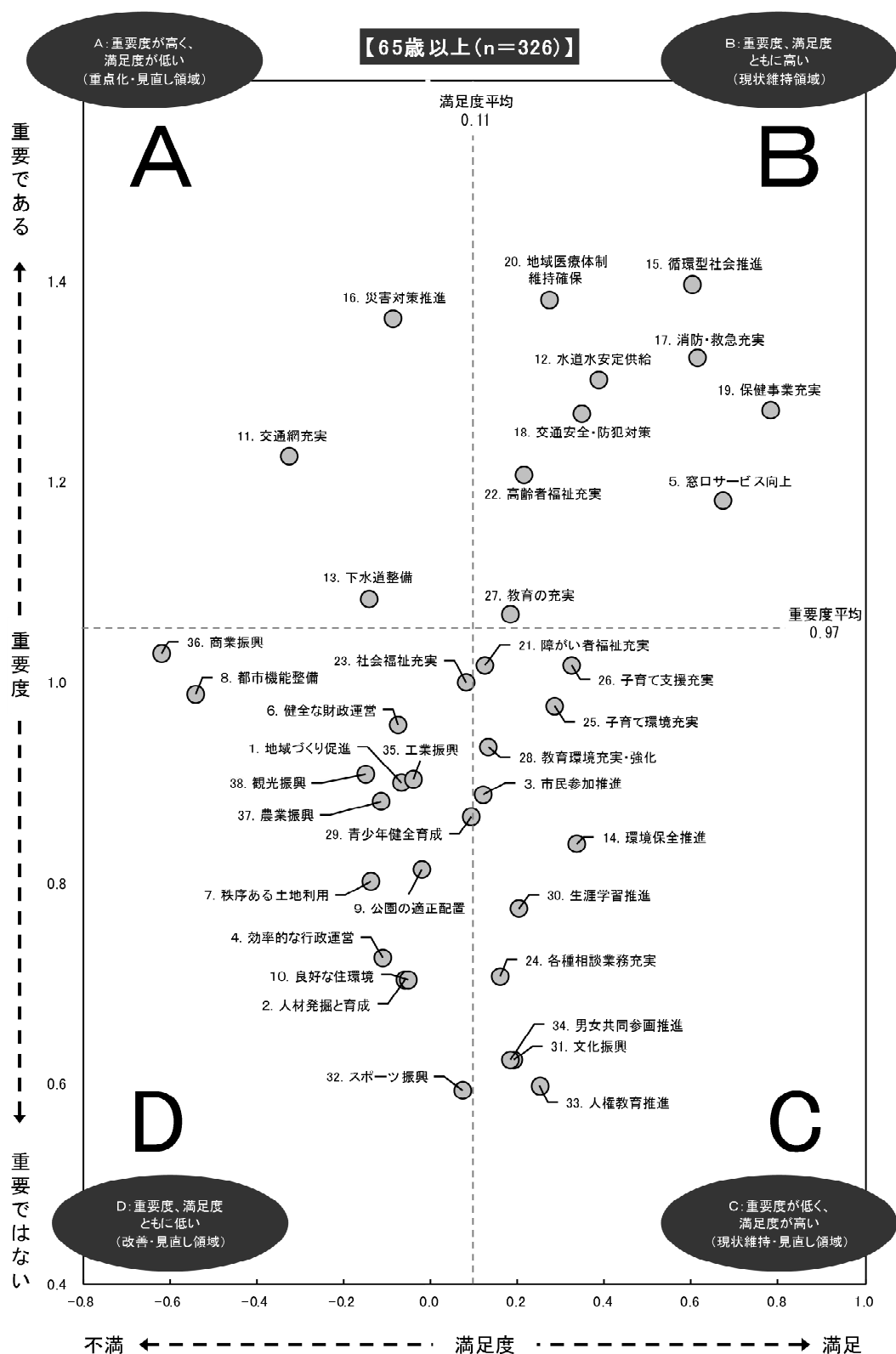












【8】施策ごとの評価について

以下、38の施策ごとの評価内容及びその不満の理由についての意識を、それぞれ取りまとめる。

1. 市民主体の地域づくりの促進

施策内容	・市民と行政との協働のしくみづくり		
主な事業	・自治会等の活動支援 ・民生委員・児童委員協議会事業 等		
満足度評価	-0.06 (38 施策中 26 位)	重要度評価	0.87 (38 施策中 25 位)
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

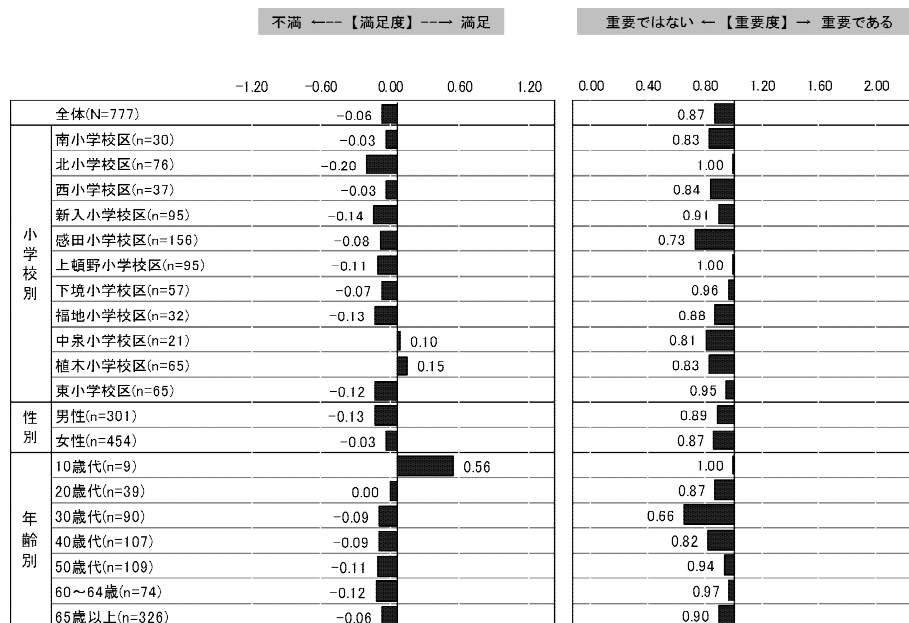
満足度評価	0.06 (38 施策中 24 位)	重要度評価	1.28 (38 施策中 25 位)
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域（D）に位置する。

満足度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、中泉小学校区、植木小学校区で相対的に高い。年齢別では10歳代が唯一プラスとなっているが、その他の年代ではマイナスになっている。

重要度は、小学校区別では、感田小学校区で特に低くなっているが、全体的に低い傾向にある。また、年齢別では30歳代で特に低い。



注：グラフの中央線は全体の平均値（満足度は 0.06、重要度は 1.01）としている。

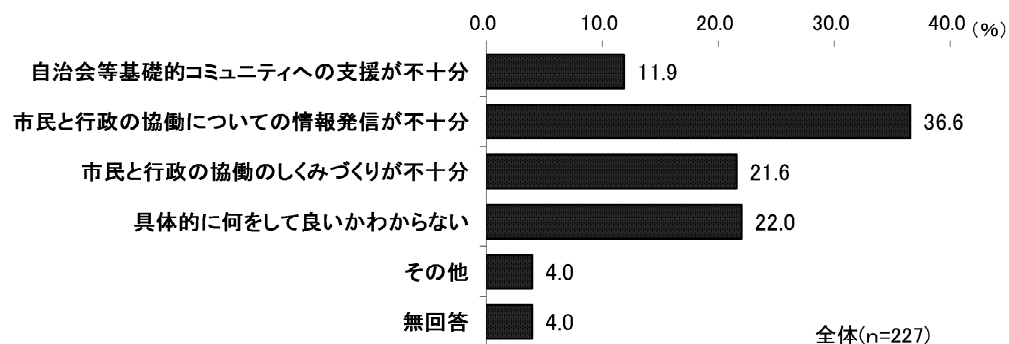
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「市民と行政の協働についての情報発信が不十分」の割合が36.6%と最も高く、次いで「具体的に何をして良いかわからない」が22.0%、「市民と行政の協働のしくみづくりが不十分」が21.6%となっている。

小学校区別では、上頓野小学校区で「市民と行政の協働についての情報発信が不十分」、下境小学校区で「具体的に何をして良いかわからない」が高くなっている。

年齢別では、30歳代で「具体的に何をして良いかわからない」、40歳代で「市民と行政の協働についての情報発信が不十分」が高くなっている。

【1. 市民主体の地域づくりの促進】



		自治会等基礎的コミュニティへの支援が不十分	市民と行政の協働についての情報発信が不十分	市民と行政の協働のしくみづくりが不十分	具体的に何をして良いかわからない	その他	無回答
全体(n=227)		11.9	36.6	21.6	22.0	4.0	4.0
小学校区別	南小学校区(n=10)	10.0	30.0	30.0	20.0	0.0	10.0
	北小学校区(n=30)	16.7	33.3	10.0	26.7	10.0	3.3
	西小学校区(n=9)	22.2	22.2	22.2	33.3	0.0	0.0
	新入小学校区(n=30)	3.3	36.7	26.7	26.7	6.7	0.0
	盛田小学校区(n=45)	11.1	37.8	20.0	26.7	4.4	0.0
	上頓野小学校区(n=28)	10.7	57.1	14.3	10.7	3.6	3.6
	下境小学校区(n=14)	7.1	28.6	0.0	42.9	0.0	21.4
	榑地小学校区(n=10)	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	20.0
	中泉小学校区(n=4)	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	植木小学校区(n=17)	17.6	23.5	35.3	23.5	0.0	0.0
	東小学校区(n=19)	15.8	31.6	26.3	15.8	5.3	5.3
性別	男性(n=101)	14.9	33.7	19.8	23.8	3.0	5.0
	女性(n=122)	9.0	39.3	22.1	21.3	4.9	3.3
年齢別	10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=9)	33.3	33.3	11.1	22.2	0.0	0.0
	30歳代(n=22)	13.6	22.7	4.5	40.9	13.6	4.5
	40歳代(n=25)	4.0	48.0	8.0	28.0	4.0	8.0
	50歳代(n=39)	12.8	30.8	23.1	28.2	2.6	2.6
	60～64歳(n=28)	7.7	42.3	26.9	23.1	0.0	0.0
	65歳以上(n=102)	11.8	38.2	26.5	14.7	3.9	4.8

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

2. 地域づくりを推進する人材の発掘と育成

施策内容	・ ボランティア団体間のネットワークづくり ・ 地域づくりに関する講座		
主な事業	・ 市民活動事業（縁（ゆかり）ネット情報発信等）事業 ・ 市表彰事業 等		
満足度評価	-0.02（38 施策中 24 位）	重要度評価	0.69（38 施策中 33 位）
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果（平成 29 年9月実施）】

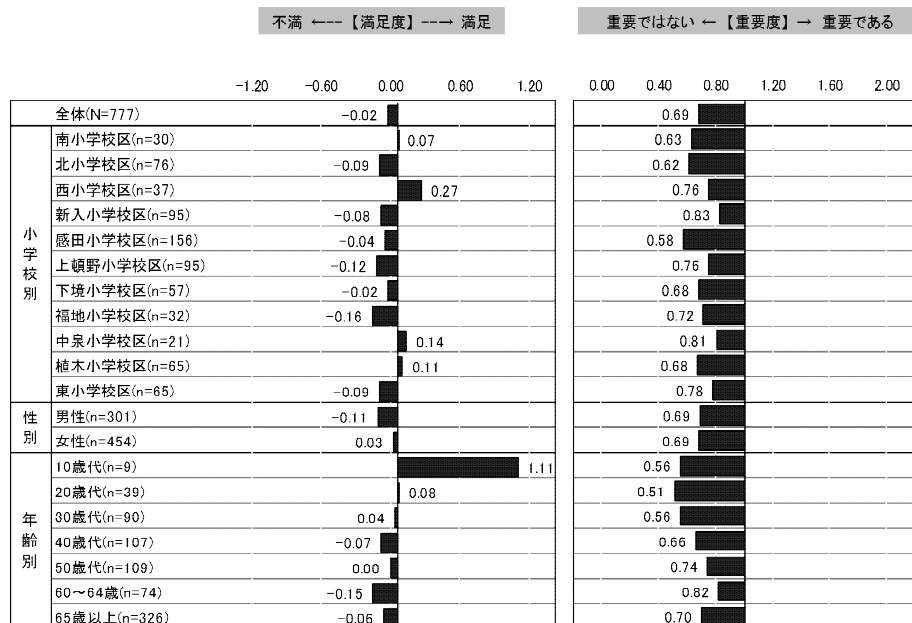
満足度評価	0.05（38 施策中 25 位）	重要度評価	1.12（38 施策中 31 位）
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

（1）満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域（D）に位置する。

満足度は、小学校区別では、西小学校区が最も高く、福地小学校区が最も低い。性別では女性に比べ男性が低い。年齢別では10歳代が突出して高く、60歳代前半が低くなっている。

重要度は、全ての属性で平均を下回っている。小学校区別では、感田小学校区が最も低い。また、年齢別では10～30歳代が低い傾向にある。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

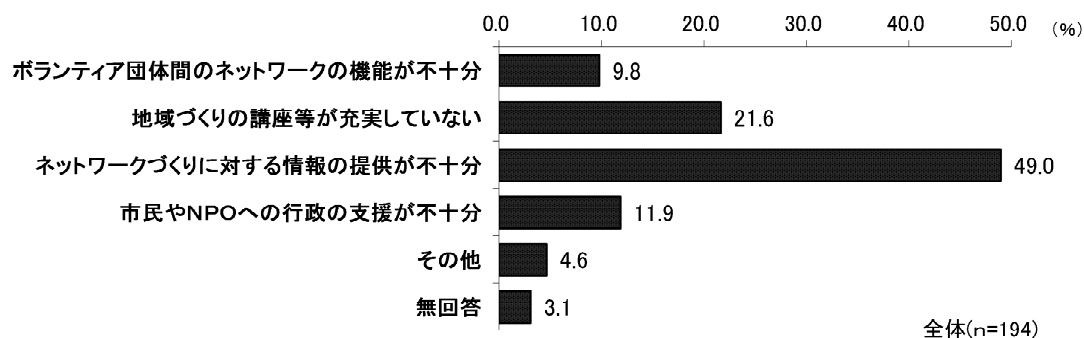
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「ネットワークづくりに対する情報の提供が不十分」の割合が49.0%と最も高く、次いで「地域づくりの講座等が充実していない」が21.6%、「市民やNPOへの行政の支援が不十分」が11.9%となっている。

小学校区別では、北小学校区では「ボランティア団体間のネットワークの機能が不十分」、南小学校区で「地域づくりの講座等が充実していない」、中泉小学校区で「ネットワークづくりに対する情報の提供が不十分」が高くなっている。

年齢別では、30歳代で「ボランティア団体間のネットワークの機能が不十分」が高くなっている。

【2. 地域づくりを推進する人材の発掘と育成】



		ボランティア団体間の機能が不十分	地域づくりの講座等が充実していない	ネットワークづくりに対する情報の提供が不十分	市民やNPOへの行政の支援が不十分	その他	無回答
全体(n=194)		9.8	21.6	49.0	11.9	4.6	3.1
小学校区別	南小学校区(n=8)	0.0	50.0	25.0	12.5	0.0	12.5
	北小学校区(n=22)	27.3	13.6	50.0	9.1	0.0	0.0
	西小学校区(n=5)	0.0	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0
	新入小学校区(n=28)	3.6	14.3	57.1	14.3	7.1	3.6
	盛田小学校区(n=38)	12.8	17.9	46.2	17.9	5.1	0.0
	上頓野小学校区(n=27)	7.4	33.3	40.7	3.7	11.1	3.7
	下境小学校区(n=11)	0.0	9.1	54.5	18.2	9.1	9.1
	榑地小学校区(n=11)	9.1	18.2	54.5	18.2	0.0	0.0
	中泉小学校区(n=8)	0.0	0.0	66.7	16.7	0.0	16.7
	植木小学校区(n=13)	0.0	46.2	46.2	0.0	0.0	7.7
	東小学校区(n=15)	20.0	20.0	46.7	6.7	6.7	0.0
性別	男性(n=83)	10.8	17.2	51.6	11.8	6.5	2.2
	女性(n=86)	8.4	26.0	45.8	11.5	3.1	4.2
年齢別	10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=5)	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	20.0
	30歳代(n=18)	22.2	0.0	50.0	11.1	11.1	5.6
	40歳代(n=28)	15.4	11.5	57.7	7.7	7.7	0.0
	50歳代(n=28)	7.1	10.7	60.7	17.9	3.6	0.0
	60～64歳(n=22)	4.5	27.3	54.5	13.6	0.0	0.0
	65歳以上(n=80)	8.8	31.1	41.1	11.1	3.3	4.4

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

3. 市民参加の推進

施策内容	・施政方針や財政状況等の行政情報の発信 ・出前講座やパブリックコメント（市民意見の公募）等を通じた市民ニーズの把握		
主な事業	・市報発行、ホームページ作成事業 ・出前講座 等		
満足度評価	0.13（38 施策中 13 位）	重要度評価	0.89（38 施策中 24 位）
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果（平成 29 年9月実施）】

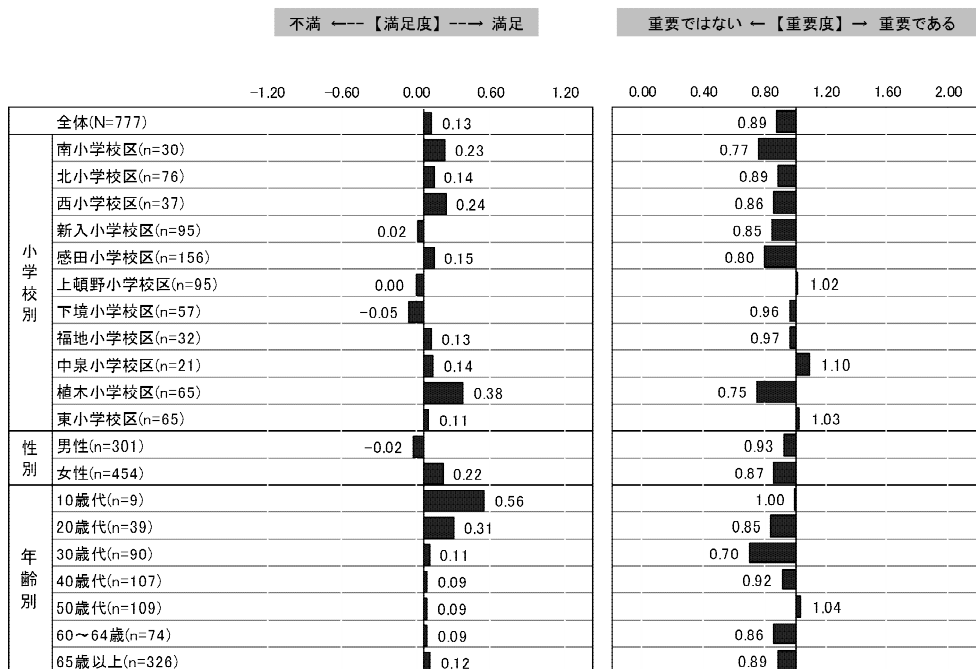
満足度評価	0.18（38 施策中 18 位）	重要度評価	1.32（38 施策中 23 位）
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

（１）満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度は高いが、重要度は中位にあり、現状維持・見直し領域（C）に位置する。

満足度は、小学校区別では、南、西、植木小学校区で高い。性別では男性よりも女性が高い。年齢別では10～20歳代で高くなっている。

重要度は、小学校区別では、上頓野、中泉、東小学校区などで平均よりも高くなっている。年齢別では、30歳代で特に低くなっている。



注：グラフの中央線は全体の平均値（満足度は 0.06、重要度は 1.01）としている。

(2) 不満の理由

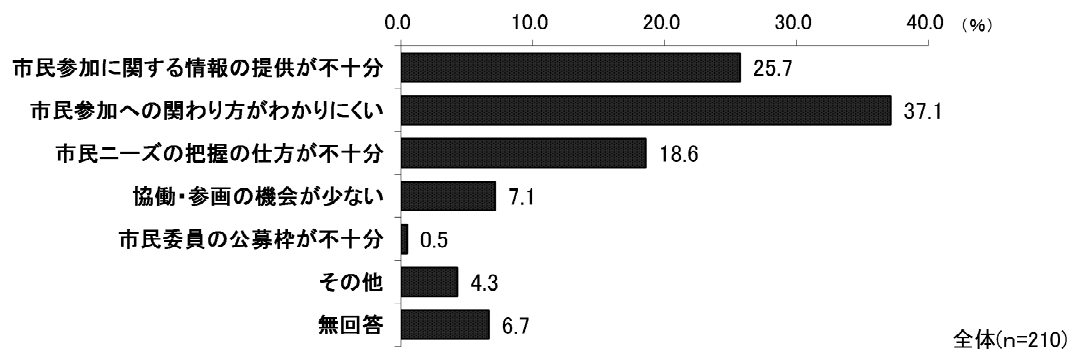
不満の理由としては、「市民参加への関わり方がわかりにくい」が37.1%と最も高く、次いで「市民参加に関する情報の提供が不十分」が25.7%、「市民ニーズの把握の仕方が不十分」が18.6%となっている。

小学校区別では、西小学校区で「市民参加に関する情報の提供が不十分」が突出して高く、北小学校区で「市民参加への関わり方がわかりにくい」が高い。

性別では、「協働・参画の機会が少ない」以外は、男性が女性を上回っている。

年齢別では、20歳代で「市民参加への関わり方がわかりにくい」が高くなっている。

【3. 市民参加の推進】



		市民参加に関する情報の提供が不十分	市民参加への関わり方がわかりにくい	市民ニーズの把握の仕方が不十分	協働・参画の機会が少ない	市民委員の公募枠が不十分	その他	無回答
全体(n=210)		25.7	37.1	18.6	7.1	0.5	4.3	6.7
小学校区別	南小学校区(n=10)	20.0	20.0	30.0	10.0	10.0	0.0	10.0
	北小学校区(n=22)	13.6	59.1	22.7	0.0	0.0	0.0	4.5
	西小学校区(n=7)	71.4	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3
	新入小学校区(n=30)	20.0	36.7	16.7	13.3	0.0	6.7	6.7
	藤田小学校区(n=38)	13.2	42.1	21.1	10.5	0.0	5.3	7.9
	上頓野小学校区(n=33)	33.3	33.3	15.2	9.1	0.0	6.1	3.0
	下城小学校区(n=19)	31.6	52.6	10.5	0.0	0.0	0.0	5.3
	福地小学校区(n=8)	37.5	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中泉小学校区(n=8)	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
	植木小学校区(n=13)	15.4	30.8	23.1	0.0	0.0	15.4	15.4
	東小学校区(n=17)	35.3	17.6	23.5	17.6	0.0	5.9	0.0
性別	男性(n=105)	28.6	41.0	19.0	3.8	1.0	2.9	3.8
	女性(n=101)	21.8	33.7	17.8	10.9	0.0	5.9	9.9
年齢別	10歳代(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=6)	16.7	66.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代(n=24)	29.2	25.0	20.8	8.3	0.0	8.3	8.3
	40歳代(n=28)	35.7	39.3	14.3	7.1	0.0	3.8	0.0
	50歳代(n=33)	27.3	45.5	9.1	9.1	0.0	6.1	3.0
	60～64歳(n=21)	19.0	42.9	23.8	9.5	0.0	0.0	4.8
	65歳以上(n=93)	21.5	34.4	21.5	6.5	1.1	4.3	10.8

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

4. 効率的な行政運営の推進

施策内容	・市民の視点に立った市民サービス ・計画・実施・評価・改善のサイクルによる計画行政の推進		
主な事業	・事務事業評価 ・市民意識調査 等		
満足度評価	－0.10（38 施策中 28 位）	重要度評価	0.75（38 施策中 32 位）
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

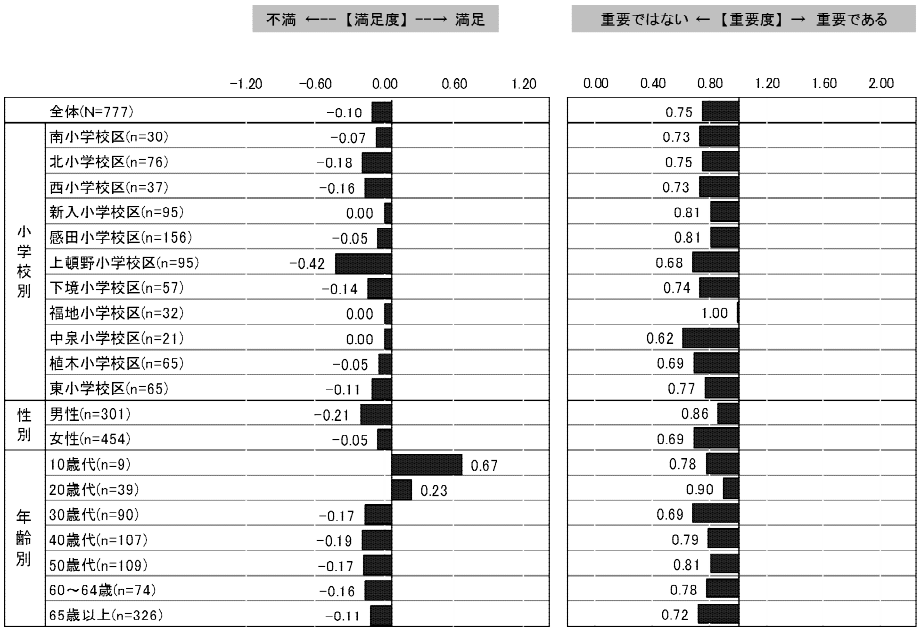
満足度評価	－0.10（38 施策中 29 位）	重要度評価	1.25（38 施策中 27 位）
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

（１）満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域（D）に位置する。

満足度は、小学校区別では、上頓野小学校区で特に低い。年齢別では、10～20 歳代で高くなっている。

重要度は、全ての属性で平均を下回っている。小学校区別では、中泉小学校区が最も低い。年齢別では、30 歳代が最も低い。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

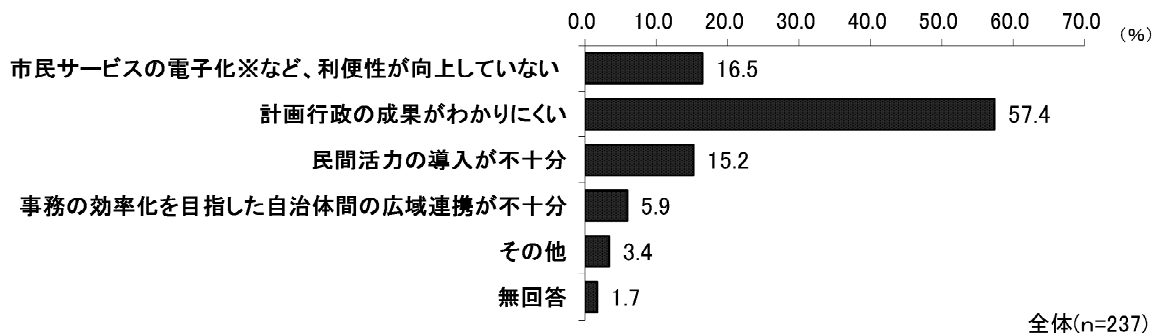
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「計画行政の成果がわかりにくい」が57.4%と突出して高く、次いで「市民サービスの電子化など、利便性が向上していない」が16.5%、「民間活力の導入が不十分」が15.2%となっている。

小学校区別では、特に下境小学校区で「計画行政の成果がわかりにくい」が高くなっている。

年齢別では、特に60～64歳で「計画行政の成果がわかりにくい」が高くなっている。

【4. 効率的な行政運営の推進】



		市民サービスの電子化※など、利便性が向上していない	計画行政の成果がわかりにくい	民間活力の導入が不十分	自治体間の効率化を目指した広域連携が不十分	その他	無回答
全体(n=237)		16.5	57.4	15.2	5.9	3.4	1.7
小学校区別	南小学校区(n=13)	7.7	61.5	15.4	15.4	0.0	0.0
	北小学校区(n=27)	18.5	55.6	22.2	0.0	0.0	3.7
	西小学校区(n=13)	30.8	46.2	23.1	0.0	0.0	0.0
	新入小学校区(n=27)	7.4	55.6	29.6	3.7	3.7	0.0
	恵田小学校区(n=44)	25.0	43.2	15.9	11.4	2.3	2.3
	上嶺野小学校区(n=40)	12.5	70.0	10.0	2.5	5.0	0.0
	下境小学校区(n=15)	0.0	80.0	0.0	6.7	6.7	6.7
	福地小学校区(n=9)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	中泉小学校区(n=4)	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0
	楠木小学校区(n=19)	10.5	52.6	26.3	5.3	5.3	0.0
	東小学校区(n=18)	27.8	55.6	0.0	11.1	5.6	0.0
性別	男性(n=111)	19.8	58.6	14.4	4.5	1.8	0.9
	女性(n=122)	13.9	56.6	15.6	7.4	4.1	2.5
年齢別	10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=8)	25.0	37.5	12.5	25.0	0.0	0.0
	30歳代(n=20)	31.0	48.3	6.9	0.0	10.3	3.4
	40歳代(n=38)	15.8	55.3	7.9	10.5	5.3	5.3
	50歳代(n=37)	29.7	48.6	16.2	2.7	0.0	2.7
	60～64歳(n=23)	4.3	78.3	13.0	4.3	0.0	0.0
	65歳以上(n=98)	10.2	61.2	20.4	6.1	2.0	0.0

※電子化とは、インターネットによる公共施設利用の申込み等

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

5. 窓口サービスにおける市民サービスの向上

施策内容	・ 窓口開庁時間の延長、職員応対等市民サービスの向上		
主な事業	・ 分かりやすい案内窓口の設置 ・ ロビーテラーの配置 ・ 窓口延長事業（毎週木曜日 19 時まで） 等		
満足度評価	0.56（38 施策中 3 位）	重要度評価	1.26（38 施策中 9 位）
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

【参考資料／前回調査結果（平成 29 年 9 月実施）】

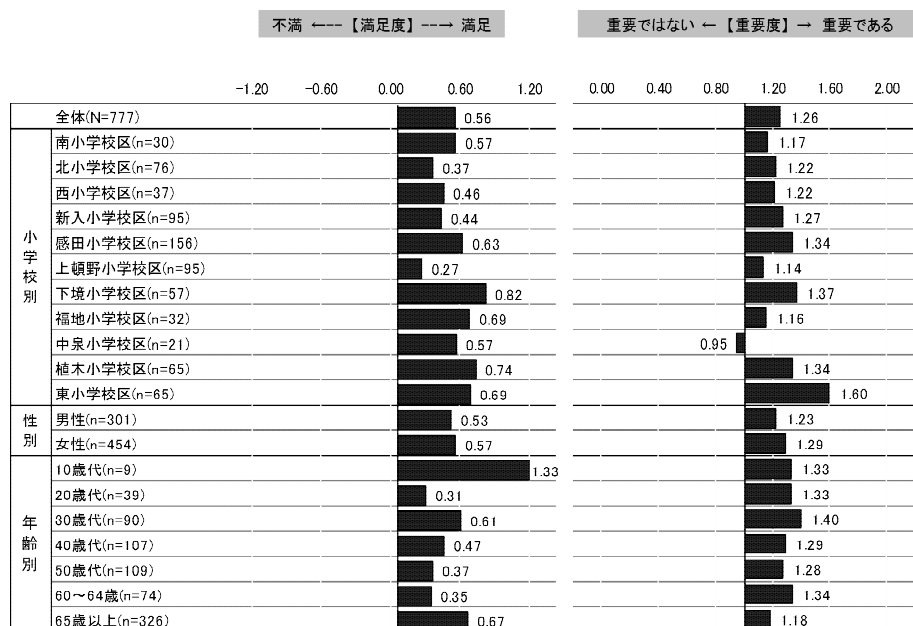
満足度評価	0.65（38 施策中 4 位）	重要度評価	1.74（38 施策中 8 位）
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

（１）満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに高位にあり、現状の水準を維持していくことが必要な領域（B）に位置する。

満足度は、全ての属性で平均を上回っている。小学校区別では、下境小学校区が最も高く、年齢別では 10 歳代が突出して高くなっている。

重要度は、小学校区別では、特に、東小学校区が高くなっている。



注：グラフの中央線は全体の平均値（満足度は 0.06、重要度は 1.01）としている。

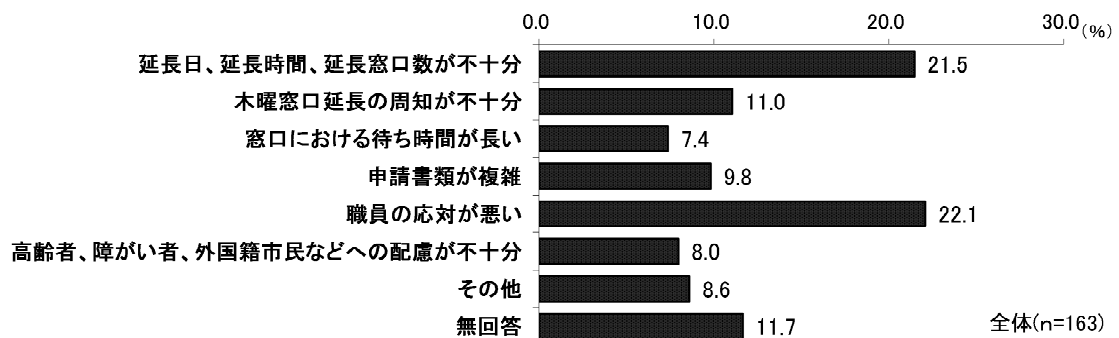
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「職員の対応が悪い」が22.1%と最も高く、次いで「延長日、延長時間、延長窓口数が不十分」が21.5%となっている。

小学校区別では、南小学校区で「木曜窓口延長の周知が不十分」、西小学校区で「申請書類が複雑」、新入小学校区で「延長日、延長時間、延長窓口数が不十分」、中泉小学校区で「窓口における待ち時間が長い」が特に高い。

年齢別では、20歳代で「職員の対応が悪い」が他の年齢層と比べ高くなっている。

【5. 窓口サービスにおける市民サービスの向上】



		延長日、延長時間、延長窓口数が不十分	木曜窓口延長の周知が不十分	窓口における待ち時間が長い	申請書類が複雑	職員の対応が悪い	高齢者、障がい者、外国籍市民などへの配慮が不十分	その他	無回答
全体(n=163)		21.5	11.0	7.4	9.8	22.1	8.0	8.6	11.7
小学校区別	南小学校区(n=7)	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3
	北小学校区(n=22)	18.2	13.6	18.2	0.0	22.7	9.1	13.6	4.5
	西小学校区(n=7)	0.0	14.3	0.0	28.6	28.6	14.3	0.0	14.3
	新入小学校区(n=25)	40.0	4.0	0.0	16.0	16.0	8.0	0.0	16.0
	感田小学校区(n=31)	12.9	12.9	9.7	6.5	25.8	9.7	12.9	9.7
	上磯野小学校区(n=27)	18.5	11.1	7.4	14.8	22.2	7.4	7.4	11.1
	下境小学校区(n=6)	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7
	福地小学校区(n=6)	16.7	16.7	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	16.7
	中泉小学校区(n=4)	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	植木小学校区(n=9)	33.3	0.0	0.0	0.0	22.2	22.2	11.1	11.1
	東小学校区(n=13)	30.8	15.4	0.0	15.4	7.7	7.7	7.7	15.4
性別	男性(n=83)	23.8	11.1	3.2	11.1	25.4	4.8	11.1	9.5
	女性(n=98)	20.4	10.2	10.2	9.2	20.4	10.2	7.1	12.2
年齢別	10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=12)	25.0	0.0	0.0	16.7	50.0	8.3	0.0	0.0
	30歳代(n=19)	26.3	10.5	15.8	5.3	10.5	0.0	10.5	21.1
	40歳代(n=26)	38.5	7.7	0.0	7.7	19.2	0.0	23.1	3.8
	50歳代(n=32)	31.3	18.8	18.8	6.3	6.3	12.5	0.0	6.3
	60～64歳(n=22)	18.2	13.6	4.5	4.5	31.8	4.5	4.5	18.2
	65歳以上(n=50)	6.0	8.0	4.0	16.0	28.0	14.0	10.0	14.0

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

6. 健全な財政運営の推進

施策内容	・健全な財政運営の推進 ・自主財源の確保の推進		
主な事業	・行財政改革の推進 ・市税及び各種収納金の収納率向上 ・企業誘致の推進 等		
満足度評価	－0.10（38 施策中 29 位）	重要度評価	1.03（38 施策中 17 位）
散布図象限	A	重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果（平成 29 年9月実施）】

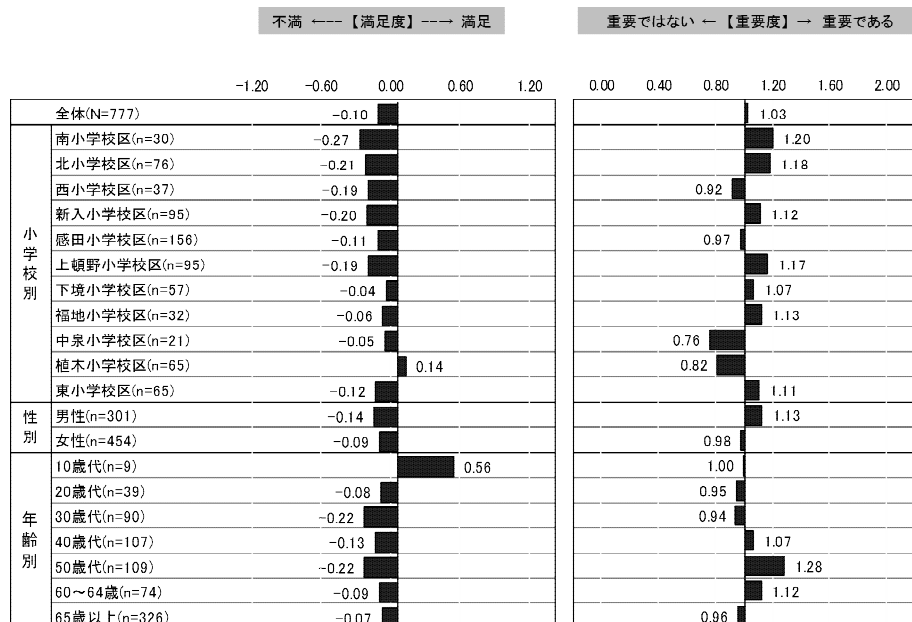
満足度評価	－0.12（38 施策中 30 位）	重要度評価	1.55（38 施策中 13 位）
散布図象限	A	重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）	

（１）満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、重要度が高いが、満足度が相対的に低く、重点化・見直しの領域（A）に位置する。

満足度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、植木小学校のみが平均を上回っている。年齢別には、10 歳代が突出して高い。

重要度は、小学校区別では、中泉、植木小学校区で特に低い。年齢別では 50 歳代で高くなっている。



注：グラフの中央線は全体の平均値（満足度は 0.06、重要度は 1.01）としている。

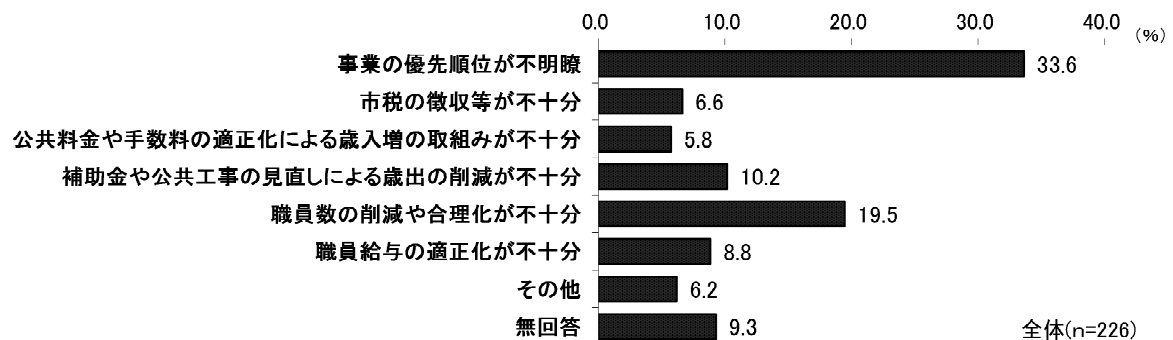
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「事業の優先順位が不明瞭」が33.6%と最も高く、次いで「職員数の削減や合理化が不十分」19.5%となっている。

小学校区別では、北小学校区で「事業の優先順位が不明瞭」、中泉小学校区で「職員数の削減や合理化が不十分」が高い。

年齢別では、20歳代で「事業の優先順位が不明瞭」、60歳代前半で「職員数の削減や合理化が不十分」が高い。

【6. 健全な財政運営の推進】



		事業の優先順位が不明瞭	市税の徴収等が不十分	公共料金や手数料の適正化による歳入増の取組みが不十分	補助金や公共工事の見直しによる歳出の削減が不十分	職員数の削減や合理化が不十分	職員給与の適正化が不十分	その他	無回答
全体(n=226)		33.6	6.6	5.8	10.2	19.5	8.8	6.2	9.3
小学校区別	南小学校区(n=14)	42.9	0.0	7.1	21.4	14.3	7.1	7.1	0.0
	北小学校区(n=25)	56.0	4.0	4.0	8.0	16.0	12.0	0.0	0.0
	西小学校区(n=10)	30.0	10.0	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0	30.0
	新入小学校区(n=31)	16.1	12.9	3.2	16.1	22.6	9.7	9.7	9.7
	盛田小学校区(n=47)	29.8	8.5	4.3	6.4	21.3	10.6	6.4	12.8
	上頓野小学校区(n=29)	37.9	10.3	17.2	0.0	17.2	3.4	3.4	10.3
	下境小学校区(n=14)	35.7	0.0	0.0	7.1	35.7	7.1	0.0	14.3
	福地小学校区(n=11)	18.2	0.0	9.1	27.3	18.2	9.1	18.2	0.0
	中泉小学校区(n=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	植木小学校区(n=13)	38.5	7.7	0.0	23.1	7.7	7.7	0.0	15.4
	東小学校区(n=20)	35.0	0.0	5.0	10.0	25.0	5.0	15.0	5.0
性別	男性(n=106)	32.1	7.5	5.7	9.4	20.8	6.6	6.6	11.3
	女性(n=116)	34.5	5.2	6.0	10.3	19.0	11.2	6.0	7.8
年齢別	10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=10)	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	0.0
	30歳代(n=27)	51.9	3.7	11.1	0.0	11.1	7.4	14.8	0.0
	40歳代(n=31)	54.8	0.0	0.0	6.5	12.9	12.9	3.2	9.7
	50歳代(n=40)	30.0	7.5	7.5	15.0	17.5	5.0	10.0	7.5
	60～64歳(n=21)	9.5	4.8	9.5	19.0	28.6	4.8	4.8	19.0
	65歳以上(n=93)	24.7	9.7	5.4	10.8	23.7	10.8	3.2	11.8

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

7. 秩序ある土地利用の推進

施策内容	・集約型都市構造※への転換及び自然と調和した良好な都市環境づくり ※集約型都市構造とは、銀行、病院等の都市機能の集積を促進する地域とその他の地域を公共交通ネットワークで密接に連携させたもの。		
主な事業	・立地適正化計画策定業務 ・国土利用計画関連業務 等		
満足度評価	-0.13 (38 施策中 34 位)	重要度評価	0.87 (38 施策中 27 位)
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

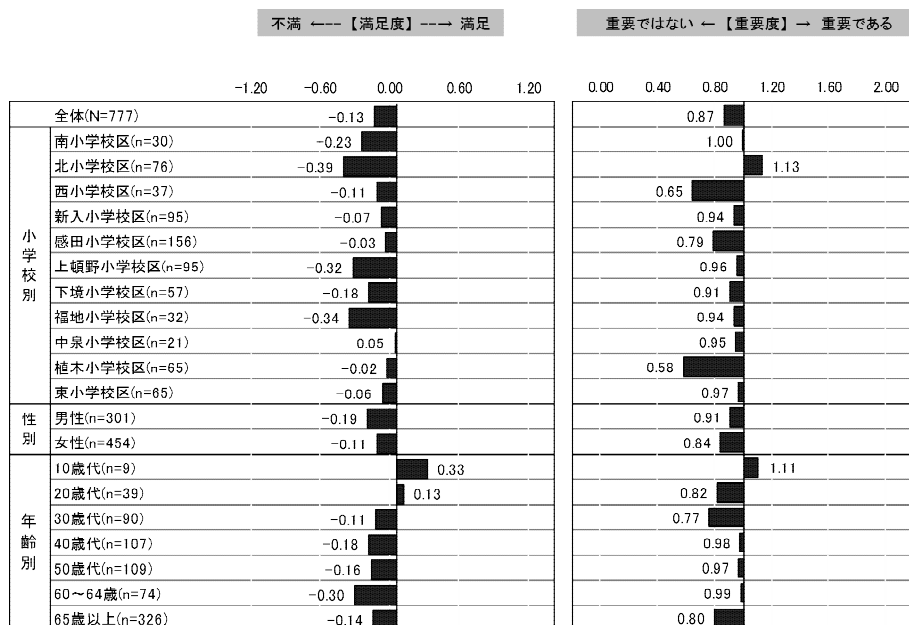
満足度評価	-0.14 (38 施策中 31 位)	重要度評価	1.29 (38 施策中 24 位)
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域（D）に位置する。

満足度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、北、上頓野、福地小学校区で特に低い。年齢別では10歳代、20歳代で平均を上回っている一方、60歳代前半で特に低くなっている。

重要度も全体的に平均を下回っており、小学校区別では、西、植木小学校区で特に低く、年齢別では、20歳代、30歳代、65歳以上で低くなっている。



注：グラフの中央線は全体の平均値（満足度は 0.06、重要度は 1.01）としている。

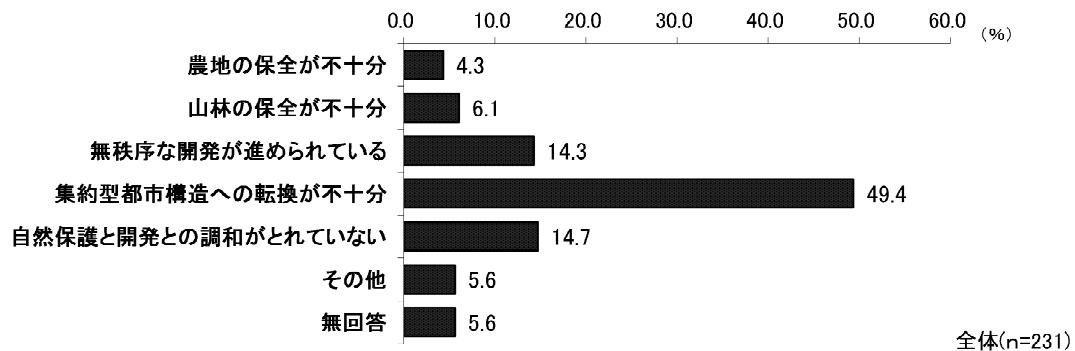
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「集約型都市構造への転換が不十分」が49.4%と突出して高く、次いで、「自然保護と開発との調和がとれていない」が14.7%、並んで「無秩序な開発が進められている」が14.3%となっている。

小学校区別では、西小学校区で「集約型都市構造への転換が不十分」が高くなっている。

年齢別では、30歳代で「集約型都市構造への転換が不十分」が他の年齢層に比べ高くなっている。

【7. 秩序ある土地利用の推進】



		農地の保全が不十分	山林の保全が不十分	無秩序な開発が進められている	集約型都市構造への転換が不十分	自然保護と開発との調和がとれていない	その他	無回答
全体(n=231)		4.3	6.1	14.3	49.4	14.7	5.6	5.6
小学校区別	南小学校区(n=13)	0.0	0.0	15.4	46.2	15.4	23.1	0.0
	北小学校区(n=32)	3.1	0.0	25.0	53.1	18.8	0.0	0.0
	西小学校区(n=10)	10.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0	10.0
	新入小学校区(n=24)	0.0	12.5	20.8	50.0	8.3	4.2	4.2
	感田小学校区(n=39)	0.0	7.7	17.9	53.8	10.3	0.0	10.3
	上頓野小学校区(n=36)	13.9	11.1	5.6	41.7	16.7	8.3	2.8
	下境小学校区(n=18)	0.0	6.3	12.5	56.3	6.3	12.5	8.3
	樺地小学校区(n=13)	15.4	0.0	7.7	38.5	30.8	0.0	7.7
	中泉小学校区(n=5)	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	20.0
	榎木小学校区(n=15)	0.0	6.7	6.7	40.0	33.3	13.3	0.0
	東小学校区(n=19)	5.3	5.3	10.5	63.2	0.0	10.5	5.3
性別	男性(n=108)	8.3	7.4	12.0	48.1	12.0	4.6	7.4
	女性(n=120)	0.8	4.2	16.7	51.7	16.7	6.7	3.3
年齢別	10歳代(n=1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=9)	0.0	0.0	11.1	44.4	33.3	11.1	0.0
	30歳代(n=27)	3.7	0.0	3.7	74.1	11.1	7.4	0.0
	40歳代(n=32)	9.4	3.1	15.6	40.6	12.5	15.6	3.1
	50歳代(n=36)	2.8	5.6	16.7	47.2	19.4	2.8	5.6
	60～64歳(n=23)	0.0	0.0	21.7	56.5	8.7	8.7	4.3
	65歳以上(n=100)	5.0	10.0	15.0	46.0	14.0	2.0	8.0

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

8. 中心市街地整備と賑わい創出

施策内容	・ 中心市街地の賑わいの創出		
主な事業	・ 都市機能の中心市街地への集積促進 等		
満足度評価	-0.57 (38 施策中 37 位)	重要度評価	1.01 (38 施策中 18 位)
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

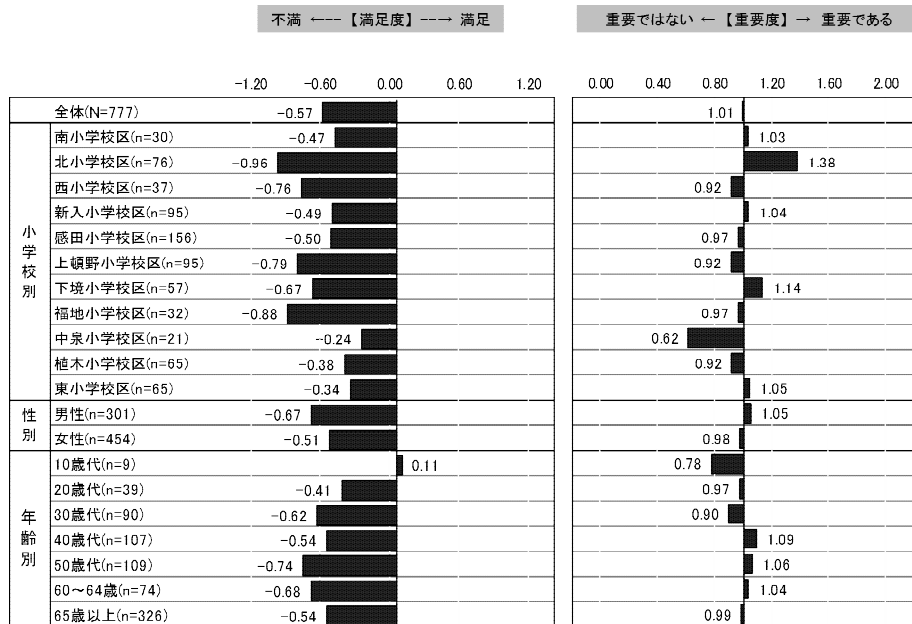
満足度評価	-0.81 (38 施策中 37 位)	重要度評価	1.45 (38 施策中 20 位)
散布図象限	A	重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査では、重要度が高く、満足度が低位にある、重点化・見直しの領域（A）に位置していたが、今回調査では、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域（D）に位置する。

満足度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、北、福地小学校区で特に低くなっている。

重要度は、小学校区別では、北小学校区が高い一方、中泉小学校区が低くなっている。年別では 10 歳代で低くなっている。



注：グラフの中央線は全体の平均値（満足度は 0.06、重要度は 1.01）としている。

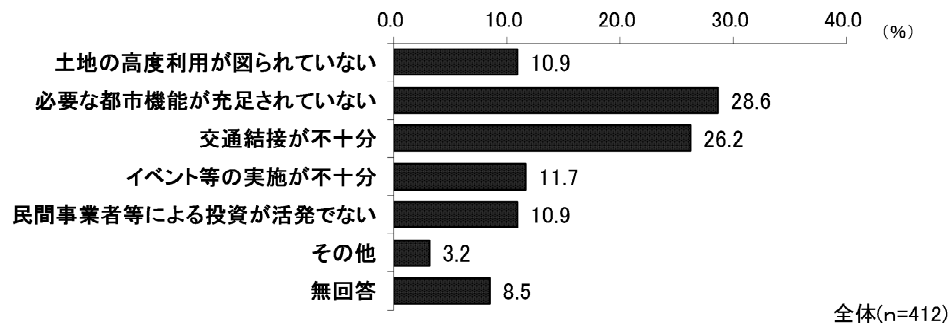
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「必要な都市機能が充足されていない」が28.6%と最も高く、次いで「交通結接が不十分」が26.2%となっている。

小学校区別では、南小学校区で「必要な都市機能が充足されていない」「民間事業者等による投資が活発でない」、西小学校区で「土地の高度利用が図られていない」、中泉小学校区で「イベントなどの実施が不十分」が高くなっている。

性別では、女性の方が「交通結接が不十分」が男性よりも高くなっている。

【8. 中心市街地整備と賑わい創出】



		て土地 ない高 度利用 が図ら れ	れて必 要な都 市機能 が充足 さ	交通結 接が不 十分	分イベ ント等 の実施 が不十 分	が民間 事業者 等によ る投資	その他	無回 答
全体(n=412)		10.9	28.6	26.2	11.7	10.9	3.2	8.5
小 学 校 区 別	南小学校区(n=17)	5.9	41.2	11.8	5.9	29.4	0.0	5.9
	北小学校区(n=52)	13.5	40.4	17.3	7.7	13.5	3.8	3.8
	西小学校区(n=22)	22.7	31.8	22.7	4.5	4.5	4.5	8.1
	新入小学校区(n=47)	6.4	21.3	28.8	12.8	14.9	2.1	12.8
	鶴田小学校区(n=78)	6.4	28.5	28.5	14.1	9.0	1.3	10.3
	上頓野小学校区(n=57)	7.0	26.3	26.3	14.0	10.5	7.0	8.8
	下城小学校区(n=31)	16.1	25.8	32.3	3.2	3.2	9.7	9.7
	福地小学校区(n=21)	4.8	28.6	33.3	14.3	9.5	0.0	9.5
	中泉小学校区(n=7)	0.0	14.3	14.3	28.6	14.3	0.0	28.6
	植木小学校区(n=32)	18.8	25.0	28.1	12.5	9.4	0.0	6.3
	東小学校区(n=31)	12.9	25.8	25.8	19.4	9.7	3.2	3.2
性 別	男性(n=178)	12.4	29.2	20.2	13.5	12.4	4.5	7.8
	女性(n=224)	9.4	28.1	30.8	10.3	9.8	2.2	9.4
年 齢 別	10歳代(n=3)	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=19)	0.0	31.6	21.1	21.1	15.8	5.3	5.3
	30歳代(n=49)	20.4	30.8	10.2	14.3	12.2	2.0	10.2
	40歳代(n=53)	13.2	18.9	32.1	9.4	15.1	5.7	5.7
	50歳代(n=71)	15.5	25.4	29.8	7.0	12.7	4.2	5.6
	60～64歳(n=43)	9.3	37.2	23.3	16.3	7.0	0.0	7.0
	65歳以上(n=164)	6.7	29.9	28.7	11.0	9.1	3.0	11.8

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

9. 公園の適正な配置と管理

施策内容	・安全で安心な公園整備と適正配置の推進 ・地域ボランティアによる維持管理		
主な事業	・中央公園整備事業 ・公園維持管理業務 等		
満足度評価	－0.10（38 施策中 30 位）	重要度評価	0.94（38 施策中 22 位）
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果（平成 29 年9月実施）】

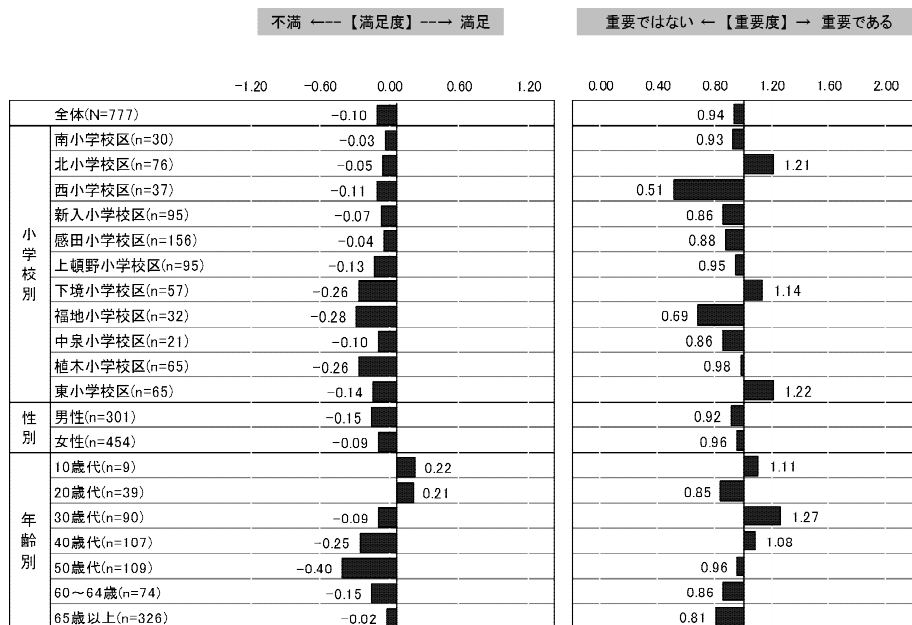
満足度評価	－0.53（38 施策中 36 位）	重要度評価	1.47（38 施策中 19 位）
散布図象限	A	重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）	

（１）満足度・重要度の評価傾向

前回調査では、重要度が高く、満足度が低位にある、重点化・見直しの領域（A）に位置していたが、今回調査では、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域（D）に位置する。

満足度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、下境、福地、植木小学校区で特に低い。年齢別では、50 歳代で最も低くなっている。

重要度は、小学校区別では、北、下境、東小学校区で平均を上回る一方、西、福地小学校区で特に低くなっている。年齢別では 30 歳代が最も高くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

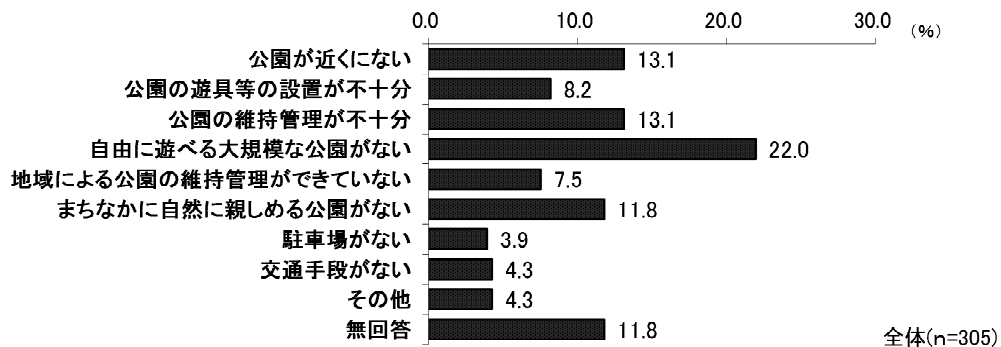
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「自由に遊べる大規模な公園がない」が22.0%で最も高く、次いで「公園が近くにない」と「公園の維持管理が不十分」が13.1%となっている。

小学校区別では、福地小学校区で「公園が近くにない」、西小学校区で「公園の維持管理が不十分」などが高くなっている。

年齢別では、30～50歳代で「自由に遊べる大規模な公園がない」が他の年齢層に比べ高くなっている。

【9. 公園の適正な配置と管理】



	公園が近くにない	公園の遊具等の設置が不十分	公園の維持管理が不十分	自由に遊べる大規模な公園がない	地域による公園の維持管理ができていない	まちなかに自然に親しめる公園がない	駐車場がない	交通手段がない	その他	無回答
全体(n=305)	13.1	8.2	13.1	22.0	7.5	11.8	3.9	4.3	4.3	11.8
小学校区別										
南小学校区(n=13)	7.7	7.7	15.4	15.4	15.4	15.4	0.0	7.7	0.0	15.4
北小学校区(n=30)	3.3	13.3	13.3	26.7	6.7	16.7	3.3	0.0	3.3	13.3
西小学校区(n=14)	0.0	7.1	28.6	35.7	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1
新入小学校区(n=34)	11.8	5.9	14.7	38.2	2.9	8.8	0.0	0.0	5.9	11.8
感田小学校区(n=58)	12.1	6.9	17.2	12.1	13.8	13.8	6.9	1.7	5.2	10.3
上頓野小学校区(n=40)	22.5	5.0	17.5	15.0	2.5	10.0	5.0	10.0	5.0	7.5
下境小学校区(n=26)	19.2	19.2	0.0	30.8	7.7	7.7	0.0	0.0	7.7	7.7
福地小学校区(n=14)	35.7	0.0	7.1	21.4	7.1	0.0	7.1	0.0	7.1	14.3
中東小学校区(n=8)	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0
植木小学校区(n=28)	10.7	10.7	7.1	28.6	3.6	7.1	10.7	7.1	0.0	14.3
東小学校区(n=30)	6.7	10.0	19.3	13.3	16.7	20.0	0.0	3.3	6.7	10.0
性別										
男性(n=128)	14.8	8.6	16.4	22.7	9.4	8.6	4.7	3.1	2.3	9.4
女性(n=174)	12.1	8.0	10.9	21.8	6.3	14.4	3.4	4.6	5.7	12.6
年齢別										
10歳代(n=2)	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=11)	18.2	9.1	18.2	18.2	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1
30歳代(n=42)	11.9	16.7	11.9	21.4	4.8	7.1	4.8	0.0	9.5	11.9
40歳代(n=49)	16.3	6.1	6.1	28.6	4.1	16.3	4.1	2.0	4.1	12.2
50歳代(n=55)	10.9	7.3	12.7	29.1	5.5	16.4	3.6	1.8	3.6	9.1
60～64歳(n=29)	6.9	10.3	24.1	17.2	3.4	8.9	3.4	6.9	3.4	17.2
65歳以上(n=113)	15.0	6.2	13.3	17.7	12.4	12.4	3.5	6.2	3.5	9.7

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

10. 良好な住環境の確保

施策内容	・良好な住環境の確保の推進 ・市営住宅の計画的建替えの推進		
主な事業	・住宅リフォーム補助事業 ・市営住宅建替え 等		
満足度評価	-0.08 (38 施策中 27 位)	重要度評価	0.81 (38 施策中 30 位)
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い(改善・見直し領域)	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

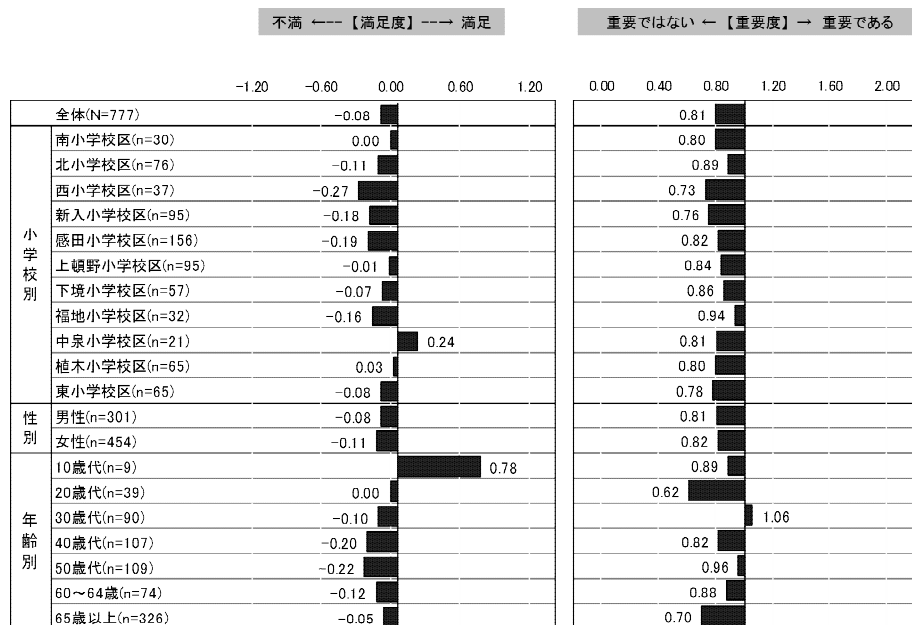
満足度評価	-0.07 (38 施策中 28 位)	重要度評価	1.04 (38 施策中 33 位)
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い(改善・見直し領域)	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域(D)に位置する。

満足度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、中泉小学校区が唯一平均を上回っている。年齢別では10歳代が突出して高い。

重要度も、全体的に平均を下回っている。年齢別では、20歳代、65歳以上で特に低くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

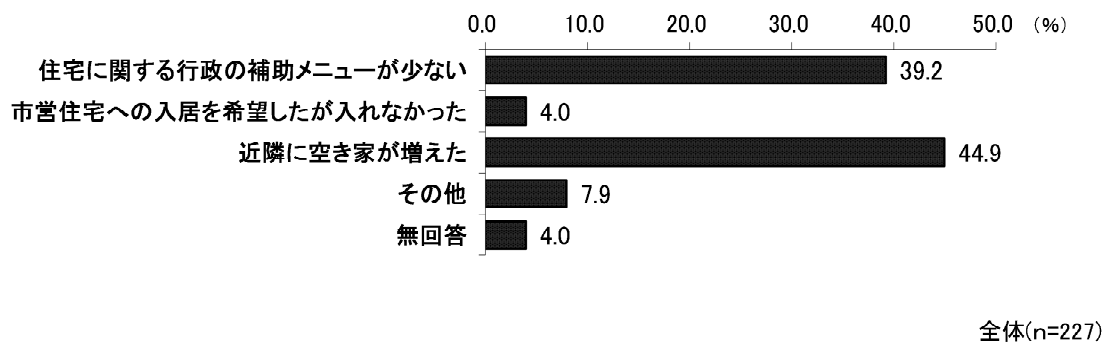
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「近所に空き家が増えた」が44.9%と最も高く、次いで「住宅に関する行政からの補助メニューが少ない」が39.2%となっている。

小学校区別では、福地、西小学校区で「住宅に関する行政からの補助メニューが少ない」、南、新入小学校区で「近隣に空き家が増えた」がそれぞれ他に比べ高くなっている。

年齢別では、50歳代で「住宅に関する行政からの補助メニューが少ない」、60歳代前半で「近隣に空き家が増えた」が特に高くなっている。

【10. 良好な住環境の確保】



		住宅に関する行政の補助メニューが少ない	市営住宅への入居を希望したが入れなかった	近隣に空き家が増えた	その他	無回答
全体(n=227)		39.2	4.0	44.9	7.9	4.0
小学校区別	南小学校区(n=10)	30.0	0.0	60.0	0.0	10.0
	北小学校区(n=22)	45.5	0.0	45.5	9.1	0.0
	西小学校区(n=16)	56.3	0.0	25.0	18.8	0.0
	新入小学校区(n=28)	17.9	7.1	57.1	10.7	7.1
	恵田小学校区(n=35)	38.4	3.8	47.3	5.5	7.3
	上頓野小学校区(n=22)	50.0	9.1	36.4	0.0	4.5
	下境小学校区(n=17)	47.1	0.0	41.2	11.8	0.0
	福地小学校区(n=10)	60.0	0.0	30.0	10.0	0.0
	中泉小学校区(n=4)	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0
	榑木小学校区(n=18)	44.4	0.0	50.0	5.8	0.0
	真小学校区(n=18)	42.1	10.5	36.8	10.5	0.0
性別	男性(n=98)	38.5	3.1	51.0	6.3	1.0
	女性(n=130)	40.0	4.8	40.0	9.2	6.2
年齢別	10歳代(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=9)	33.3	11.1	44.4	11.1	0.0
	30歳代(n=28)	48.4	3.8	35.7	10.7	3.8
	40歳代(n=38)	44.4	5.8	33.3	16.7	0.0
	50歳代(n=37)	56.8	2.7	32.4	5.4	2.7
	60～64歳(n=22)	27.3	9.1	59.1	0.0	4.5
	65歳以上(n=82)	31.5	2.2	54.3	6.5	5.4

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

11. 交通網の充実

施策内容	・幹線道路や生活道路の整備の促進 ・新設道路等のバリアフリー化の推進		
主な事業	・道路整備、維持事業 ・コミュニティバスの運行 ・都市計画道路見直し業務 等		
満足度評価	−0.37 (38 施策中 36 位)	重要度評価	1.32 (38 施策中 7 位)
散布図象限	A	重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

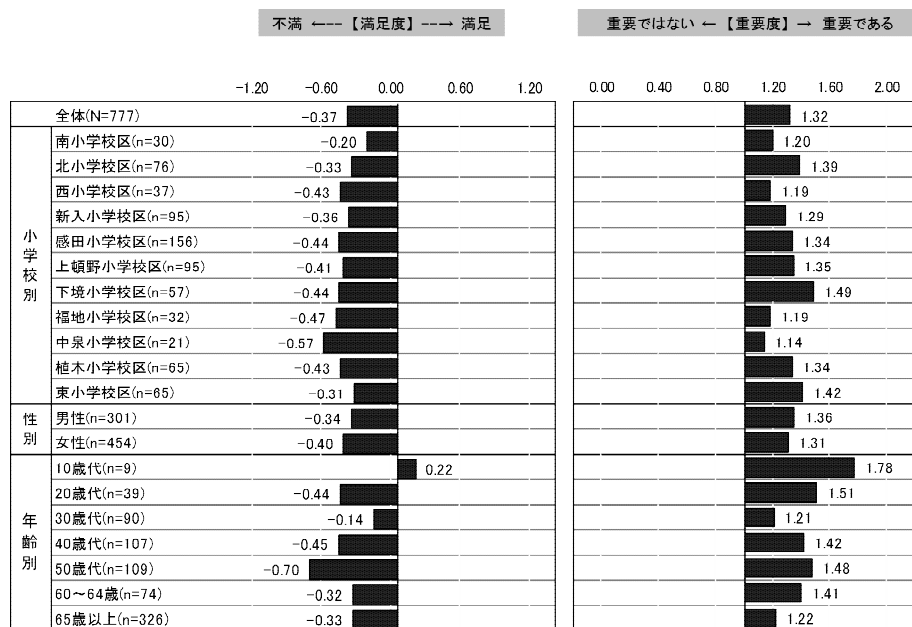
満足度評価	−0.41 (38 施策中 35 位)	重要度評価	1.72 (38 施策中 9 位)
散布図象限	A	重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、重要度が高いが、満足度が相対的に低く、重点化・見直しの領域（A）に位置している。

満足度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、中泉小学校区が最も低い。年齢別では、10 歳代が平均を上回っており、50 歳代が最も低くなっている。

重要度は、全ての属性で平均を上回っているが、小学校区別では、下境小学校区で特に高くなっている。年齢別では、10 歳代、20 歳代で高い傾向にある。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

(2) 不満の理由

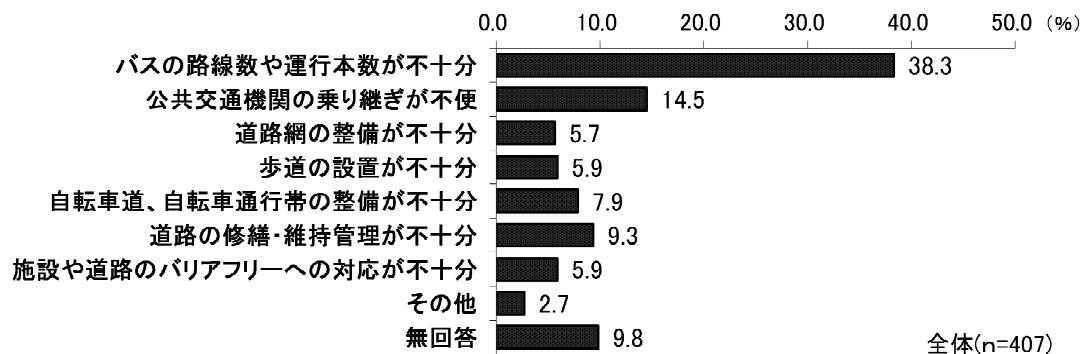
不満の理由としては、「バスの路線数や運行本数が不十分」が38.3%と最も高く、次いで「公共交通機関の乗り継ぎが不便」が14.5%となっている。

小学校区別では、福地、中泉小学校区で「バスの路線数や運行本数が不十分」が、さらに中泉小学校区では「道路の修繕・維持管理が不十分」が高い。

性別では、女性で「バスの路線数や運行本数が不十分」が男性を大きく上回っている。

年齢別では、65歳以上で「バスの路線数や運行本数が不十分」が特に高くなっている。

【11. 交通網の充実】



		バスの路線数や運行本数が不十分	公共交通機関の乗り継ぎが不便	道路網の整備が不十分	歩道の設置が不十分	自転車道、自転車通行帯の整備が不十分	道路の修繕・維持管理が不十分	施設や道路のバリアフリーへの対応が不十分	その他	無回答
全体(n=407)		38.3	14.5	5.7	5.9	7.9	9.3	5.9	2.7	9.8
小学校区別	南小学校区(n=15)	33.3	6.7	13.3	20.0	0.0	6.7	13.3	0.0	6.7
	北小学校区(n=42)	28.6	9.5	7.1	4.8	14.3	7.1	11.9	4.8	11.9
	西小学校区(n=19)	31.6	15.8	10.5	15.8	5.3	5.3	5.3	0.0	10.5
	新入小学校区(n=44)	22.7	22.7	6.8	0.0	9.1	13.6	9.1	0.0	15.9
	盛田小学校区(n=86)	33.7	17.4	3.5	5.8	8.1	4.7	8.1	5.8	12.8
	上頓野小学校区(n=54)	35.2	24.1	1.9	5.6	3.7	18.5	1.9	0.0	9.3
	下境小学校区(n=31)	51.6	6.5	9.7	0.0	9.7	9.7	0.0	6.5	6.5
	福地小学校区(n=18)	57.9	15.8	5.3	5.3	10.5	5.3	0.0	0.0	0.0
	中泉小学校区(n=14)	57.1	0.0	0.0	0.0	7.1	35.7	0.0	0.0	0.0
	植木小学校区(n=37)	48.6	10.8	5.4	13.5	2.7	2.7	5.4	0.0	10.8
	東小学校区(n=32)	46.9	6.3	9.4	6.3	6.3	6.3	3.1	6.3	9.4
性別	男性(n=153)	30.7	17.0	11.1	5.9	9.2	9.8	4.6	3.3	8.5
	女性(n=247)	42.5	12.6	2.4	6.1	7.3	9.3	8.5	2.4	10.9
年齢別	10歳代(n=3)	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=20)	30.0	15.0	5.0	0.0	10.0	15.0	5.0	15.0	5.0
	30歳代(n=41)	26.8	12.2	4.9	7.3	12.2	7.3	12.2	4.9	12.2
	40歳代(n=57)	24.8	21.1	6.8	7.0	12.3	7.0	7.0	1.8	10.5
	50歳代(n=74)	32.4	14.9	12.2	6.8	6.8	10.8	2.7	1.4	12.2
	60～64歳(n=38)	36.8	10.5	0.0	10.5	2.6	18.4	7.9	0.0	13.2
	65歳以上(n=186)	49.4	12.7	3.6	4.2	7.2	7.8	4.8	2.4	7.8

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

12. 安全・良好な水道水の安定供給

施策内容	・浄水場や配水管等の計画的な整備 ・合理的な業務運営		
主な事業	・配水管更新、維持管理事業 ・浄水事業 等		
満足度評価	0.26 (38 施策中 7 位)	重要度評価	1.33 (38 施策中 6 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

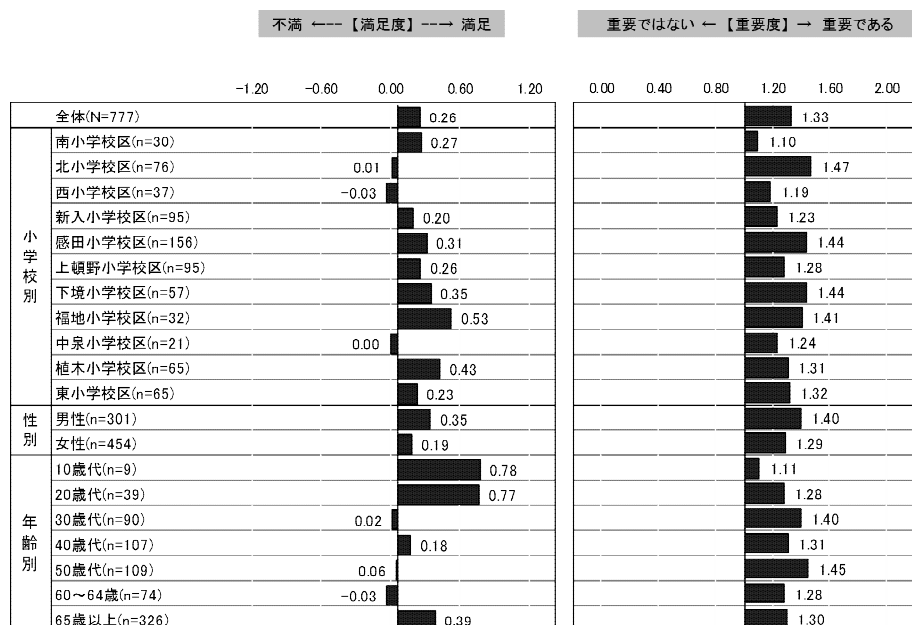
満足度評価	0.24 (38 施策中 12 位)	重要度評価	1.84 (38 施策中 3 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに高位にあり、現状の水準を維持していくことが必要な領域（B）に位置する。

満足度は、全体的に平均を上回っているが、小学校区別では、北、西、中泉小学校区で平均を下回っている。年齢別では、10 歳代、20 歳代が特に高くなっている。

重要度は、全ての属性で平均を上回っている。小学校区別では、北、感田、下境、福地小学校区などで高くなっている。年齢別では、30 歳代、50 歳代で高くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

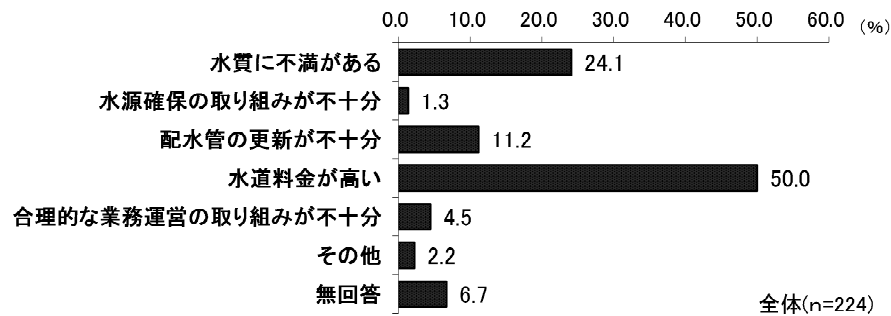
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「水道料金が低い」が50.0%と突出して高く、次いで「水質に不満がある」が24.1%となっている。

小学校区別では、西小学校区で「水質に不満がある」「配水管の更新が不十分」が高く、北、植木小学校区で「水道料金が低い」が高くなっている。

性別では、女性では「水道料金が低い」が男性を大きく上回っている。

【12. 安全・良好な水道水の安定供給】



		水質に不満がある	水源確保の取り組みが不十分	配水管の更新が不十分	水道料金が低い	合理的な業務運営の取り組みが不十分	その他	無回答
小学校区別	全体(n=224)	24.1	1.3	11.2	50.0	4.5	2.2	6.7
	南小学校区(n=9)	33.3	0.0	11.1	33.3	11.1	11.1	0.0
	北小学校区(n=29)	17.2	0.0	8.9	72.4	0.0	0.0	3.4
	西小学校区(n=14)	50.0	0.0	35.7	14.3	0.0	0.0	0.0
	新入小学校区(n=26)	19.2	0.0	7.7	46.2	3.8	0.0	23.1
	藤田小学校区(n=41)	24.4	0.0	4.9	58.5	2.4	2.4	7.3
	上頓野小学校区(n=27)	7.4	3.7	7.4	55.6	22.2	0.0	3.7
	下城小学校区(n=16)	37.5	0.0	12.5	43.8	6.3	0.0	0.0
	福地小学校区(n=8)	25.0	0.0	12.5	50.0	0.0	0.0	12.5
	中泉小学校区(n=8)	37.5	0.0	25.0	37.5	0.0	0.0	0.0
	植木小学校区(n=16)	18.8	0.0	12.5	68.8	0.0	0.0	0.0
	東小学校区(n=20)	20.0	5.0	20.0	35.0	0.0	15.0	5.0
	男性(n=89)	24.7	1.1	11.2	44.9	7.9	3.4	6.7
	女性(n=131)	22.9	0.8	11.5	55.0	2.3	1.5	6.1
年齢別	10歳代(n=1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=3)	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
	30歳代(n=31)	29.0	0.0	9.7	54.8	3.2	3.2	0.0
	40歳代(n=28)	28.6	0.0	7.1	50.0	3.8	7.1	3.6
	50歳代(n=45)	35.6	0.0	11.1	40.0	6.7	0.0	6.7
	60～64歳(n=26)	15.4	3.8	11.5	53.8	0.0	0.0	15.4
	65歳以上(n=86)	16.3	1.2	14.0	53.5	5.8	2.3	7.0

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

13. 下水道の整備

施策内容	・ 公共下水道の整備と下水道へのつなぎこみの促進 ・ 農業集落排水事業と合併処理浄化槽の促進		
主な事業	・ 公共下水道整備事業 ・ 合併処理浄化槽設置整備事業補助金交付事業 等		
満足度評価	-0.16 (38 施策中 35 位)	重要度評価	1.15 (38 施策中 13 位)
散布図象限	A	重要度が高く、満足度が低い (重点化・見直し領域)	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

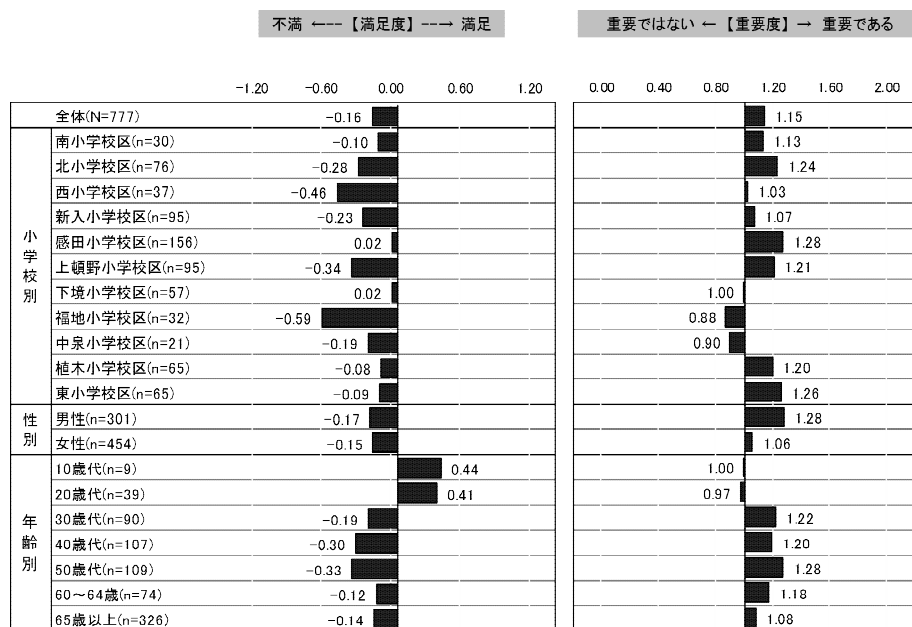
満足度評価	-0.31 (38 施策中 34 位)	重要度評価	1.70 (38 施策中 10 位)
散布図象限	A	重要度が高く、満足度が低い (重点化・見直し領域)	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様、重要度が高いが、満足度が相対的に低く、重点化・見直しの領域(A)に位置する。

満足度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、西、福地小学校区で特に低くなっている。また、年齢別では 40～50 歳代で低い。

重要度は、全体的に平均を上回っているが、小学校区別では、福地、中泉小学校区で平均を下回っている。性別では男性が、年齢別では 50 歳代で高くなっている。一方、10 歳代、20 歳代で低くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

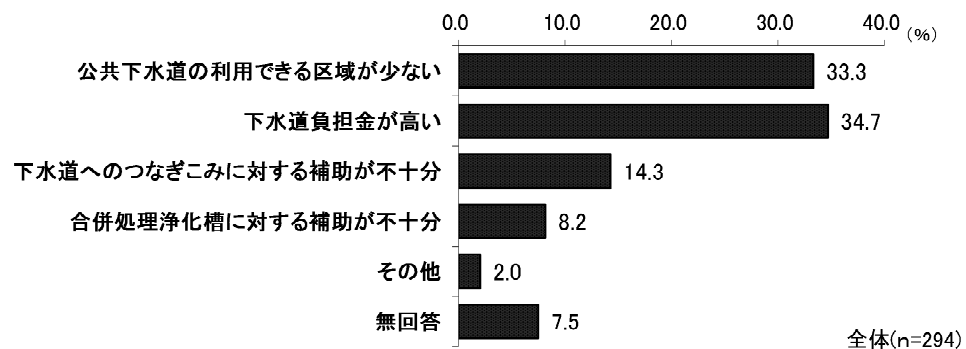
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「下水道負担金が高い」が34.7%と最も高く、次いで「公共下水道の利用できる区域が少ない」33.3%となっている。

小学校区別では、西小学校区で「公共下水道の利用できる区域が少ない」、植木小学校区で「下水道負担金が高い」が他に比べ高くなっている。

性別では、女性で「下水道負担金が高い」が男性と比べ特に高くなっている。

【13. 下水道の整備】



		公共下水道 利用できる 区域が少ない	下水道負担 金が高い	下水道への つなぎこみ に対する補助 が不十分	合併処理 浄化槽に 対する補助 が不十分	その他	無回答
全体(n=294)		33.3	34.7	14.3	8.2	2.0	7.5
小学校 区別	南小学校区(n=13)	30.8	23.1	23.1	15.4	7.7	0.0
	北小学校区(n=33)	18.2	45.5	15.2	6.1	3.0	12.1
	西小学校区(n=17)	70.6	0.0	5.9	17.6	0.0	5.9
	新入小学校区(n=39)	28.2	35.9	17.9	7.7	0.0	10.3
	感田小学校区(n=52)	17.3	46.2	19.2	5.8	1.9	9.6
	上頓野小学校区(n=41)	53.7	19.5	4.9	7.3	4.9	9.8
	下境小学校区(n=16)	37.5	31.3	25.0	0.0	0.0	6.3
	福地小学校区(n=14)	57.1	7.1	7.1	21.4	0.0	7.1
	中泉小学校区(n=7)	57.1	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0
	植木小学校区(n=28)	14.3	57.1	21.4	7.1	0.0	0.0
	東小学校区(n=22)	36.4	40.9	9.1	4.5	4.5	4.5
性別	男性(n=128)	36.7	28.1	17.2	7.8	1.6	8.6
	女性(n=158)	29.7	40.5	12.0	8.2	2.5	7.0
年齢 別	10歳代(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=6)	16.7	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0
	30歳代(n=34)	32.4	35.3	8.8	2.9	2.9	17.6
	40歳代(n=44)	27.3	31.8	18.2	13.6	0.0	9.1
	50歳代(n=49)	36.7	42.9	8.2	8.2	2.0	2.0
	60～64歳(n=27)	37.0	33.3	14.8	3.7	0.0	11.1
	65歳以上(n=125)	32.8	32.8	16.8	8.0	3.2	6.4

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

14. 環境保全の推進

施策内容	・里地里山の保全と自然エネルギー等の活用の推進 ・遠賀川等の自然環境の活用及び環境教育の推進		
主な事業	・里地里山の保全事業 ・環境基本計画の推進 ・遠賀川河川敷の適正な管理 ・河川敷オートキャンプ場の活用 等		
満足度評価	0.37 (38 施策中 5 位)	重要度評価	0.82 (38 施策中 29 位)
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

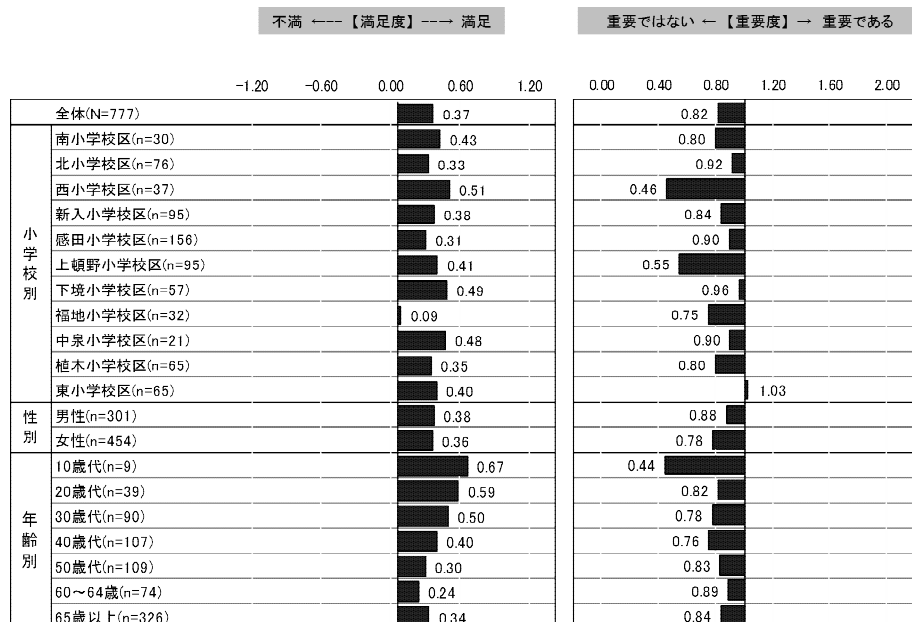
満足度評価	0.29 (38 施策中 7 位)	重要度評価	1.16 (38 施策中 29 位)
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度の評価がやや高く、重要度の評価が低く、現状維持・見直しの領域（C）に位置する。

満足度は、全ての属性で平均を上回っている。小学校区別では、西、下境、中泉小学校区で高くなっている。年齢別では、65 歳以上を除き、年齢が上がるほど満足度が低くなる傾向にある。

重要度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、西、上頓野小学校区で特に低くなっている。年齢別では 10 歳代で低くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

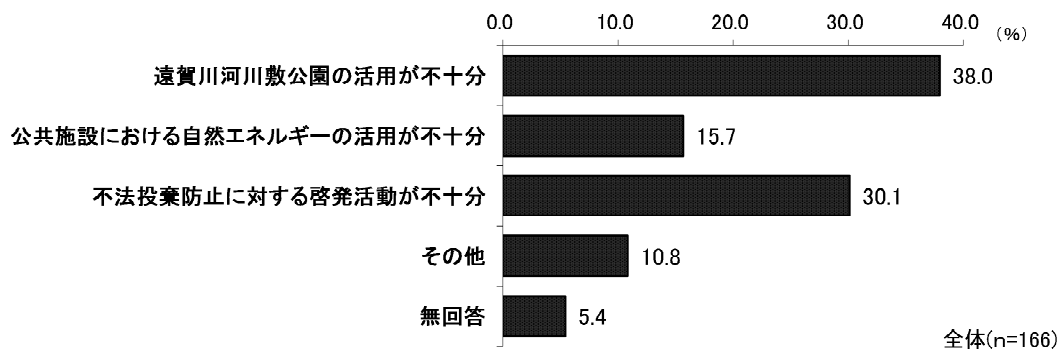
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「遠賀川河川敷公園の活用が不十分」が38.0%と最も高く、次いで「不法投棄防止に対する啓発活動が不十分」30.1%となっている。

小学校区別では、西、上頓野小学校区が「遠賀川河川敷公園の活用が不十分」、福地小学校区で「不法投棄防止に対する啓発活動が不十分」が高くなっている。

年齢別では、20歳代で「遠賀川河川敷公園の活用が不十分」、40歳代で「公共施設における自然エネルギーの活用が不十分」、50歳代以上で「不法投棄防止に対する啓発活動が不十分」が高くなっている。

【14. 環境法全の推進】



		遠賀川河川敷公園の活用が不十分	公共施設における自然エネルギーの活用が不十分	不法投棄防止に対する啓発活動が不十分	その他	無回答
全体(n=166)		38.0	15.7	30.1	10.8	5.4
小学校区別	南小学校区(n=7)	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3
	北小学校区(n=18)	50.0	18.7	22.2	11.1	0.0
	西小学校区(n=5)	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	新入小学校区(n=21)	18.0	18.0	33.3	19.0	9.5
	感田小学校区(n=34)	38.2	17.6	20.6	14.7	8.8
	上頓野小学校区(n=18)	61.1	18.7	18.7	5.6	0.0
	下境小学校区(n=11)	27.3	18.2	38.4	18.2	0.0
	福地小学校区(n=11)	9.1	18.2	54.5	9.1	9.1
	中泉小学校区(n=4)	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0
	植木小学校区(n=13)	46.2	0.0	46.2	7.7	0.0
	東小学校区(n=17)	47.1	11.8	23.5	5.9	11.8
性別	男性(n=88)	38.2	17.4	30.4	11.6	4.3
	女性(n=95)	38.9	14.7	29.5	10.5	6.3
年齢別	10歳代(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=7)	71.4	0.0	28.6	0.0	0.0
	30歳代(n=22)	45.5	13.6	22.7	13.6	4.5
	40歳代(n=19)	21.1	36.8	10.5	21.1	10.5
	50歳代(n=28)	41.4	13.8	31.0	13.8	0.0
	60～64歳(n=18)	52.6	5.3	31.6	0.0	10.5
	65歳以上(n=67)	28.9	18.4	37.3	10.4	6.0

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

15. 循環型社会の推進

施策内容	・ ゴミの減量化の推進 ・ 資源リサイクル		
主な事業	・ 資源リサイクル推進（地域資源回収、拠点回収）事業 ・ 生ゴミ処理容器購入費補助金事業 等		
満足度評価	0.50（38 施策中 4 位）	重要度評価	1.42（38 施策中 3 位）
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

【参考資料／前回調査結果（平成 29 年9月実施）】

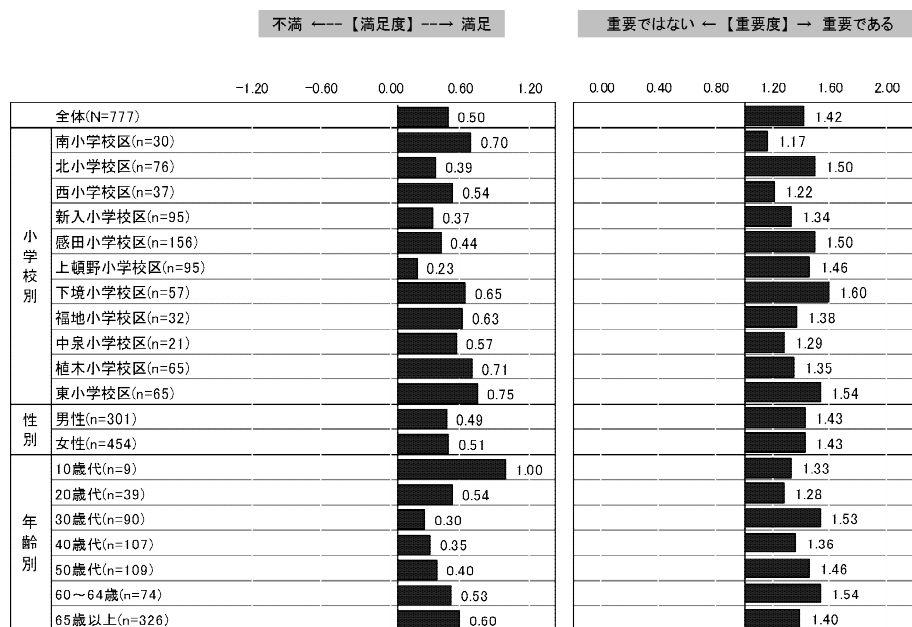
満足度評価	0.66（38 施策中 3 位）	重要度評価	1.77（38 施策中 7 位）
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

（1）満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに高位にあり、現状の水準を維持していくことが必要な領域（B）に位置する。

満足度は、全ての属性で平均を上回っている。小学校区別では、南、植木、東小学校区で高い。年齢別では、10 歳代が突出して高く、30 歳代以降は、年齢が上がるにつれ高くなっている。

重要度は、全ての属性で平均を上回っている。小学校区別では、下境小学校区で最も高い。また、年齢別では、30 歳代及び 60 歳代前半で高くなっている。



注：グラフの中央線は全体の平均値（満足度は 0.06、重要度は 1.01）としている。

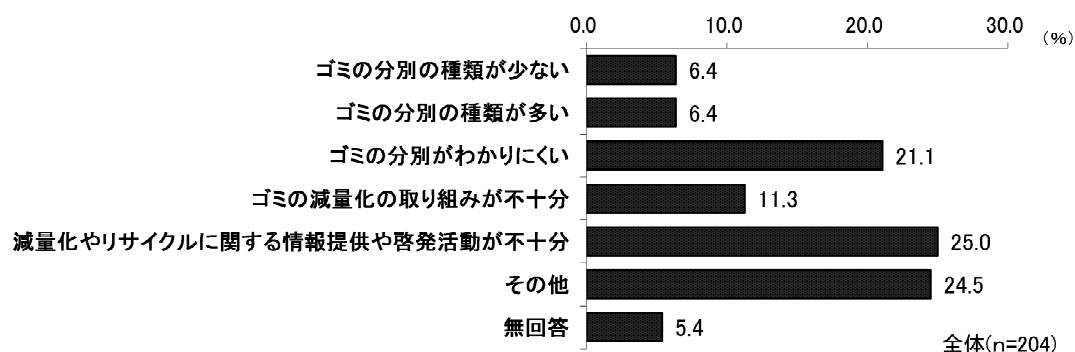
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「減量化やリサイクルに関する情報提供や啓発活動が不十分」が25.0%と最も高く、次いで、「その他」が24.5%、「ゴミの分別がわかりにくい」が21.1%となっている。なお、「その他」の理由で多くあげられていたのが、市指定のゴミ袋の料金や品質への不満であった。

小学校区別では、西、中泉小学校区で「ゴミの分別の種類が少ない」、一方、福地小学校区で「ゴミの分別がわかりにくい」が高くなっている。

性別では、「ゴミの分別がわかりにくい」は男性が女性を大きく上回る一方、ゴミ袋への不満が多い「その他」は、女性が男性を大きく上回っている。年齢別では、20歳代で「ゴミの分別がわかりにくい」、60歳代前半で「減量化やリサイクルに関する情報提供や啓発活動が不十分」が高くなっている。

【15. 循環型社会の推進】



		い ゴミ の 分別 の 種類 が 少 な い	ゴミ の 分別 の 種類 が 多 い	い ゴミ の 分別 が わ か り に く い	が ゴミ の 減 量 化 の 取 組 み が 不 十 分	が 減 量 化 や リ サ イ ク ル に 関 する 情 報 提 供 や 啓 発 活 動 が 不 十 分	そ の 他	無 回 答
全体(n=204)		8.4	8.4	21.1	11.3	25.0	24.5	5.4
小 学 校 区 別	南小学校区(n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	40.0	0.0
	北小学校区(n=25)	8.0	4.0	24.0	8.0	16.0	36.0	4.0
	西小学校区(n=9)	22.2	0.0	33.3	11.1	11.1	11.1	11.1
	新入小学校区(n=28)	6.9	6.9	13.8	10.3	20.7	27.6	13.8
	藤田小学校区(n=44)	6.8	9.1	27.3	9.1	18.2	27.3	2.3
	上頼野小学校区(n=34)	5.9	0.0	17.6	11.8	35.3	23.5	5.9
	下境小学校区(n=12)	0.0	0.0	8.3	25.0	50.0	16.7	0.0
	福地小学校区(n=5)	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0
	中泉小学校区(n=5)	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0	0.0
	榎木小学校区(n=13)	0.0	15.4	15.4	7.7	23.1	23.1	15.4
	東小学校区(n=15)	6.7	6.7	26.7	26.7	20.0	13.3	0.0
性 別	男性(n=78)	8.4	6.4	26.9	14.1	25.6	15.4	5.1
	女性(n=123)	8.5	8.5	18.3	9.8	25.2	30.1	5.7
年 齢 別	10歳代(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=8)	0.0	22.2	55.6	0.0	11.1	11.1	0.0
	30歳代(n=29)	10.3	3.4	13.8	10.3	20.7	34.5	6.9
	40歳代(n=32)	9.4	6.3	21.9	3.1	6.3	46.9	6.3
	50歳代(n=34)	8.8	8.8	20.6	11.8	17.6	32.4	0.0
	60～64歳(n=21)	4.8	0.0	9.5	23.8	47.6	4.8	9.5
	65歳以上(n=75)	2.7	6.7	21.3	13.3	34.7	14.7	6.7

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

16. 災害対策の推進

施策内容	・ 自主防災組織の設立支援 ・ 緊急時の情報手段の拡充 ・ 防災のための河川改修		
主な事業	・ 防災体制整備事業 等		
満足度評価	-0.11 (38 施策中 32 位)	重要度評価	1.45 (38 施策中 2 位)
散布図象限	A	重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

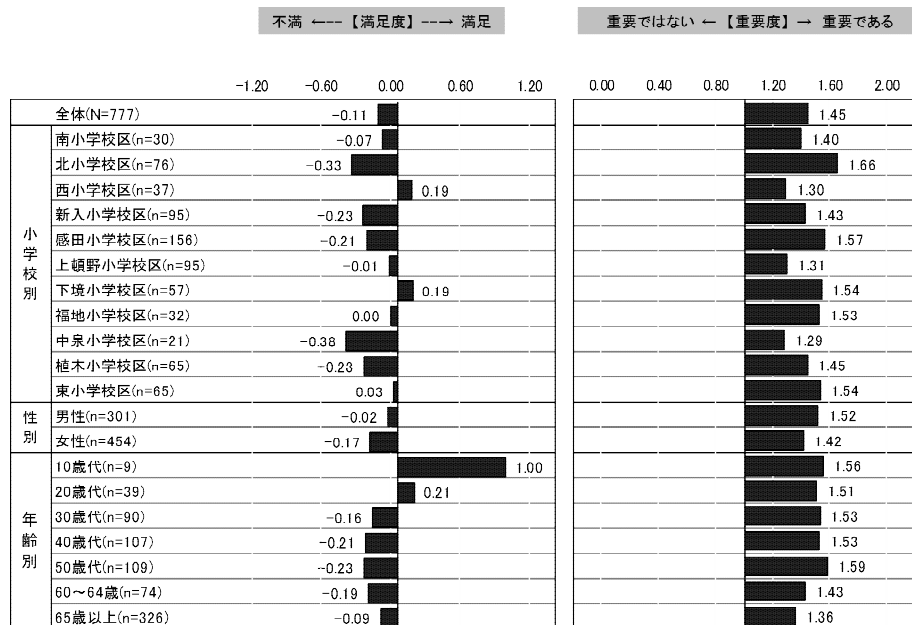
満足度評価	0.08 (38 施策中 22 位)	重要度評価	1.85 (38 施策中 2 位)
散布図象限	A	重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、重要度が高いが、満足度が相対的に低く、重点化・見直しの領域（A）に位置する。

満足度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、北、中泉小学校区で特に低くなっている。年齢別では、10 歳代、20 歳代で高くなっている。

重要度は、全ての属性において平均を上回り、小学校区別では、北小学校区で特に高くなっている。また、60 歳代以上で低くなっている。



注：グラフの中央線は全体の平均値（満足度は 0.06、重要度は 1.01）としている。

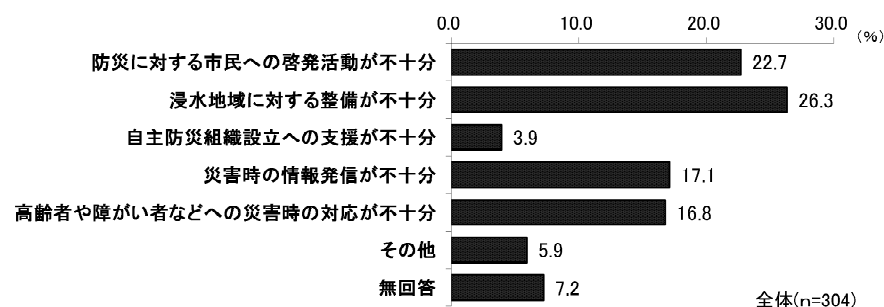
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「浸水地域に対する整備が不十分」が26.3%と最も高く、次いで「防災に対する市民への啓発活動が不十分」が22.7%、「災害時の情報発信が不十分」が17.1%となっている。

小学校区別では、北小学校区で「浸水地域に対する整備が不十分」、福地小学校区で「災害時の情報発信が不十分」、植木小学校区で「高齢者や障がい者などへの災害時の対応が不十分」などが他に比べ高くなっている

年齢別では、20歳代で「防災に対する市民への啓発活動が不十分」、40歳代で「浸水地域に対する整備が不十分」などが他の年齢層に比べ高くなっている。

【16. 災害対策の推進】



	防災に対する市民への啓発活動が不十分	浸水地域に対する整備が不十分	自主防災組織設立への支援が不十分	災害時の情報発信が不十分	高齢者や障がい者などへの災害時の対応が不十分	その他	無回答
全体(n=304)	22.7	26.3	3.9	17.1	16.8	5.9	7.2
小学校区別							
南小学校区(n=13)	30.8	30.8	0.0	7.7	23.1	7.7	0.0
北小学校区(n=40)	5.0	42.5	5.0	12.5	22.5	7.5	5.0
西小学校区(n=10)	30.0	10.0	0.0	30.0	20.0	0.0	10.0
新入小学校区(n=42)	11.9	26.2	9.5	19.0	9.5	9.5	14.3
藤田小学校区(n=64)	29.7	18.8	1.6	17.2	17.2	4.7	10.9
上頓野小学校区(n=33)	33.3	18.2	9.1	18.2	15.2	6.1	0.0
下境小学校区(n=18)	16.7	33.3	11.1	16.7	16.7	0.0	5.6
福地小学校区(n=11)	36.4	9.1	0.0	45.5	0.0	9.1	0.0
中泉小学校区(n=11)	18.2	27.3	0.0	9.1	18.2	9.1	18.2
植木小学校区(n=28)	21.4	35.7	0.0	7.1	32.1	0.0	3.6
東小学校区(n=21)	38.1	19.0	0.0	19.0	9.5	9.5	4.8
性別							
男性(n=116)	27.6	29.3	4.3	12.1	16.4	6.0	4.3
女性(n=183)	19.7	23.5	3.8	20.2	17.5	6.0	9.3
年齢別							
10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=9)	44.4	11.1	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1
30歳代(n=36)	22.2	30.8	0.0	19.4	11.1	5.8	11.1
40歳代(n=43)	11.6	41.9	4.7	18.3	4.7	16.3	4.7
50歳代(n=51)	19.6	29.4	3.9	19.6	15.7	7.8	3.9
60～64歳(n=33)	30.3	21.2	6.1	15.2	15.2	0.0	12.1
65歳以上(n=127)	24.4	19.7	4.7	16.5	24.4	3.1	7.1

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

17. 消防・救急の充実

施策内容	・職員の能力向上と消防団との連携による組織力の強化 ・的確な救急救命活動の推進 ・防火安全対策の推進		
主な事業	・救急車適正利用に向けた啓発事業 ・応急手当、救急安心カード促進事業 等		
満足度評価	0.59 (38 施策中 2 位)	重要度評価	1.35 (38 施策中 5 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

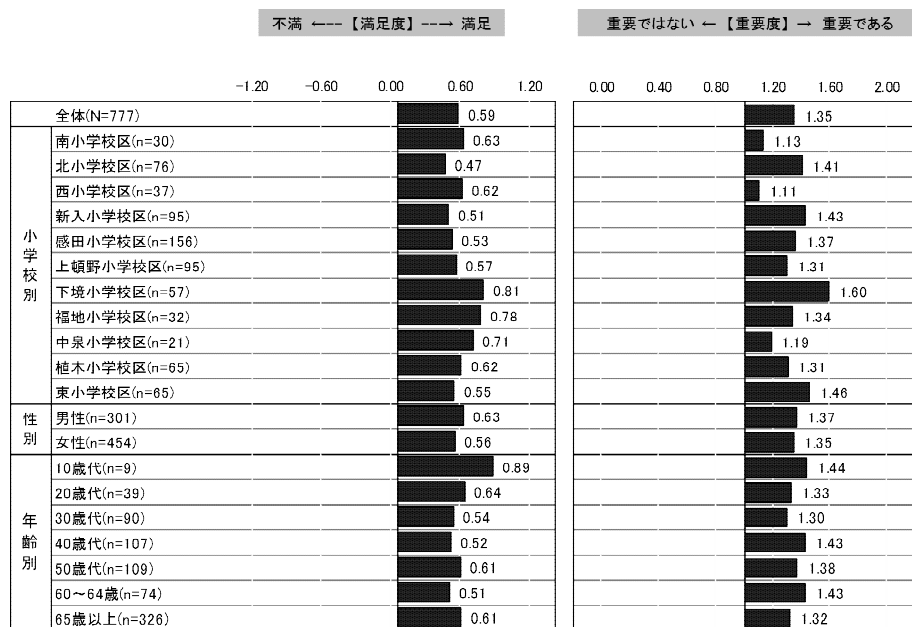
満足度評価	0.76 (38 施策中 1 位)	重要度評価	1.82 (38 施策中 5 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに高位にあり、現状の水準を維持していくことが必要な領域（B）に位置する。

満足度は、全ての属性において平均を上回り、小学校区別では、下境、福地小学校区が高くなっている。年齢別では、10 歳代が高くなっている。

重要度も、全ての属性で平均を上回っている。小学校区別では、下境小学校区で他に比べ高くなっている。年齢別では、10 歳代、40 歳代、60 歳代前半が高くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

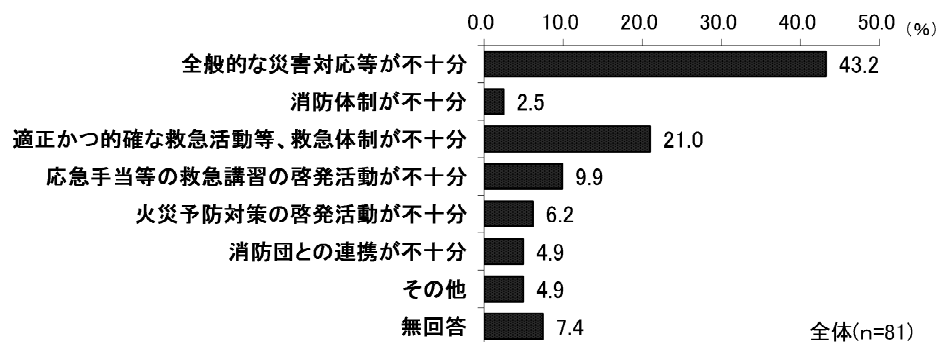
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「全般的な災害対応等が不十分」が43.2%と突出して高く、次いで「適正かつ的確な救急活動等、救急体制が不十分」が21.0%となっている。

小学校区別では、北小学校区で「全般的な災害対応等が不十分」が他に比べ高くなっている。

年齢別では、40歳代で「全般的な災害対応等が不十分」、60歳代前半で「適正かつ的確な救急活動等、救急体制が不十分」が他の年齢層に比べ高くなっている。

【17. 消防・救急の充実】



	全般的な災害対応等が不十分	消防体制が不十分	適正かつ的確な救急活動等、救急体制が不十分	応急手当等の救急講習の啓発活動が不十分	火災予防対策の啓発活動が不十分	消防団との連携が不十分	その他	無回答
全体(n=81)	43.2	2.5	21.0	9.9	6.2	4.9	4.9	7.4
小学校区別								
南小学校区(n=4)	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
北小学校区(n=11)	63.6	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0
西小学校区(n=2)	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新入小学校区(n=12)	33.3	0.0	8.3	16.7	8.3	8.3	8.3	16.7
恵田小学校区(n=16)	31.3	0.0	25.0	6.3	18.8	0.0	6.3	12.5
上郷小学校区(n=11)	45.5	0.0	18.2	18.2	0.0	9.1	0.0	9.1
下郷小学校区(n=4)	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
福地小学校区(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中泉小学校区(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
植木小学校区(n=8)	50.0	0.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
東小学校区(n=6)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別								
男性(n=33)	36.4	0.0	21.2	12.1	12.1	3.0	6.1	6.1
女性(n=48)	47.8	4.3	21.7	8.7	2.2	4.3	4.3	6.5
年齢別								
10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=3)	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=10)	30.0	0.0	20.0	10.0	30.0	10.0	0.0	0.0
40歳代(n=10)	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	10.0	10.0
50歳代(n=10)	40.0	0.0	30.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0
60～64歳(n=7)	28.6	0.0	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
65歳以上(n=39)	46.2	5.1	17.9	5.1	2.6	5.1	7.7	10.3

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

18. 交通安全・防犯対策の推進

施策内容	- 交通安全意識の啓発、地域の防犯活動の支援 - 交通安全施設等の計画的整備の推進		
主な事業	- 防犯灯設置事業 - 交通安全対策事業 等		
満足度評価	0.19 (38 施策中 10 位)	重要度評価	1.36 (38 施策中 4 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

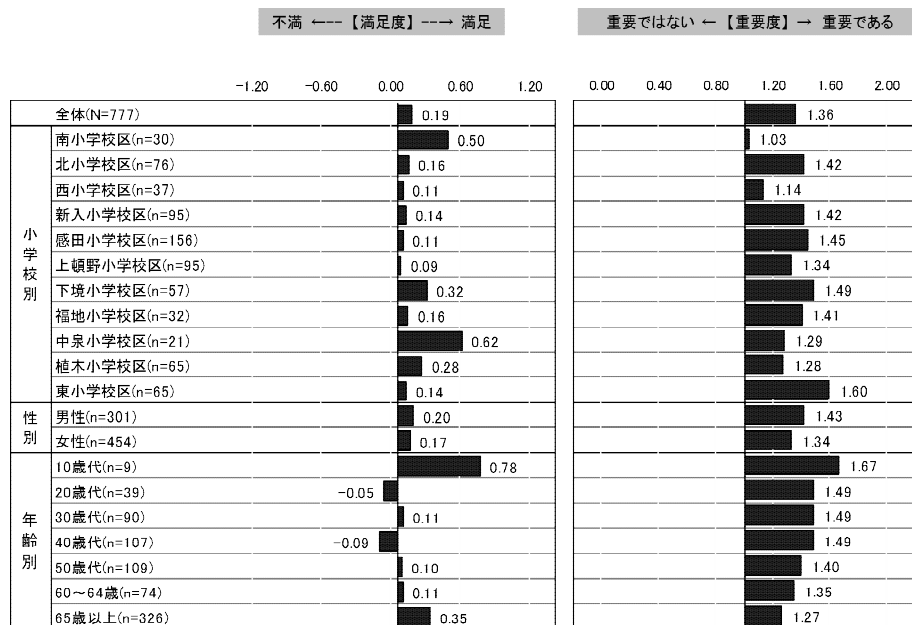
満足度評価	0.22 (38 施策中 14 位)	重要度評価	1.80 (38 施策中 6 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、重要度、満足度がともに高く、現状の水準を維持していくことが必要な領域（B）に位置する。

満足度は、全体的に平均を上回っている。小学校別では、南、中泉小学校区で高くなっている。年齢別では 10 歳代で高くなっている。一方、20 歳代、40 歳代では平均を下回っている。

重要度は、全ての属性において平均を上回っている。小学校区別では、東小学校区で高くなっている。また、年齢別では、年齢が上がるにつれ低くなっている。



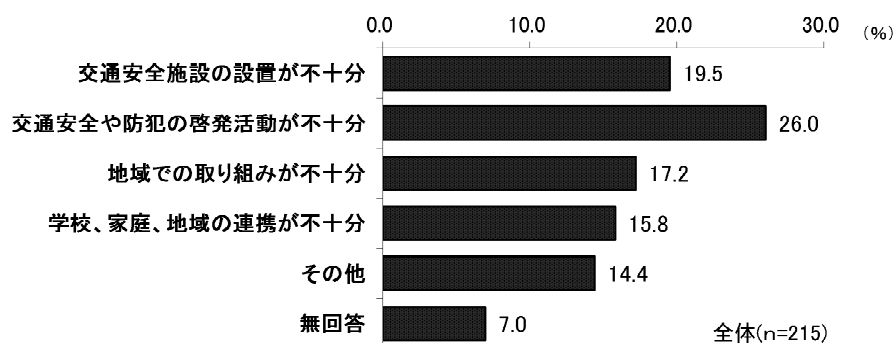
注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

(2) 不満の理由

不満の理由としては、「交通安全や防犯の啓発活動が不十分」が26.0%と最も高く、次いで「交通安全施設の設置が不十分」が19.5%、「地域での取り組みが不十分」17.2%となっている。

小学校区別では、南、福地小学校区で「交通安全や防犯の啓発活動が不十分」が高くなっている。年齢別では、20歳代で「交通安全や防犯の啓発活動が不十分」が高くなっている。

【18. 交通安全・防犯対策の推進】



		交通安全施設の設置が不十分	交通安全や防犯の啓発活動が不十分	地域での取り組みが不十分	学校、家庭、地域の連携が不十分	その他	無回答
全体(n=215)		19.5	26.0	17.2	15.8	14.4	7.0
小学校区別	南小学校区(n=5)	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	北小学校区(n=21)	23.8	33.3	19.0	14.3	4.8	4.8
	西小学校区(n=13)	30.8	15.4	0.0	23.1	15.4	15.4
	新入小学校区(n=28)	10.7	17.9	25.0	17.9	10.7	17.9
	盛田小学校区(n=49)	24.5	20.4	18.4	8.2	24.5	4.1
	上頓野小学校区(n=31)	16.1	25.8	22.6	25.8	6.5	3.2
	下境小学校区(n=11)	18.2	9.1	27.3	18.2	18.2	9.1
	福地小学校区(n=12)	41.7	50.0	0.0	0.0	8.3	0.0
	中泉小学校区(n=3)	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
	植木小学校区(n=15)	13.3	40.0	6.7	20.0	13.3	6.7
	東小学校区(n=18)	5.6	22.2	16.7	27.8	16.7	11.1
性別	男性(n=88)	24.7	22.5	15.7	16.9	13.5	6.7
	女性(n=122)	15.6	27.9	18.9	15.6	14.8	7.4
年齢別	10歳代(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=14)	14.3	57.1	14.3	7.1	7.1	0.0
	30歳代(n=28)	26.9	19.2	7.7	11.5	18.2	15.4
	40歳代(n=43)	16.3	25.6	9.3	16.3	32.6	0.0
	50歳代(n=35)	31.4	17.1	14.3	17.1	17.1	2.9
	60～64歳(n=18)	12.5	43.8	18.8	18.8	0.0	6.3
	65歳以上(n=76)	14.5	22.4	27.6	18.4	5.3	11.8

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

19. 保健事業の充実

施策内容	- 健康づくりに対する啓発と健康づくり組織への支援 - 検(健)診受診率と予防接種の接種率の向上		
主な事業	- 健康診査(基本健診)、がん検診事業 - 健康教育事業 - 健康相談事業 - 高齢者予防接種事業 等		
満足度評価	0.62 (38 施策中 1 位)	重要度評価	1.32 (38 施策中 8 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

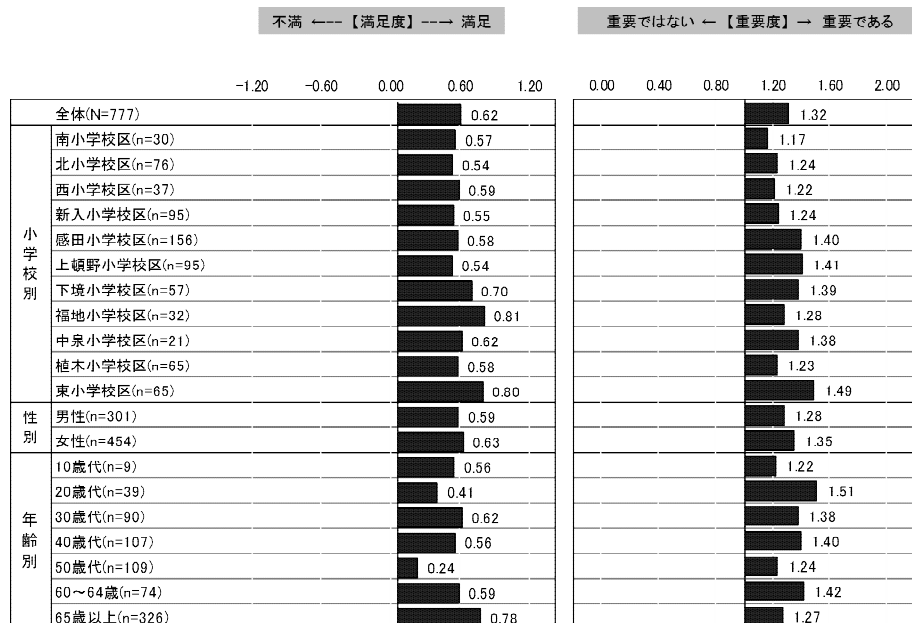
満足度評価	0.73 (38 施策中 2 位)	重要度評価	1.84 (38 施策中 4 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに高位にあり、現状の水準を維持していくことが必要な領域(B)に位置する。

満足度は、全ての属性において平均を上回っている。小学校区別には、福地、東小学校区が高くなっている。年齢別では、65 歳以上が特に高くなっている。

重要度も、全ての属性において平均を上回っている。小学校区別では、東小学校区が高くなっている。年齢別では、20 歳代が高くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

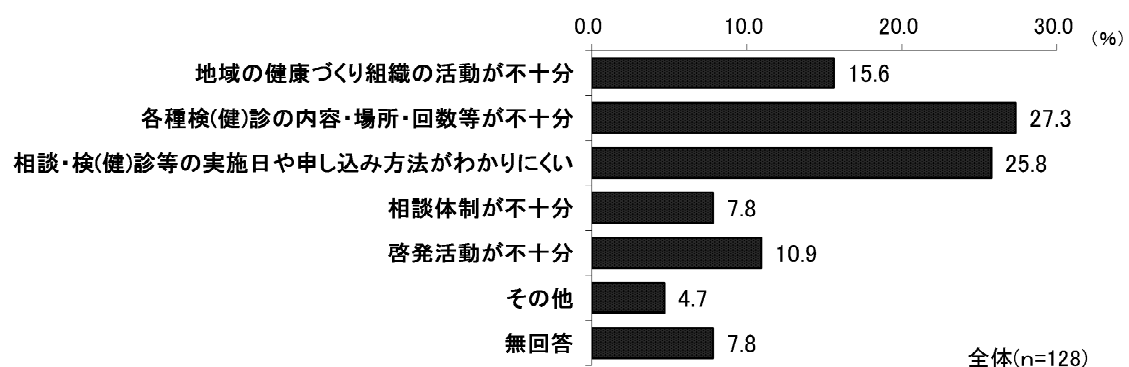
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「各種検（健）診の内容・場所・回数等が不十分」が27.3%と最も高く、次いで「相談・検（健）診等の実施日や申し込み方法がわかりにくい」が25.8%、「地域の健康づくり組織の活動が不十分」が15.6%となっている。

小学校区別では、南、北小学校区で「地域の健康づくり組織の活動が不十分」、下境小学校区で「各種検（健）診の内容・場所・回数等が不十分」、東小学校区で「相談・検（健）診等の実施日や申し込み方法がわかりにくい」、南小学校区で「啓発活動が不十分」が高くなっている。

性別では、男性で「啓発活動が不十分」が高い。年齢別では、30歳代で「各種検（健）診の内容・場所・回数等が不十分」、50歳代で「相談・検（健）診等の実施日や申し込み方法がわかりにくい」が高くなっている。

【19. 保健事業の充実】



		活動が不十分	各種検(健)診の内容・場所・回数等が不十分	相談・検(健)診等の実施日や申し込み方法がわかりにくい	相談体制が不十分	啓発活動が不十分	その他	無回答
全体(n=128)		15.6	27.3	25.8	7.8	10.9	4.7	7.8
小学校区別	南小学校区(n=5)	40.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0
	北小学校区(n=14)	42.9	14.3	28.6	0.0	7.1	7.1	0.0
	西小学校区(n=5)	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	新入小学校区(n=20)	5.0	30.0	25.0	5.0	15.0	0.0	20.0
	藤田小学校区(n=27)	14.8	29.6	18.5	11.1	11.1	7.4	7.4
	上郷野小学校区(n=20)	15.0	30.0	25.0	5.0	15.0	0.0	10.0
	下境小学校区(n=8)	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	福地小学校区(n=5)	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0
	中泉小学校区(n=4)	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	榎木小学校区(n=11)	18.2	18.2	36.4	9.1	9.1	9.1	0.0
	東小学校区(n=7)	14.3	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性(n=48)	12.5	29.2	22.9	6.3	18.8	2.1	8.3
	女性(n=79)	17.7	28.8	26.6	8.9	6.3	6.3	7.8
年齢別	10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=8)	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	30歳代(n=15)	6.7	60.0	26.7	0.0	0.0	0.0	6.7
	40歳代(n=20)	15.0	20.0	15.0	15.0	15.0	5.0	15.0
	50歳代(n=30)	6.7	26.7	43.3	6.7	6.7	10.0	0.0
	60～64歳(n=13)	15.4	38.5	30.8	0.0	7.7	0.0	7.7
	65歳以上(n=41)	24.4	17.1	14.6	12.2	14.6	4.9	12.2

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

20. 地域医療体制の維持と確保

施策内容	・医療機関との連携による地域医療及び救急医療体制の維持		
主な事業	・休日等急患センター運営事業 ・救急医療施設等運営事業 等		
満足度評価	0.10 (38 施策中 17 位)	重要度評価	1.45 (38 施策中 1 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

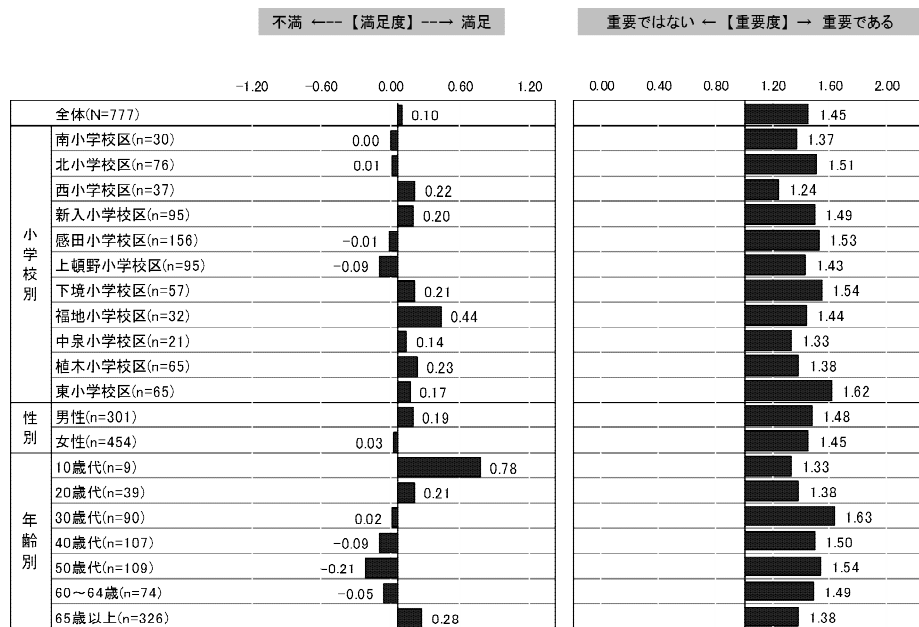
満足度評価	-0.04 (38 施策中 26 位)	重要度評価	2.06 (38 施策中 1 位)
散布図象限	A	重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査では、重要度が高いが、満足度が相対的に低く、重点化・見直しの領域（A）に位置していたが、今回調査では、満足度、重要度ともに高位にあり、現状の水準を維持していくことが必要な領域（B）に位置する。

満足度は、小学校区別では、福地小学校区で高く、年齢別では、10 歳代で突出して高い。

重要度は、全ての属性において平均を上回っている。小学校区別では、東小学校区が高くなっている。年齢別では、30 歳代で高い。

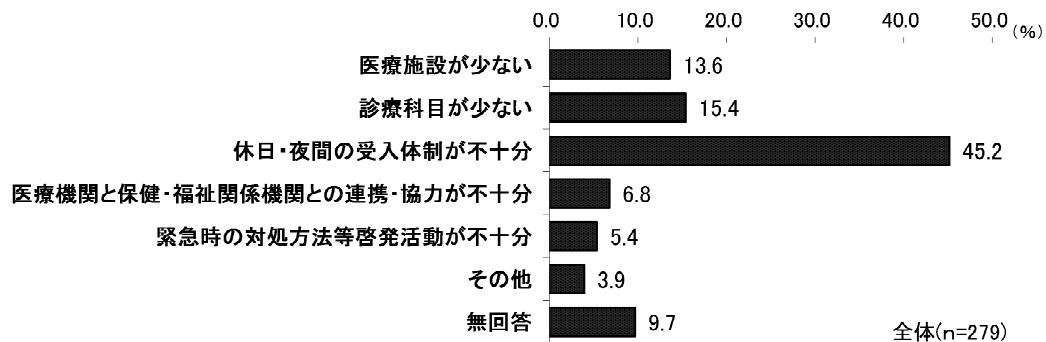


注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

(2) 不満の理由

性別では、男性で「医療機関と保健・福祉関係機関との連携・協力が不十分」が女性と比べ高い。年齢別では、20歳代、40歳代で「休日・夜間の受入体制が不十分」、60歳代前半で「医療施設が少ない」が高くなっている。

【20. 地域医療体制の維持と確保】



		医療施設が少ない	診療科目が少ない	休日・夜間の受入体制が不十分	医療機関と保健・福祉関係機関との連携・協力が不十分	緊急時の対処方法等啓発活動が不十分	その他	無回答
全体(n=279)		13.6	15.4	45.2	6.8	5.4	3.9	9.7
小学校区別	南小学校区(n=13)	15.4	30.8	38.5	0.0	7.7	0.0	7.7
	北小学校区(n=27)	11.1	22.2	51.9	14.8	0.0	0.0	0.0
	西小学校区(n=12)	8.3	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	8.3
	新入小学校区(n=33)	12.1	3.0	48.5	0.0	9.1	6.1	21.2
	藤田小学校区(n=64)	14.1	14.1	39.1	4.7	9.4	6.3	12.5
	上頓野小学校区(n=43)	9.3	14.0	51.2	4.7	7.0	4.7	9.3
	下境小学校区(n=17)	17.6	17.6	47.1	5.9	0.0	5.9	5.9
	福地小学校区(n=8)	37.5	25.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	中泉小学校区(n=7)	0.0	28.6	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0
	植木小学校区(n=18)	16.7	11.1	55.6	0.0	0.0	11.1	5.6
	東小学校区(n=22)	22.7	13.6	45.5	9.1	4.5	0.0	4.5
性別	男性(n=93)	11.8	10.8	48.4	14.0	3.2	6.5	5.4
	女性(n=180)	15.0	17.2	43.3	2.8	6.7	2.8	12.2
年齢別	10歳代(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=11)	0.0	18.2	54.5	9.1	0.0	9.1	9.1
	30歳代(n=38)	7.9	13.2	44.7	0.0	10.5	7.9	15.8
	40歳代(n=42)	14.3	9.5	59.5	4.8	0.0	4.8	7.1
	50歳代(n=54)	16.7	9.3	48.1	7.4	5.6	5.6	7.4
	60～64歳(n=32)	31.3	9.4	34.4	9.4	6.3	0.0	9.4
	65歳以上(n=95)	10.5	22.1	40.0	8.4	6.3	2.1	10.5

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

21. 障がい者福祉の充実

施策内容	・市民への意識啓発 ・障がい者の就業支援 ・医療・教育・福祉サービスの充実及び拡充		
主な事業	・地域生活支援事業 ・障がい者相談支援事業 等		
満足度評価	0.10 (38 施策中 18 位)	重要度評価	1.12 (38 施策中 14 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

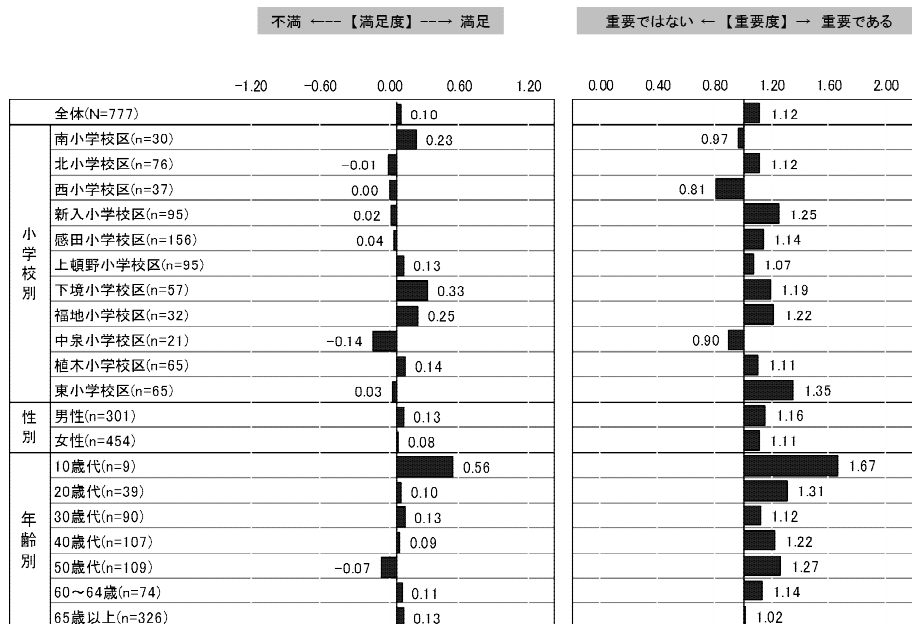
満足度評価	0.16 (38 施策中 19 位)	重要度評価	1.51 (38 施策中 16 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、重要度が高いが、満足度が相対的に低く、現状の水準を維持していくことが必要な領域（B）に位置する。

満足度は、小学校区では、下境、福地小学校区などで高くなっている。一方、中泉小学校区で低くなっている。年齢別では、10 歳代が突出して高く、50 歳代が、唯一平均を下回っている。

重要度は、全体的に平均を上回っている。小学校区別では、南、西、中泉小学校区で平均を下回っている。年齢別では 10 歳代が突出して高く、65 歳以上が低い。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

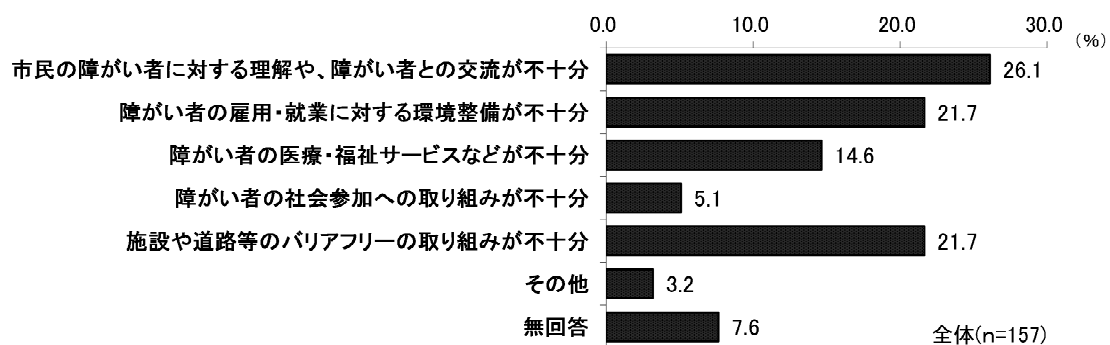
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「市民の障がい者に対する理解や、障がい者との交流が不十分」が26.1%と最も高く、次いで「障がい者の雇用・就業に対する環境整備が不十分」と「施設や道路等のバリアフリーの取り組みが不十分」が21.7%となっている。

小学校区別では、福地小学校区で「障がい者の雇用・就業に対する環境整備が不十分」、植木小学校区で「市民の障がい者に対する理解や、障がい者との交流が不十分」が高くなっている。

性別では、男性で「障がい者の雇用・就業に対する環境整備が不十分」、女性で「施設や道路等のバリアフリーの取り組みが不十分」が高くなっている。

【21. 障がい者福祉の充実】



	市民の障がい者に対する理解や、障がい者との交流が不十分	障がい者の雇用・就業に対する環境整備が不十分	障がい者の医療・福祉サービスなどが不十分	障がい者の社会参加への取り組みが不十分	施設や道路等のバリアフリーの取り組みが不十分	その他	無回答
全体(n=157)	26.1	21.7	14.6	5.1	21.7	3.2	7.6
小学校区別							
南小学校区(n=6)	16.7	33.3	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0
北小学校区(n=19)	26.3	21.1	10.5	0.0	31.6	0.0	10.5
西小学校区(n=10)	30.0	30.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
新入小学校区(n=27)	29.6	14.8	11.1	11.1	11.1	7.4	14.8
藤田小学校区(n=26)	21.4	17.9	21.4	7.1	21.4	0.0	10.7
上頓野小学校区(n=17)	17.6	17.6	17.6	11.8	35.3	0.0	0.0
下境小学校区(n=6)	33.3	0.0	16.7	0.0	33.3	16.7	0.0
福地小学校区(n=5)	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
中泉小学校区(n=7)	28.6	28.6	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0
植木小学校区(n=11)	45.5	27.3	0.0	0.0	18.2	9.1	0.0
東小学校区(n=15)	20.0	33.3	6.7	0.0	26.7	6.7	6.7
性別							
男性(n=64)	23.4	28.1	18.8	7.8	15.8	1.8	4.7
女性(n=89)	28.1	18.9	12.4	3.4	27.0	4.5	7.9
年齢別							
10歳代(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=8)	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
30歳代(n=18)	38.9	5.6	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1
40歳代(n=21)	19.0	14.3	23.8	0.0	33.3	4.8	4.8
50歳代(n=32)	21.9	31.3	15.6	0.0	21.9	3.1	6.3
60～84歳(n=14)	7.1	21.4	7.1	7.1	35.7	0.0	21.4
85歳以上(n=61)	32.8	23.0	13.1	8.2	18.0	1.8	3.3

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

22. 高齢者福祉の充実

施策内容	・介護と連携した福祉及び介護サービス基盤の充実とサービス事業者の質的向上 ・高齢者の社会参加の促進と生きがいづくり		
主な事業	・のおがた元気ポイント事業 ・配食サービス事業 ・緊急通報装置貸与事業 ・高齢者総合相談事業 ・地域介護予防活動支援事業 ・就労支援事業 等		
満足度評価	0.13 (38 施策中 13 位)	重要度評価	1.20 (38 施策中 10 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

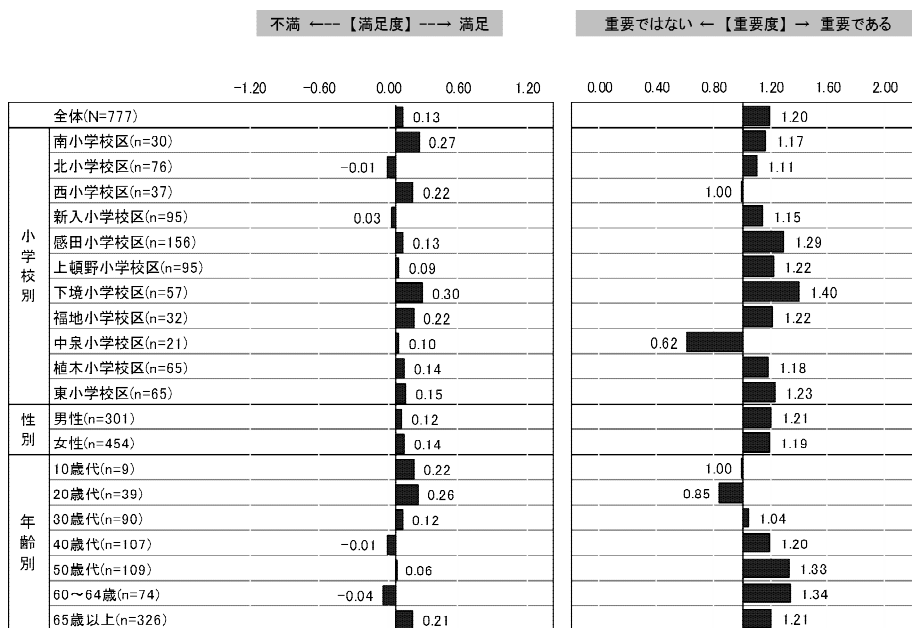
満足度評価	0.19 (38 施策中 16 位)	重要度評価	1.66 (38 施策中 11 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに高位にあり、現状の水準を維持していくことが必要な領域（B）に位置する。

満足度は、全体的に平均を上回っている。小学校区別では、南、下境小学校区などで高が、北、新入小学校区で平均を下回っている。年齢別では 40 歳代、60 歳代前半で平均を下回っている。

重要度は、全体的に平均を上回っている。小学校区別では、中泉小学校区が特に低くなっている。年齢別では、50 歳代、60 歳代前半で高くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

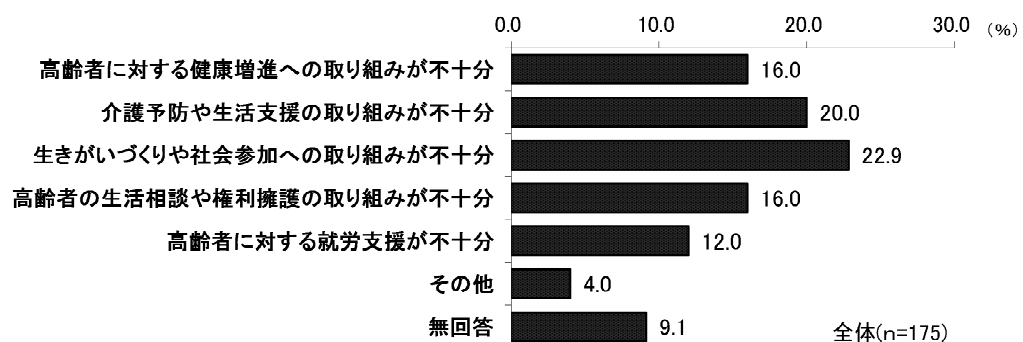
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「生きがいくくりや社会参加への取り組みが不十分」が22.9%と最も高く、次いで、「介護予防や生活支援の取り組みが不十分」20.0%となっている。

小学校区別では、南小学校区で「高齢者に対する健康増進への取り組みが不十分」や「高齢者の生活相談や権利擁護の取り組みが不十分」、中泉小学校区で「生きがいくくりや社会参加への取り組みが不十分」、植木小学校区で「介護予防や生活支援の取り組みが不十分」が高くなっている。

年齢別では、30歳代、50歳で「介護予防や生活支援の取り組みが不十分」、30歳代、60歳代前半で「高齢者に対する就労支援が不十分」が高くなっている。

【22. 高齢者福祉の充実】



	高齢者に対する健康増進への取り組みが不十分	介護予防や生活支援の取り組みが不十分	生きがいくくりや社会参加への取り組みが不十分	高齢者の生活相談や権利擁護の取り組みが不十分	高齢者に対する就労支援が不十分	その他	無回答
全体(n=175)	16.0	20.0	22.9	16.0	12.0	4.0	9.1
小学校区別							
南小学校区(n=7)	42.9	0.0	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0
北小学校区(n=19)	26.3	21.1	26.3	10.5	5.3	5.3	5.3
西小学校区(n=7)	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3
新入小学校区(n=28)	7.7	11.5	11.5	23.1	15.4	7.7	23.1
藤田小学校区(n=34)	14.7	14.7	20.8	23.5	14.7	0.0	11.8
上頓野小学校区(n=25)	4.0	28.0	40.0	4.0	12.0	4.0	8.0
下境小学校区(n=9)	11.1	33.3	33.3	0.0	22.2	0.0	0.0
福地小学校区(n=8)	0.0	37.5	12.5	25.0	25.0	0.0	0.0
中泉小学校区(n=4)	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
植木小学校区(n=12)	25.0	41.7	8.3	0.0	16.7	8.3	0.0
東小学校区(n=11)	36.4	9.1	27.3	9.1	9.1	9.1	0.0
性別							
男性(n=71)	16.9	18.3	25.4	12.7	12.7	2.8	11.3
女性(n=98)	15.2	21.2	22.2	16.2	12.1	5.1	8.1
年齢別							
10歳代(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=2)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=14)	14.3	28.6	7.1	7.1	28.6	7.1	7.1
40歳代(n=21)	4.8	14.3	23.8	14.3	9.5	9.5	23.8
50歳代(n=30)	10.0	30.0	26.7	13.3	6.7	6.7	6.7
60～64歳(n=21)	19.0	19.0	4.8	9.5	33.3	0.0	14.3
65歳以上(n=81)	21.0	17.3	27.2	18.5	7.4	2.5	6.2

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

23. 社会福祉と公的医療保険制度の充実

施策内容	- 生活困窮者の自立支援 - 公的医療保険制度の充実		
主な事業	- 生活保護扶助事業 - 国民健康保険事業 等		
満足度評価	-0.01 (38 施策中 23 位)	重要度評価	0.97 (38 施策中 20 位)
散布図象限	D	重要度、満足度がともに低い(改善・見直し領域)	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

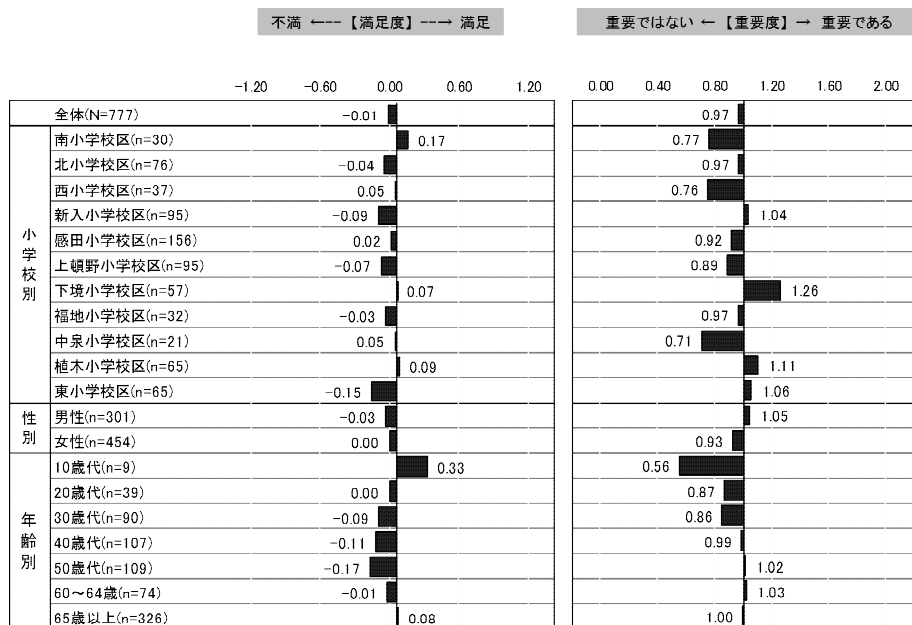
満足度評価	0.08 (38 施策中 23 位)	重要度評価	1.35 (38 施策中 22 位)
散布図象限	D	重要度、満足度がともに低い(改善・見直し領域)	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域(D)に位置する。

満足度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、南、下境、植木小学校区では平均を上回っている。また、年齢別では、10 歳代のみ平均を上回っている。

重要度は、小学校区では、下境小学校区が高く、南、西、中泉小学校区で低くなっている。年齢別では10 歳代が突出して低い。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

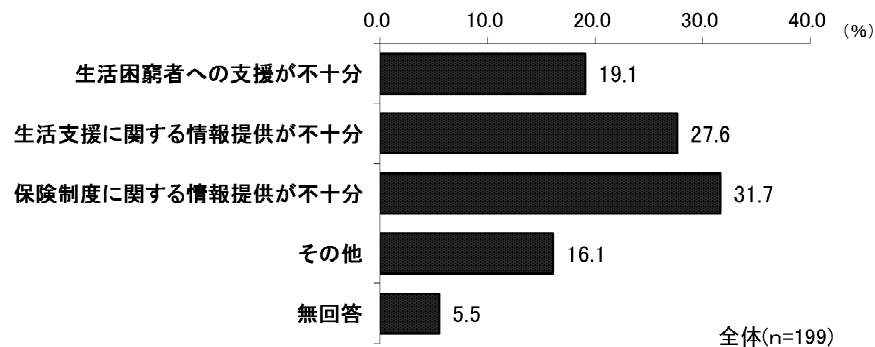
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「保険制度に関する情報提供が不十分」が31.7%と最も高く、次いで「生活支援に関する情報提供が不十分」が27.6%、「生活困窮者への支援が不十分」が19.1%となっている。

小学校区別では、南小学校区で「生活支援に関する情報提供が不十分」、中泉小学校区で「生活困窮者への支援が不十分」が高くなっている。

年齢別では、60歳代前半で「生活支援に関する情報提供が不十分」が高くなっている。

【23. 社会福祉と公的医療保険制度の充実】



		生活困窮者への支援が不十分	生活支援に関する情報提供が不十分	保険制度に関する情報提供が不十分	その他	無回答
全体(n=199)		19.1	27.6	31.7	16.1	5.5
小学校区別	南小学校区(n=7)	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0
	北小学校区(n=18)	44.4	16.7	27.8	11.1	0.0
	西小学校区(n=8)	25.0	25.0	37.5	12.5	0.0
	新入小学校区(n=20)	20.7	20.7	31.0	13.8	13.8
	盛田小学校区(n=30)	2.6	41.0	35.9	17.9	2.6
	上頓野小学校区(n=25)	8.0	24.0	32.0	24.0	12.0
	下境小学校区(n=13)	38.5	7.7	23.1	30.8	0.0
	福地小学校区(n=6)	25.0	12.5	37.5	25.0	0.0
	中泉小学校区(n=4)	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0
	植木小学校区(n=16)	12.5	37.5	31.3	8.3	12.5
	東小学校区(n=21)	23.8	33.3	28.6	14.3	0.0
性別	男性(n=88)	20.5	30.7	29.5	14.8	4.5
	女性(n=107)	17.8	28.2	32.7	17.8	5.6
年齢別	10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=6)	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0
	30歳代(n=21)	9.5	19.0	33.3	38.1	0.0
	40歳代(n=31)	25.8	19.4	25.8	22.6	8.5
	50歳代(n=32)	21.9	31.3	25.0	12.5	9.4
	60～64歳(n=17)	11.8	52.9	23.5	5.9	5.9
	65歳以上(n=66)	19.3	27.3	36.4	12.5	4.5

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

24. 各種相談業務の充実

施策内容	・関係機関と連携した相談業務の実施		
主な事業	・消費生活相談、労働相談、無料法律相談 等		
満足度評価	0.13 (38 施策中 15 位)	重要度評価	0.77 (38 施策中 31 位)
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

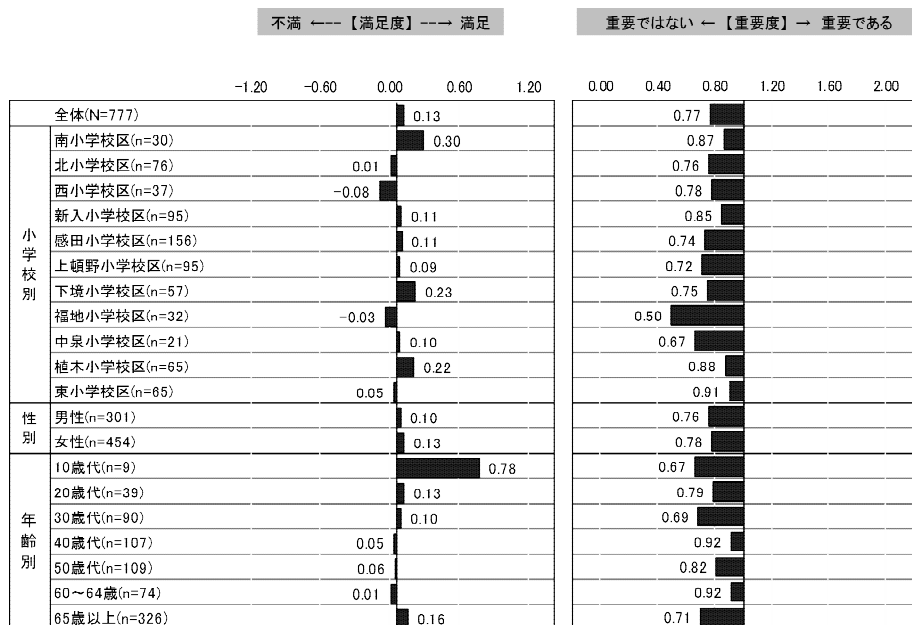
満足度評価	0.28 (38 施策中 9 位)	重要度評価	1.14 (38 施策中 30 位)
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様、満足度は高いが、重要度は低く、現状維持・見直しの領域（C）に位置する。

満足度は、小学校区別では、南、下境、植木小学校区で高い。一方、西、福地小学校は低くなっている。年齢別では、10 歳代が突出して高い。

重要度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別には、福地小学校区で低くなっている。年齢別では、10 歳代、30 歳代、65 歳以上で低くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

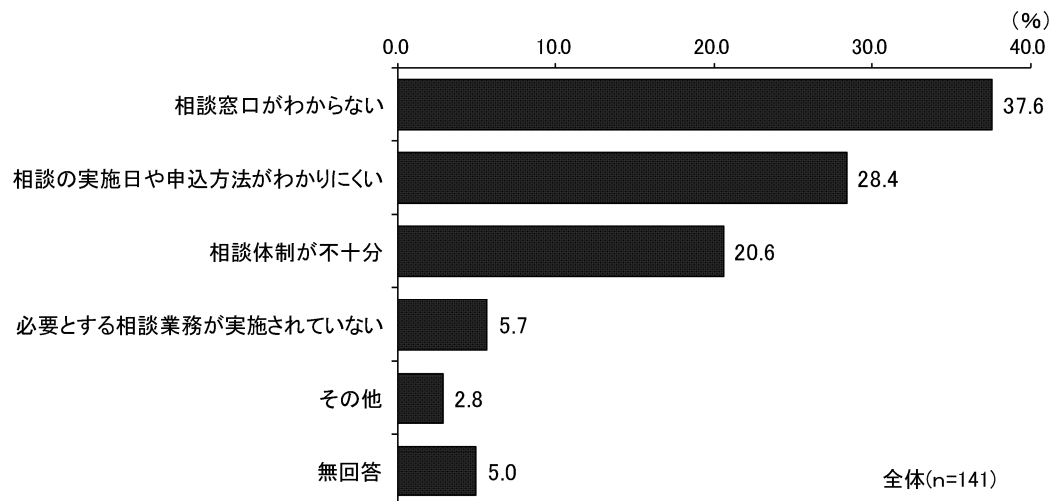
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「相談窓口がわからない」が37.6%と最も高く、次いで「相談の実施日や申込方法がわかりにくい」が28.4%「相談体制が不十分」が20.6%となっている。

小学校区別では、南小学校区で「相談の実施日や申込方法がわかりにくい」、西小学校区で「相談窓口が分からない」が高くなっている。

年齢別では、20～30歳代で「相談窓口がわからない」が高く、60歳代前半で「相談の実施日や申込方法がわかりにくい」が高い。

【24. 各種相談業務の充実】



	相談窓口がわからない	相談の実施日や申込方法がわかりにくい	相談体制が不十分	必要とする相談業務が実施されていない	その他	無回答
全体(n=141)	37.6	28.4	20.6	5.7	2.8	5.0
小学校区別						
南小学校区(n=3)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
北小学校区(n=17)	23.5	41.2	29.4	0.0	0.0	5.9
西小学校区(n=11)	63.6	9.1	18.2	0.0	9.1	0.0
新入小学校区(n=18)	27.8	38.9	22.2	0.0	0.0	11.1
恵田小学校区(n=29)	41.4	24.1	20.7	10.3	0.0	3.4
上頓野小学校区(n=21)	47.6	23.8	9.5	9.5	4.8	4.8
下境小学校区(n=8)	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0
福地小学校区(n=8)	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0
中泉小学校区(n=4)	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0
楳木小学校区(n=7)	57.1	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0
東小学校区(n=16)	25.0	18.8	31.3	12.5	6.3	6.3
性別						
男性(n=65)	43.1	24.6	20.0	3.1	0.0	9.2
女性(n=75)	33.3	30.7	21.3	8.0	5.3	1.3
年齢別						
10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=7)	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=13)	61.5	7.7	15.4	0.0	15.4	0.0
40歳代(n=25)	44.0	24.0	16.0	12.0	0.0	4.0
50歳代(n=28)	35.7	21.4	32.1	0.0	7.1	3.6
60～84歳(n=15)	26.7	46.7	13.3	0.0	0.0	13.3
85歳以上(n=52)	30.8	32.7	21.2	9.6	0.0	5.8

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

25. 地域における子育て環境の充実

施策内容	・地域の子育てネットワークづくりの推進と子育て相談事業の充実		
主な事業	・子育て広場事業 ・ファミリーサポートセンター事業 ・りちやいけ（子育て用品リユース事業） ・母子手帳交付 等		
満足度評価	0.20（38 施策中 8 位）	重要度評価	1.08（38 施策中 15 位）
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

【参考資料／前回調査結果（平成 29 年9月実施）】

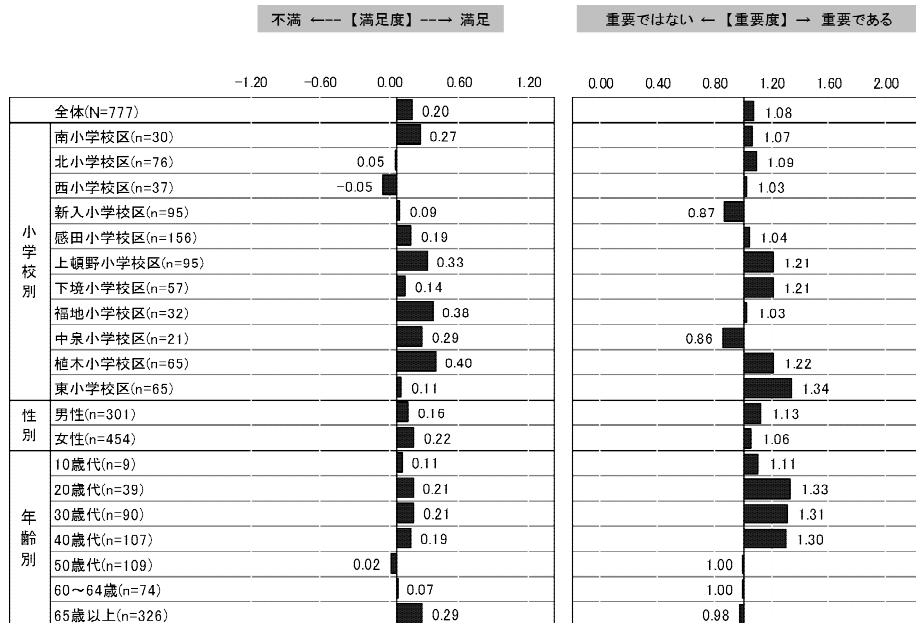
満足度評価	0.30（38 施策中 6 位）	重要度評価	1.53（38 施策中 15 位）
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

（１）満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに中位にあり、現状の水準を維持していくことが必要な領域（B）に位置する。

満足度は、全体的に平均を上回っている。小学校区別では、福地、植木小学校区で高く、北、西小学校区で平均を下回っている。年齢別では 50 歳代が平均を下回っている。

重要度も、全体的に平均を上回っている。小学校区別では、新入、中泉小学校区が平均を下回っている。年齢別には、20～40 歳代の子育て世代で高くなっているが、50 歳代以上では低くなる傾向がある。



注：グラフの中央線は全体の平均値（満足度は 0.06、重要度は 1.01）としている。

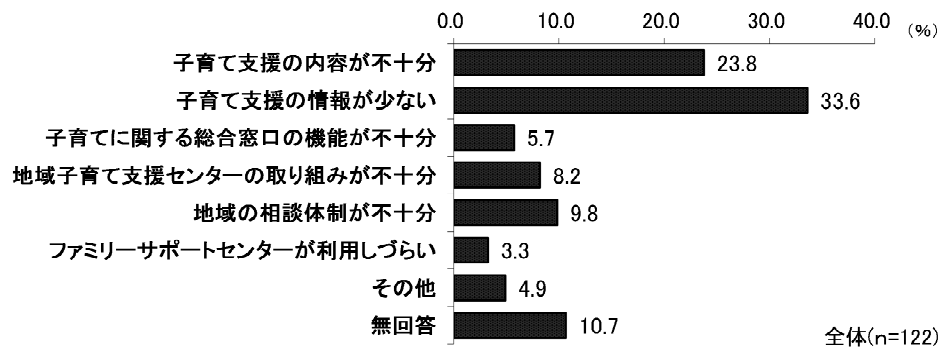
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「子育て支援の情報が少ない」が33.6%と最も高く、次いで「子育て支援の内容が不十分」23.8%となっている。

性別では、男性で「子育て支援の内容が不十分」が女性を大きく上回っている。

年齢別では、20歳代で「子育て支援の情報が少ない」、30歳代で「子育て支援の内容が不十分」「地域子育て支援センターの取り組みが不十分」が高くなっている。

【25. 地域における子育て環境の充実】



		子育て支援の内容が不十分	子育て支援の情報が少ない	子育てに関する総合窓口の機能が不十分	地域子育て支援センターの取り組みが不十分	地域の相談体制が不十分	ファミリーサポートセンターが利用しづらい	その他	無回答
全体(n=122)		23.8	33.6	5.7	8.2	9.8	3.3	4.9	10.7
小学校区別	南小学校区(n=6)	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
	北小学校区(n=18)	16.7	22.2	5.6	16.7	5.6	5.6	5.6	22.2
	西小学校区(n=8)	37.5	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	新入小学校区(n=16)	25.0	31.3	0.0	18.8	0.0	0.0	12.5	12.5
	感田小学校区(n=20)	20.0	35.0	5.0	5.0	10.0	10.0	5.0	10.0
	上頓野小学校区(n=15)	26.7	40.0	6.7	0.0	20.0	0.0	0.0	6.7
	下境小学校区(n=12)	16.7	25.0	0.0	16.7	16.7	8.3	8.3	8.3
	福地小学校区(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中泉小学校区(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	植木小学校区(n=5)	20.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	東小学校区(n=16)	31.3	18.8	6.3	6.3	18.8	0.0	6.3	12.5
性別	男性(n=53)	30.2	30.2	5.7	5.7	15.1	3.8	1.9	7.5
	女性(n=68)	19.1	35.3	5.9	10.3	5.9	2.9	7.4	13.2
年齢別	10歳代(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=7)	14.3	71.4	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
	30歳代(n=26)	34.6	23.1	0.0	23.1	0.0	0.0	11.5	7.7
	40歳代(n=22)	27.3	27.3	0.0	4.5	9.1	9.1	9.1	13.6
	50歳代(n=23)	26.1	43.5	13.0	0.0	4.3	4.3	0.0	8.7
	60～64歳(n=11)	0.0	54.5	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	18.2
	65歳以上(n=30)	20.0	23.3	10.0	6.7	23.3	3.3	3.3	10.0

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

26. 子育てにおける公的支援の充実

施策内容	・子育て中の世帯への経済的支援と相談、学童保育の充実 ・乳幼児の健康診査、療育相談などの充実		
主な事業	・児童手当・児童扶養手当支給事務 ・学童保育事業 ・保育所等の第2子無料化 ・産後ケア事業 ・乳幼児家庭全戸訪問 ・乳幼児健康診査 ・療育教室 ・離乳食教室 等		
満足度評価	0.26 (38 施策中 6 位)	重要度評価	1.19 (38 施策中 11 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

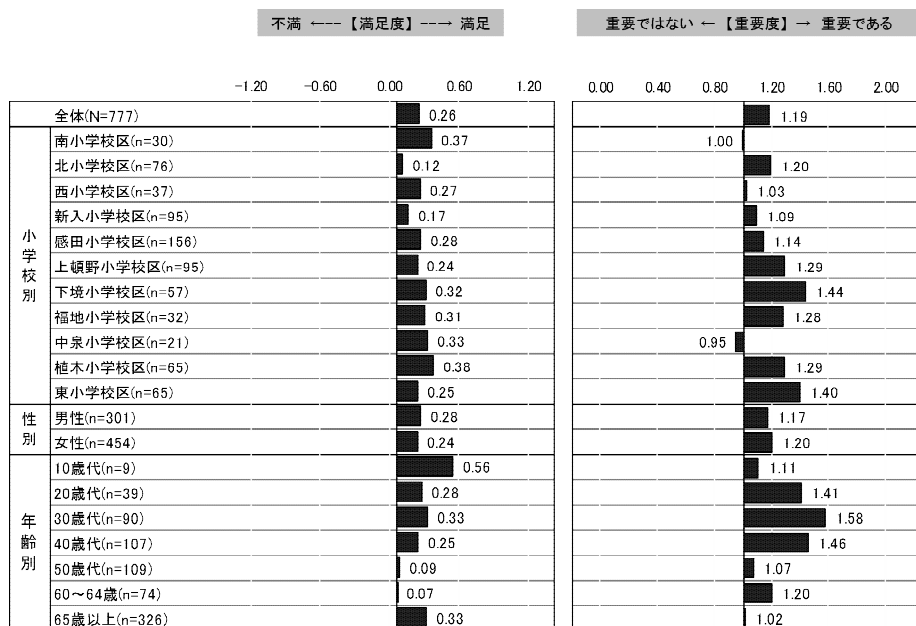
満足度評価	0.31 (38 施策中 5 位)	重要度評価	1.66 (38 施策中 12 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに高位にあり、現状の水準を維持していくことが必要な領域（B）に位置する。

満足度は、全ての属性で平均を上回っている。小学校区別では、北、新入小学校区で特に低い。年齢別では10歳代で高く、50～60歳代前半で低い。

重要度は、全体的に平均を上回っている。小学校区別では、中泉小学校区が平均を下回っている。年齢別では、20～40歳代の子育て世代で高くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

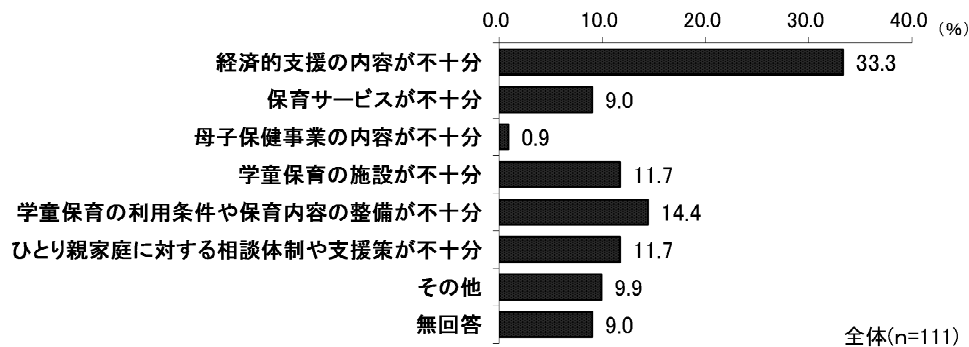
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「経済的支援の内容が不十分」が33.3%と突出して高い。

小学校区別では、東小学校区で「経済的支援の内容が不十分」が高くなっている。

年齢別では、20～30歳代で「経済的支援の内容が不十分」、50歳代で「保育サービスが不十分」が高くなっている。

【26. 子育てにおける公的支援の充実】



		分 経 済 的 支 援 の 内 容 が 不 十 分	保 育 サ ー ビ ス が 不 十 分	十 分 母 子 保 健 事 業 の 内 容 が 不 十 分	学 童 保 育 の 施 設 が 不 十 分	学 童 保 育 の 利 用 条 件 や 保 育 内 容 の 整 備 が 不 十 分	一 人 親 家 庭 に 対 す る 相 談 体 制 や 支 援 策 が 不 十 分	そ の 他	無 回 答
全体(n=111)		33.3	9.0	0.9	11.7	14.4	11.7	9.9	9.0
小 学 校 区 別	南小学校区(n=4)	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	北小学校区(n=17)	41.2	5.9	0.0	11.8	29.4	0.0	5.9	5.9
	西小学校区(n=5)	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0
	新入小学校区(n=13)	23.1	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7	23.1	23.1
	盛田小学校区(n=19)	47.4	10.5	0.0	10.5	10.5	5.3	10.5	5.3
	上頓野小学校区(n=13)	23.1	15.4	0.0	23.1	15.4	0.0	15.4	7.7
	下境小学校区(n=8)	25.0	0.0	0.0	25.0	12.5	12.5	25.0	0.0
	福地小学校区(n=5)	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0
	中泉小学校区(n=3)	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	植木小学校区(n=7)	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	28.6
	東小学校区(n=14)	50.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	7.1	14.3
性 別	男性(n=45)	44.4	8.9	0.0	13.3	8.9	8.9	6.7	8.9
	女性(n=64)	26.6	9.4	1.6	10.9	17.2	12.5	12.5	9.4
年 齢 別	10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=5)	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	30歳代(n=23)	47.8	8.7	0.0	4.3	13.0	4.3	13.0	8.7
	40歳代(n=24)	33.3	4.2	0.0	12.5	16.7	8.3	16.7	8.3
	50歳代(n=19)	31.6	36.8	0.0	5.3	0.0	21.1	0.0	5.3
	60～64歳(n=9)	11.1	0.0	0.0	22.2	22.2	11.1	0.0	33.3
	65歳以上(n=29)	27.6	0.0	0.0	20.7	20.7	13.8	10.3	6.9

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

27. 知・徳・体を育む教育の充実

施策内容	・ 幼児教育、学力の向上、感性を育む教育、体力の向上		
主な事業	・ 14 オチャレンジウィーク（職場体験活動） ・ 小学校における 35 人学級の実施 ・ 図書室ボランティアの配置 ・ 直方市ハートフル奨学金 等		
満足度評価	0.12（38 施策中 16 位）	重要度評価	1.17（38 施策中 12 位）
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

【参考資料／前回調査結果（平成 29 年 9 月実施）】

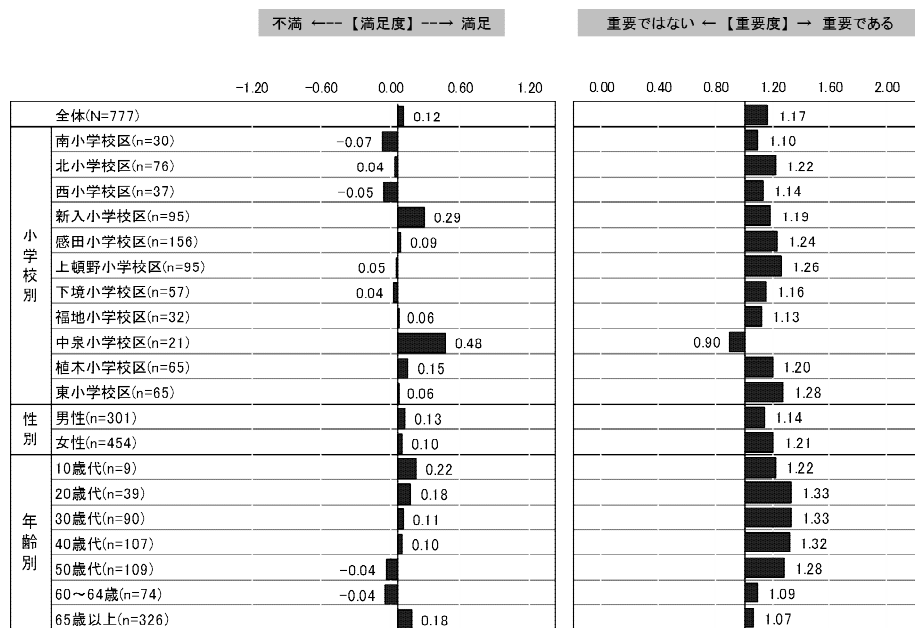
満足度評価	0.19（38 施策中 17 位）	重要度評価	1.55（38 施策中 14 位）
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）	

（1）満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに高位にあり、現状の水準を維持していくことが必要な領域（B）に位置する。

満足度は、小学校区別では、新入、中泉小学校区で高い。年齢別では、50～60 歳代前半で低くなっている。

重要度は、満足度の高かった中泉小学校区で低くなっている。年齢別では、20～40 歳代で高くなっている。



注：グラフの中央線は全体の平均値（満足度は 0.06、重要度は 1.01）としている。

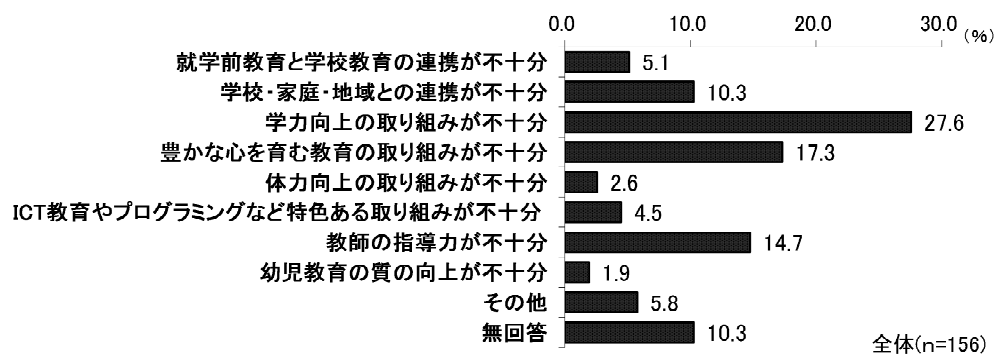
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「学力向上の取り組みが不十分」が27.6%と最も高く、次いで「豊かな心を育む教育の取り組みが不十分」が17.3%、「教師の指導力が不十分」が14.7%となっている。

小学校区別では、上頓野小学校区で「就学前教育と学校教育の連携が不十分」、下境小学校区で「学力向上の取り組みが不十分」が高い。

性別では、男性で「学力向上の取り組みが不十分」が高い。年齢別では、「学力向上の取り組みが不十分」では、20～50歳代と幅広い年代で高い。また、60歳代前半で「豊かな心を育む教育の取り組みが不十分」が高い。

【27. 知・徳・体を育む教育の充実】



		就学前教育と学校教育の連携が不十分	学校・家庭・地域との連携が不十分	学力向上の取り組みが不十分	豊かな心を育む教育の取り組みが不十分	体力向上の取り組みが不十分	ICT教育やプログラミングなど特色ある取り組みが不十分	教師の指導力が不十分	幼児教育の質の向上が不十分	その他	無回答
全体(n=156)		5.1	10.3	27.6	17.3	2.6	4.5	14.7	1.9	5.8	10.3
小学校区別	南小学校区(n=10)	0.0	40.0	10.0	30.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0
	北小学校区(n=22)	4.5	13.6	13.6	18.2	9.1	4.5	18.2	9.1	0.0	9.1
	西小学校区(n=10)	0.0	10.0	20.0	0.0	0.0	10.0	30.0	0.0	10.0	20.0
	新入小学校区(n=12)	0.0	8.3	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	8.3	16.7
	盛田小学校区(n=32)	6.3	3.1	34.4	12.5	3.1	6.3	15.6	3.1	6.3	9.4
	上頓野小学校区(n=22)	18.2	4.5	18.2	18.2	0.0	9.1	18.2	0.0	4.5	9.1
	下境小学校区(n=10)	0.0	0.0	60.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	福地小学校区(n=9)	0.0	0.0	55.6	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0
	中泉小学校区(n=2)	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	植木小学校区(n=11)	0.0	0.0	45.5	18.2	9.1	0.0	9.1	0.0	9.1	9.1
	東小学校区(n=14)	7.1	21.4	14.3	7.1	0.0	7.1	14.3	0.0	7.1	21.4
性別	男性(n=80)	3.3	11.7	36.7	11.7	3.3	6.7	10.0	1.7	3.3	11.7
	女性(n=95)	6.3	9.5	22.1	20.0	2.1	3.2	17.9	2.1	7.4	9.5
年齢別	10歳代(n=3)	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=8)	0.0	12.5	37.5	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5
	30歳代(n=23)	8.7	4.3	30.4	8.7	8.7	0.0	13.0	0.0	13.0	13.0
	40歳代(n=30)	3.3	10.0	36.7	6.7	0.0	3.3	10.0	10.0	8.7	13.3
	50歳代(n=30)	10.0	0.0	33.3	13.3	0.0	6.7	20.0	0.0	10.0	6.7
	60～64歳(n=15)	0.0	20.0	6.7	46.7	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	13.3
	65歳以上(n=46)	4.3	15.2	23.9	21.7	2.2	2.2	19.6	0.0	2.2	8.7

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

28. 教育環境の充実・強化

施策内容	・特別な教育的配慮が必要な子どもへの支援の充実 ・教育施設の計画的な耐震化及び適正な学校規模や配置の推進		
主な事業	・特別支援教育にかかる支援員の配置 ・小中学校校舎耐震化事業 等		
満足度評価	0.10 (38 施策中 20 位)	重要度評価	1.07 (38 施策中 16 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

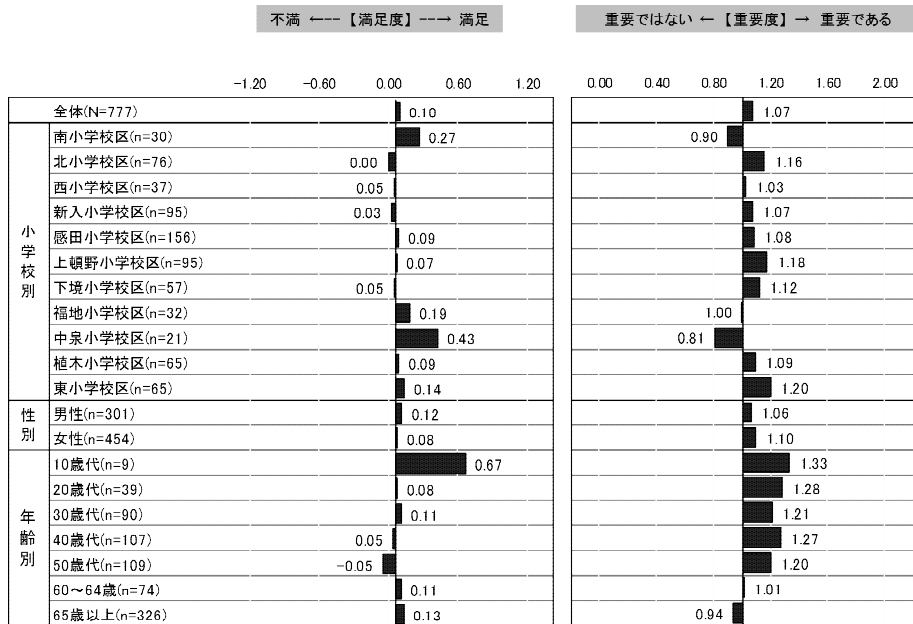
満足度評価	0.14 (38 施策中 20 位)	重要度評価	1.49 (38 施策中 17 位)
散布図象限	B	重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに中位にあり、現状の水準を維持していくことが必要な領域（B）に位置する。

満足度は、小学校区別では、南、中泉小学校区では高くなっている。年齢別では、10 歳代が突出して高い。

重要度は、全体的に平均を上回っている。小学校区別では、南、中泉小学校区が平均を下回っている。年齢別では、65 歳以上で平均を下回っている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

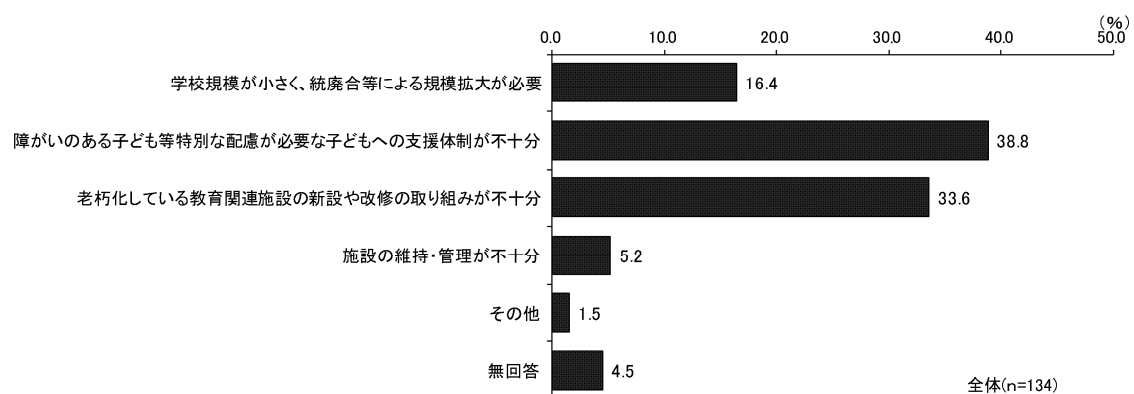
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「障がいのある子ども等特別な配慮が必要な子どもへの支援体制が不十分」が38.8%と最も高く、次いで「老朽化している教育関連施設の新設や改修の取り組みが不十分」が33.6%、「学校規模が小さく、統廃合等による規模拡大が必要」が16.4%となっている。

小学校区別では、感田小学校区で「老朽化している教育関連施設の新設や改修の取り組みが不十分」、下境小学校区で「障がいのある子ども等特別な配慮が必要な子どもへの支援体制が不十分」、福地小学校で「学校規模が小さく、統廃合等による規模拡大が必要」が高くなっている。

年齢別では、20歳代で「障がいのある子ども等特別な配慮が必要な子どもへの支援体制が不十分」、60歳代前半で「学校規模が小さく、統廃合等による規模拡大が必要」が高くなっている。

【28. 教育環境の充実・強化】



		要合学 等校に 種よ るが 規小 さく 大が 統必 廃	へ別障 のな 支配 援体 制が ある 必要 が不 十分 な子 ども 等特 別な 配慮 が必 要な 子ど もへ の支 援体 制が 不十 分	組施老 み股朽 が化 不新 十分 改し 修や 取改 関修 連取 連	分施 股の の維 持・ 管 理が 不十 分	そ の 他	無 回 答
全体(n=134)		16.4	38.8	33.6	5.2	1.5	4.5
小 学 校 区 別	南小学校区(n=4)	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	北小学校区(n=18)	27.8	27.8	38.9	0.0	0.0	5.6
	西小学校区(n=5)	0.0	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0
	新入小学校区(n=18)	16.7	33.3	27.8	11.1	0.0	11.1
	感田小学校区(n=26)	7.7	34.6	53.8	0.0	3.8	0.0
	上頓野小学校区(n=18)	21.1	42.1	26.3	10.5	0.0	0.0
	下境小学校区(n=8)	0.0	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0
	福地小学校区(n=8)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	中東小学校区(n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	楳木小学校区(n=12)	0.0	41.7	33.3	0.0	8.3	16.7
	東小学校区(n=11)	9.1	45.5	36.4	9.1	0.0	0.0
性 別	男性(n=58)	12.5	46.4	30.4	5.4	1.8	3.6
	女性(n=76)	18.4	32.9	36.8	5.3	1.3	5.3
年 齢 別	10歳代(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=8)	11.1	55.6	33.3	0.0	0.0	0.0
	30歳代(n=19)	0.0	21.1	47.4	5.3	10.5	15.8
	40歳代(n=26)	23.1	34.6	34.6	7.7	0.0	0.0
	50歳代(n=25)	8.0	44.0	44.0	0.0	0.0	4.0
	60～84歳(n=8)	37.5	37.5	12.5	0.0	0.0	12.5
	85歳以上(n=44)	20.5	43.2	25.0	9.1	0.0	2.3

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

29. 学校・家庭・地域が連携した青少年の健全育成

施策内容	・地域と連携した青少年の健全育成活動の推進と青少年を取り巻く社会環境の改善		
主な事業	・青少年健全育成事業 ・成人式 等		
満足度評価	0.05 (38 施策中 21 位)	重要度評価	0.87 (38 施策中 26 位)
散布図象限	D	重要度、満足度がともに低い（改善・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

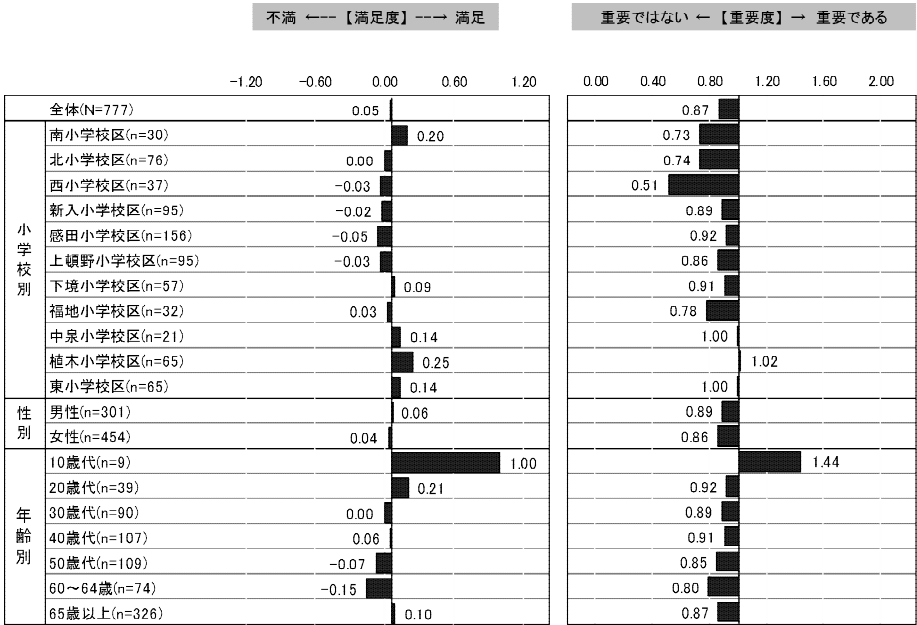
満足度評価	0.10 (38 施策中 21 位)	重要度評価	1.25 (38 施策中 28 位)
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査では、現状維持・見直し領域（C）であったが、今回調査では、満足度、重要度ともに低位にある、改善・見直しの領域（D）に位置している。

満足度は、全体的に平均を下回っているが、小学校区別では、南、植木小学校区で比較的高くなっている。年齢別では10歳代で突出して高い。

重要度は、全体的に平均より低くなっており、小学校区別では、西小学校区で特に低くなっている。また、年齢別では、10歳代が突出して高い。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

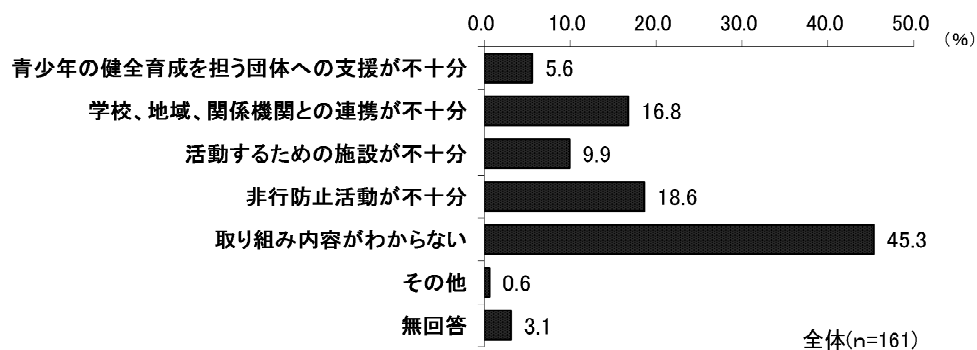
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「取り組み内容がわからない」が45.3%と突出して高く、次いで「非行防止活動が不十分」が18.6%、「学校、地域、関係機関との連携が不十分」が16.8%となっている。

小学校区別では、西小学校区で「非行防止活動が不十分」、北、福地小学校で「取り組み内容がわからない」が高くなっている。

年齢別では、20歳代で「非行防止活動が不十分」、60歳代前半で「取り組み内容がわからない」が高くなっている。

【29. 学校・家庭・地域が連携した青少年の健全育成】



		青少年の健全育成を担う団体への支援が不十分	学校、地域、関係機関との連携が不十分	活動するための施設が不十分	非行防止活動が不十分	取り組み内容がわからない	その他	無回答
全体(n=161)		5.6	16.8	9.9	18.6	45.3	0.6	3.1
小学校区別	南小学校区(n=5)	0.0	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0
	北小学校区(n=16)	6.3	18.8	0.0	6.3	62.5	0.0	6.3
	西小学校区(n=10)	10.0	10.0	0.0	50.0	30.0	0.0	0.0
	新入小学校区(n=22)	4.5	22.7	9.1	9.1	45.5	0.0	9.1
	藤田小学校区(n=38)	5.3	10.5	10.5	31.6	42.1	0.0	0.0
	上頓野小学校区(n=22)	13.6	4.5	9.1	9.1	59.1	0.0	4.5
	下境小学校区(n=11)	0.0	27.3	27.3	27.3	18.2	0.0	0.0
	福地小学校区(n=6)	0.0	16.7	0.0	16.7	66.7	0.0	0.0
	中泉小学校区(n=3)	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3
	植木小学校区(n=12)	8.3	8.3	33.3	0.0	50.0	0.0	0.0
	東小学校区(n=12)	0.0	25.0	0.0	16.7	50.0	8.3	0.0
性別	男性(n=73)	4.1	21.9	8.6	20.5	41.1	0.0	2.7
	女性(n=88)	7.0	10.5	10.5	17.4	50.0	1.2	3.5
年齢別	10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=8)	12.5	0.0	25.0	50.0	12.5	0.0	0.0
	30歳代(n=21)	4.8	9.5	4.8	19.0	47.8	4.8	9.5
	40歳代(n=23)	4.3	4.3	21.7	28.1	39.1	0.0	4.3
	50歳代(n=34)	5.9	20.8	0.0	20.8	52.9	0.0	0.0
	60～64歳(n=21)	0.0	14.3	0.0	9.5	71.4	0.0	4.8
	65歳以上(n=52)	7.7	23.1	15.4	13.5	38.5	0.0	1.9

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

30. 生涯学習の推進

施策内容	・公民館等の講座の充実と市民活動団体の育成支援 ・学習の成果を活かすための学校や高齢者施設等との交流の拡充		
主な事業	・趣味の講座 ・ふれあい交流事業 ・はつらつ塾 等		
満足度評価	0.13 (38 施策中 12 位)	重要度評価	0.67 (38 施策中 34 位)
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

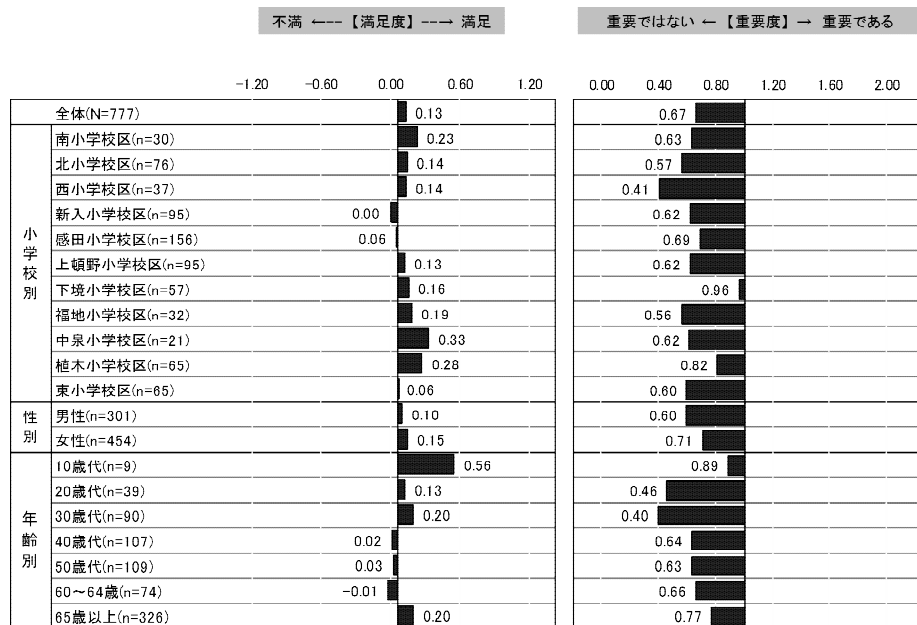
満足度評価	0.24 (38 施策中 13 位)	重要度評価	1.04 (38 施策中 34 位)
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度は高いが、重要度は低く、現状維持・見直しの領域（C）に位置する

満足度は、小学校区別では、新入、感田小学校区で平均を下回っている。年齢別では、10 歳代で突出して高いが、40～60 歳代前半で平均を下回っている。

重要度は、全ての属性において平均を下回っている。小学校区別では、西小学校区で特に低くなっている。年齢別では、20、30 歳代で特に低くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

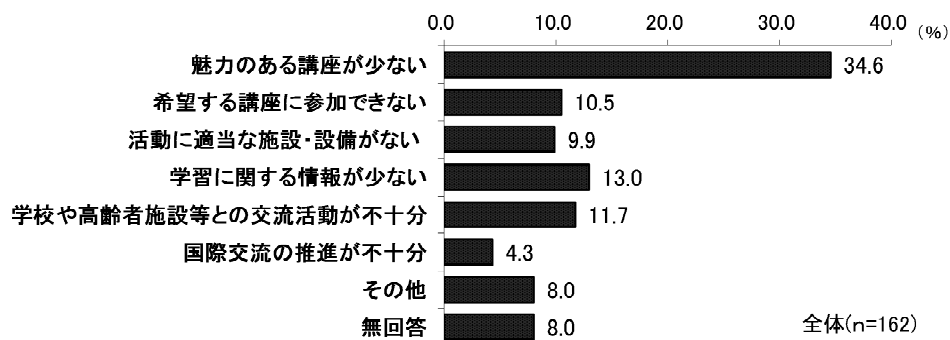
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「魅力のある講座が少ない」が34.6%と突出して高く、次いで「学習に関する情報が少ない」が13.0%、「学校や高齢者施設等との交流活動が不十分」が11.7%となっている。

小学校区別では、福地小学校区で「魅力のある講座が少ない」、植木小学校区で「活動に適当な施設・設備がない」が高くなっている。

年齢別では、20歳で「魅力のある講座が少ない」が高くなっている。

【30. 生涯学習の推進】



		魅力のある講座が少ない	希望する講座に参加できない	活動に適当な施設・設備がない	学習に関する情報が少ない	学校や高齢者施設等との交流活動が不十分	国際交流の推進が不十分	その他	無回答
全体(n=162)		34.6	10.5	9.9	13.0	11.7	4.3	8.0	8.0
小学校区別	南小学校区(n=6)	50.0	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	北小学校区(n=16)	37.5	25.0	6.3	18.8	6.3	0.0	6.3	0.0
	西小学校区(n=10)	20.0	20.0	0.0	30.0	10.0	0.0	0.0	20.0
	新入小学校区(n=28)	28.6	10.7	7.1	7.1	14.3	7.1	10.7	14.3
	感田小学校区(n=33)	36.4	6.1	12.1	15.2	6.1	3.0	3.0	12.1
	上磯野小学校区(n=20)	40.0	15.0	5.0	10.0	5.0	5.0	15.0	5.0
	下境小学校区(n=11)	27.3	0.0	9.1	36.4	9.1	9.1	9.1	0.0
	福地小学校区(n=6)	66.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
	中泉小学校区(n=3)	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	植木小学校区(n=11)	27.3	9.1	27.3	9.1	18.2	0.0	9.1	0.0
	東小学校区(n=14)	28.6	7.1	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3	7.1
性別	男性(n=66)	31.8	6.1	10.6	15.2	15.2	4.5	6.1	10.6
	女性(n=93)	36.6	14.0	8.6	11.8	8.6	4.3	9.7	6.5
年齢別	10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=7)	71.4	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0
	30歳代(n=12)	41.7	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	25.0	16.7
	40歳代(n=20)	30.0	20.0	10.0	10.0	0.0	15.0	15.0	0.0
	50歳代(n=29)	37.9	13.8	6.9	20.7	6.9	3.4	6.9	3.4
	60～64歳(n=20)	40.0	15.0	0.0	20.0	5.0	0.0	0.0	20.0
	65歳以上(n=71)	28.2	8.5	14.1	12.7	19.7	1.4	7.0	8.5

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目については着色していない。

3 1. 文化の振興

施策内容	・文化活動への参加機会の充実、文化団体の育成支援 ・文化遺産や文化財の保存・整備の推進		
主な事業	・市民文化祭 ・直方市バーチャルミュージアム ・郷土資料室企画展 等		
満足度評価	0.10 (38 施策中 18 位)	重要度評価	0.52 (38 施策中 38 位)
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

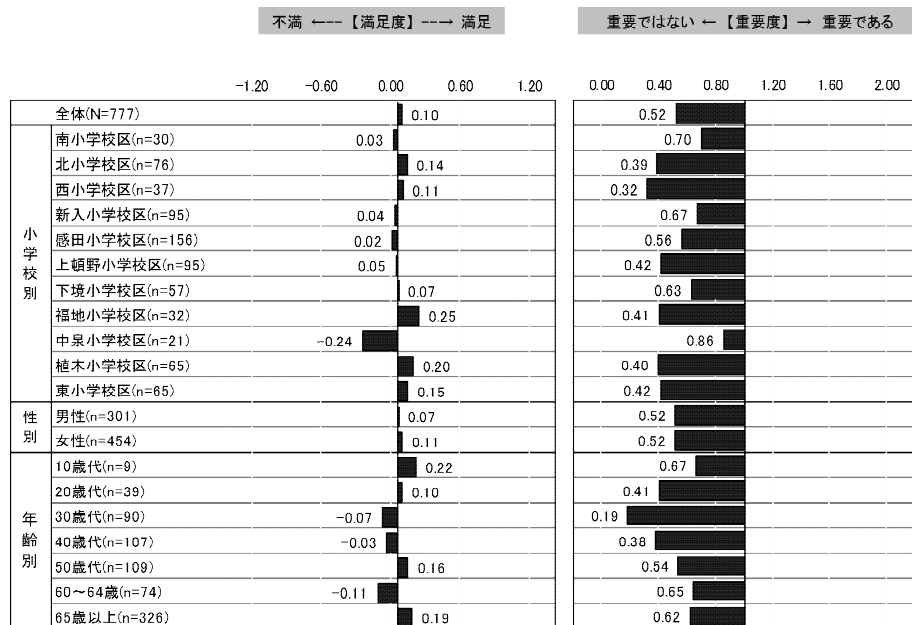
満足度評価	0.26 (38 施策中 11 位)	重要度評価	0.90 (38 施策中 38 位)
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度は高いが、重要度は低く、現状維持・見直しの領域（C）に位置する。

満足度は、小学校区別では、中泉小学校区で特に低くなっている。

重要度は、全ての属性において平均を大きく下回っている。小学校区別では、西小学校区、年齢別では 30 歳代が最も低くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

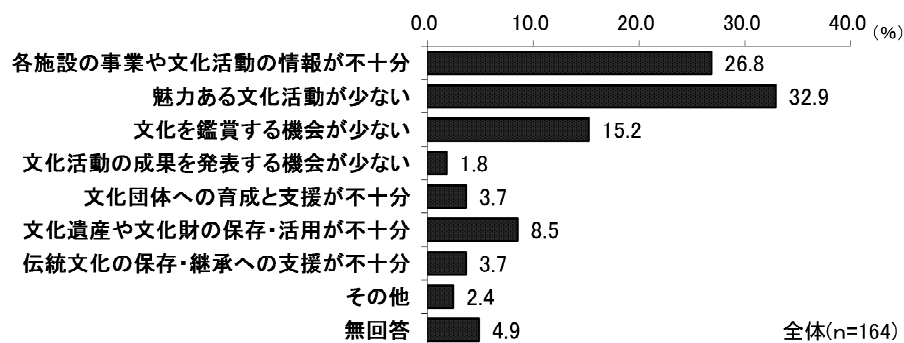
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「魅力ある文化活動が少ない」が32.9%と最も高く、次いで「各施設の事業や文化活動の情報が不十分」が26.8%、「文化を鑑賞する機会が少ない」が15.2%となっている。

小学校区別では、福地小学校区で「魅力ある文化活動が少ない」が高くなっている。

年齢別では、20歳代で「魅力ある文化活動が少ない」が高くなっている。

【31. 文化の振興】



		各施設の事業や文化活動の情報が不十分	魅力ある文化活動が少ない	文化を鑑賞する機会が少ない	文化活動の成果を発表する機会が少ない	文化団体への育成と支援が不十分	文化遺産や文化財の保存・活用が不十分	伝統文化の保存・継承への支援が不十分	その他	無回答
小学校区別	全体(n=164)	26.8	32.9	15.2	1.8	3.7	8.5	3.7	2.4	4.9
	南小学校区(n=8)	22.2	44.4	0.0	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0
	北小学校区(n=15)	33.3	33.3	26.7	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0
	西小学校区(n=10)	20.0	50.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	新入小学校区(n=21)	23.8	23.8	4.8	0.0	0.0	9.5	9.5	14.3	14.3
	感田小学校区(n=36)	27.8	27.8	16.7	2.8	2.8	8.3	2.8	2.8	8.3
	上頓野小学校区(n=22)	22.7	31.8	22.7	4.5	4.5	4.5	9.1	0.0	0.0
	下境小学校区(n=11)	27.3	36.4	9.1	0.0	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0
	福地小学校区(n=6)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中泉小学校区(n=7)	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0
	榎木小学校区(n=10)	30.0	40.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	真小学校区(n=12)	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3
性別	男性(n=72)	29.2	33.3	12.5	2.8	4.2	5.6	5.6	2.8	4.2
	女性(n=90)	24.4	33.3	17.8	1.1	2.2	11.1	2.2	2.2	5.6
年齢別	10歳代(n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=9)	11.1	55.6	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
	30歳代(n=18)	33.3	38.9	16.7	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
	40歳代(n=25)	28.0	36.0	20.0	0.0	0.0	4.0	4.0	8.0	0.0
	50歳代(n=25)	20.0	28.0	20.0	0.0	4.0	16.0	4.0	4.0	4.0
	60～64歳(n=21)	23.8	28.6	14.3	0.0	4.8	4.8	4.8	4.8	14.3
	65歳以上(n=62)	29.0	32.3	12.9	1.6	4.8	9.7	3.2	0.0	6.5

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

32. スポーツ・レクリエーションの振興

施策内容	・年齢や体力に応じた各種スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実 ・スポーツ指導者の育成		
主な事業	・スポーツ推進委員設置事業 ・スポーツ少年団補助金 ・体力テスト ・直方市民パークゴルフ大会 ・トップアスリート招聘事業 ・ニュースポーツ体験会 等		
満足度評価	0.03 (38 施策中 22 位)	重要度評価	0.57 (38 施策中 37 位)
散布図象限	D	重要度、満足度がともに低い（改善・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果（平成 29 年9月実施）】

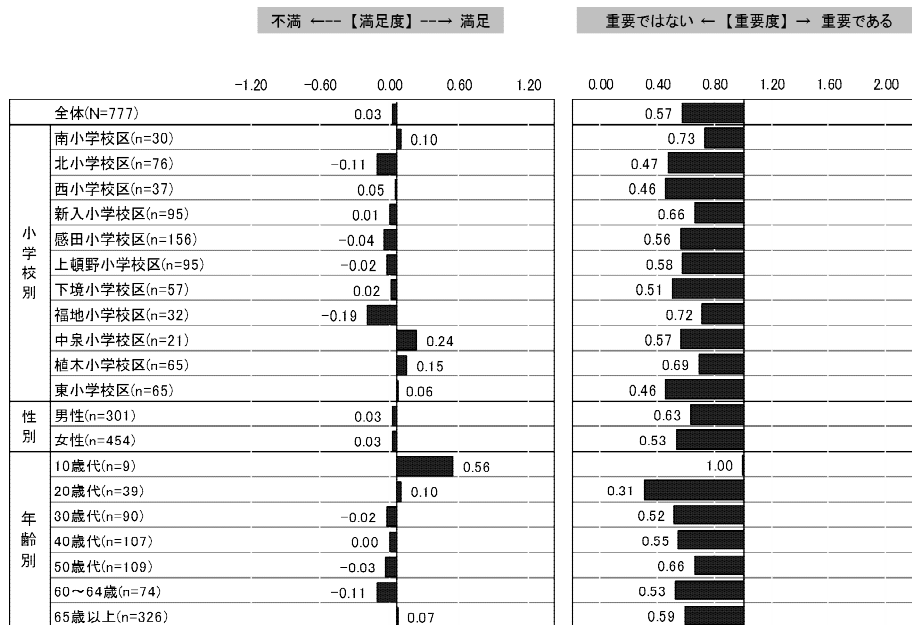
満足度評価	0.20 (38 施策中 15 位)	重要度評価	0.98 (38 施策中 35 位)
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

（1）満足度・重要度の評価傾向

前回調査では、満足度は高いが、重要度は低く、現状維持・見直しの領域（C）に位置したが、今回調査では、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域（D）に位置する。

満足度は、全体的に平均より低いが、小学校区別では、中泉、植木小学校区で比較的高くなっている。年齢別では、10 歳代が突出して高い。

重要度は、全ての属性で平均を下回っている。小学校区では、北、西、東小学校区などで特に低くなっている。また、年齢別では 20 歳代で特に低い。



注：グラフの中央線は全体の平均値（満足度は 0.06、重要度は 1.01）としている。

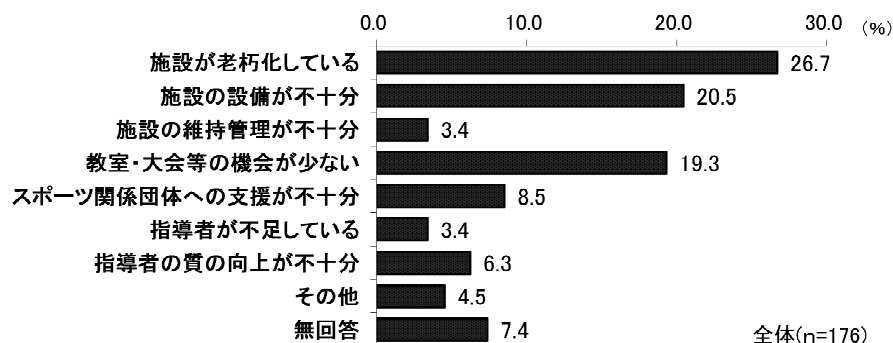
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「施設が老朽化している」が26.7%と最も高く、次いで「施設の設備が不十分」が20.5%、「教室・大会等の機会が少ない」が19.3%となっている。

小学校区別では、南小学校区で「施設の維持管理が不十分」、感田小学校区で「施設が老朽化している」、下境小学校区で「教室・大会等の機会が少ない」、東小学校区で「施設の設備が不十分」が高くなっている。

年齢別では、20歳代で「教室・大会等の機会が少ない」、30歳代、50歳代で「施設が老朽化している」が高くなっている。

【32. スポーツ・レクリエーションの振興】



		施設が老朽化している	施設の設備が不十分	施設の維持管理が不十分	教室・大会等の機会が少ない	スポーツ関係団体への支援が不十分	指導者が不足している	指導者の質の向上が不十分	その他	無回答
全体(n=176)		26.7	20.5	3.4	19.3	8.5	3.4	6.3	4.5	7.4
小学校区別	南小学校区(n=7)	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0
	北小学校区(n=22)	27.3	36.4	0.0	4.5	4.5	9.1	4.5	0.0	13.6
	西小学校区(n=10)	20.0	30.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	新入小学校区(n=23)	17.4	8.7	4.3	17.4	8.7	0.0	13.0	8.7	21.7
	感田小学校区(n=30)	33.3	12.8	0.0	25.8	7.7	7.7	2.8	7.7	2.8
	上頓野小学校区(n=25)	24.0	24.0	4.0	16.0	8.0	4.0	12.0	4.0	4.0
	下境小学校区(n=10)	30.0	10.0	0.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	福地小学校区(n=10)	30.0	20.0	0.0	30.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	中泉小学校区(n=1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	植木小学校区(n=10)	30.0	20.0	10.0	10.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0
	東小学校区(n=15)	26.7	40.0	6.7	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性(n=76)	26.3	21.1	3.9	21.1	7.9	2.6	5.3	6.6	5.3
	女性(n=90)	26.0	20.8	3.1	18.8	8.4	4.2	6.3	2.1	8.4
年齢別	10歳代(n=1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=7)	28.6	14.3	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代(n=20)	45.0	20.0	0.0	10.0	5.0	5.0	5.0	0.0	10.0
	40歳代(n=26)	34.6	19.2	3.8	11.5	3.8	3.8	3.8	7.7	11.5
	50歳代(n=29)	41.4	24.1	0.0	10.3	6.9	3.4	3.4	0.0	10.3
	60～64歳(n=20)	10.0	15.0	5.0	30.0	10.0	0.0	15.0	5.0	10.0
	65歳以上(n=69)	15.9	23.2	4.3	23.2	13.0	4.3	5.8	5.8	4.3

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない

3.3. 人権尊重の教育・啓発の推進

施策内容	・ 市民一人ひとりの人権が尊重される地域社会の実現に向けた人権教育、啓発事業の推進		
主な事業	・ 啓発パンフレットの配布 ・ 人権週間啓発活動の実施 等		
満足度評価	0.20 (38 施策中 9 位)	重要度評価	0.62 (38 施策中 36 位)
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

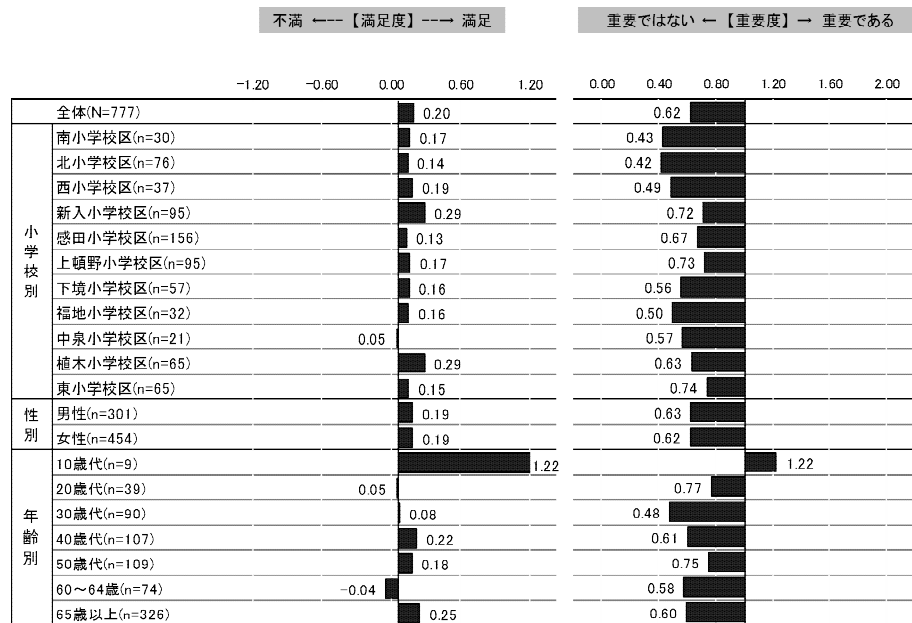
満足度評価	0.29 (38 施策中 8 位)	重要度評価	0.94 (38 施策中 37 位)
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度は高いが、重要度は低く、現状維持・見直しの領域（C）に位置する。

満足度は、全体的に平均を上回っているが、小学校区別では、中泉小学校区が平均を下回っている。年齢別では、10 歳代が突出して高い。一方、20 歳代、60 歳代前半で平均を下回っている。

重要度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、南、北小学校区で特に低くなっている。年齢別では、30 歳代が特に低くなっている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

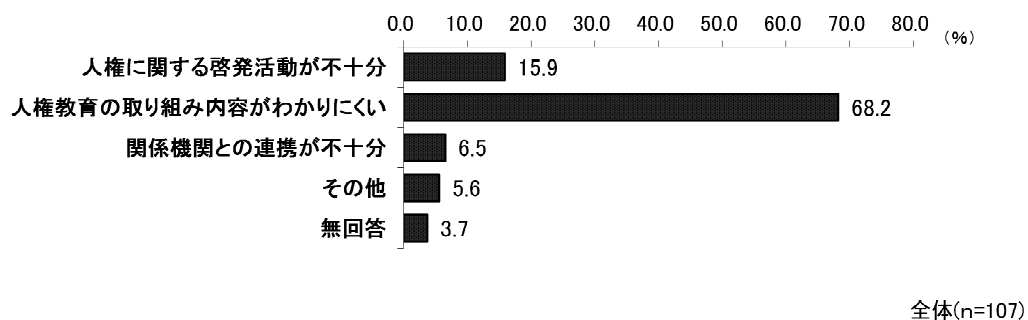
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「人権教育の取り組みがわかりにくい」が68.2%と突出し、次いで「人権に関する啓発活動が不十分」が15.9%となっている。

小学校区別では、西小学校区で「人権に関する啓発活動が不十分」、福地小学校区で「人権教育の取り組みがわかりにくい」が高い。

年齢別では、20歳代で「人権に関する啓発活動が不十分」、40～65歳以上で「人権教育の取り組みがわかりにくい」が高い。

【33. 人権尊重の教育・啓発の推進】



		人権に関する啓発活動が不十分	人権教育の取り組み内容がわかりにくい	関係機関との連携が不十分	その他	無回答
全体(n=107)		15.9	68.2	6.5	5.6	3.7
小学校区別	南小学校区(n=6)	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0
	北小学校区(n=10)	10.0	60.0	20.0	0.0	10.0
	西小学校区(n=5)	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	新入小学校区(n=10)	10.0	70.0	10.0	10.0	0.0
	藤田小学校区(n=24)	25.0	66.7	4.2	4.2	0.0
	上頓野小学校区(n=16)	12.5	68.8	6.3	12.5	0.0
	下境小学校区(n=5)	20.0	60.0	0.0	0.0	20.0
	福地小学校区(n=5)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	中泉小学校区(n=6)	16.7	66.7	16.7	0.0	0.0
	植木小学校区(n=7)	0.0	71.4	0.0	0.0	28.6
	東小学校区(n=11)	0.0	72.7	9.1	18.2	0.0
性別	男性(n=46)	19.6	67.4	6.5	2.2	4.3
	女性(n=59)	11.9	69.5	6.8	8.5	3.4
年齢別	10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=9)	44.4	55.6	0.0	0.0	0.0
	30歳代(n=13)	15.4	46.2	15.4	23.1	0.0
	40歳代(n=7)	28.6	71.4	0.0	0.0	0.0
	50歳代(n=20)	25.0	70.0	5.0	0.0	0.0
	60～64歳(n=16)	6.3	75.0	6.3	6.3	6.3
	65歳以上(n=40)	5.0	75.0	7.5	5.0	7.5

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

34. 男女共同参画社会の推進

施策内容	・男女が共同して社会を支えていくための意識啓発や教育・生活環境づくりの推進 ・女性相談の充実		
主な事業	・各種講座等啓発事業 ・団体の活動支援や交流支援 ・女性のチャレンジ（就職・復職・創業）支援 等		
満足度評価	0.15（38 施策中 11 位）	重要度評価	0.65（38 施策中 35 位）
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果（平成 29 年 9 月実施）】

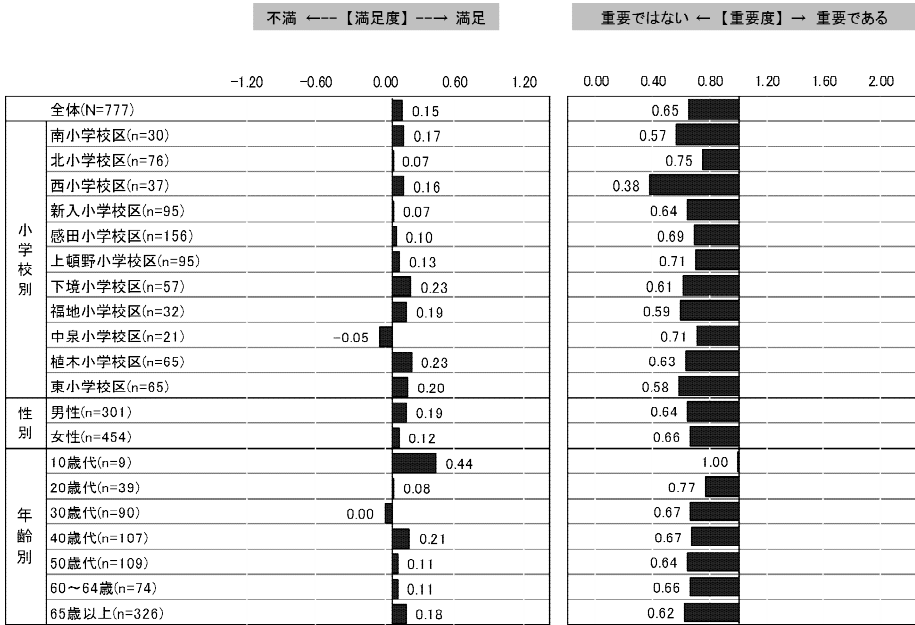
満足度評価	0.27（38 施策中 10 位）	重要度評価	0.98（38 施策中 36 位）
散布図象限	C	重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）	

（1）満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度は高いが、重要度は低く、現状維持・見直しの領域（C）に位置する。

満足度は、全体的に平均を上回っているが、小学校区別では中泉小学校区、年齢別では 30 歳代が平均を下回っている。

重要度は、全ての属性で平均を下回っている。小学校区別では、特に西小学校区が低い。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

(2) 不満の理由

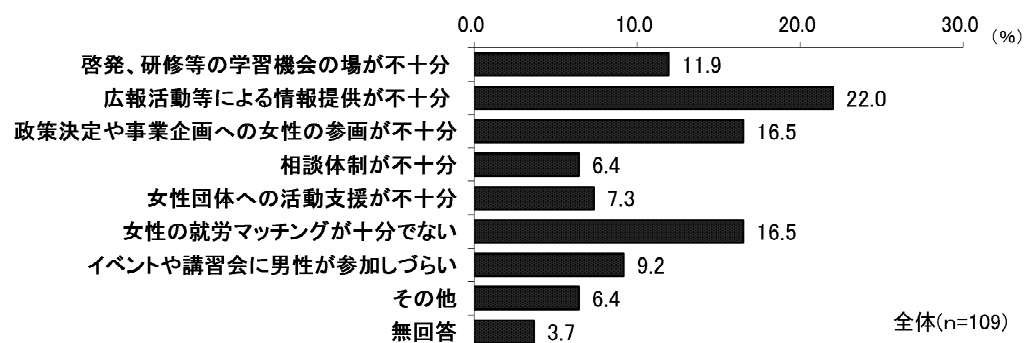
不満の理由としては、「広報活動等による情報提供が不十分」が22.0%と最も高く、次いで「政策決定や事業企画への女性の参画が不十分」と「女性の就労マッチングが十分でない」が16.5%となっている。

小学校区別では、下境、福地小学校区で「広報活動等による情報提供が不十分」が高い。

性別では、女性で「女性の就労マッチングが十分でない」が男性に比べ高くなっている。

年齢別では、30歳代で「女性の就労マッチングが十分でない」、50歳代で「広報活動等による情報提供が不十分」が高くなっている。

【34. 男女共同参画社会の推進】



		啓 発 が 不 十 分	啓 発 、 研 修 等 の 学 習 機 会 の 場 が 不 十 分	広 報 活 動 等 に よ る 情 報 提 供 が 不 十 分	政 策 決 定 や 事 業 企 画 へ の 女 性 の 参 画 が 不 十 分	相 談 体 制 が 不 十 分	女 性 団 体 へ の 活 動 支 援 が 不 十 分	女 性 の 就 労 マ ッ チ ン グ が 不 十 分	女 性 の 就 労 マ ッ チ ン グ が 不 十 分	イ ベ ン ト や 講 習 会 に 男 性 が 参 加 し づ ら い	そ の 他	無 回 答
全体(n=109)			11.9	22.0	16.5	6.4	7.3	16.5	9.2	6.4	3.7	
小 学 校 区 別	南小学校区(n=6)		16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	
	北小学校区(n=16)		0.0	31.3	0.0	6.3	18.8	18.8	18.8	6.3	0.0	
	西小学校区(n=4)		0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	
	新入小学校区(n=14)		0.0	7.1	35.7	14.3	0.0	21.4	7.1	7.1	7.1	
	感田小学校区(n=23)		21.7	21.7	30.4	0.0	0.0	13.0	4.3	4.3	4.3	
	上頓野小学校区(n=12)		25.0	25.0	8.3	0.0	8.3	16.7	16.7	0.0	0.0	
	下境小学校区(n=6)		16.7	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	福地小学校区(n=4)		0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
	中泉小学校区(n=5)		20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	
	植木小学校区(n=6)		0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	
	東小学校区(n=9)		11.1	11.1	0.0	22.2	11.1	22.2	11.1	11.1	0.0	
性 別	男性(n=44)		13.6	25.0	20.5	4.5	2.3	11.4	15.9	4.5	2.3	
	女性(n=63)		9.5	20.6	14.3	7.9	11.1	20.6	4.8	7.9	3.2	
年 齢 別	10歳代(n=0)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20歳代(n=6)		16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	
	30歳代(n=17)		5.9	11.8	11.8	0.0	5.9	47.1	0.0	17.6	0.0	
	40歳代(n=11)		9.1	18.2	0.0	9.1	0.0	36.4	9.1	9.1	9.1	
	50歳代(n=23)		8.7	30.4	4.3	13.0	13.0	17.4	0.0	8.7	4.3	
	60～64歳(n=8)		0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	12.5	37.5	0.0	12.5	
	65歳以上(n=42)		16.7	26.2	33.3	0.0	9.5	2.4	11.9	0.0	0.0	

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

35. 時代をリードし成長する工業

施策内容	・人材確保と雇用の促進 ・新たな販路開拓と創業支援 ・産業振興推進体制の充実		
主な事業	・市内事業所の展示会や小中学生を対象とした見学会の実施 ・市内事業所周知のための広報支援（市報による定期掲載）の実施 ・アドバイザー・コンサルティング機能を備えた「直鞍ビジネス支援センター」の設置 ・直鞍産業振興センター運営事業 ・創業支援事業 等		
満足度評価	－0.10（38 施策中 31 位）	重要度評価	0.93（38 施策中 23 位）
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果（平成 29 年9月実施）】

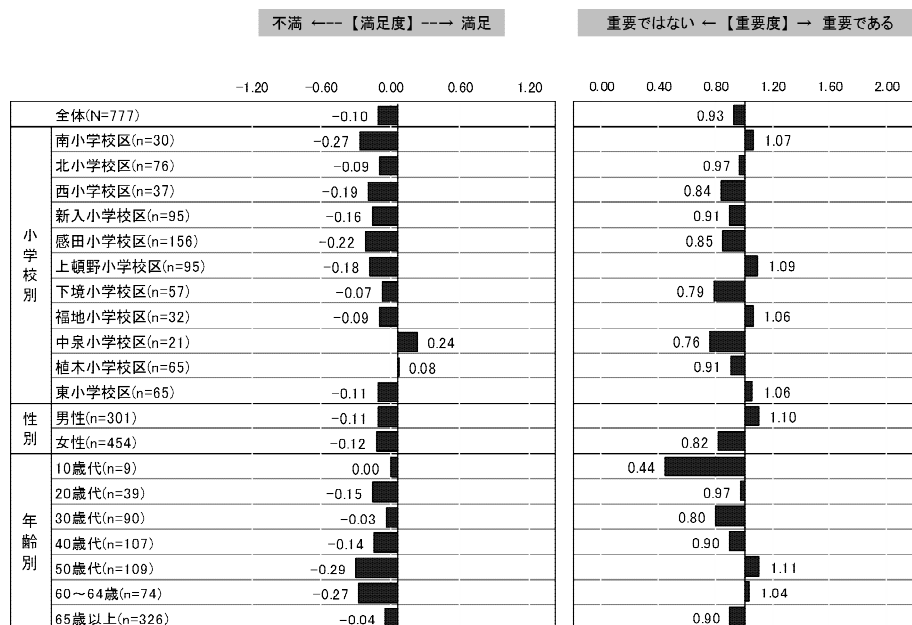
満足度評価	－0.06（38 施策中 27 位）	重要度評価	1.10（38 施策中 32 位）
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

（１）満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域（D）に位置する。

満足度は、全体的に平均を下回っているが、小学校区別では、中泉、植木小学校区で平均を上回っている。年齢別では、50 歳代、60 歳代前半で特に低くなっている。

重要度は、性別では男性で高い。年齢別では、10 歳代が突出して低く、50 歳代、60 歳代前半は平均を上回っている。



注：グラフの中央線は全体の平均値（満足度は 0.06、重要度は 1.01）としている。

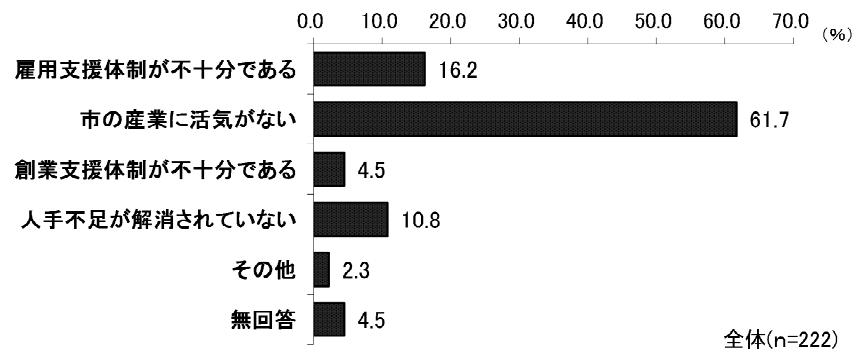
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「市の産業に活気がない」が61.7%と突出して高い。

小学校区別では、南小学校区で「創業支援体制が不十分である」、北小学校区で「市の産業に活気がない」、感田小学校区で「人手不足が解消されていない」が高くなっている。

年齢別では、20歳代で「人手不足が解消されていない」、60歳代前半で「雇用支援体制が不十分である」が高い。

【35. 時代をリードし成長する工業】



		雇用支援体制が不十分で	市の産業に活気がない	創業支援体制が不十分で	人手不足が解消されていない	その他	無回答
全体(n=222)		16.2	61.7	4.5	10.8	2.3	4.5
小学校区別	南小学校区(n=13)	0.0	69.2	23.1	7.7	0.0	0.0
	北小学校区(n=23)	21.7	73.9	0.0	4.3	0.0	0.0
	西小学校区(n=12)	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7
	新入小学校区(n=32)	21.9	56.3	3.1	9.4	6.3	3.1
	感田小学校区(n=46)	10.9	60.9	4.3	23.9	0.0	0.0
	上頓野小学校区(n=31)	3.2	67.7	6.5	12.9	3.2	6.5
	下境小学校区(n=12)	25.0	58.3	16.7	0.0	0.0	0.0
	福地小学校区(n=9)	22.2	55.6	0.0	0.0	0.0	22.2
	中泉小学校区(n=3)	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3
	植木小学校区(n=13)	30.8	61.5	0.0	7.7	0.0	0.0
	東小学校区(n=20)	15.0	55.0	0.0	10.0	10.0	10.0
性別	男性(n=101)	12.9	61.4	5.9	12.9	1.0	5.9
	女性(n=118)	18.6	62.7	3.4	8.5	3.4	3.4
年齢別	10歳代(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=12)	0.0	66.7	8.3	25.0	0.0	0.0
	30歳代(n=22)	9.1	59.1	0.0	18.2	9.1	4.5
	40歳代(n=28)	13.8	49.3	3.4	17.2	6.9	10.3
	50歳代(n=46)	21.7	63.0	4.3	8.7	2.2	0.0
	60～64歳(n=26)	26.9	50.0	3.8	7.7	0.0	11.5
	65歳以上(n=83)	14.5	69.9	6.0	6.0	0.0	3.6

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

36. 市民の暮らしの担い手となる商業とサービス産業

施策内容	・空店舗を活用した中心市街地商店街の活性化推進 ・医療と商業の連携		
主な事業	・中心市街地商業活性化事業 ・直方市商店リフォーム事業 等		
満足度評価	-0.67 (38 施策中 38 位)	重要度評価	0.98 (38 施策中 19 位)
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い(改善・見直し領域)	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

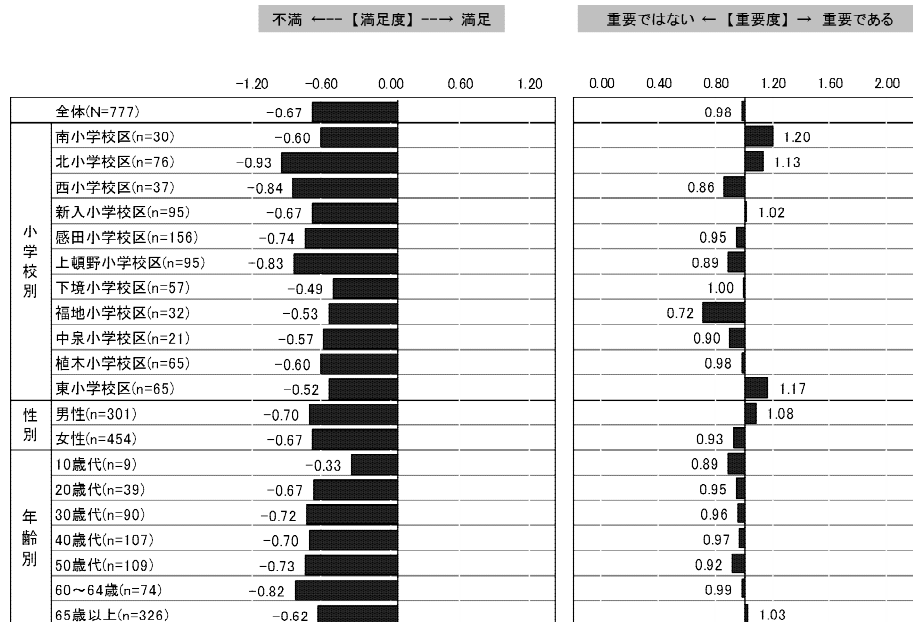
満足度評価	-0.85 (38 施策中 38 位)	重要度評価	1.49 (38 施策中 18 位)
散布図象限	A	重要度が高く、満足度が低い(重点化・見直し領域)	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査では、重要度が高いが、満足度が相対的に低く、重点化・見直しの領域(A)に位置したが、今回調査では、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域(D)に位置する。

満足度は、全ての属性で平均を下回っている。小学校区別では、北、西、上頓野小学校区が低い。年齢別には、60歳代前半が低い。

重要度は、小学校区別では、南、北、東小学校区で平均を上回っている。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

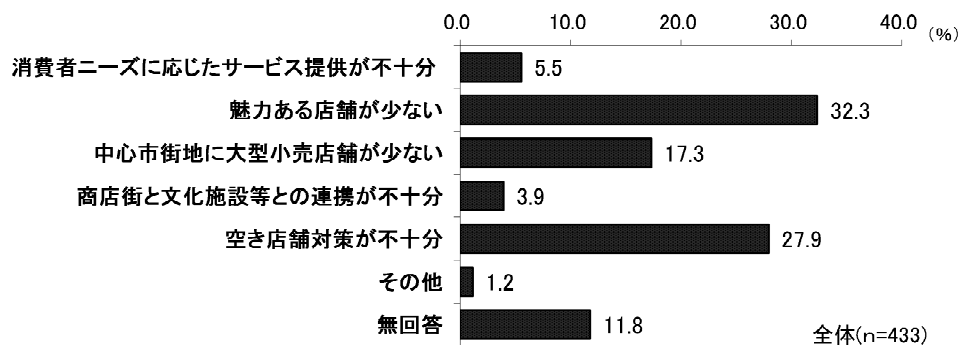
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「魅力ある店舗が少ない」が32.3%と最も高く、次いで「空き店舗対策が不十分」が27.9%、「中心市街地に大型小売店舗が少ない」が17.3%となっている。

小学校区別では、福地小学校区で「魅力ある店舗が少ない」、中泉小学校区で「消費者ニーズに応じたサービス提供が不十分」が高くなっている。

年齢別では、10歳代で「魅力ある店舗が少ない」が高くなっている。

【36. 市民の暮らしの担い手となる商業とサービス産業】



		消費者 ニーズに 応じた サービス 提供が 不十分	魅力 ある 店舗が 少ない	中心 市街地 に大型 小売店 舗が少 ない	商店 街と文 化施設 等との 連携が 不十分	空き 店舗 対策が 不十分	その他	無 回答
全体(n=433)		5.5	32.3	17.3	3.9	27.9	1.2	11.8
小 学 校 区 別	南小学校区(n=20)	10.0	20.0	30.0	0.0	20.0	5.0	15.0
	北小学校区(n=50)	4.0	34.0	28.0	2.0	28.0	0.0	6.0
	西小学校区(n=23)	8.7	30.4	17.4	0.0	34.8	0.0	8.7
	新入小学校区(n=55)	1.8	14.5	28.1	1.8	34.5	5.5	12.7
	藤田小学校区(n=81)	4.4	38.3	8.8	2.2	35.2	1.1	12.1
	上頓野小学校区(n=59)	3.4	42.4	11.9	6.8	23.7	0.0	11.9
	下城小学校区(n=25)	12.0	28.0	16.0	8.0	28.0	0.0	8.0
	福地小学校区(n=17)	5.9	58.8	5.9	5.9	17.6	0.0	5.9
	中泉小学校区(n=9)	22.2	11.1	22.2	11.1	11.1	0.0	22.2
	植木小学校区(n=35)	2.9	45.7	11.4	8.8	20.0	0.0	11.4
	東小学校区(n=33)	9.1	27.3	15.2	6.1	27.3	0.0	15.2
性 別	男性(n=176)	6.3	30.1	19.9	5.1	26.1	1.7	10.8
	女性(n=249)	4.8	34.1	15.3	3.2	29.3	0.8	12.4
年 齢 別	10歳代(n=3)	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	20歳代(n=20)	15.0	30.0	0.0	10.0	35.0	0.0	10.0
	30歳代(n=50)	4.0	34.0	14.0	8.0	28.0	2.0	12.0
	40歳代(n=57)	3.5	42.1	12.3	3.5	28.1	1.8	8.8
	50歳代(n=65)	8.2	40.0	12.3	4.8	26.2	1.5	8.2
	60～64歳(n=49)	6.1	30.6	24.5	4.1	22.4	2.0	10.2
	65歳以上(n=180)	5.0	28.7	21.7	2.8	29.4	0.8	13.9

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

37. 未来に夢を持つ農業

施策内容	・ 認定農業者等担い手の育成支援 ・ 直方産米粉をはじめとする加工品の六次産業化及び農産物の消費拡大の推進 ・ 堆肥を利用した減農薬栽培の推進		
主な事業	・ 農産物ブランド化推進事業 ・ 地域営農組織の機能強化事業 等		
満足度評価	−0.12 (38 施策中 33 位)	重要度評価	0.86 (38 施策中 28 位)
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

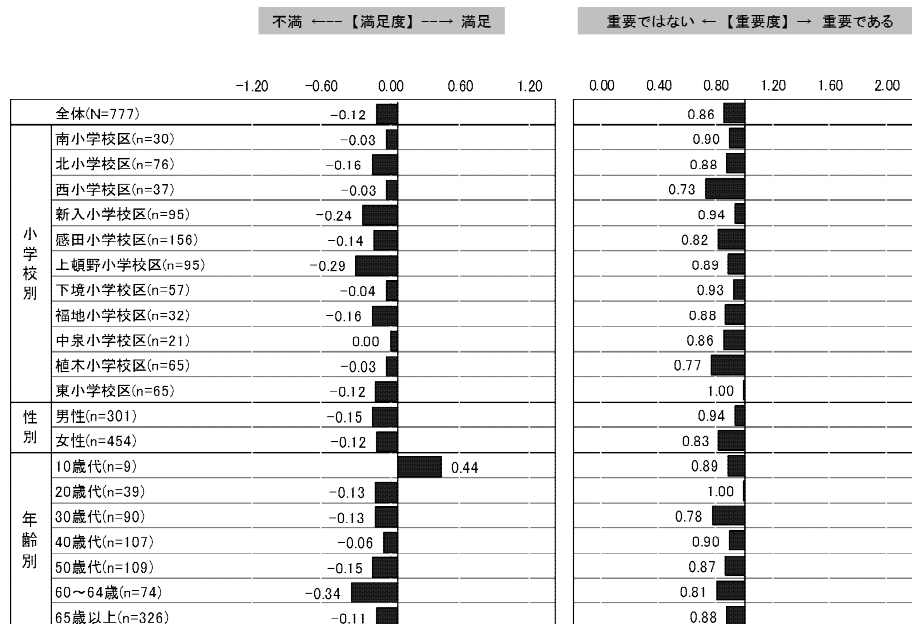
満足度評価	−0.16 (38 施策中 32 位)	重要度評価	1.26 (38 施策中 26 位)
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

(1) 満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域（D）に位置している。

満足度は、全体的に平均を下回っている。小学校区別では、新入、上頓野小学校区で特に低くなっている。年齢別では、10 歳代で平均を上回っている。また、60 歳代前半で特に低くなっている。

重要度は、全ての属性で平均を下回っている。小学校区別では、西、植木小学校区で特に低い。年齢別では、30 歳代で特に低い。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

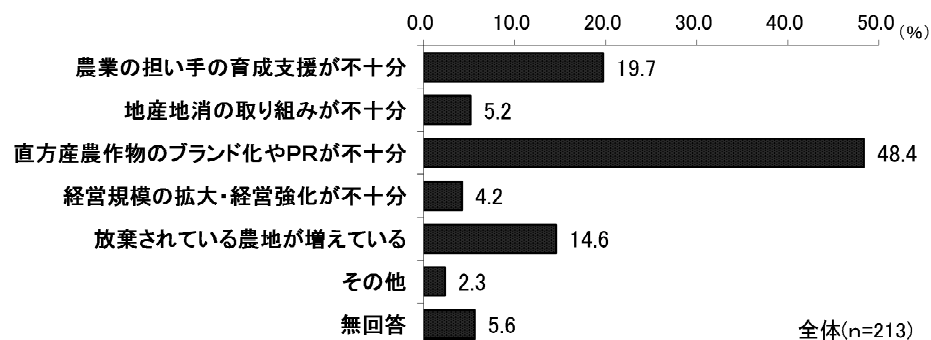
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「直方産農作物のブランド化やPRが不十分」が48.4%と最も高く、次いで「農業の担い手の育成支援が不十分」が19.7%、「放棄されている農地が増えている」が14.6%となっている。

小学校区別では、西小学校区で「直方産農作物のブランド化やPRが不十分」、中泉小学校区で「地産地消の取り組みが不十分」が高い。

年齢別では、40歳代で「直方産農作物のブランド化やPRが不十分」が高くなっている。

【37. 未来に夢を持つ農業】



		が農 業の 担い 手の 育 成 支 援 が 不 十 分	十 分 地 産 地 消 の 取 り 組 み が 不 十 分	直 方 産 農 作 物 の ブ ラ ン ド 化 や P R が 不 十 分	経 営 規 模 の 拡 大 ・ 経 営 強 化 が 不 十 分	放 棄 さ れ て い る 農 地 が 増 え て い る	そ の 他	無 回 答
全体(n=213)		19.7	5.2	48.4	4.2	14.6	2.3	5.6
小 学 校 区 別	南小学校区(n=10)	20.0	0.0	60.0	10.0	10.0	0.0	0.0
	北小学校区(n=23)	21.7	8.7	52.2	8.7	8.7	0.0	0.0
	西小学校区(n=8)	12.5	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	12.5
	新入小学校区(n=32)	9.4	3.1	50.0	6.3	18.8	6.3	6.3
	藤田小学校区(n=42)	19.0	7.1	50.0	4.8	11.9	0.0	7.1
	上頓野小学校区(n=31)	12.9	6.5	45.2	3.2	16.1	6.5	9.7
	下境小学校区(n=13)	30.8	0.0	38.5	0.0	23.1	0.0	7.7
	福地小学校区(n=12)	25.0	8.3	41.7	0.0	16.7	8.3	0.0
	中泉小学校区(n=8)	0.0	33.3	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0
	植木小学校区(n=14)	28.6	0.0	42.9	0.0	21.4	0.0	7.1
	東小学校区(n=17)	29.4	0.0	47.1	0.0	17.6	0.0	5.9
性 別	男性(n=88)	18.0	3.4	48.3	4.5	13.5	3.4	9.0
	女性(n=122)	19.7	6.6	49.2	4.1	15.6	1.6	3.3
年 齢 別	10歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=11)	18.2	18.2	45.5	0.0	18.2	0.0	0.0
	30歳代(n=24)	25.0	0.0	54.2	4.2	4.2	8.3	4.2
	40歳代(n=25)	20.0	0.0	60.0	4.0	8.0	0.0	8.0
	50歳代(n=33)	21.2	15.2	51.5	6.1	3.0	3.0	0.0
	60～64歳(n=27)	3.7	3.7	51.9	3.7	25.9	0.0	11.1
	65歳以上(n=80)	21.1	3.3	43.3	3.3	20.0	2.2	6.7

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

38. 魅力あふれる観光

施策内容	・観光ルートづくりと観光ボランティアの育成 ・近隣自治体と連携したネットワーク強化 ・地域資源を活かした観光の推進		
主な事業	・観光物産振興協会支援事業 ・のおがたチューリップフェア、のおがた夏まつり支援事業 ・ちょっくらふれ旅（体験型プログラム）等		
満足度評価	－0.05（38 施策中 25 位）	重要度評価	0.97（38 施策中 21 位）
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

【参考資料／前回調査結果(平成 29 年9月実施)】

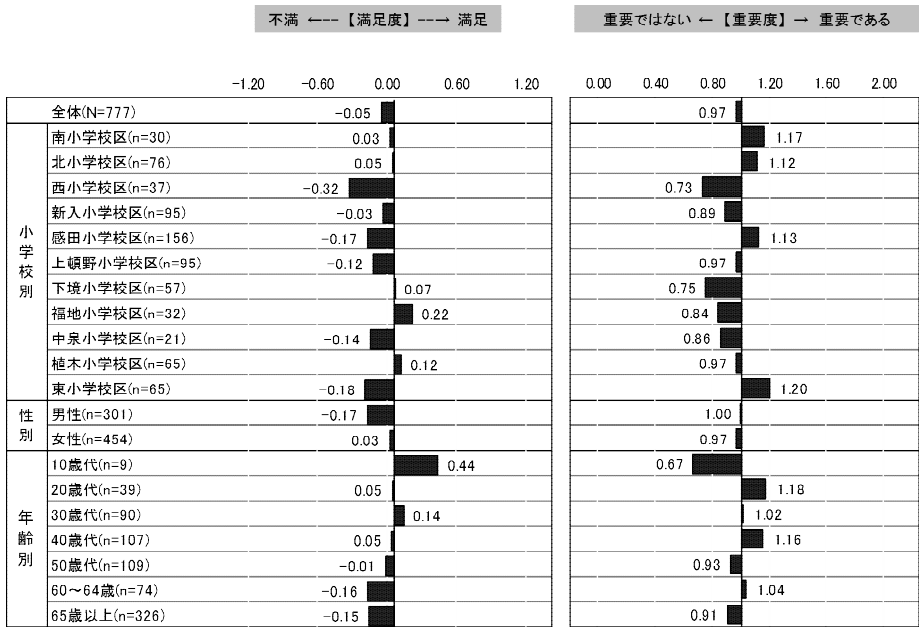
満足度評価	－0.16（38 施策中 33 位）	重要度評価	1.40（38 施策中 21 位）
散布図象限	D	重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）	

（１）満足度・重要度の評価傾向

前回調査と同様に、満足度、重要度ともに低位にあり、改善・見直しの領域（D）に位置している。

満足度は、全体的に平均を下回っており、小学校区別では、西小学校区で特に低くなっている。性別では、男性が低い。年齢別には、60 歳代前半、65 歳以上が低くなっている。

重要度は、小学校区別では、下境、西小学校区で特に低い。年齢別では、10 歳代が特に低い。



注: グラフの中央線は全体の平均値(満足度は 0.06、重要度は 1.01)としている。

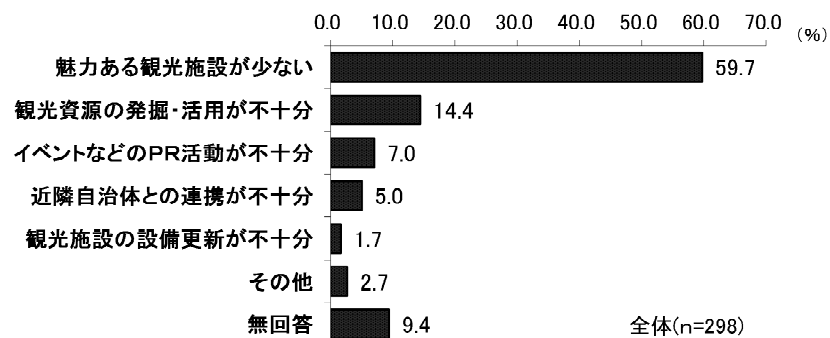
(2) 不満の理由

不満の理由としては、「魅力ある観光施設が少ない」が59.7%と突出して高く、次いで「観光資源の発掘・活用が不十分」が14.4%となっている。

小学校区別では、南小学校区で「観光資源の発掘・活用が不十分」が高い。

年齢別では、20歳代で「魅力ある観光施設が少ない」が高い。

【38. 魅力あふれる観光】



		魅力ある観光施設が少ない	観光資源の発掘・活用が不十分	イベントなどのPR活動が不十分	近隣自治体との連携が不十分	観光施設の設備更新が不十分	その他	無回答
全体(n=298)		59.7	14.4	7.0	5.0	1.7	2.7	9.4
小学校区別	南小学校区(n=13)	23.1	53.8	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0
	北小学校区(n=29)	65.5	6.9	13.8	3.4	3.4	0.0	6.9
	西小学校区(n=17)	58.8	11.8	5.9	0.0	5.9	0.0	17.6
	新入小学校区(n=39)	59.0	12.8	5.1	5.1	0.0	5.1	12.8
	感田小学校区(n=68)	61.8	13.2	7.4	4.4	1.5	1.5	10.3
	上順野小学校区(n=42)	61.9	19.0	4.8	7.1	2.4	0.0	4.8
	下埴小学校区(n=18)	43.8	18.8	8.3	12.5	6.3	6.3	6.3
	福地小学校区(n=10)	70.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中泉小学校区(n=8)	82.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	植木小学校区(n=19)	68.4	10.5	15.8	0.0	0.0	0.0	5.3
	東小学校区(n=28)	60.7	7.1	3.6	3.6	0.0	14.3	10.7
性別	男性(n=129)	58.1	17.1	4.7	7.0	3.1	2.3	7.8
	女性(n=164)	61.0	12.8	9.1	3.0	0.6	3.0	10.4
年齢別	10歳代(n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=12)	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3
	30歳代(n=31)	61.3	6.5	9.7	3.2	6.5	3.2	9.7
	40歳代(n=39)	59.0	15.4	7.7	5.1	0.0	5.1	7.7
	50歳代(n=44)	72.7	6.8	9.1	0.0	2.3	4.5	4.5
	60～64歳(n=26)	51.7	20.7	10.3	0.0	0.0	3.4	13.8
	65歳以上(n=136)	55.1	18.1	5.1	8.1	1.5	0.7	10.3

注：表中の着色は、各クロス集計において、最も高い割合を示している。

(例/性別の場合は男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合は最も高い年齢層に着色。)

但し、回答者が1人、また回答割合が10%未満の項目、「無回答」については着色していない。

【9】自由回答の概要（これからのまちづくりに対する考え・意見）

これからの直方市のまちづくりに対する考えや意見等について、自由回答によって尋ねたところ、その概要は以下のとおりとなった。

1. 回答状況

（1）回答者数及び回答件数

アンケートの有効回答者 777 人のうち、まちづくりに対する考えや意見を自由回答に記入したのは 252 人（32.4%）であった。

自由回答を内容別に、「行政経営」「財政運営」「情報公開・発信」「地域活性化・産業振興」「まちづくりの方向性・イメージ」「生活環境」「上下水道」「市街地・道路等」「公共交通機関」「各種公共施設」「防犯・防災・安全」「教育・文化・スポーツ」「保健・医療・福祉」「市民意識調査」「その他」の 15 分野に分けて分類（複数の分野について記述している回答は分野ごとに細分化）したところ、延べ 360 件であった。

（2）分野別の回答件数

自由回答の内容を分野別に区分し、その回答件数を示したのが下表である。

最も多かった分野は、「地域活性化・産業振興」で 84 件（23.3%）である。次いで、「市街地・道路等」が 30 件（8.3%）、「保健・医療・福祉」が 27 件（7.5%）、「公共交通機関」が 26 件（7.2%）、「行政経営」「まちづくりの方向性・イメージ」「生活環境」が各 24 件（6.7%）となっている。

分野	回答件数 (件)	割合 (%)	順位
行政経営	24	6.7	5
財政運営	14	3.9	12
情報公開・発信	15	4.2	11
地域活性化・産業振興	84	23.3	1
まちづくりの方向性・イメージ	24	6.7	5
生活環境	24	6.7	5
上下水道	9	2.5	15
市街地・道路等	30	8.3	2
公共交通機関	26	7.2	4
各種公共施設	18	5.0	9
防犯・防災・安全	22	6.1	8
教育・文化・スポーツ	18	5.0	9
保健・医療・福祉	27	7.5	3
市民意識調査	11	3.1	14
その他	14	3.9	12
合計（延べ）	360	100.0	

2. 分野別回答内容

(1) 行政経営

当分野の記述件数は延べ 24 件、全体の 6.7%を占める。

この分野の意見で最も多いのが、「行政努力」に関するもので、職員がもっと市民の声に耳を傾ける努力をする、施策の展開は行政で考える、などに関する意見がみられる。次いで多い「行政改革」では、具体的な内容よりも「行政改革をすすめて欲しい」との要望がほとんどを占めた。また、同数の「窓口サービスの対応」では、対応する職員の態度や業務のスピードに対する意見があった。

順位	行政経営に対する意見の内容	回答件数 (件)
1	行政努力	7
2	行政改革	4
3	窓口サービスの対応（向上、良さへの評価）	4
4	市民協働・市民活動への理解・支援	3
5	自治会活動への理解・支援	2
6	職員の意識啓発・能力向上	1
7	市職員の登用・削減	1
	その他	2
	合計	24

(1) - 1 「行政努力」に関する具体的意見

「直方市は小さい町なので、もっと市民の中に入って欲しい。」「地味な仕事も丁寧に行って欲しい。」「市民のことを聞くことは大事なことはあるが、財源の制約がある。施策をどう展開していくかについては、行政にプロである市長や職員に委ねたい。」などの意見が聞かれた。

(1) - 2 「行政改革」に関する具体的意見

「行財政改革の推進が最も重要と考える」「行政改革を特に進めてほしい」など、具体的な内容というよりも、まずは改革を行って欲しいとの意見があった。また、「行政改革は、市も民間会社と同じく『3ヶ年、5ヶ年』と計画し、トップが変わってもその計画を推進し完了すること」など、確実な改革への要望が聞かれた。

(1) - 3 「窓口サービスの対応」に関する具体的意見

「市役所で各種手続きの際、いつも対応が遅い。」「市役所や税務署などの対応が差別的で怠慢である。もう少し、謙虚に対応できないかと思う。」「昼休みの時間帯に住民票を取るのに時間がかかり、対応もあまりよくない」など、窓口での職員の対応、スピードに対する不満がみられた。

(1) - 4 「市民協働・市民活動への理解・支援」に関する具体的意見

「市（行政）と市民のかかわりが薄い。意見交換できる機会があればいいと思う。」「直方市の活性化を地域ぐるみで考えて直方市を発展させてほしい。」など、

市民と行政がもっと関わることへの要望などが聞かれた。

(1) - 5 「自治会活動への理解・支援」に関する具体的意見

「自治会加入促進の施策の実施、自治会加入者と未加入者の差別化、自治会加入者への市民サービス強化。」「引越して転入された方々へも自治会の加入を市が勧めてほしい。」といった、自治会への加入促進への要望が聞かれた。

(2) 財政運営

当分野の記述件数は延べ 14 件、全体の 3.9%を占めている。

この分野では、行政サービスの有料化への不満が最も多くなっている。また、厳しい財政状況の中で「無駄な経費の削減」を求める意見もみられる。

順位	財政運営に対する意見の内容	回答件数 (件)
1	税金・国民健康保険料、行政サービスの有料化など市民負担への不満	6
2	無駄な経費削減	4
3	税金使途の公平性	2
4	財政の健全化	2
	合計	14

(2) - 1 「税金、国民健康保険料など市民負担への不満」に関する具体的意見

「何でもかんでも有料化は迷惑している。住みにくい。」「税金や家賃、ゴミ袋代や光熱費が、他の市町村に比べてとても高い。特に市民税が高い。」の不満が聞かれた。

(2) - 2 「無駄な経費の削減」に関する具体的意見

「直方市の議員は人口 6 万に満たない市民に対し 19 人もいる。人件費の無駄遣いとなり支出が多くて他に使い道がある。」「無駄な工事をしないで欲しい。」など人件費、工事費の削減に関する意見が聞かれた。

(2) - 3 「税金使途の不公平性」に関する具体的意見

「一部の人が得をする税金の使い方をやめて欲しい。」など、税金の使い道の不公平感に関する意見が聞かれた。

(2) - 4 「財政の健全化」に関する具体的意見

「地方交付税をたよるのではなく直方市内のみにかかわる税金で黒字化できることが理想。」「予算を使い切るべく計画を立てるような事業はしないよう願う。」という意見が聞かれた。

(3) 情報公開・発信

当分野の記述件数は延べ 15 件、全体の 4.2%を占めている。

この分野では、市民に見える情報発信に関する意見が多く聞かれた。

順位	情報公開・発信に対する意見の内容	回答件数 (件)
1	市民に見える情報発信	7
2	市報の内容の見直し・充実	2
3	市報の配布	2
4	(市報以外の) 情報発信手段の充実	1
	その他	2
	合計	14

(3) - 1 「市民に見える情報発信」に関する具体的意見

「色々よい取り組みをしているが伝わりにくい、キャッチできない。」「市議や市役所でどのような仕事をしているのか、もっとわかりやすく情報発信してほしい。」など市の取り組みを市民に情報発信する要望が聞かれた。また、「直方には面白いイベントやおいしいお店がたくさんあるが、普通に暮らしている人は知らない。それらを宣伝するのにお金を多く使ってほしい。」など、市内でのイベント・催事の情報発信に関する要望も聞かれた。

(3) - 2 「市報の内容の見直し・充実」に関する具体的意見

「市民が手に取って読みたくなるような市報作りをしてほしい。」「市報が月 1 回になって情報が減った気がする。」という市報の内容の充実を求める意見が聞かれた。

(3) - 3 「市報の配布」に関する具体的意見

「市報が届かないので、市がどのような取り組みをしているのかが分からない。イベント等の日程もわからず気づけば終わっている。市報やポスター等がもっと目につけば人も増えるのではないか。」「自治会に入っている、高齢化で配布が難しい時もある。市報が直接自宅に届くようにしてほしい。」など市報の配布に関する意見が聞かれた。

(4) 地域活性化・産業振興

当分野の記述件数は延べ84件、全体の23.3%を占め、15分野の中では1番多く、市民が地域活性化を重視している傾向がうかがえる。

この分野では、「地元商店街の整備・活性化」と商店街も含めた「直方駅周辺の整備・活性化」に関する意見が圧倒的に多く、地元商店街を中心として地場産業の活性化対策を求める市民の声が強くなっている。

また、市への集客を高める「観光スポット・イベントの充実」に関する意見が多くなっている。

順位	地域活性化・産業振興に対する意見の内容	回答件数 (件)
1	地元商店街の整備・活性化	33
2	観光スポット・イベントの充実	14
3	直方駅周辺の整備・活性化	8
4	商業施設の誘致・整備	6
5	地域活性化の方向性	5
6	企業誘致	3
7	農業振興	3
8	コンパクトシティ	3
9	大学誘致	2
10	移住・定住促進	2
	その他	5
	合計	84

(4) - 1 「地元商店街の整備・活性化」に関する具体的意見

「商店街にスーパーが欲しい。」「五日市の日だけは人が多くにぎやか。できることなら、5の付く日、月3回を月の特売出しの日にしたならいいかもしれない。」
「市民の趣味の手作りとか、花、野菜、果物等気軽に出品できるコーナー等あったらいいと思う。」など商店街の活性化に対する要望やアイデアに関する意見が多数寄せられた。

(4) - 2 「観光スポット・イベントの充実」に関する具体的意見

「直方市で開催される祭り、河川敷の催し物イベントなど、もっと宣伝をしてほしい。チューリップ祭りをもっと規模を大きくして直方アピールをしてはどうか。」
「自然豊かで住みやすい場所だと思う。気軽に参加できるウォーキング、マラソン、自転車など体を動かすイベントがあれば嬉しい。」など市の賑わいをつくる観光イベントの開催等を求める意見が多く寄せられた。

(4) - 3 「直方駅周辺の整備・活性化」に関する具体的意見

「駅周りは直方市の中心部の感じがせず、イオンが中心のように感じる。飯塚バス

センターのアイタウンのようなものができないか。駅前が寂しいと市が寂しく感じる。」「駅前の店舗の充実化が望まれる。駅前のバス停に座る場所が無い。悪天候の場合には特に不便。」など、駅前の整備・活性化に対する要望が多数寄せられた。

(4) - 4 「商業施設の誘致・整備」に関する具体的意見

「直方駅前周辺にスーパーがほしい」など、駅周辺に日常的に利用するスーパーがなく不便という声が多く聞かれた。

(4) - 5 「地域活性化の方向性」に関する具体的意見

「官、民、学、資金提供一体となって直方市の活性化を図ってほしい。」「直方市はどこが市の中心部かわからないので、もっと明確にして、その部分を強化、発展をさせていく事が直方市の魅力を発信していけると思う。」など、まちづくりの手法、方向性についての意見が聞かれた。

(5) まちづくりの方向性・イメージ

当分野の記述件数は延べ 24 件、全体の 6.7%を占めている。

この分野では、高齢者、子供、弱者が住みやすいまちづくりに関する意見が最も多く聞かれた。

順位	まちづくりの方向性・イメージに対する意見の内容	回答件数 (件)
1	高齢者・子どもなどにやさしいまちづくり	4
2	安心・安全、幸福なまちづくり	3
3	特色・魅力あるまちづくり	3
4	子ども、若者が住み続けたいまちづくり	2
5	次世代につながるまちづくり	2
6	自然豊かで美しいまちづくり	2
7	元気で活気あるまちづくり	1
8	子育てがしやすいまちづくり	1
9	住み続けたいまちづくり	1
	その他	5
	合計	24

(5) - 1 「高齢者・子どもなどにやさしいまちづくり」に関する具体的意見

「老人や子供を大切にすることを一番に考えてほしい。」「長い年月介護しながら勤務して感じたことだが、働きやすく弱者にやさしい市になってほしい。」などの意見が寄せられた。

(5) - 2 「安心・安全、幸福なまちづくり」に関する具体的意見

「住む人が暮らしに安堵し幸福を感じるようなまちづくりに精励すべき。」「安心・安全な町であるよう願っている。」などの意見が寄せられた。

(5) - 3 「特色・魅力あるまちづくり」に関する具体的意見

「何か一つ『これだけは他の市町村に負けない』というものを見つけて取り組んでほしい。」「幅広い市民に対して魅力的な自分の住んでいる市が誇れるまちづくりをしてほしい。」といった「魅力」づくりに関する意見も寄せられた。

(6) 生活環境

当分野の記述件数は延べ 24 件、全体の 6.7%を占めている。

この分野では、「ゴミ」に関する意見が最も多く、その内容としては、ゴミ分別、回収方法、家庭での焼却への不満が多く聞かれた。また、空き家対策に関する意見も聞かれた。

順位	生活環境に対する意見の内容	回答件数 (件)
1	ゴミ回収の改善	8
2	空き家対策	5
3	ゴミ処理対策	4
4	自然環境・自然景観の保全	2
5	有害鳥獣被害	1
	その他	4
	合計	24

(6) - 1 「ゴミ回収の改善」に関する具体的意見

「燃えないゴミ収集とリサイクル収集を月に 2 回以上してほしい。」「ゴミ袋が破れやすくなった。」「資源リサイクル回収場所が大通りのため、自治会に入っていない人が持ってくる。正しく分別すればよいが、規則を守っていない。資源リサイクル回収場所を増やしてほしい。」など、ゴミの回収回数、回収場所、ゴミ袋の品質に関する意見が寄せられた。

(6) - 2 「空き家対策」に関する具体的意見

「行政と業者が連携して空き家の利用方法、売却、寄付、固定資産税の見直し等々について、故人の空き家を維持、管理する者の負担の軽減」「つぶれそうな空き家の撤去」など、空き家対策に対する意見があった。

(6) - 3 「ゴミ処理対策」に関する具体的意見

「不法投棄が多すぎる。見回りの強化をしてほしい。」「プラスチックや紙くずを家庭で焼却処分されている家庭が多いのには閉口している。焼却時に出る有害物質のことを考えると、安心して窓を開けられない。啓発の看板等を検討してほしい。」など、家庭での焼却に対する意見が多く見られた。

(7) 上下水道

当分野の記述件数は延べ9件、全体の2.5%を占めている。

この分野では、特に「下水道の整備」の早期の対応が求められている。

順位	上下水道に対する意見の内容	回答件数 (件)
1	下水道の整備	7
2	水道料金への不満	2
	合計	9

(7) - 1 「下水道の整備」に関する具体的意見

「下水道が整備されている街から直方市に移り住んで20年以上になるが、直方市は他の自治体と比べて整備が遅れている。」など整備進捗に対する不満が多くみられた。

(7) - 2 「水道料金への不満」に関する具体的意見

「北九州市から引っ越してきたが、水道料金が高い。」「水道料金が以前住んでいた所よりはるかに高いので見直してほしい。」といった料金面での意見があった。

(8) 市街地・道路等

当分野の記述件数は延べ30件、全体の8.3%を占め、15分野の中では2番目に多い。

この分野では、「道路整備」「道路・河川美化」に関することが多い。

順位	市街地・道路等に対する意見の内容	回答件数 (件)
1	道路整備	10
2	道路・河川美化	9
3	街灯の整備	5
4	道路の維持・管理	2
5	歩道・通学路	1
	その他	3
	合計	30

(8) - 1 「道路整備」に関する具体的意見

「直方市は道路のつぎはぎが多い。他の地域のように工事の技術を上げてほしい。」「大型自動車が毎日のように通り、自宅前の道路が悪く家が揺れとても困っている。道路の舗装を早急をお願いしたい。」など、道路整備に関する意見が多数寄せられた。

(8) - 2 「道路・河川美化」に関する具体的意見

「遠賀川河川敷の草刈りの頻度を増やしてほしい。道路脇の草がすごくて、小道か

ら出る時に車が見えない時がある。」「道路、公園などにゴミが多い。」など、道路・河川敷の草刈り、ゴミのポイ捨てなどに関する意見が多数寄せられた。

(8) - 3 「街灯の整備」に関する具体的意見

「夜間、街灯が少なく暗い所があるので、可能であれば街灯を増やしてほしい。」
「健康のためにウォーキングをしているが、夜は街灯が少なく暗くて危ない。小さな通りにも街灯を設置してもらいたい。」など、街灯の整備に対する要望が多く寄せられた。

(9) 公共交通機関

当分野の記述件数は延べ 26 件、全体の 7.2%を占めている。

この分野では、「バス路線・本数の維持、充実」「交通費補助」が多く、特に、高齢者の免許返納に向けた取り組みに関する意見が多く寄せられた。

順位	公共交通機関に対する意見の内容	回答件数 (件)
1	バス路線・本数の維持、充実	9
2	交通費補助	5
3	交通が不便	4
4	鉄道の整備	4
5	交通機関全般の整備拡充	3
	その他	1
	合計	26

(9) - 1 「バス路線・本数の維持、充実」に関する具体的意見

「コミュニティバスとかでも良いのでバスの本数を増やしてもらいたい。父が免許返納してからの足がなく困っている。」「今は車で買い物など行っているが、車がなければ交通の便が悪いため、ローカル線でバスなど運営ができれば助かる。タクシー使用には金銭面にも負担がかかり大変。」など、高齢による免許返納後の交通手段としても、バスの利便性を求める意見が多数寄せられた。

(9) - 2 「交通費補助」に関する具体的意見

「高齢者が免許を返納したら、バス、タクシーの助成券を交付するなど生活しやすいようにしてほしい。」「運転免許の返納後の交通機関の利便性、少額の費用で行動できる整備の推進。」など、免許返納後の交通費負担の軽減を求める意見が多数寄せられた。

(9) - 3 「交通が不便」に関する具体的意見

「公共交通の便数も減っているし、年寄りには町に出る機会が少なくなるし、病院にはタクシー等で出かけるが費用が大変。」「交通の便利が悪く、車がなければ生活できない。」など、車を持たない交通弱者の不便さに対する意見が寄せられた。

(9)－4 「鉄道の整備」に関する具体的意見

「JR 直方駅と筑豊電鉄を早くつなげてほしい。非常に便利が悪い。」「ベットタウンとして発展してほしい。そのためには福岡への電車の時間短縮、小倉への利便性向上が課題と思う。」という意見が寄せられた。

(10) 各種公共施設

当分野の記述件数は延べ 18 件、全体の 5.0%を占める。

この分野への内容の多くは、「公園・広場の整備」に関するものであり、子どもから高齢者まで市民が憩える場としての公園や施設の整備が強く要望されている。

順位	各種公共施設に対する意見の内容	回答件数 (件)
1	公園・広場の整備	12
2	図書館の整備・充実	3
3	キャンプ場の充実	1
4	スポーツ施設の充実	1
	その他	1
	合計	18

(10)－1 「公園・広場の整備」に関する具体的意見

「中央公園がきれいになったのはすごくいいと思う。他の小さな公園の遊具の整備も行き届いたらよい」「幼児がいる為、公園を充実させてほしい。中央公園が新しくなったが、2～3歳児の遊べる遊具が少ない。」「ジョギングやウォーキング等、公園に多少の照明設備や基礎運動ができる設備があれば嬉しい。」など、中央公園の整備を評価する一方、その他の公園も同じような整備を望む声が聴かれた。また、子どもたちが遊べる公園の配置に対する要望が寄せられた。

(10)－2 「図書館の整備・充実」に関する具体的意見

「武雄図書館のような図書館を旧市民会館跡につくってほしい。」「直方図書館の駐車場を無償化してほしい。」「図書館のフロア床材の改良を切に願う。」など、図書館に関する要望が寄せられた。

(11) 防犯・防災・安全

当分野の記述件数は延べ 22 件、全体の 6.1%を占めている。

この分野では、災害対策の意見が多くあがっており、災害時の対策の充実が求められている。

順位	防犯・防災・安全に対する意見の内容	回答件数 (件)
1	災害対策	12
2	治安	5
2	交通マナー・違反	5
	合計	22

(11) - 1 「災害対策」に関する具体的意見

「防災無線のスピーカーの調子が悪いのか途中で切れて、何を言っているのか伝わらない。近くのスピーカーからは聞こえているようだが、自分の住んでいるところは聞こえない。本当に重要な内容の時もあると思うので、設備や機器の点検はしっかりしてほしい。」「遠賀川が台風や大雨で氾濫しないよう対策を取ってほしい。」「緊急時防災訓練と市民一斉の勉強会の日を設けてほしい。」など災害対策に関する意見が多く寄せられた。

(11) - 2 「治安」に関する具体的意見

「公園の夜間の治安が悪い。」「動物を虐待している人（自分で飼っている犬への虐待、野良猫への虐待）がいるが、怖くて通報できない。」などの意見があった。

(12) 教育・文化・スポーツ

当分野の記述件数は延べ 18 件、全体の 5.0%を占める。

この分野では、「子どもの教育の充実」に関することが多くあげられているが、学力向上に向けた取り組みへの意見が目立っている。

順位	教育・文化・スポーツに対する意見の内容	回答件数 (件)
1	子どもの教育の充実	12
2	生涯学習・活動の充実	3
3	文化振興・文化材の保護	2
4	スポーツ活動の推進	1
	合計	18

(12) - 1 「子ども教育の充実」に関する具体的意見

「次代を担う子供たちを育てることを第一に考えてほしい。自ら考え行動し、成長できるようにするには“教育の力”が必要。まずは基礎的な学力（テストの点数のみで

はない)をつけ、自らに自信を持った子供たちを育ててほしい。そのために必要な教育の環境を整えてほしい。」「小学校の規模が小さいので、統合してほしい。通学距離が遠くなっても、たくさんの子供たちの中でのびのびと過ごしてほしいと思う。」などの意見が寄せられた。

(12)－2 「生涯学習・活動の充実」に関する具体的意見

「生涯学習への取り組みにもっと力を入れてほしい。若い世代へのアピールも大切。若い世代の方々のニーズに合った講座を増やし人間形成、社会参画へとつなげていけたらと思う。」「退職後、老後の生きがいのため、自分の能力を活かせるボランティア活動(子どもの学習支援等)の充実を考慮してもらいたい。」などの意見が聞かれた。

(13) 保健・医療・福祉

当分野の記述件数は延べ27件、全体の7.5%を占め、15分野の中では3番目に多くなっている。

この分野では、「出産・子育て支援」や「学校給食」など、子育てに関連する意見が多かった。

順位	保健・医療・福祉に対する意見の内容	回答件数 (件)
1	出産・子育て支援	8
2	学校給食	5
3	高齢者福祉・活躍の推進	5
4	医療機関・体制の充実	4
5	生活困窮者対策	2
6	障がい者福祉の充実	1
7	健康づくり	1
	その他	1
	合計	27

(13)－1 「出産・子育て支援」に関する具体的意見

「不妊治療の助成金制度がほしい。不妊治療をしていたが非常にお金がかかる。県の助成金はあるが、市の助成金が受けられれば、治療者の経済的負担が少し軽くなり、少子化対策にもなる。」「子どもの医療費を無償化にしてほしい。他の地区は無償化なのに直方はお金がかかる。」「子育て支援センターの場所、開催日、内容を真剣に検討してほしい。サービス向上の可能性があれば民間委託して良いと思う。」「気軽に妊娠中の方が参加できるマタニティヨガや離乳食作り等のイベントがあれば嬉しい。育休中の間は定期検診以外にもベビースイミングやベビーマッサージ等の赤ちゃん和妈妈と一緒に参加できるイベントがあると良い。」など、出産・子育てに関する経済的負担の軽減や、イベント、講座などの充実に関する意見が寄せられた。

(13)－2 「学校給食」に関する具体的意見

「中学校の給食導入を早くして欲しい。」「中学の給食の改善（量も味も不満）。」といった、中学校給食への不満・要望が多く聞かれた。

(13)－3 「高齢者福祉・活躍の充実」に関する具体的意見

「人生100年時代を迎えている現状を踏まえ、高齢者対策に重点を置いた対策の充実、特にまだ働きたい高齢者に就業場所の提供やシルバー人材センターの活用等を市報を通じてPRしてほしい。」「高齢化社会になり、老後の生活が不安です。誰でもが入居できる施設（高額じゃない）を考えてほしい。」「文化遺産保存等に係る費用を高齢者の健康等、生活全般、福祉の充実にあててほしい。他県他の地域からの参加は少ないと思われるため、観光への取り組みを削減してでも福祉に向けてほしい。」などの意見が多数寄せられた。

(13)－4 「医療機関・体制の充実」に関する具体的意見

「緊急時の医療機関の受け入れが少なすぎる。」「夜間救急についてネットで調べてもわかりにくいので改善してほしい。」など、夜間の救急体制への意見が多く寄せられた。

(14) 市民意識調査関連

当分野の記述件数は延べ11件、全体の3.1%を占めている。

この分野では、アンケートの内容や分量に対する意見が多くなっている。

順位	市民意識調査に対する意見の内容	回答件数 (件)
1	内容が難しい	3
2	設問の分量が多い	3
3	選択肢の設定改善	2
4	設問の改善	1
	その他	2
	合計	11

(15) その他

その他の回答としては、以下のような意見があった。

- ・今回のアンケートで、今まであまり市政に興味を持っていなかったことに気づかされた。今後はもう少し関心を持って生活したいと思う。
- ・直方の良い所は、自然が多い、物価が安い、人の思いやりがある、後期高齢者でもいろいろと趣味や勉強できるなどだ。美術館、図書館等あまり利用する人が少なくもったいない。
- ・40年住んでいるが、直方市はこじんまりしていて住みやすい。日の出橋や赤隈信号など車が大渋滞で困っていたが、菜の花大橋ができて直方バイパスもできて大変便利になった。公共機関や学校も多く便利のよい市だと思って生活してきた。

資料／調査票

